

R 6 室長通知 別紙―1 I C T活用工事（土工）実施要領	R 7 室長通知 別紙―1 I C T活用工事（土工）実施要領
別紙―1	別紙―1
I C T活用工事（土工）実施要領	I C T活用工事（土工）実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1－1 概要	1－1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示すI C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示すI C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1－2 I C T活用工事における土工	1－2 I C T活用工事における土工
次の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事における土工とするが、次の②④⑤の段階で活用を必須とし、①③の段階で受注者の希望によりI C T施工技術の活用を選択し、部分的に活用する工事を簡易型I C T活用工事とする。また「I C T土工」という略称を用いる。	次の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事における <u>(土工)</u> とする。 ~~が、次の②④⑤の段階で活用を必須とし、①③の段階で受注者の希望によりI C T施工技術の活用を選択し、部分的に活用する工事を簡易型I C T活用工事とする。~~ また「I C T土工」という略称を用いる。
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ I C T建設機械による施工	③ I C T建設機械による施工
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
受注者からの提案・協議により、地盤改良工、付帯構造物設置工、法面工及び作業土工（床掘）にI C T施工技術を活用する場合は、それぞれの実施要領及び積算要領を参照すること。	受注者からの提案・協議により、 <u>土工以外の工種</u> ~~地盤改良工、付帯構造物設置工、法面工及び作業土工（床掘）~~ にI C T施工技術を活用する場合は、それぞれの実施要領及び積算要領を参照すること。
1－3 I C T施工技術の具体的内容	1－3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表―1によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、 <u>以下次の①～⑤及び表―1</u> によるものと <u>し、関連要領等については、最新のものを適用するものとする。</u>
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記1）～8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。	起工測量において、3次元測量データを取得するため、 <u>以下下記</u> 1）～ <u>7-8</u> ）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。
起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での3次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T活用工事とする。	起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事 <u>または設計段階</u> での3次元 <u>納品</u> データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T活用工事とする。
1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
5）T S等光波方式を用いた起工測量	5）T S等光波方式を用いた起工測量
6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量	6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量
7）R T K－G N S Sを用いた起工測量	7）R T K－G N S Sを用いた起工測量
8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量	~~8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~

② 3次元設計データ作成 1－3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ I C T建設機械による施工 1－3②で作成した3次元設計データを用い、下記1)により施工を実施する。 但し、砂防工事など施工現場の環境条件により、③I C T建設機械による施工が困難となる場合は、従来型建設機械による施工を実施してもI C T活用工事とする。 1) 3次元MCまたは3次元MG建設機械 ※MC：「マシンコントロール」の略称、MG：「マシンガイダンス」の略称 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 1－3③による工事の施工管理において、下記（1）（2）に示す方法により、出来形管理及び品質管理を実施する。 （1）出来形管理 下記1)～1 2)から選択（複数以上可）して、出来形管理を行うものとする。 出来形管理にあたっては、標準的に面管理を実施するものとするが、施工現場の環境条件により面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を選択してもI C T活用工事とする。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理	<u>【メモ】河床等掘削がある場合は「音響測深機器を用いた起工測量」も適宜追加する。</u> <u>ただし、土工数量 1,000 m³未満における起工測量にあたっては、作業量・現場状況等を考慮して、監督職員と協議のうえ、上記1)～7)によらず従来手法による起工測量を実施してもI C T活用工事とする。</u> ② 3次元設計データ作成 1－3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、<u>I C T建設機械による施工、及び</u>3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 <u>なお、発注者が貸与する3次元データを活用する場合も、I C T活用工事とする。</u> ③ I C T建設機械による施工 1－3②で作成した3次元設計データを用い、~~下記1)～~~<u>以下に示すI C T建設機械により施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。</u> <u>なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和5年3月31日 国土交通省告示第250号）付録1測量機器検定基準2－6の性能における検定基準を満たすこと。</u> ~~但し、砂防工事など施工現場の環境条件により、③I C T建設機械による施工が困難となる場合は、従来型建設機械による施工を実施してもI C T活用工事とする。~~ 1) 3次元MCまたは3次元MG建設機械 ※MC：「マシンコントロール」の略称、MG：「マシンガイダンス」の略称 <u>建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川・海岸・砂防・道路土工の敷均し、締固め、掘削、法面整形を実施する。</u> <u>但し、現場条件により、③I C T建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してよいものとし、その場合もI C T活用工事とするが、丁張設置等には積極的に3次元設計データ等を活用するものとする。</u> ④ 3次元出来形管理等の施工管理 1－3③による工事の施工管理において、<u>以下下記</u>（1）（2）に示す方法により、出来形管理及び品質管理を実施する。 （1）出来形管理 ~~下記1)～1 2)から選択（複数以上可）して、出来形管理を行うものとする。~~ <u>【土工数量 1,000 m³以上の場合】</u> <u>出来形管理にあたっては、出来形管理図表（ヒートマップ）を作成し、出来形の良否を判定する管理手法（面管理）とし、以下1)～4)から選択（複数選択可）して実施するものとする。なお、面管理とは出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法のことをいう。</u>
--	--

4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5) T S 等光波方式を用いた出来形管理 6) T S (ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 7) R T K－G N S Sを用いた出来形管理 8) 施工履歴データを用いた出来形管理 (河床掘削) 9) 施工履歴データを用いた出来形管理 (地盤改良工) 1 0) 施工履歴データを用いた出来形管理 (土工) 1 1) 地上写真測量を用いた出来形管理 1 2) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理	<u>また、土工における出来形管理にあたっては、以下1)～4)を原則とするが、現場条件等により以下5)～8)の出来形管理を選択して面管理を実施してもよい。(ただし、以下5)～8)の出来形管理を選択して面管理を実施した場合は「3次元出来形管理・3次元データ納品費用、外注経費等の費用」の対象外となるので注意すること)標準的に面管理を実施するものとするが、施工現場の環境条件により面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を選択してもI C T活用工事とする。</u> 1) 空中写真測量 (無人航空機)を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5) T S 等光波方式を用いた出来形管理 6) T S (ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 7) R T K－G N S Sを用いた出来形管理 8) 施工履歴データを用いた出来形管理 (河床掘削) ~~9) 施工履歴データを用いた出来形管理 (地盤改良工)~~ ~~1 0) 施工履歴データを用いた出来形管理 (土工)~~ ~~1 1) 地上写真測量を用いた出来形管理~~ ~~1 2) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ <u>【メモ】河床等掘削がある場合は「音響測深機器を用いた出来形管理」も適宜追加する。</u> <u>なお、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合及び降雪・積雪等により面管理が実施できない場合は、監督職員との協議の上、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を選択してもI C T活用工事とする。</u> <u>【土工数量1,000㎡未満の場合】</u> <u>出来形管理にあたっては、上記の5)～8)による出来形管理を実施するものとする。なお、監督職員と協議のうえ上記1)～4)の他、以下9)10)による出来形管理を実施してもよい。</u> <u>9) モバイル端末を用いた出来形管理</u> <u>1 0) 地上写真測量を用いた出来形管理</u>
(2) 品質管理 下記1)を用いた品質管理を行うものとする。 1) T S ・G N S Sを用いた締固め回数管理 ただし、土質が頻繁に変わりその都度試験施工を行うことが非効率である等、施工規定による管理そのものがなじまない場合は、適用しなくてもよい。	(2) 品質管理 <u>品質管理にあたっては、受注者は、河川・海岸・砂防・道路土工の品質管理 (締固め度) について、「T S ・G N S Sを用いた盛土の締固め管理要領」により実施する。砂置換法又はR I 計法との併用による二重管理は実施しないものとする。</u> <u>なお、本施工着手前及び盛土材料の土質が変わると、また、路体と路床のように品質管理基準が異なる場合に試験施工を行い、本施工で採用する締固め回数を設定すること。</u> <u>土質が頻繁に変わりその都度試験施工を行うことが非効率である等、施工規定による管理そのものがなじまない場合は、監督職員と協議の上、T S ・G N S Sを用いた締固め回数管理を適用しなくてもよいものし、その場合もI C T活用工事とする。</u> ~~下記1)を用いた品質管理を行うものとする。~~ ~~1) T S ・G N S Sを用いた締固め回数管理~~ ~~ただし、土質が頻繁に変わりその都度試験施工を行うことが非効率である等、~~

- ⑤ 3次元データの納品
1－3④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

《表－1．ICT施工技術と適用工種（その1）》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量 ／3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量(無人航空機)を用いた起工測量 ／出来形管理技術(土工)	測量 出来形計測 出来形管理	－	○	○	①、②、⑤ ③、⑦	土工
	地上レーザースキャナを用いた起工測量 ／出来形管理技術(土工)	測量 出来形計測 出来形管理	－	○	○	①、③、⑤	土工
	TS等光波方式を用いた起工測量 ／出来形管理技術(土工)	測量 出来形計測 出来形管理	－	○	○	①、⑤	土工 河床等掘削
	TS(／プリズム方式)を用いた起工測量 ／出来形管理技術(土工)	測量 出来形計測 出来形管理	－	○	○	①、⑦	土工
	RTK-GNSSを用いた起工測量 ／出来形管理技術(土工)	測量 出来形計測 出来形管理	－	○	○	①、⑤	土工
	無人航空機搭載型レーザースキャナを用いた起 工測量／出来形管理技術(土工)	測量 出来形計測 出来形管理	－	○	○	①、④、⑤ ⑥	土工
	地上移動体搭載型レーザースキャナを用いた起 工測量／出来形管理技術(土工)	測量 出来形計測 出来形管理	－	○	○	①、⑤	土工
	音響測深機器を用いた起工測量	測量	－	○	○	⑩、⑪	河床等掘削
	施工履歴データを用いた出来形管理技術	出来形計測 出来形管理	ICT 建設機械	○	○	①、②、⑩ ⑬、⑭、⑮ ⑯、⑰	土工 河床等掘削 地盤改良工
	TS等光波方式を用いた起工測量 ／出来形管理技術(舗装工事編)	出来形計測	－	○	○	⑬、⑭	付帯構造物設 置工
	TS等光波方式を用いた起工測量 ／出来形管理技術(護岸工事編)	出来形計測	－	○	○	⑬、⑮	護岸工
	3次元計測技術を用いた出来形計測	出来形計測	－	○	○	⑮	土工
	地上写真測量を用いた出来形管理	出来形計測	－	○	○	⑬、⑭、⑰	法面工 護岸工
ICT建設機械 による施工	3次元マシンコントロール技術 3次元マシンガイダンス技術	まきだし 敷き均し 掘削 整形 床掘 地盤改良	ICT 建設機械	○	○	－	
	3次元出来形管理等の 施工管理	TS・GNSSによる締固め管理技術	締固め回数管理 ICT 建設機械	○	○	⑮、⑰	土工

【凡例】○：適用可能　－：適用外

~~施工規定による管理そのものがなじまない場合は、適用しなくてもよい。~~

- ⑤ 3次元データの納品
1－3①②④により作成したる3次元施工管理データを、~~工~~工事完成図書として電子納品する。

~~《表－1．ICT施工技術と適用工種（その1）》~~

削 除

《表－１． ＩＣＴ施工技術と適用工種（その２）》

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編
	②	空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	③	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	④	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑤	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑦	TS(ノンプリ)を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑧	RTK-GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑨	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑩	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)河川浚渫工編
	⑪	音響測深機器を用いた出来形の監督・検査要領(河川浚渫編)(案)
	⑫	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(河川浚渫編)(案)
	⑬	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編
	⑭	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)
	⑮	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)護岸工編
	⑯	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(護岸工事編)(案)
	⑰	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)表層安定処理等・固結工(中層混合処理)編
	⑱	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(案)
	⑲	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)固結工(スラリー攪拌工)編
	⑳	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(固結工(スラリー攪拌工)編)(案)
	㉑	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)法面工編
	㉒	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領(案)
	㉓	TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領
	㉔	TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理の監督・検査要領
	㉕	地上写真測量を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	㉖	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	㉗	公共測量におけるUAVの使用に関する安全基準－国土地理院
	㉘	UAVを用いた公共測量マニュアル(案)－国土地理院
	㉙	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル(案)－国土地理院
	㉚	モバイル端末を用いた3次元計測技術(多点計測技術)

1－4 ＩＣＴ活用工事の対象工事

ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）は「一般土木工事」、「アスファルト舗装工事」、「セメント・コンクリート舗装工事」、「法面処理工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。

（１）対象工種

《表－１． ＩＣＴ施工技術と適用工種（その２）》

削 除

1－4 ＩＣＴ活用工事の対象工事

ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）は「一般土木工事」、「アスファルト舗装工事」、「セメント・コンクリート舗装工事」、「法面処理工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、以下平記（１）～（３）に該当する工事とする。

（１）対象工種

I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。 1) 河川土工、海岸土工、砂防土工 ・掘削工（河床等掘削含む） ・盛土工 ・法面整形工 2) 道路土工 ・掘削工 ・路体盛土工 ・路床盛土工 ・法面整形工 （2）適用対象外 従来施工において、土工の土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 （3）対象規模 I C T活用工事（土工）の対象規模は、1－4（1）対象工種を条件とし、数量は「2－1 発注方式」に記載のとおりとする。 2. I C T活用工事の実施方法 2－1 発注方式 I C T活用工事の発注は、下記の（1）～（2）によるものとするが、工事内容及び地域におけるI C T施工機器の普及状況等を勘案し決定する。 （1）発注者指定型 予定価格（消費税を含む）が3億円以上かつ土工数量が 1,000m3 以上、又は3億円未満かつ土工数量が 5,000m3 以上を目安として、発注者が設定した対象工事に適用する。 （2）施工者希望型（施工者希望Ⅱ型） 予定価格（消費税を含む）が3億円未満かつ土工数量が 1,000m3 以上 5,000m3 未満を目安として、発注者が設定した対象工事に適用する。 なお、本発注方式は、I C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）のうち、施工プロセスの「①3次元起工測量」、「③I C T建設機械による施工」段階については、監督職員へ協議の際に、受注者の希望により実施を選択することが出来、I C T施工技術を部分的に活用する工事を「簡易型I C T活用工事」として対象工事とする。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。	I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける<u>以下下記</u>の工種とする。 1) 河川土工、海岸土工、砂防土工 ・掘削工（河床等掘削含む） ・盛土工 ・法面整形工 2) 道路土工 ・掘削工 ・路体盛土工 ・路床盛土工 ・法面整形工 （2）適用対象外 従来施工において、土工の土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 （3）対象規模 I C T活用工事（土工）の対象規模は、1－4（1）対象工種を条件とし、数量は「<u>2－1 発注方式</u>」に記載のとおりとする。<u>なお、出来形管理を行わない作業土工（床掘工）については、I C T活用工事（作業土工（床掘工））実施要領によるものとする。</u> 2. I C T活用工事の実施方法 2－1 発注方式 I C T活用工事の発注は、<u>下記の（1）～（2）以下</u>によるものとするが、<u>工事内容及び地域におけるI C T施工機器の普及状況I C T施工技術の活用が困難な場合及びI C T施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など工事内容及び現場条件等</u>を勘案し決定する。 （1）発注者指定型 <u>1－4（1）に示す対象工種に該当する工種については、発注者指定型での発注を原則とする。予定価格（消費税を含む）が3億円以上かつ土工数量が 1,000m3 以上、又は3億円未満かつ土工数量が 5,000m3 以上を目安として、発注者が設定した対象工事に適用する。</u> <u>（2）施工者希望型（施工者希望Ⅱ型）</u> <u>予定価格（消費税を含む）が3億円未満かつ土工数量が 1,000m3 以上 5,000m3 未満を目安として、発注者が設定した対象工事に適用する。</u> <u>なお、本発注方式は、I C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）のうち、施工プロセスの「①3次元起工測量」、「③I C T建設機械による施工」段階については、監督職員へ協議の際に、受注者の希望により実施を選択することが出来、I C T施工技術を部分的に活用する工事を「簡易型I C T活用工事」として対象工事とする。</u> <u>※「そのほか」</u> <u>I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。</u>
---	---

2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 (1) 発注者指定型 【入札公告】記載例 (記載例) 【メモ：土工を含む一般土木工事の場合は、(番号)を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 (番号)本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事である。	2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 (1) 発注者指定型 【入札公告】記載例 (記載例) 【メモ：土工を含む一般土木工事の場合は、(番号)を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 (番号)本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T<u>施工技術</u>の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事である。
【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：土工を含む一般土木工事の場合は、(番号)工事の実施形態に下記を追記】 『(番号) 工事概要』に以下を追記する。 (番号)工事の実施形態 (番号)本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事である。 本工事におけるI C T活用施工は、河川土工、海岸土工、砂防土工、道路土工において、下記に示すI C T建設機械を用いた施工を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品するものとし、詳細については特記仕様書によるものとする。但し、砂防工事など施工現場の環境条件により、下記に示すI C T建設機械による施工が困難となる場合は従来型建設機械による施工を実施してもI C T活用工事とする。 なお、受注者からの提案によるI C Tの活用にかかる費用（地盤改良工、付帯構造物設置工、法面工及び作業土工（床掘））については、設計変更の対象とし詳細については特記仕様書によるものとする ・I C T建設機械 1）3次元MCまたは3次元MG建設機械 なお、MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。	【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：土工を含む一般土木工事の場合は、(番号)工事の実施形態に<u>以下下記</u>を追記】 『(番号) 工事概要』に以下を追記する。 (番号)工事の実施形態 (番号)本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T<u>施工技術</u>の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事である。 本工事におけるI C T<u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>は、河川土工、海岸土工、砂防土工、道路土工において、<u>下記に示すI C T建設機械を用いた施工を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品するもの以下の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用すること</u>とし、詳細については特記仕様書によるものとする。但し、<u>砂防工事など施工現場の環境条件により、下記に示す</u>I C T建設機械による施工が困難<u>又は非効率</u>となる場合は<u>監督職員と協議の上</u>、従来型建設機械による施工を実施してもI C T活用工事とする。 <u>なお、受注者からの提案によるI C Tの活用にかかる費用（地盤改良工、付帯構造物設置工、法面工及び作業土工（床掘））については、設計変更の対象とし詳細については特記仕様書によるものとする</u> <u>①3次元起工測量</u> <u>②3次元設計データ作成</u> <u>③I C T建設機械による施工</u> <u>④3次元出来形管理等の施工管理</u> <u>⑤3次元データ納品</u> ・I C T建設機械 1）3次元MCまたは3次元MG建設機械 なお、MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。

『(番号) 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案 (施工計画等)」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T活用施工に掛かる技術を応用 (別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む) した技術提案については、その応用部分 (付加的な内容) についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書 (施工計画等)」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書 (施工計画等)」は、求める書式名称に随時修正すること。	~~『(番号) 総合評価に関する事項』に以下を記載~~ ~~(番号) I C T活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案 (施工計画等)」での評価対象外とするため、記載しないこと。~~ ~~但し、I C T活用施工に掛かる技術を応用 (別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む) した技術提案については、その応用部分 (付加的な内容) についてのみ評価対象とする。※~~ ~~※「技術提案書 (施工計画等)」を求める場合に記載する。~~ ~~※「技術提案書 (施工計画等)」は、求める書式名称に随時修正すること。~~
【特記仕様書】記載例 (記載例) 第〇〇条 I C T活用工事について 1. I C T活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事である。 2. 定義 (1) i-Construction とは、I C Tの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みであり、その実現に向けてI C Tを活用した工事 (I C T活用工事) を実施するものとする。 (2) I C T活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、I C Tを全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事という。また「I C T土工」という略称を用いる。 対象は、土工を含む工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、特記仕様書に指定された土工以外、地盤改良工、付帯構造物設置工、法面工及び作業土工 (床掘) にI C T活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出 (施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む) までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記4～9によりI C T活用施工を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することとし、土工について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び数量・対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、土工以外の工種に関するI C T活用を提案・協議した場合は、土工と共に実施内容等について施工計画書に記載するものとする。 5. I C Tを用い、以下の施工を実施する。	【特記仕様書】記載例 (記載例) 第〇〇条 I C T活用工事について 1. I C T活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T <u>施工技術</u>の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事である。 2. 定義 (1) i-Construction とは、I C T <u>施工技術</u>の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みであり、その実現に向けてI C T <u>施工技術</u>を活用した工事 (I C T活用工事) を実施するものとする。 (2) I C T活用工事とは、施工プロセスの<u>平記以下</u>段階において、I C Tを全面的に活用する工事である。また、<u>決本工事では、施工プロセスの以下</u>①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事と<u>するいう。また「I C T土工」という略称を用いる。</u> 対象は、土工を含む工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、特記仕様書に指定された土工以外<u>の工種、地盤改良工、付帯構造物設置工、法面工及び作業土工 (床掘)</u>に、<u>I C T <u>施工技術</u>の活用施工</u>を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出 (施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む) までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に<u>平記以下</u> 4～<u>9.8</u>によりI C T <u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することとし、土工について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び数量・対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、土工以外の工種に関するI C T <u>施工技術</u>の活用を提案・協議した場合は、土工と共に実施内容等について施工計画書に記載するものとする。 5. I C T <u>施工技術</u>を用い、以下の施工を実施する。

① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1)～8)から選択(複数以上可)して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での3次元納品データが活用できる場合においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、ICT活用工事とする。なお、監督職員と協議する。 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) TS等光波方式を用いた起工測量 6) TS(ノンプリズム方式)を用いた起工測量 7) RTK-GNSSを用いた起工測量 8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や5. ①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ ICT建設機械による施工 5. ②で作成した3次元設計データを用い、下記に示すICT建設機械により、施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。 なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則(令和5年3月31日 国土交通省告示第250号)付録1測量機器検定基準2-6の性能における検定基準を満たすこと。 1) 3次元MCまたは3次元MG建設機械 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川・海岸・砂防・道路土工の敷均し、掘削、法面整形を実施する。 但し、砂防工事など施工現場の環境条件により、③ICT建設機械による施工が困難となる場合は従来型建設機械による施工を実施してよいものとするが、丁張設置等には積極的に3次元設計データ等を活用するものとし、監督職員と協議する。	① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、<u>下記以下</u>1)～~~8~~<u>7</u>)から選択(複数~~以上~~<u>選択</u>可)して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事<u>または設計段階</u>での3次元<u>納品</u>データが活用できる場合においては、<u>監督職員と協議の上</u>、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、ICT活用工事とする。~~なお、監督職員と協議する。~~ 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) TS等光波方式を用いた起工測量 6) TS(ノンプリズム方式)を用いた起工測量 7) RTK-GNSSを用いた起工測量 ~~8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ <u>ただし、土工数量1,000 m³未満における起工測量にあたっては、作業量・現場状況等を考慮して上記1)～7)以外の従来手法による起工測量を実施してもICT活用工事とする。</u> ② 3次元設計データ作成 受注者は、~~設計図書~~や5. ①で得られた<u>測量データと、発注者が貸与する発注図</u>データを用いて、<u>ICT建設機械による施工、及び</u>3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ ICT建設機械による施工 5. ②で作成した3次元設計データを用い、<u>下記以下</u>に示すICT建設機械により、施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。 なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則(令和5年3月31日 国土交通省告示第250号)付録1測量機器検定基準2-6の性能における検定基準を満たすこと。 1) 3次元MCまたは3次元MG建設機械※ <u>※MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。</u> 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川・海岸・砂防・道路土工の敷均し、掘削、法面整形を実施する。 但し、~~砂防工事など施工現場~~<u>の環境</u>条件により、③ICT建設機械による施工が困難<u>又は非効率</u>となる場合は<u>監督職員と協議の上</u>、従来型建設機械による施工を実施してよいもの<u>とし、その場合もICT活用工事</u>とするが、丁張設置等には積極的に3次元設計データ等を活用するもの<u>とし、監督職員と協議</u>する。
--	--

【メモ地盤改良工を含む工事の場合以下を追記】 受注者からの提案により地盤改良工において I C T 施工技術を活用する場合、下記に示す I C T 建設機械により実施する。 2) 3次元MCまたは3次元MG建設機械（地盤改良用） 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、地盤改良を実施する。 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 5. ③による工事の施工管理において、下記1)～11)から選択（複数以上可）して、出来形管理を、また12)を用いた品質管理を行うものとする。 出来形管理にあたっては、標準的に面管理を実施するものとするが、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合は、監督職員との協議の上、1)～11)を適用することなく、管理断面による出来形管理を行ってもよい。また、降雪・積雪によって面管理が実施できない場合においても、管理断面及び変化点の計測による出来形管理が選択できるものとする。ただし、完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測を行い、⑤によって納品するものとする。 ※降雪・積雪等による工期内の計測が困難な場合は除外する。 【メモ地盤改良工を含む工事の場合番号を修正】 下記1)～12)から選択（複数以上可）して、出来形管理を、また13)を用いた品質管理を行うものとする。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5) T S 等光波方式を用いた出来形管理 6) T S （ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7) R T K－G N S Sを用いた出来形管理 8) 施工履歴データを用いた出来形管理（土工） 9) 施工履歴データを用いた出来形管理（河床等掘削） 10) 地上写真測量を用いた出来形管理 11) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 【メモ地盤改良工を含む工事の場合以下を追記】 12) 施工履歴データを用いた出来形管理（地盤改良工）※ ※受注者からの提案により地盤改良工において I C T 施工技術を活用する場合、受注者は地盤改良の出来形管理について施工履歴データにより行うこととするが、改良土を盛立てるなど履歴データによる管理が非効率となる部分について監督職員との協議の上で他の計測技術による出来形管理を行っても良い。ただし改良範囲の施工履歴データは⑤によって納品するものと	~~【メモ地盤改良工を含む工事の場合以下を追記】~~ ~~受注者からの提案により地盤改良工において I C T 施工技術を活用する場合、下記に示す I C T 建設機械により実施する。~~ ~~2) 3次元MCまたは3次元MG建設機械（地盤改良用）~~ ~~建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、地盤改良を実施する。~~ ④ 3次元出来形管理等の施工管理 5. ③による工事の施工管理において、~~下記1)～11)から選択（複数以上可）して~~<u>以下のとおり</u>、出来形管理<u>及びを、また12)を用いた</u>品質管理を行うものとする。 <u>【土工数量1,000 m³以上の場合】</u> 出来形管理にあたっては、標準的に<u>出来形管理の計測範囲において、1 m 間隔以下（1 点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施するものとするが、とし、以下1)～4)から選択（複数選択可）して実施するものとする。</u> <u>また、土工における出来形管理にあたっては、以下1)～4)を原則とするが、現場条件等により以下5)～8)の出来形管理を選択して面管理を実施してもよい。</u> <u>（【メモ】ただし、以下5)～8)の出来形管理を選択して面管理を実施した場合は「3次元出来形管理・3次元データ納品費用、外注経費等の費用」の対象外となるので注意すること）</u> <u>1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理</u> <u>2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>5) T S 等光波方式を用いた出来形管理</u> <u>6) T S （ノンプリズム方式）を用いた出来形管理</u> <u>7) R T K－G N S Sを用いた出来形管理</u> <u>8) 施工履歴データを用いた出来形管理（土工）</u> ~~9) 施工履歴データを用いた出来形管理（河床等掘削）~~ ~~10) 地上写真測量を用いた出来形管理~~ ~~11) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ <u>また、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合 <u>及びは、監督職員との協議の上、1)～11)を適用することなく、管理断面による出来形管理を行ってもよい。また、降雪・積雪等によ</u>り面管理が実施できない場合においてもは、監督職員との協議の上、管理断面及び変化点の計測による出来形管理<u>がを選択しても I C T 活用工事</u>できるものとする。ただし、~~完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理~~</u>
--	---

する。 1 2) T S ・ G N S S を用いた締固め回数管理 【メモ地盤改良工を含む工事の場合番号を修正】 1 3) T S ・ G N S S を用いた締固め回数管理 受注者は、河川・海岸・砂防・道路土工の品質管理（締固め度）について、「T S ・ G N S S を用いた盛土の締固め管理要領」により実施する。砂置換法又はR I 計法との併用による二重管理は実施しないものとする。 なお、本施工着手前及び盛土材料の土質が変わるごと、また、路体と路床のように品質管理基準が異なる場合に試験施工を行い、本施工で採用する締固め回数を設定すること。 土質が頻繁に変わりその都度試験施工を行うことが非効率である等、施工規定による管理そのものがなじまない場合は、監督職員と協議の上、T S ・ G N S S を用いた締固め回数管理を適用しなくてもよいものとする。	~~による出来形計測を行い、⑤によって納品するものとする。~~ ~~※降雪・積雪等による工期内の計測が困難な場合は除外する。~~ ~~1 2) T S ・ G N S S を用いた締固め回数管理~~ ~~【メモ地盤改良工を含む工事の場合番号を修正】~~ ~~1 3) T S ・ G N S S を用いた締固め回数管理~~ <u>【土工数量 1, 000 m³未満の場合】</u> <u>出来形管理にあたっては、上記の 5) ～ 8) による出来形管理を実施するものとする。なお、監督職員と協議のうえ上記 1) ～ 4) の他、以下 9) 1 0) による出来形管理を実施してもよい。</u> <u>9) モバイル端末を用いた出来形管理</u> <u>1 0) 地上写真測量を用いた出来形管理</u> <u>【メモ：条件明示として実施した出来形管理及び 3 次元出来形管理・ 3 次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】</u> <u>【変更特記記載例】</u> <u>（ 3 次元出来形管理・ 3 次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合）</u> <u>本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、 3 次元出来形管理・ 3 次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。（している。）</u> <u>1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理</u> <u>2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>（実施する（した）出来形管理を具体的に掲載する。）</u> <u>（ 3 次元出来形管理・ 3 次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合）</u> <u>本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、 3 次元出来形管理・ 3 次元データ納品の費用、外注経費等については計上していない。</u> <u>5) T S 等光波方式を用いた出来形管理</u> <u>6) T S （ノンプリズム方式）を用いた出来形管理</u> <u>7) R T K－G N S S を用いた出来形管理</u> <u>8) 施工履歴データを用いた出来形管理</u> <u>（実施する（した）出来形管理を具体的に掲載する。）</u> <u>（ 2 ）品質管理</u> <u>品質管理にあたっては、</u>受注者は、河川・海岸・砂防・道路土工の品質管理（締固め度）について、「T S ・ G N S S を用いた盛土の締固め管理要領」により実施する。砂置換法又はR I 計法との併用による二重管理は実施しないものとする。 なお、本施工着手前及び盛土材料の土質が変わるごと、また、路体と路床のように品質管理基準が異なる場合に試験施工を行い、本施工で採用する締固め回数を設定すること。 土質が頻繁に変わりその都度試験施工を行うことが非効率である等、施工規定による管理そのものがなじまない場合は、監督職員と協議の上、T S ・ G N S S を用いた締固め回数管理を適用しなくてもよいものとする。
--	---

⑤ 3次元データの納品 5. ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。 6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要となる詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 8. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9. 受注者は、当該技術の施工にあたり、活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 ICT活用施工を実施する項目については、「ICT活用工事（土工）積算要領」【メモ砂防土工の場合は「ICT活用工事（砂防土工）積算要領」と記載】に基づき費用を計上しているが、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」及び「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上していない。	⑤ 3次元データの納品 5. <u>①②④</u>により<u>確認され作成した</u>3次元<u>施工管理</u>データを、~~工事完成図書として電子納品する。~~ 6. 上記5. ①～<u>④⑤</u>の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要となる詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT <u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. ~~上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ ~~8. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所~~で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 ~~9. 受注者は、当該技術の施工にあたり、活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ <u>8-10.</u> 本特記仕様書に疑義<u>が</u>を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 ICT <u>施工技術</u>を活用<u>施工を実施</u>する項目については、<u>以下の積算要領「ICT活用工事（土工）積算要領」【メモ砂防土工の場合は「ICT活用工事（砂防土工）積算要領」と記載】</u>に基づき費用を計上しているが、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」及び「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上していない。 <u>・ICT活用工事（土工 1,000 m³以上）積算要領</u> <u>・ICT活用工事（土工 1,000 m³未満）積算要領</u> <u>・ICT活用工事（砂防土工）積算要領</u> <u>・ICT活用工事（河床等掘削）積算要領</u> <u>実施した場合は、以下の（1）（2）により設計変更の対象とし、費用を計上する。</u> <u>（1）3次元起工測量・3次元設計データの作成費用</u> <u>3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。</u> <u>なお、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>（2）3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用</u> <u>【土工数量 1, 000 m³以上の場合】</u>
---	--

3次元起工測量、3次元設計データの作成並びに3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 受注者が、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、土工以外の工種に関するICT活用について監督職員へ提案・協議を行う。また、土工についてもICT活用に関する具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、ICT活用施工の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記1）～11）により計上することとする。 1） ICT活用工事（土工）積算要領 2） ICT活用工事（砂防土工）積算要領 3） ICT活用工事（河床等掘削）積算要領 4） ICT活用工事（作業土工（床堀））積算要領 5） ICT活用工事（付帯構造物設置工）積算要領 6） ICT活用工事（法面工）積算要領 7） ICT活用工事（地盤改良工（安定処理））積算要領 8） ICT活用工事（地盤改良工（中層混合処理））積算要領 9） ICT活用工事（地盤改良工（固結工(スラリー攪拌工)編））積算要領 10） ICT活用工事（土工 1,000m3 未満）積算要領 11） ICT活用工事（小規模土工）積算要領	<u>出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、3次元データ納品を行った場合の費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。</u> <u>なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者からの見積により算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積により算出される金額を積算計上額とする。</u> <u>また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。</u> <u>・共通仮設費率補正係数：1.2</u> <u>・現場管理費率補正係数：1.1</u> <u>上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～4）とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。</u> <u>1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理</u> <u>2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>【土工数量 1, 000 m³未満の場合】</u> <u>土工数量 1,000 m³未満における3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しない。</u> ~~3次元起工測量、3次元設計データの作成並びに3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。~~ 受注者が、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、土工以外の工種に関するICT活用について監督職員へ提案・協議を行う。また、土工についてもICT活用に関する具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、ICT活用<u>施工</u>の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とし、~~下記1）～11）により計上することとする。~~ ~~1） ICT活用工事（土工）積算要領~~ ~~2） ICT活用工事（砂防土工）積算要領~~ ~~3） ICT活用工事（河床等掘削）積算要領~~ ~~4） ICT活用工事（作業土工（床堀））積算要領~~ ~~5） ICT活用工事（付帯構造物設置工）積算要領~~ ~~6） ICT活用工事（法面工）積算要領~~ ~~7） ICT活用工事（地盤改良工（安定処理））積算要領~~ ~~8） ICT活用工事（地盤改良工（中層混合処理））積算要領~~ ~~9） ICT活用工事（地盤改良工（固結工(スラリー攪拌工)編））積算要領~~ ~~10） ICT活用工事（土工 1,000m3 未満）積算要領~~ ~~11） ICT活用工事（小規模土工）積算要領~~
---	---

工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にＩＣＴ活用施工を行うことができる。 本工事におけるＩＣＴ活用施工は、河川土工、海岸土工、砂防土工、道路土工において、下記に示すＩＣＴ建設機械を用いた施工を行い、ＩＣＴを用いた３次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた３次元データを納品することをいう。但し、砂防工事など施工現場の環境条件により、下記に示すＩＣＴ建設機械による施工が困難となる場合は従来型建設機械による施工を実施してよい。 なお、ＩＣＴの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ・ＩＣＴ建設機械 １）３次元MCまたは３次元MG建設機械 なお、MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。 （番号）ＩＣＴ活用工事（施工者希望Ⅱ型）のうち、施工プロセスの「①３次元起工測量」、「③ＩＣＴ建設機械による施工」段階でのＩＣＴ施工技術の活用については、監督職員へ協議の際に、受注者の希望により実施を選択することが出来、ＩＣＴ施工技術を部分的に活用する工事を「簡易型ＩＣＴ活用工事」として対象工事とする。 『（番号）総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号）ＩＣＴ活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、ＩＣＴ活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	削 除
【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用 工事の対象工事である。 ２．定義 （１）i-Construction とは、ＩＣＴの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を	~~【特記仕様書】~~記載例 削 除

建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、受注者の希望により、その実現に向けてＩＣＴを活用した工 事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２）ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、ＩＣＴを全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤の全ての段階でＩＣＴ施工技術を活用することをＩＣＴ活用工事という。また「ＩＣＴ土工」という略称を用いる。 対象は、土工を含む工事とする。 ① ３次元起工測量 ② ３次元設計データ作成 ③ ＩＣＴ建設機械による施工 ④ ３次元出来形管理等の施工管理 ⑤ ３次元データの納品 ３．受注者は、土工、地盤改良工、付帯構造物設置工、法面工及び作業土工（床掘）においてＩＣＴ施工技術を活用できる。ＩＣＴ活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記４～９によりＩＣＴ活用施工を行うことができる。 ４．ＩＣＴ活用工事のうち、上記２．（２）①、③については、監督職員へ協議の際に、受注者の希望により実施を選択し、②、④及び⑤の実施を必須としてＩＣＴ施工技術を部分的に活用する工事を「簡易型ＩＣＴ活用工事」とする。また、土工について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、土工以外の工種に関するＩＣＴ活用を協議した場合は、土工と共に実施 内容等について施工計画書に記載するものとする。 ５．ＩＣＴを用いた土工について以下の施工を実施する。 ① ３次元起工測量 受注者は、起工測量にあたって、ＩＣＴを用いた起工測量または従来手法による起 工測量が選択できる。 ＩＣＴを用いた起工測量としては、３次元測量データを取得するため、下記１）～８）から選択（複数以上可）して測量を行うことができるものとする。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 ２）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ５）ＴＳ等光波方式を用いた起工測量 ６）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ７）ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた起工測量 ８）その他の３次元計測技術を用いた起工測量 ② ３次元設計データ作成 受注者は、設計図書や５．①で得られたデータを用いて、３次元出来形管理を行うための３次元設計データを作成する。 ③ ＩＣＴ建設機械による施工 受注者は、ＩＣＴ建設機械による施工又は従来型建設機械による施工が選択できる。 但し、従来型建設機械による施工においても、丁張設置等には積極的に３次元設計データを活用す	削 除
---	----------------

る。

I C T建設機械による施工においては、5．②で作成した3次元設計データを用いて、下記に示すI C T建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。

なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和5年3月31日 国土交通省告示第250号）付録1 測量機器検定基準2－6の性能における検定基準を満たすこと。

- 1）3次元MCまたは3次元MG建設機械
- 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川・海岸・砂防・道路土工の敷均し、掘削、法面整形を実施する。

【メモ地盤改良工を含む工事の場合以下を追記】

受注者からの提案により地盤改良工においてI C T施工技術を活用する場合、下記に示すI C T建設機械により実施する。

- 2）3次元MCまたは3次元MG建設機械（地盤改良用）
- 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、地盤改良を実施する。

- ④ 3次元出来形管理等の施工管理
- 受注者は、5．③による工事の施工管理において、下記1）～11）から選択（複数以上可）して、出来形管理を行うものとするが、面管理又は管理断面及び変化点の計測による出来形管理が選択できる。

また12）を用いた品質管理と従来手法の品質管理について選択できる。

【メモ地盤改良工を含む工事の場合番号を修正】

下記1）～12）から選択（複数以上可）して、出来形管理を行うものとするが、面管理又は管理断面及び変化点の計測による出来形管理が選択できる。

また13）を用いた品質管理と従来手法の品質管理について選択できる。

- 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理
- 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 5）TS等光波方式を用いた出来形管理
- 6）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理
- 7）RTK-GNSSを用いた出来形管理
- 8）施工履歴データを用いた出来形管理（土工）
- 9）施工履歴データを用いた出来形管理（河床等掘削）
- 10）地上写真測量を用いた出来形管理

削 除

1 1) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 【メモ地盤改良工を含む工事の場合以下を追記】 1 2) 施工履歴データを用いた出来形管理（地盤改良工）※ ※受注者からの提案により地盤改良工においてICT施工技術を活用する場合、受注者は地盤改良の出来形管理について施工履歴データにより行うこととするが、改良土を盛立てるなど履歴データによる管理が非効率となる部分について監督職員との協議の上で他の計測技術による出来形管理を行っても良い。ただし改良範囲の施工履歴データは⑤によって納品するものとする。 1 2) TS・GNSSを用いた締固め回数管理 【メモ地盤改良工を含む工事の場合番号を修正】 1 3) TS・GNSSを用いた締固め回数管理 受注者は、河川・海岸・砂防・道路土工の品質管理（締固め度）について、「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」により実施する。砂置換法又はRI計法との併用による二重管理は実施しないものとする。 なお、本施工着手前及び盛土材料の土質が変わるごと、また、路体と路床のように品質管理基準が異なる場合に試験施工を行い、本施工で採用する締固め回数を設定すること。 土質が頻繁に変わりその都度試験施工を行うことが非効率である等、施工規定による管理そのものがない場合は、監督職員と協議の上、TS・GNSSを用いた締固め回数管理を適用しなくてもよいものとする。 ⑤ 3次元データの納品 ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。 6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 8. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 1 0. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面	削 除
---	----------------

により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 I C T活用工事の費用について 1. 受注者が、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、土工及び土工以外の工種に関する I C T活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、監督職員へ協議を行い、協議が整った場合、I C T活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記 1）～ 1 1）により計上することとする。 1） I C T活用工事（土工）積算要領 2） I C T活用工事（砂防土工）積算要領 3） I C T活用工事（河床等掘削）積算要領 4） I C T活用工事（作業土工（床堀））積算要領 5） I C T活用工事（付帯構造物設置工）積算要領 6） I C T活用工事（法面工）積算要領 7） I C T活用工事（地盤改良工（安定処理））積算要領 8） I C T活用工事（地盤改良工（中層混合処理））積算要領 9） I C T活用工事（地盤改良工（固結工(スラリー攪拌工)編））積算要領 1 0） I C T活用工事（土工 1,000 m³未満）積算要領 1 1） I C T活用工事（小規模土工）積算要領 ただし、監督職員の指示に基づき、3 次元起工測量、3 次元設計データの作成並びに 3 次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び 3 次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 2. 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 I C T活用工事の活用効果等に関する調査 I C T活用施工を行った、全ての I C T活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「I C T活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	削 除
3. I C T活用工事実施の推進のための措置 3－1 工事成績評定における措置 I C T活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT 活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く）（簡易型 I C T活用工事はこれに準じる） ※本項目は 1 点の加点とする。	3. I C T活用工事実施の推進のための措置 3－1 工事成績評定における措置 ~~I C T活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT 活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。~~ ~~□ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く）（簡易型 I C T活用工事はこれに準じる）~~ ~~※本項目は 1 点の加点とする。~~

□ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの全ての段階で ICT を活用した工事。 ※本項目は2点の加点とする。 ※ICT 活用による加点は最大2点の加点とする。 なお、ICT活用工事において、工事目的物である土工においてICT活用施工を採用しない工事の成績評定については、本項目での加点対象とせず、併せて以下(1)～(2)を標準として減点を行うものとする。 ※但し、以下についてはICT活用工事として評価して未履行の減点対象としない。 1) 起工測量において、前工事での3次元納品データが活用できる場合等の断面及び変化点の計測による測量 2) 砂防工事など施工現場の環境条件により、③ICT建設機械による施工が困難となる場合の、従来型建設機械による施工 3) 冬季の降雪・積雪によって面管理が実施できない場合等の断面及び変化点の計測による出来形管理及び降雪・積雪による施工後の現況計測未実施 (1) 発注者指定型 受注者の責により工事目的物である土工においてICT活用施工(1－2①～⑤の全て)が実施されない場合は、契約違反として工事成績評定から措置の内容に応じて減点する。 (2) 施工者希望型(施工者希望Ⅱ型) 工事契約後の受注者からの提案により工事目的物である土工においてICT活用施工(1－2①～⑤の全て)を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点を行わない。 4. ICT活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にICT活用施工を導入し、ICT施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 ICT活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領(表1【要領一覧】)に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する	~~□ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの全ての段階で ICT を活用した工事。 ※本項目は2点の加点とする。 ※ICT 活用による加点は最大2点の加点とする。 工事成績評定における加点措置は行わない。 なお、ICT活用工事において、工事目的物である土工においてICT施工を活用施工を採用しない工事の成績評定については、本項目での加点対象とせず、併せて以下(1)～(2)を標準として減点を行うものとする。 ※但し、以下についてはICT活用工事として評価して未履行の減点対象としない。 1) 起工測量において、前工事での3次元納品データが活用できる場合等の断面及び変化点の計測による測量 2) 砂防工事など施工現場の環境条件により、③ICT建設機械による施工が困難となる場合の、従来型建設機械による施工 3) 冬季の降雪・積雪によって面管理が実施できない場合等の断面及び変化点の計測による出来形管理及び降雪・積雪による施工後の現況計測未実施~~ (1) 発注者指定型 受注者の責により工事目的物である土工においてICT活用施工技術の活用(1－2①～⑤の全て)が実施されない場合は、契約違反として工事成績評定から措置の内容に応じて減点する。 ※但し、以下についてはICT活用工事として評価し未履行の減点対象としない。 1) 起工測量において、前工事及び設計段階での3次元納品データが活用できる場合等の断面及び変化点の計測による測量 2) 現場条件により、③ICT建設機械による施工が困難又は非効率となる場合の、従来型建設機械による施工 3) 土工数量が少なく③ICT建設機械による施工を行っても現場の作業効率が見込まれない場合 4) 出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる、及び降雪・積雪等によって面管理が実施できない等の理由により、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を実施した場合。 なお、面管理とは出来形管理の計測範囲において、1m間隔以下(1点/m²以上)の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法のことをいう。 ~~(2) 施工者希望型(施工者希望Ⅱ型) 工事契約後の受注者からの提案により工事目的物である土工においてICT活用施工(1－2①～⑤の全て)を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点を行わない。~~ 4. ICT活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にICT施工技術活用施工を導入し、ICT施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 ICT施工技術の活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領(表1【要領一覧】)、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」及び各種「出来形管理の監督・検査要領(案)」に則り、監督・検査を実施するものとする。
--	---

場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 (1) ICT活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 (2) 発注者は、詳細設計において、ICT活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、ICT活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 4－3 工事費の積算 (1) 発注者指定型における積算方法 発注者は、発注に際して別紙－2「ICT活用工事（土工）積算要領」、別紙－24「ICT活用工事（砂防土工）積算要領」に基づく積算を実施するものとする。受注者が、土工以外の工種に関するICT活用について監督職員へ提案・協議を行い協議が整った場合、また、土工についてもICT活用に関する具体的な工事内容及び対象範囲の協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、ICT活用施工の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記1)～11)に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 なお、ICT活用について協議を行う際には、「1－2①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 1) ICT活用工事（土工）積算要領 2) ICT活用工事（砂防土工）積算要領 3) ICT活用工事（河床等掘削）積算要領 4) ICT活用工事（作業土工（床堀））積算要領 5) ICT活用工事（付帯構造物設置工）積算要領 6) ICT活用工事（法面工）積算要領 7) ICT活用工事（地盤改良工（安定処理））積算要領 8) ICT活用工事（地盤改良工（中層混合処理））積算要領 9) ICT活用工事（地盤改良工（固結工（スラリー攪拌工）編））積算要領 10) ICT活用工事（土工 1, 000 m³未満）積算要領	監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 <u>発注者は、受注者が3次元設計データ作成に必要となる詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与するほか、ICT施工技術を活用する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。</u> ~~（1）ICT活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ ~~（2）発注者は、詳細設計において、ICT活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、ICT活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。~~ ~~なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ 4－3 工事費の積算 (1) 発注者指定型における積算方法 発注者は、発注に際して~~別紙－2「ICT活用工事（土工）積算要領」、別紙－24「ICT活用工事（砂防土工）積算要領」~~以下1)～4)に基づく積算を実施するものとする。受注者~~が~~<u>からICT活用に</u>関する具体的な工事内容及び対象範囲の協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、また、土工以外の工種に関するICT活用について監督職員へ提案・協議を行い協議が整った場合、~~また、土工についてもICT活用に関する具体的な工事内容及び対象範囲の協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、~~ICT活用~~施工~~の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とし、~~下記~~<u>以下</u>1)～~~4+1+1~~)に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 なお、ICT~~施工技術~~の活用について協議を行う際には、「1－2①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 ~~1) ICT活用工事（土工）積算要領~~ <u>1) ICT活用工事（土工 1,000 m³以上）積算要領</u> <u>2) ICT活用工事（土工 1,000 m³未満）積算要領</u> ~~2+3) ICT活用工事（砂防土工）積算要領~~ ~~3+4) ICT活用工事（河床等掘削）積算要領~~ ~~4) ICT活用工事（作業土工（床堀））積算要領~~ ~~5) ICT活用工事（付帯構造物設置工）積算要領~~ ~~6) ICT活用工事（法面工）積算要領~~ ~~7) ICT活用工事（地盤改良工（安定処理））積算要領~~ ~~8) ICT活用工事（地盤改良工（中層混合処理））積算要領~~
---	---

1 1） I C T活用工事（小規模土工）積算要領 現行基準による設計ストック等により I C T活用工事を発注する場合、受注者に 3 次元起工測量及び 3 次元設計データ作成を指示するとともに、 3 次元起工測量経費及び 3 次元設計データ作成経費についての見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとする。 見積り徴収にあたり、別紙－ 3 6「 I C Tの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「 I C T活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 （2）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案により I C T活用施工を実施する場合、 I C T活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記 1）～ 1 1）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 なお、 I C T活用について協議を行う際には、「 1－ 2 ①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 1） I C T活用工事（土工）積算要領 2） I C T活用工事（砂防土工）積算要領 3） I C T活用工事（河床等掘削）積算要領 4） I C T活用工事（作業土工（床堀））積算要領 5） I C T活用工事（付帯構造物設置工）積算要領 6） I C T活用工事（法面工）積算要領 7） I C T活用工事（地盤改良工（安定処理））積算要領 8） I C T活用工事（地盤改良工（中層混合処理））積算要領 9） I C T活用工事（地盤改良工（固結工(スラリー攪拌工)編））積算要領 1 0） I C T活用工事（土工 1, 000 m³未満）積算要領 1 1） I C T活用工事（小規模土工）積算要領 上記のほか、現行基準による 2 次元の設計ストック等により I C T活用工事を発注する場合、受注者に 3 次元起工測量及び 3 次元設計データ作成を指示するとともに、 3 次元起工測量経費及び 3 次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－ 3 6「 I C Tの活用に係る見 積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「 I C T活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－ 4 I C T監督・検査体制の構築 I C T活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、 I C T検査官等の任命や研修等での I C T施工技術の習得を図るなど、 I C T活用施工に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 また、検査機器（ G N S S ローパー）が普及するまでの当面の間は、受注者の任意選択として T S も採用可能とする。	~~9） I C T活用工事（地盤改良工（固結工(スラリー攪拌工)編））積算要領~~ ~~1 0） I C T活用工事（土工 1, 000 m³未満）積算要領~~ ~~1 1） I C T活用工事（小規模土工）積算要領~~ 削 除 4－ 4 I C T監督・検査体制の構築 I C T <u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>における監督検査を適切に行うことを目的に、 I C T検査官等の任命や研修等での I C T施工技術の習得を図るなど、 I C T <u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 ~~また、検査機器（ G N S S ローパー）が普及するまでの当面の間は、受注者の任意選択として T S も採用可能とする。~~
--	--

4－5 現場見学会・講習会の実施

I C T活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。

5. 地方整備局等における I C T活用工事に関する調査等

I C T活用工事の発注見通し、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）（提出様式は別途指示）

I C T活用工事として活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、対象工事の概要等を本省へ報告するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1－4、2－1で定める工事とする。

5－2 I C T活用工事の活用実績の報告（提出様式は別途指示）

母集団調査とともに、I C T活用施工を実施する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。

5－3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

6. I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	I C T活用施工を行った、全ての I C T活用工事	受注者

1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

2）発注者指定型、施工者希望型（施工者希望Ⅱ型）の全てで実施する。

6－2 調査等の調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

4－5 現場見学会・講習会の実施

I C T活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。

5. 地方整備局等における I C T活用工事に関する調査等

I C T活用工事の発注見通し、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）~~（提出様式は別途指示）~~

I C T活用工事として活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、~~対象工事の概要等を本省へ報告~~するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1－4、2－1で定める工事とする。

5－2 I C T活用工事の活用実績の報告（~~提出様式は~~別途指示）

~~母集団調査とともに、~~I C T活用~~施工を実施する工事と、その概要等を本省へ報告~~工事の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示するものとする。

5－3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する場合は。なお、内容はその都度、別途指示する。

6. I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	~~I C T活用施工を行った、~~ 全ての I C T活用工事	受注者

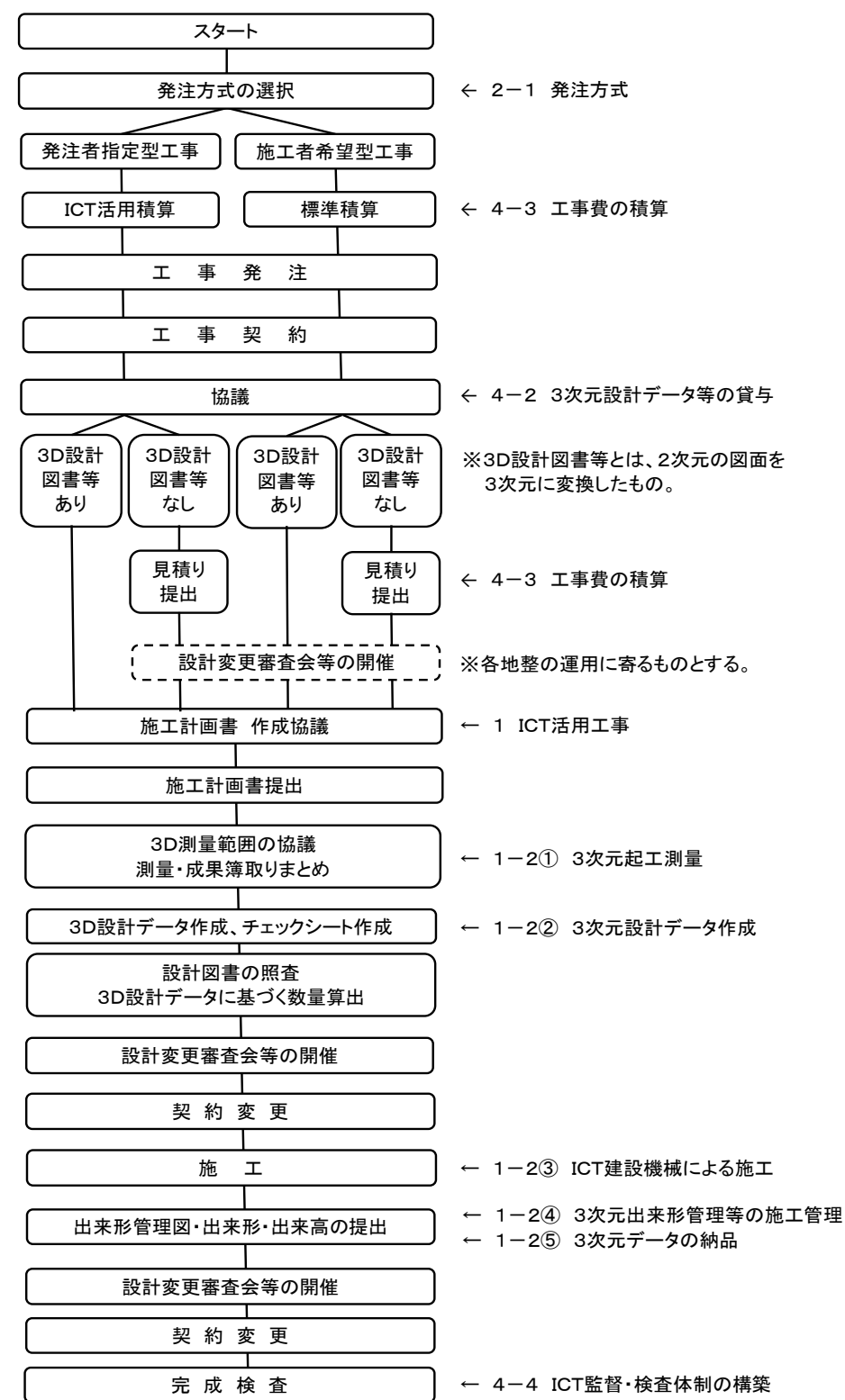
1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

~~2）発注者指定型、施工者希望型（施工者希望Ⅱ型）の全てで実施する。~~

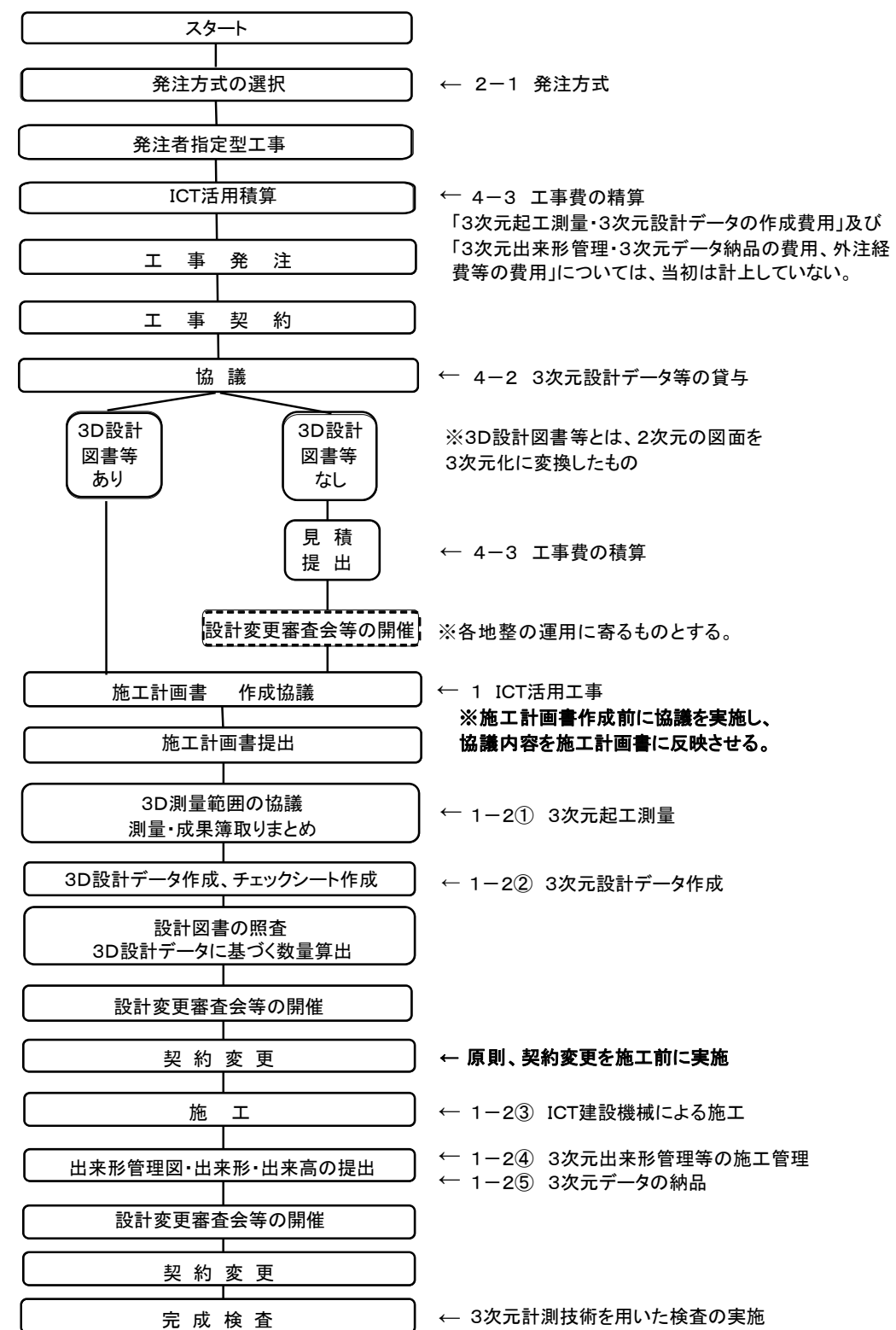
6－2 調査等の調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



R 6 室長通知 別紙ー2 I C T活用工事（土工 1,000 m ³ 以上）積算要領	R 7 室長通知 別紙ー2 I C T活用工事（土工 1,000 m ³ 以上）積算要領																				
別紙ー 2	別紙ー 2																				
I C T活用工事（土工）積算要領	I C T活用工事（土工 <u>1,000 m³以上</u> ）積算要領																				
1. 適用範囲 本資料は、I C Tによる土工（以下、土工（I C T））に適用する。 以下の I C T建設機械による施工の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 ・掘削（I C T）（河床等掘削を除く） ・路体（築堤）盛土（I C T） ・路床盛土（I C T） ・法面整形（I C T） なお、土量が 1,000m3 未満の場合は、別紙ー 6 「I C T活用工事（土工 1000m3 未満）積算要領」によるものとする。また、現場条件によって「2ー1 機械経費」に示す ICT 建設機械の規格よりも小さい ICT 建設機械を用いる場合は、施工パッケージ型積算基準によらず、見積りを活用し積算することとする。	1. 適用範囲 本資料は、I C Tによる土工（以下、土工（I C T）） <u>（1,000 m³以上）</u> に適用する。 以下の I C T建設機械による施工の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 ・掘削（I C T）（河床等掘削を除く） ・路体（築堤）盛土（I C T） ・路床盛土（I C T）・法面整形（I C T） なお、土量が 1,000 ~~m³~~ <u>m³</u> 未満の場合は、別紙ー <u>3-6</u> 「I C T活用工事（土工 1,000 ~~m³~~ <u>m³</u> 未満）積算要領」によるものと <u>し、出来形管理を行わない作業土工（床掘工）については、別紙ー 5「I C T活用工事（作業土工（床掘工））積算要領」によるもの</u> とする。また、現場条件によって「2ー1 機械経費」に示す ~~ICT~~ <u>I C T</u> 建設機械の規格よりも小さい ~~ICT~~ <u>I C T</u> 建設機械を用いる場合は、施工パッケージ型積算基準によらず、見積りを活用し積算することとする。																				
2. 機械経費 2ー1 機械経費 土工（I C T）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、土木工事標準積算基準書の「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 ①掘削（I C T）、法面整形（I C T）	2. 機械経費 2ー1 機械経費 土工（I C T） <u>（1,000 m³以上）</u> の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、土木工事標準積算基準書の <u>第 1 編 総則</u> 「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 ①掘削（I C T）、法面整形（I C T）																				
<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>バックホウ （クローラ型）</td><td>標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8m3(平積 0. 6m3) 吊能力 2. 9t</td><td>賃料にて計上</td><td>ICT 建設機械経費加算額は別途計上</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ （クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8m3(平積 0. 6m3) 吊能力 2. 9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上	<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>バックホウ （クローラ型）</td><td>標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8~~m3~~<u>m³</u>(平積 0. 6~~m3~~<u>m³</u>) 吊能力 2. 9t</td><td>賃料にて計上</td><td>I C T建設機械経費加算額は別途計上</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ （クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8 ~~m3~~ <u>m³</u> (平積 0. 6 ~~m3~~ <u>m³</u>) 吊能力 2. 9t	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上				
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																		
バックホウ （クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8m3(平積 0. 6m3) 吊能力 2. 9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上																		
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																		
バックホウ （クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8 ~~m3~~ <u>m³</u> (平積 0. 6 ~~m3~~ <u>m³</u>) 吊能力 2. 9t	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上																		
②路体（築堤）盛土（I C T）、路床盛土（I C T）	②路体（築堤）盛土（I C T）、路床盛土（I C T）																				
<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">ブルドーザ</td><td>湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・7 t 級</td><td>賃料にて計上</td><td rowspan="2">ICT 建設機械経費加算額は別途計上</td></tr><tr><td>湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・1 6 t 級</td><td>賃料にて計上</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	ブルドーザ	湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・7 t 級	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上	湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・1 6 t 級	賃料にて計上	<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">ブルドーザ</td><td>湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・7 t 級</td><td>賃料にて計上</td><td rowspan="2">I C T建設機械経費加算額は別途計上</td></tr><tr><td>湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・1 6 t 級</td><td>賃料にて計上</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	ブルドーザ	湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・7 t 級	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上	湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・1 6 t 級	賃料にて計上
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																		
ブルドーザ	湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・7 t 級	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上																		
	湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・1 6 t 級	賃料にて計上																			
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																		
ブルドーザ	湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・7 t 級	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上																		
	湿地・I C T施工対応型・排出ガス対策型(2011 年規制)・1 6 t 級	賃料にて計上																			
※2ー1 機械経費のうち、賃料にて計上する I C T施工対応型の機械経費には、地上の基準局・管理局以外の賃貸費用が含まれている。	※2ー1 機械経費のうち、賃料にて計上する I C T施工対応型の機械経費には、地上の基準局・管理局以外の賃貸費用が含まれている。																				

2－2 ICT 建設機械経費加算額 2－2－1 賃料加算額 ICT 建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費のうち賃料にて計上する ICT 建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 (1) 掘削（ICT）、法面整形（ICT） 対象建設機械：バックホウ（ICT 施工対応型） 賃料加算額：13,000 円／日 (2) 路体（築堤）盛土（ICT）、路床盛土（ICT） 対象建設機械：ブルドーザ（ICT 施工対応型） 賃料加算額：13,000 円／日 2－3 その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 2－3－1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 (1) 掘削（ICT） 保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m3/日)}}$ (注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。 (注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。 (2) 法面整形工（ICT） 保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m2)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m2/日)}}$ (注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。 (注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。 (3) 路体（築堤）盛土（ICT）、路床盛土（ICT） 保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.07(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m3/日)}}$ (注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。 (注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。 2－3－2 システム初期費 ICT 施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。	2－2 ~~ICT~~<u>ICT</u> 建設機械経費加算額 2－2－1 賃料加算額 ~~ICT~~<u>ICT</u> 建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費のうち賃料にて計上する ~~ICT~~<u>ICT</u> 建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 (1) 掘削（ICT）、法面整形（ICT） 対象建設機械：バックホウ（ICT 施工対応型） 賃料加算額：13,000 円／日 (2) 路体（築堤）盛土（ICT）、路床盛土（ICT） 対象建設機械：ブルドーザ（ICT 施工対応型） 賃料加算額：13,000 円／日 2－3 その他 ~~ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。~~ ~~2－3－1 保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~(1) 掘削（ICT）~~ <del> 保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m3/日)}}$ </del> ~~(注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。~~ ~~(注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。~~ ~~(2) 法面整形工（ICT）~~ <del> 保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m2)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m2/日)}}$ </del> ~~(注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。~~ ~~(注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。~~ ~~(3) 路体（築堤）盛土（ICT）、路床盛土（ICT）~~ <del> 保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.07(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m3/日)}}$ </del> ~~(注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。~~ ~~(注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。~~ 2－3－1~~2~~ システム初期費 <u>ICT 建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT 建設機械精度確認等、ICT 建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を計上する。</u>
---	--

(1) 掘削（I C T）、法面整形（I C T） 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 (2) 路体（築堤）盛土（I C T）、路床盛土（I C T） 対象建設機械：ブルドーザ 費用：548,000 円／式 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 ・共通仮設費率補正係数 ： 1.2 ・現場管理費率補正係数 ： 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～5）又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測とし、I C T活用工事（土工）実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5) 上記1）～4）に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 <td> (1) 掘削（I C T）、法面整形（I C T） 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 (2) 路体（築堤）盛土（I C T）、路床盛土（I C T） 対象建設機械：ブルドーザ 費用：548,000 円／式 <u>※1工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でI C T建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。</u> 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成<u>(修正含む)</u>を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 <u>費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。</u> <u>なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。</u> 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) <u>土工数量1,000 m³以上における出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う<u>った</u>場合におけるの費用</u>の計上方法については、<u>受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、</u>共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 <u>なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。</u> <u>また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。</u> ・共通仮設費率補正係数 ： 1.2 ・現場管理費率補正係数 ： 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～<u>4）とし、それ以外5）又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測とし、I C T活用工事（土工）実施要領に示すその他</u>の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ~~5) 上記1）～4）に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ </td>	(1) 掘削（I C T）、法面整形（I C T） 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 (2) 路体（築堤）盛土（I C T）、路床盛土（I C T） 対象建設機械：ブルドーザ 費用：548,000 円／式 <u>※1工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でI C T建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。</u> 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成<u>(修正含む)</u>を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 <u>費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。</u> <u>なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。</u> 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) <u>土工数量1,000 m³以上における出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う<u>った</u>場合におけるの費用</u>の計上方法については、<u>受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、</u>共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 <u>なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。</u> <u>また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。</u> ・共通仮設費率補正係数 ： 1.2 ・現場管理費率補正係数 ： 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～<u>4）とし、それ以外5）又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測とし、I C T活用工事（土工）実施要領に示すその他</u>の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ~~5) 上記1）～4）に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~
---	---

(2) 費用計上にあたっての留意事項 1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。	(2) 費用計上にあたっての留意事項 <u>1) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上しない。</u> <u>2) 受注者からの見積又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。</u> <u>①補正係数を乗じて算出される金額を計上する場合</u> <u>・補正係数を乗じて算出される金額<受注者からの見積による金額</u> <u>②受注者からの見積による金額を計上する場合</u> <u>・補正係数を乗じて算出される金額>受注者からの見積による金額</u> ~~1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。~~ ~~2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。~~
5. 発注者指定型における積算方法 掘削 (ICT) は、ICT 建設機械による施工歩掛 (以下、「掘削 (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]」という。) と通常建設機械による施工歩掛 (以下、「掘削 (通常)」という。) を用いて積算するものとする。 5-1 掘削 (ICT) の施工数量 50,000m3 未満における積算 当初積算時に計上する施工数量は、官積算工程において必要な施工日数から計上割合を設定し、その計上割合により施工数量を計上するものとする。 変更積算は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。 なお、変更に伴い施工数量が 50,000m3 以上となるものについても施工数量に応じて変更を行うものとする。 また、ICT 建設機械を活用し、ICT 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。	<u>5. 施工箇所が点在する I C T活用工事の積算について</u> <u>施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第 1 編第 2 章 工事費の積算」及び「第 I 編第 11 章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。</u>
5-1-1 当初積算 (1) ICT 土工にかかる施工日数の算出 施工数量(m3)を作業日当り標準作業量(m3/日)で除した値を施工日数とする。 なお、施工日数は、小数点第 1 位を切り上げた整数とする。 (2) 計上割合の設定 (1) で求めた施工日数から表- 1 により、計上割合を設定する。	~~6-5. 発注者指定型における積算方法~~ ~~全土工数量において、I C T建設機械による施工を原則としているが、現場条件により、I C T建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してもよい。その場合は、以下「6- 1 掘削 (I C T) における積算」により変更積算するものとする。~~ ~~なお、当初積算は全土工数量を I C T建設機械による施工を原則とする。~~
	6- 1 掘削 (I C T) における積算 掘削 (I C T) は、I C T建設機械による施工歩掛 (以下、「掘削 (I C T) [I C T建設機械使用割合 100%]」という。) と通常建設機械による施工歩掛 (以下、「掘削 (通常)」という。) を用いて積算するものとする。 6- 1- 1 掘削 (I C T) の施工数量 50,000m3 未満における積算 変更積算は、I C T施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は I C T建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。 なお、変更に伴い施工数量が 50,000m3 以上となるものについても施工数量に応じて変更を行うものとする。 また、I C T建設機械を活用し、I C T建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。 【変更積算】 現場での I C T施工の実績により、変更するものとする。 (1) I C T土工にかかる I C T建設機械稼働率の算出 I C T建設機械による施工日数 (使用台数) を I C T施工に要した全施工日数 (I C T建設機械と通常建設機械の延べ使用台数) で除した値を I C T建設機械稼働率とする。 なお、I C T建設機械稼働率は、小数点第 3 位を切り捨て小数点第 2 位止とする。

表－１ 施工数量50,000m3未満における掘削（ICT） の計上割合

施工日数	割合
20日未満	100%
20日以上60日未満	50%
60日以上	25%

（３）施工数量の算出

ICT 土工の全施工数量に計上割合を乗じた値を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

なお、計上割合を乗じた値は四捨五入した数値とし、数値は「土木工事標準積算基準書（共通編）」第５章 数値基準等によるものとする。

５－１－２ 変更積算

現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。

（１）ICT 土工にかかる ICT 建設機械稼働率の算出

ICT 建設機械による施工日数（使用台数）を ICT 施工に要した全施工日数（ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。

なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第３位を切り捨て小数点第２位止とする。

（２）変更施工数量の算出

ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数値は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の２５％を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）により変更設計書に計上するものとする。

５－２ 掘削（ICT）の施工数量 50,000m3 以上における積算

当初積算時に計上する施工数量は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の 25%を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）により設計書に計上するものとする。

なお、変更に伴い施工数量が 50,000m3 未満となるものについても、施工数量に応じて変更するものとする。

また、ICT 建設機械を活用し、ICT 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。

５－２－１ 当初積算

（１）施工数量の算出

全施工数量に２５％を乗じた値を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

なお、計上割合を乗じた値は四捨五入した数値とし、数値は「土木工事標準積算基準書 共通編 第５章 数値基準等」によるものとする。

（２）変更施工数量の算出

ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数値は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の２５％を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）により変更設計書に計上するものとする。

６－１－２ 掘削（ICT）の施工数量 50,000m3 以上における積算

変更積算は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量 ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。

なお、変更に伴い施工数量が 50,000m3 未満となるものについても、施工数量に応じて変更するものとする。

また、ICT 建設機械を活用し、ICT 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。

【変更積算】

現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。

（１）ICT 土工にかかる ICT 建設機械稼働率の算出

ICT 建設機械による施工日数（使用台数）を ICT 施工に要した全施工日数（ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。

なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第３位を切り捨て小数点第２位止とする。

（２）変更施工数量の算出

ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数値は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の２５％を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）により変更設計書に計上するものとする。

６－２ 特記仕様書への条件明示【参考】

当初設計の特記仕様書に追記する記載例は、以下のとおりとする。

なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。

第〇〇条 ICT 活用工事の費用について

○、掘削工の ICT 建設機械による施工については、全土工数量分見込んでいるが、現場条件により、従来型建設機械による施工を実施した場合は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。

※ ICT 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものと

5－2－2 変更積算 現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。 (1) ICT 土工にかかる ICT 建設機械稼働率の算出 ICT 建設機械による施工日数（使用台数）を ICT 施工に要した全施工日数（ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。 なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第 3 位を切り捨て小数点第 2 位止とする。 (2) 変更施工数量の算出 ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（掘削（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。 ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。 なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の 2 5 %を ICT 施工（掘削（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）により変更設計書に計上するものとする。 5－3 特記仕様書への条件明示【参考】 特記仕様書に追記する記載例は、以下とおりとする。 なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。 第〇〇条 ICT 活用工事の費用について ○. 掘削工の ICT 建設機械による施工は、当面の間、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。 受注者は、ICT 施工に要した建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。 なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の 2 5 %を「掘削（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]」の施工数量として変更するものとする。 6. 施工者希望型における変更積算方法 受注者からの提案・協議により ICT 施工を実施した場合は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。 掘削（ICT）の変更積算は、ICT 建設機械による施工歩掛（以下、「掘削（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]」という。）と通常建設機械による施工歩掛（以下、「掘削（通常）」という。）を用いて積算するものとする。 6－1 変更積算 現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。 ①ICT 土工にかかる ICT 建設機械稼働率の算出 ICT 建設機械による施工日数（使用台数）を ICT 施工に要した全施工日数（ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。 なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第 3 位を切り捨て小数点第 2 位止とする。 ②変更施工数量の算出 <td data-bbox="1478 245 2742 1887"> する。 受注者は、ICT 施工に要した建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。 なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の 2 5 %を「掘削（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]」の施工数量として変更するものとする。 </td>	する。 受注者は、ICT 施工に要した建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。 なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の 2 5 %を「掘削（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]」の施工数量として変更するものとする。
--	--

ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。 ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。 なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の 2 5 %を ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）により変更設計書に計上するものとする。 6－2 特記仕様書への条件明示【参考】 特記仕様書に追記する記載例は、以下とおりとする。 なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。 第〇〇条 I C T活用工事の費用について ○. 掘削工の ICT 建設機械による施工は、当面の間、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。 受注者は、ICT 施工に要した建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。 なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の 2 5 %を「掘削（ICT）〔ICT 建設機械機使用割合 100%〕」の施工数量として変更するものとする。	
---	--

R 6 室長通知 別紙－3 I C T活用工事（土工 1,000m3 未満）積算要領	R 7 室長通知 別紙－3 I C T活用工事（土工 1,000m3 未満）積算要領																
別紙－6	別紙－3																
I C T活用工事（土工 1,000 m³未満）積算要領	I C T活用工事（土工 1,000 m³未満）積算要領																
1. 適用範囲 本資料は、土工量 1000m3 未満の I C Tによる土工（以下、土工（I C T）（1000m3 未満）及び土工に付随する側溝工（暗渠工）、暗渠工等に適用する。	1. 適用範囲 本資料は、土工量 1,000 ~~m³~~ <u>m³</u> 未満の I C Tによる土工（以下、土工（I C T）（1,000 ~~－m³~~ <u>m³</u> 未満）及び ~~土工に付随する側溝工（暗渠工）、暗渠工等~~ 1箇所当たりの施工土量が 100 m³以下の掘削（適用土質は、土砂（砂質土及び砂、粘性土、レキ質土）とする。）（以下、小規模土工（I C T））に適用する。 <u>なお、土量が 1,000 m³以上の場合は、別紙－2「I C T活用工事（土工 1,000 m³以上）積算要領」によるものとし、出来形管理を行わない作業土工（床掘工）については、別紙－7「I C T活用工事（作業土工（床掘工））積算要領」によるものとする。</u>																
2. 機械経費	2. 機械経費																
2－1 機械経費 土工（I C T）（1000m3 未満）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、土木工事標準積算基準書の「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。	2－1 機械経費 土工（I C T）（1,000 ~~－m³~~ <u>m³</u> 未満）の積算で使用する ~~ICT~~ <u>I C T</u> 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、土木工事標準積算基準書 <u>第Ⅰ編 総則</u> の「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。																
① 土工 1000m3 未満（I C T）	① 土工 1,000 ~~－m³~~ <u>m³</u> 未満（I C T）																
<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>バックホウ （クローラ型）</td><td>後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 （第3 次基準値）、 山積 0.45m3 (平積 0.35m3)</td><td>損料にて計上</td><td>ICT 建設機械経費加 算額は別途計上</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ （クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 （第3 次基準値）、 山積 0.45m3 (平積 0.35m3)	損料にて計上	ICT 建設機械経費加 算額は別途計上	<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>バックホウ （クローラ型）</td><td>後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 （第3 次基準値）、 山積 0.45~~－m³~~<u>m³</u> (平積 0.35~~－m³~~<u>m³</u>)</td><td>損料にて計上</td><td>~~ICT~~<u>I C T</u>建設機械 経費加算額は別途計 上</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ （クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 （第3 次基準値）、 山積 0.45 ~~－m³~~ <u>m³</u> (平積 0.35 ~~－m³~~ <u>m³</u>)	損料にて計上	~~ICT~~ <u>I C T</u> 建設機械 経費加算額は別途計 上
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考														
バックホウ （クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 （第3 次基準値）、 山積 0.45m3 (平積 0.35m3)	損料にて計上	ICT 建設機械経費加 算額は別途計上														
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考														
バックホウ （クローラ型）	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 （第3 次基準値）、 山積 0.45 ~~－m³~~ <u>m³</u> (平積 0.35 ~~－m³~~ <u>m³</u>)	損料にて計上	~~ICT~~ <u>I C T</u> 建設機械 経費加算額は別途計 上														
	<u>② 土工 小規模土工（I C T）</u>																
	<table><tr><th><u>I C T建設機械名</u></th><th><u>規格</u></th><th><u>機械経費</u></th><th><u>備考</u></th></tr><tr><td><u>バックホウ （クローラ型）</u></td><td><u>標準型・排出ガス対策型 （第2次基準値） 山積 0.28 m³ (平積 0.2 m³)</u></td><td><u>損料にて計上</u></td><td><u>I C T建設機械経費 加算額は別途計上</u></td></tr><tr><td><u>小型バックホウ （クローラ型）</u></td><td><u>標準型・排出ガス対策型 （第2次基準値） 山積 0.13 m³ (平積 0.1 m³)</u></td><td><u>損料にて計上</u></td><td><u>I C T建設機械経費 加算額は別途計上</u></td></tr></table>	<u>I C T建設機械名</u>	<u>規格</u>	<u>機械経費</u>	<u>備考</u>	<u>バックホウ （クローラ型）</u>	<u>標準型・排出ガス対策型 （第2次基準値） 山積 0.28 m³ (平積 0.2 m³)</u>	<u>損料にて計上</u>	<u>I C T建設機械経費 加算額は別途計上</u>	<u>小型バックホウ （クローラ型）</u>	<u>標準型・排出ガス対策型 （第2次基準値） 山積 0.13 m³ (平積 0.1 m³)</u>	<u>損料にて計上</u>	<u>I C T建設機械経費 加算額は別途計上</u>				
<u>I C T建設機械名</u>	<u>規格</u>	<u>機械経費</u>	<u>備考</u>														
<u>バックホウ （クローラ型）</u>	<u>標準型・排出ガス対策型 （第2次基準値） 山積 0.28 m³ (平積 0.2 m³)</u>	<u>損料にて計上</u>	<u>I C T建設機械経費 加算額は別途計上</u>														
<u>小型バックホウ （クローラ型）</u>	<u>標準型・排出ガス対策型 （第2次基準値） 山積 0.13 m³ (平積 0.1 m³)</u>	<u>損料にて計上</u>	<u>I C T建設機械経費 加算額は別途計上</u>														
2－2 ICT 建設機械経費加算額	2－2 ~~ICT~~ <u>I C T</u> 建設機械経費加算額																
2－2－1 損料加算額 ICT 建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費のうち損料にて計上する ICT 建設機械に適用する。	2－2－1 損料加算額 ~~ICT~~ <u>I C T</u> 建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費のうち損料にて計上する ~~ICT~~ <u>I C T</u> 建設機械に適用する。																

なお、加算額は、以下のとおりとする。 (1) 土工 1000m3未満 (ICT) 対象建設機械：バックホウ 損料加算額：5,470円／日 2－3 その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 2－3－1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 (1) 土工 1000m3未満 (ICT) $\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m3/日)}}$ (注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」のICT標準作業量による。 (注) 施工数量は、ICT施工の数量とする。 2－3－2 システム初期費 ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 土工 1000m3 未満 (ICT) 対象建設機械：バックホウ 費用：ICT 建設機械経費損料加算額に含む 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。また、3次元起工測量を実施した場合は、3次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。	なお、加算額は、以下のとおりとする。 (1) 土工 1,000-~~m3~~-<u>m³</u>未満 (ICT) 対象建設機械：バックホウ 費用：5,470 円/日 <u>(2) 土工 小規模 (ICT)</u> <u>対象建設機械：バックホウ</u> <u>費用：5,470 円／日</u> 2－3 その他 ~~ICT ICT~~建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 ~~2－3－1 保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~-(1) 土工 1000m3未満 (ICT)-~~ $\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m3/日)}}$ ~~-(注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」のICT標準作業量による。~~ ~~-(注) 施工数量は、ICT施工の数量とする。~~ ~~2－3－2 システム初期費~~ ~~ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。~~ ~~土工 1000m3 未満 (ICT)-~~ ~~対象建設機械：バックホウ~~ ~~費用：ICT 建設機械経費損料加算額に含む~~ ~~2－3－2 システム初期費~~ ~~ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。~~ ~~土工 1000m3 未満 (ICT)-~~ ~~対象建設機械：バックホウ~~ ~~費用：ICT 建設機械経費損料加算額に含む~~ 2－3－1 ~~2~~ システム初期費 <u>ICT建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT建設機械精度確認等、ICT建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用については、ICT建設機械経費損料加算額に含んでいる。</u> 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。また、3次元起工測量を実施した場合は、3次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。 <u>費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は</u>
---	--

	<u>費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。</u> <u>なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。</u>																						
4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用	4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用																						
原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。ただし、受発注者協議の上、面管理にて出来形管理を実施する場合は、必要額を適正に積み上げるものとする。	<u>土工数量 1,000 m³未満における3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上はしない。</u> ~~原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。ただし、受発注者協議の上、面管理にて出来形管理を実施する場合は、必要額を適正に積み上げるものとする。~~																						
5. 積算方法	<u>5. 施工箇所が点在するICT活用工事の積算について</u> <u>施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。</u> ~~5. 積算方法~~ ~~受注者からの提案・協議によりICT施工を実施した場合は、[ICT建設機械使用割合100%]を用いて積算するものとする。~~ <u>【補足】</u> <u>・モバイル端末を用いた出来形管理及び地上写真測量を用いた出来形管理については、面管理であるが、市販品を活用した簡易な出来形管理のため、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。</u>																						
【参考】	【参考】																						
1. 施工歩掛	<u>土工 1,000 m³未満（ICT）</u>																						
（1）土量の表示	1. 施工歩掛																						
すべて地山土量で表示する。	（1）土量の表示																						
	すべて地山土量で表示する。																						
（2）土質区分	（2）土質区分																						
日当り施工量における土質は、次表のとおり区分する。	日当り施工量における土質は、次表のとおり区分する。																						
表 1.1 土質区分	表 1.1 土質区分																						
<table><tr><th>土質名</th><th>分類土質名</th></tr><tr><td>レキ質土, 砂利混り土, レキ</td><td>レキ質土</td></tr><tr><td>砂</td><td>砂</td></tr><tr><td>砂質土, 普通土, 砂質ローム</td><td>砂質土</td></tr><tr><td>粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土</td><td>粘性土</td></tr><tr><td>岩塊・玉石混り土, 破碎岩</td><td>岩塊・玉石</td></tr></table>	土質名	分類土質名	レキ質土, 砂利混り土, レキ	レキ質土	砂	砂	砂質土, 普通土, 砂質ローム	砂質土	粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土	粘性土	岩塊・玉石混り土, 破碎岩	岩塊・玉石	<table><tr><th>土質名</th><th>分類土質名</th></tr><tr><td>レキ質土, 砂利混り土, レキ</td><td>レキ質土</td></tr><tr><td>砂</td><td>砂</td></tr><tr><td>砂質土, 普通土, 砂質ローム</td><td>砂質土</td></tr><tr><td>粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土</td><td>粘性土</td></tr></table>	土質名	分類土質名	レキ質土, 砂利混り土, レキ	レキ質土	砂	砂	砂質土, 普通土, 砂質ローム	砂質土	粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土	粘性土
土質名	分類土質名																						
レキ質土, 砂利混り土, レキ	レキ質土																						
砂	砂																						
砂質土, 普通土, 砂質ローム	砂質土																						
粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土	粘性土																						
岩塊・玉石混り土, 破碎岩	岩塊・玉石																						
土質名	分類土質名																						
レキ質土, 砂利混り土, レキ	レキ質土																						
砂	砂																						
砂質土, 普通土, 砂質ローム	砂質土																						
粘土, 粘性土, シルト質ローム, 砂質粘性土, 粘土質ローム火山灰質粘性土, 有機質土	粘性土																						

法面整形工（ＩＣＴ施工）における日当り施工量は、次表を標準とする。

表1.5 日当り施工量 (m ² ／日)			
整形箇所	作業区分	土質	標準施工量
盛土部	削取り整形	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	164
	築立（土羽）整形	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	104
切土部	切土整形	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	104
		軟岩（Ⅰ）	89

(2) 施工歩掛

1) 盛土法面整形

①削取り整形

本歩掛は、築立（土羽）部を本体と同一材料（土）で同時に施工し、機械で法面部を削取りながら整形する場合に適用する。

表1.6 削取り整形歩掛 (100m ² 当り)			
名称	規格	単位	土質
			レキ質土 砂及び砂質土 粘性土
土木一般世話役		人	0.24
普通作業員		〃	0.36
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日	0.61

(注) 1. バックホウ（法面バケット付）賃料は、バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。
2. 本歩掛には、残土を本体盛土部へ排土する作業を含む。

②築立（土羽）整形

本歩掛は、土羽土部分の敷均し・締固め及び整形を機械で行う場合に適用する。

表1.7 築立(土羽)整形歩掛 (100m ² 当り)			
名称	規格	単位	土質
			レキ質土 砂及び砂質土 粘性土
土木一般世話役		人	0.44
普通作業員		〃	0.47
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日	0.96

(注) 1. 本歩掛には、土羽土の搬入等は含まない。
2. 本歩掛には、土羽土の現場内小運搬（20m程度）及び残土を本体盛土部へ排土する作業を含む。
3. バックホウ（法面バケット付）賃料は、バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。

2) 切土法面整形

①切土整形

本歩掛は、機械による切土整形に適用する。

(1) 日当り施工量

法面整形工（ＩＣＴ施工）における日当り施工量は、次表を標準とする。

表1.5 日当り施工量 (m ² ／日)			
整形箇所	作業区分	土質	標準施工量
盛土部	削取り整形	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	164
	築立（土羽）整形	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	104
切土部	切土整形	レキ質土，砂及び砂質土，粘性土	104
		軟岩（Ⅰ）	89

(2) 施工歩掛

1) 盛土法面整形

①削取り整形

本歩掛は、築立（土羽）部を本体と同一材料（土）で同時に施工し、機械で法面部を削取りながら整形する場合に適用する。

表1.6 削取り整形歩掛 (100m ² 当り)			
名称	規格	単位	土質
			レキ質土 砂及び砂質土 粘性土
土木一般世話役		人	0.24
普通作業員		〃	0.36
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日	0.61

(注) 1. バックホウ（法面バケット付）賃料は、バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。
2. 本歩掛には、残土を本体盛土部へ排土する作業を含む。

②築立（土羽）整形

本歩掛は、土羽土部分の敷均し・締固め及び整形を機械で行う場合に適用する。

表1.7 築立(土羽)整形歩掛 (100m ² 当り)			
名称	規格	単位	土質
			レキ質土 砂及び砂質土 粘性土
土木一般世話役		人	0.44
普通作業員		〃	0.47
バックホウ （クローラ型）運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日	0.96

(注) 1. 本歩掛には、土羽土の搬入等は含まない。
2. 本歩掛には、土羽土の現場内小運搬（20m程度）及び残土を本体盛土部へ排土する作業を含む。
3. バックホウ（法面バケット付）賃料は、バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。

2) 切土法面整形

①切土整形

表1.8 切土整形歩掛 (100m ² 当り)					本歩掛は、機械による切土整形に適用する。				
表1.8 切土整形歩掛 (100m ² 当り)					表1.8 切土整形歩掛 (100m ² 当り)				
名 称	規 格	単 位	土 質		名 称	規 格	単 位	土 質	
			レキ質土 砂及び砂質土 粘性土	軟岩（Ⅰ）				レキ質土 砂及び砂質土 粘性土	軟岩（Ⅰ）
土 木 一 般 世 話 役		人	0.49	0.65	土 木 一 般 世 話 役		人	0.49	0.65
普 通 作 業 員		〃	0.40	0.56	普 通 作 業 員		〃	0.40	0.56
バ ッ ク ホ ウ （クローラ型）運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日	0.96	1.12	バ ッ ク ホ ウ （クローラ型）運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日	0.96	1.12
(注) 1. 本歩掛には、残土の積込み、運搬、並びに法面保護は含まない。 2. 片切掘削（人力併用機械掘削）の領域については、全面積に適用する。 3. 一度法面整形を完成した後、局部的に浸食・崩壊を生じた場合、保護工を施工する前に行う整形作業（二次整形）を必要とする場合は、人力施工とする。 4. バックホウ（法面バケット付）賃料は、バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。					(注) 1. 本歩掛には、残土の積込み、運搬、並びに法面保護は含まない。 2. 片切掘削（人力併用機械掘削）の領域については、全面積に適用する。 3. 一度法面整形を完成した後、局部的に浸食・崩壊を生じた場合、保護工を施工する前に行う整形作業（二次整形）を必要とする場合は、人力施工とする。 4. バックホウ（法面バケット付）賃料は、バックホウ（クローラ型）賃料と同額とする。				
2. 単 価 表					2. 単 価 表				
(1) オープンカット（バックホウ掘削）100m ³ 当り単価表					(1) オープンカット（バックホウ掘削）100m ³ 当り単価表				
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	名 称	規 格	単位	数量	摘 要
バ ッ ク ホ ウ （クローラ型）運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積 0.45m3(平積 0.35m3)	日	100/D	表 1.2	バ ッ ク ホ ウ （クローラ型）運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3 次基準値) 山積 0.45m3(平積 0.35m3)	日	100/D	表 1.2
諸 雑 費		式	1	(まるめ)	諸 雑 費		式	1	(まるめ)
計					計				
(注) D：日当り施工量					(注) D：日当り施工量				
(2) 片切掘削（人力併用機械掘削） 100m ³ 当り単価表					(2) 片切掘削（人力併用機械掘削） 100m ³ 当り単価表				
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	名 称	規 格	単位	数量	摘 要
普 通 作 業 員		人		表1.4	普 通 作 業 員		人		表1.4
バ ッ ク ホ ウ （クローラ型）運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第 3 次基準値)山 積 0.45m3(平積 0.35m3)	日	100/D	表1.3	バ ッ ク ホ ウ （クローラ型）運 転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第 3 次基準値)山積 0.45m3(平積 0.35m3)	日	100/D	表1.3
諸 雑 費		式	1	(まるめ)	諸 雑 費		式	1	(ま る め)
計					計				
(注) D：日当り施工量					(注) D：日当り施工量				
(3) 削取り又は築立（土羽）及び切土整形 100m ³ 当り単価表					(3) 削取り又は築立（土羽）及び切土整形 100m ³ 当り単価表				
名 称	規 格	単位	数量	摘 要	名 称	規 格	単位	数量	摘 要
土 木 一 般 世 話 役		人		表1.6, 表1.7, 表1.8	土 木 一 般 世 話 役		人		表1.6, 表1.7, 表1.8
普 通 作 業 員		〃		〃					

バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日		表1.5 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) D：日当り施工量

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型) (オープンカット)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	機－33	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→ 48 機械損料数量→1.33
バックホウ (クローラ型) (片切掘削)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)山 積0.45m3(平積0.35m3)	機－33	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→ 48 機械損料数量→1.33
バックホウ (クローラ型) (法面整形)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)山 積0.45m3(平積0.35m3)	機－33	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→ 48 機械損料数量→1.33

普 通 作 業 員		〃		〃
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	日		表1.5 機械損料
諸 雑 費		式	1	
計				

(注) D：日当り施工量

(3) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単	指定事項
バックホウ (クローラ型) (オープンカット)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.45m3(平積0.35m3)	機－33	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→ 4448 機械損料数量→1.33
バックホウ (クローラ型) (片切掘削)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)山積 0.45m3(平積0.35m3)	機－33	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→ 4448 機械損料数量→1.33
バックホウ (クローラ型) (法面整形)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第3次基準値)山積 0.45m3(平積0.35m3)	機－33	運転労務数量→1.00 燃 料 消 費 量→ 4448 機械損料数量→1.33

5－2 小規模土工（ICT）

[参考]

1. 各作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表1.1 機種の設定

作業の種類	作業の内容	機 械 名	機械経費	規 格	摘 要
掘 削	標 準	バックホウ (クローラ型)	損料にて 計上	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m ³ (平積0.2m ³)	
	上 記 以 外	小型バックホウ (クローラ型)	損料にて 計上	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.13m ³ (平積0.1m ³)	

(注) 作業の内容における上記以外とは、構造物及び建造物等の障害物により施工条件が制限されるような狭隘な箇所及び1箇所当りの施工土量が50m³以下の箇所とする。

2. 掘削積込作業及び積込作業

2－1 日当り施工量

バックホウによる掘削積込及び積込作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表2.1 日当り施工量

(1日当り)

作業の内容	名 称	規 格	単 位	地 山 の 掘 削 積 込	ル ー ズ な 状 態 の 積 込 み
-------	-----	-----	-----	------------------	------------------------

標準	バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.28m³(平積0.2m³)	m³	40	45
	上記以外	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積 0.13m³(平積0.1m³)	//	16	23

3. 単 価 表

(1) バックホウ掘削積込10m³当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
バックホウ (クローラ型) 運転	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m³(平積0.2m³)又は 山積0.13m³(平積0.1m³)	日	10/D	表2.1 機械損料
諸雑費		単式	1	
計				

(注) D：日当り施工量

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価表	指 定 事 項
バックホウ (クローラ型)	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.28m³(平積0.2m³)	機—33	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 37 機械損料数量→ 1.59
//	標準型・排出ガス対策型(第2次基準値) 山積0.13m³(平積0.1m³)	機—33	運転労務数量→ 1.00 燃料消費量→ 23 機械損料数量→ 1.33

R 6 室長通知 別紙ー 2 4 I C T活用工事（砂防土工）積算要領	R 7 室長通知 別紙ー ~~2~~ <u>4</u> I C T活用工事（砂防土工）積算要領																
別紙ー 2 4	別紙ー ~~2~~ <u>4</u>																
I C T活用工事（砂防土工）積算要領	I C T活用工事（砂防土工）積算要領																
1．適用範囲 本資料は、I C Tによる砂防土工（以下、砂防土工（I C T））に適用する。 I C T建設機械による施工の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 ・掘削（砂防）（I C T） なお、現場条件によって「2－1 機械経費」に示す ICT 建設機械の規格よりも小さい ICT 建設機械を用いる場合は、施工パッケージ型積算基準によらず、見積りを活用し積算することとする。	1．適用範囲 本資料は、I C Tによる砂防土工（以下、砂防土工（I C T））に適用する。 I C T建設機械による施工の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 ・掘削（砂防）（I C T） なお、現場条件によって「2－1 機械経費」に示す I C T建設機械の規格よりも小さい I C T建設機械を用いる場合は、施工パッケージ型積算基準によらず、見積りを活用し積算することとする。																
2．機械経費 2－1 機械経費 砂防土工（I C T）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、土木工事標準積算基準書の「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 ①掘削（砂防）（ICT）	2．機械経費 2－1 機械経費 砂防土工（I C T）の積算で使用する I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、土木工事標準積算基準書の ~~第 1 編 総則~~ 「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 ① 掘削（砂防）（I C T）																
<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>バックホウ （クローラ型）</td><td>標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8m3(平積 0. 6m3) 吊能力 2. 9t</td><td>賃料にて計上</td><td>ICT 建設機械経費加算額は別途計上</td></tr></table> ※2－1 機械経費のうち、賃料にて計上する I C T施工対応型の機械経費には、地上の基準局・管理局以外の賃貸費用が含まれている。	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ （クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8m3(平積 0. 6m3) 吊能力 2. 9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上	<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>バックホウ （クローラ型）</td><td>標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8 m³(平積 0. 6 m³) 吊能力 2. 9t</td><td>賃料にて計上</td><td>I C T建設機械経費加算額は別途計上</td></tr></table> ※2－1 機械経費のうち、賃料にて計上する I C T施工対応型の機械経費には、地上の基準局・管理局以外の賃貸費用が含まれている。	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ （クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8 m³(平積 0. 6 m³) 吊能力 2. 9t	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考														
バックホウ （クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8m3(平積 0. 6m3) 吊能力 2. 9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上														
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考														
バックホウ （クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014 年規制)山積 0. 8 m³(平積 0. 6 m³) 吊能力 2. 9t	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上														
2－2 ICT 建設機械経費加算額 ICT 建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費のうち賃料にて計上する ICT 建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1）掘削（砂防）（ICT） 対象建設機械：バックホウ（I C T施工対応型） 賃料加算額：13, 000円／日	2－2 I C T建設機械経費加算額 I C T建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費のうち賃料にて計上する I C T建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1）掘削（砂防）（I C T） 対象建設機械：バックホウ（I C T施工対応型） 賃料加算額：13, 000 円／日																
2－3 その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 2－3－1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 （1）掘削（砂防）（ICT）	2－3 その他 I C T建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 ~~2－3－1 保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~（1）掘削（砂防）（ICT）~~																

保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m3/日)}}$ (注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」のICT標準作業量による。 (注) 施工数量は、ICT施工の数量とする。 2-3-2 システム初期費 I C T施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 (1) 掘削（砂防）(ICT) 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め	~~保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m3/日)}}$~~ ~~(注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」のICT標準作業量による。~~ ~~(注) 施工数量は、ICT施工の数量とする。~~ ~~2-3-2 システム初期費~~ ~~I C T施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。~~ ~~(1) 掘削（砂防）(ICT)~~ ~~対象建設機械：バックホウ~~ ~~費用：598,000 円／式~~ 2-3-~~2~~<u>1</u> システム初期費 <u>I C T建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、I C T建設機械精度確認等、I C T建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を計上する。</u> (1) 掘削（砂防）（I C T） 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 <u>※1工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でI C T建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。</u> 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成(<u>修正含む</u>)を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 <u>費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。</u> <u>なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。</u> 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) <u>出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1点/㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、3次元データ納品を行った場合の費用の計上方法については、受注者より提出された見積りにより費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。</u> <u>なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。</u> <u>また、受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。</u>
---	--

上記費用の対象となる出来形管理は、以下の１）～５）又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測とし、ＩＣＴ活用工事（土工）実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 ２）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ５）上記１）～４）に類似する、その他の３次元計測技術を用いた出来形管理 （２）費用計上にあたっての留意事項 １）３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が（１）で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 ２）受注者から見積りの提出がない場合は、３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。 ５．発注者指定型における積算方法 掘削（砂防）（ICT）は、ICT 建設機械による施工歩掛（以下、「掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]」という。）と通常建設機械による施工歩掛（以下、「掘削（砂防）（通常）」という。）を用いて積算するものとする。 ５－１ 掘削（砂防）（ICT）における積算 当初積算時に計上する施工数量は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の 50%を ICT 施工（掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）により設計書に計上するものとする。 また、ICT 建設機械を活用し、ICT 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。 ５－１－１ 当初積算 （１）施工数量の算出 全施工数量に 5 0 % を乗じた値を ICT 施工（掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）を引いた値を通常施工（掘削（砂防）（通常））の施工数量とする。	・ 共通仮設費率補正係数 ： 1.2 ・ 現場管理費率補正係数 ： 1.1 ~~※小数点第 3 位四捨五入 2 位止め~~ 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の１）～~~５）~~又は完成検査直前の工事竣工段階の地形に~~ついて面管理による出来形計測とし、ＩＣＴ活用工事（土工）実施要領に示すその他の 4）とし、それ以外の~~出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 ２）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ~~５）上記 1）～ 4）に類似する、その他の 3 次元計測技術を用いた出来形管理~~ （２）費用計上にあたっての留意事項 <u>１）「３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上しない。</u> <u>２）受注者からの見積又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。</u> <u>①補正係数に乗じて算出される金額を計上する場合</u> <u>・ 補正係数に乗じて算出される金額<受注者からの見積による金額</u> <u>②受注者からの見積による金額を計上する場合</u> <u>・ 補正係数に乗じて算出される金額>受注者からの見積による金額</u> ５． 施工箇所が点在する Ｉ Ｃ Ｔ活用工事の積算について 施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第 1 編第 2 章 工事費の積算」及び「第 I 編第 11 章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。 ~~6-5. 発注者指定型における積算方法~~ 全土工数量において、Ｉ Ｃ Ｔ建設機械による施工を原則としているが、現場条件により、Ｉ Ｃ Ｔ建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してもよい。その場合は、以下「掘削（砂防）（Ｉ Ｃ Ｔ）における積算」より変更積算するものとする。 なお、当初積算は全土工数量を Ｉ Ｃ Ｔ建設機械による施工を原則とする。 6－１ 掘削（砂防）（Ｉ Ｃ Ｔ）における積算 掘削（砂防）（Ｉ Ｃ Ｔ）は、Ｉ Ｃ Ｔ建設機械による施工歩掛（以下、「掘削（砂防）（Ｉ Ｃ Ｔ）[Ｉ Ｃ Ｔ建設機械使用割合 100%]」という。）と通常建設機械による施工歩掛（以下、「掘削（砂防）（通常）」という。）を用いて積算するものとする。 【変更積算】 現場での Ｉ Ｃ Ｔ施工の実績により、変更するものとする。 （１）砂防土工（Ｉ Ｃ Ｔ）にかかる Ｉ Ｃ Ｔ建設機械稼働率の算出 Ｉ Ｃ Ｔ建設機械による施工日数（使用台数）を Ｉ Ｃ Ｔ施工に要した全施工日数（Ｉ Ｃ Ｔ建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値を Ｉ Ｃ Ｔ建設機械稼働率とする。 なお、Ｉ Ｃ Ｔ建設機械稼働率は、小数点第 3 位を切り捨て小数点第 2 位止とする。 （２）変更施工数量の算出
---	---

なお、計上割合を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は「土木工事標準積算基準書 共通編 第5章 数値基準等」によるものとする。 5－1－2 変更積算 現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。 （1）砂防土工（ICT）にかかる ICT 建設機械稼働率の算出 ICT 建設機械による施工日数（使用台数）を ICT 施工に要した全施工日数（ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。 なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第3位を切り捨て小数点第2位止とする。 （2）変更施工数量の算出 砂防土工（ICT）の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）を引いた値を通常施工（掘削（砂防）（通常））の施工数量とする。 ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。 なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の50％を ICT 施工（掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）により変更設計書に計上するものとする。 5－2 特記仕様書への条件明示【参考】 特記仕様書に追記する記載例は、以下とおりとする。 なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について ○. 掘削工の ICT 建設機械による施工は、当面の間、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。 受注者は、ICT 施工に要した建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。 なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の50％を「掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]」の施工数量として変更するものとする。 6. 施工者希望型における変更積算方法 受注者からの提案・協議により ICT 施工を実施した場合は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。 掘削（砂防）（ICT）の変更積算は、ICT 建設機械による施工歩掛（以下、「掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]」という。）と通常建設機械による施工歩掛（以下、「掘削（砂防）（通常）」という。）を用いて積算するものとする。 6－1 変更積算 現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。 ①砂防土工（ICT）にかかる ICT 建設機械稼働率の算出 ICT 建設機械による施工日数（使用台数）を ICT 施工に要した全施工日数（ICT 建設機械と通常	砂防土工（ICT）の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）を引いた値を通常施工（掘削（砂防）（通常））の施工数量とする。 ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。 なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の50％を ICT 施工（掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]）により変更設計書に計上するものとする。 6－2 特記仕様書への条件明示【参考】 特記仕様書に追記する記載例は、以下とおりとする。 なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について ○. 掘削工の ICT 建設機械による施工については、全土工数量分見込んでいるが、現場条件により、従来型建設機械による施工を実施した場合は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。 受注者は、ICT 施工に要した建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。 なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の50％を「掘削（砂防）（ICT）[ICT 建設機械使用割合 100%]」の施工数量として変更するものとする。
---	--

建設機械の延べ使用台数) で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。 なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第 3 位を切り捨て小数点第 2 位止とする。 ②変更施工数量の算出 砂防土工 (I C T) の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工 (掘削 (砂防) (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]) の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工 (掘削 (砂防) (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]) を引いた値を通常施工 (掘削 (砂防) (通常)) の施工数量とする。 ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。 なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の 5 0 % を ICT 施工 (掘削 (砂防) (ICT) [ICT 建設機械使用割合 100%]) により変更設計書に計上するものとする。 6－2 特記仕様書への条件明示【参考】 特記仕様書に追記する記載例は、以下とおりとする。 なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。 第〇〇条 I C T活用工事の費用について ○. 掘削工の ICT 建設機械による施工は、当面の間、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械 (ICT 建設機械、通常建設機械) の稼働実績を用いて算出するものとする。 受注者は、ICT 施工に要した建設機械 (ICT 建設機械、通常建設機械) の稼働実績 (延べ使用台数) が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。 なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の 5 0 % を「掘削 (砂防) (ICT) [ICT 建設機械機使用割合 100%]」の施工数量として変更するものとする。	
---	--

R 6 室長通知 別紙―2 5 I C T活用工事（河床等掘削）積算要領	R 7 室長通知 別紙― ~~2~~ <u>5</u> I C T活用工事（河床等掘削）積算要領																
別紙―2 5	別紙― ~~2~~ <u>5</u>																
I C T活用工事（河床等掘削）積算要領	I C T活用工事（河床等掘削）積算要領																
1．適用範囲 本資料は、河川工事における以下の機械土工を、バックホウ（I C T施工対応型）により施工する場合に適用する。 I C T建設機械による施工の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 ・機械土工（河床等掘削）（I C T） なお、現場条件によって「2－1 機械経費」に示す ICT 建設機械の規格よりも小さい ICT 建設機械を用いる場合は、施工パッケージ型積算基準によらず、見積りを活用し積算することとする。	1．適用範囲 本資料は、河川工事における以下の機械土工を、バックホウ（I C T施工対応型）により施工する場合に適用する。 I C T建設機械による施工の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 ・機械土工（河床等掘削）（I C T） なお、現場条件によって「2－1 機械経費」に示す I C T建設機械の規格よりも小さい I C T建設機械を用いる場合は、施工パッケージ型積算基準によらず、見積りを活用し積算することとする。																
2．機械経費 2－1 機械経費 河床等掘削（I C T）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、賃料については、土木工事標準積算基準書の「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 河床等掘削（I C T）	2．機械経費 2－1 機械経費 河床等掘削（I C T）の積算で使用する I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、賃料については、土木工事標準積算基準書の ~~の~~ <u>第1編 総則</u> 「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 河床等掘削（I C T）																
<table><tr><th>ICT 建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>バックホウ (クローラ型)</td><td>標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2011 年規制)山積 0.8m3(平積 0.6m3)</td><td>賃料にて計上</td><td>ICT 建設機械経費加算額を加算</td></tr></table>	ICT 建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ (クローラ型)	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2011 年規制)山積 0.8m3(平積 0.6m3)	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額を加算	<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>バックホウ (クローラ型)</td><td>標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(~~2014~~ 年規制)山積 0.8 m³(平積 0.6 m³)</td><td>賃料にて計上</td><td>I C T建設機械経費加算額~~を加算~~<u>は別途計上</u></td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ (クローラ型)	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(~~2014~~ 年規制)山積 0.8 m³(平積 0.6 m³)	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額 ~~を加算~~ <u>は別途計上</u>
ICT 建設機械名	規格	機械経費	備考														
バックホウ (クローラ型)	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2011 年規制)山積 0.8m3(平積 0.6m3)	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額を加算														
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考														
バックホウ (クローラ型)	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(~~2014~~ 年規制)山積 0.8 m³(平積 0.6 m³)	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額 ~~を加算~~ <u>は別途計上</u>														
※2－1 機械経費に示す、賃料にて計上する、I C T施工対応型の機械経費には、地上の基準局・管理局以外の賃貸費用が含まれている。	※2－1 機械経費に示す、賃料にて計上する、I C T施工対応型の機械経費には、地上の基準局・管理局以外の賃貸費用が含まれている。																
2－2 ICT 建設機械経費加算額 ICT建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費で示すICT建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 (1) 河床等掘削（I C T） 対象建設機械：バックホウ（I C T施工対応型） 賃料加算額：13,000円／日	2－2 I C T建設機械経費加算額 I C T建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費 ~~を~~ <u>示すのうち賃料にて計上する</u> I C T建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 (1) 河床等掘削（I C T） 対象建設機械：バックホウ（I C T施工対応型） 賃料加算額：13,000 円／日																
2－3 その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 2－3－1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 河床等掘削（I C T）	2－3 その他 I C T建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 ~~2－3－1 保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~河床等掘削（I C T）~~																

保守点検費＝土木一般世話役(円)×0.05(人/日)× 施工数量(m3) 作業日当り標準作業量(m3/日) (注)作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」の標準作業量(機械土工(河床等掘削)(ICT))による。 (注)施工数量は、ICT施工の数量とする。 2-3-2 システム初期費 ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 河床等掘削 (ICT) 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 ・共通仮設費率補正係数：1.2 ・現場管理費率補正係数：1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)及び2)とし、ICT活用工事(土工)実施要領に示されたICT建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理及びその他の3次元計測技術(「1)に類似する」技術以外)を用いた出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1)音響測深機器を用いた出来形管理 2)上記1)に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理	<del>保守点検費＝土木一般世話役(円)×0.05(人/日)× 施工数量(m3) 作業日当り標準作業量(m3/日) </del> ~~(注)作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」の標準作業量(機械土工(河床等掘削)(ICT))による。~~ ~~(注)施工数量は、ICT施工の数量とする。~~ 2-3-~~2~~<u>1</u> システム初期費 <u>ICT建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT建設機械精度確認等、ICT建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を計上する。</u> <u>(1)河床等掘削(~~ICT~~)掘削 (ICT)、法面整形 (ICT)</u> 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 <u>※1工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でICT建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。</u> 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成~~(修正含む)~~<u>(修正含む)</u>を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 <u>費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。</u> <u>なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。</u> 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) <u>出来形管理の計測範囲において、1m間隔以下(1点/㎡以上)の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法(面管理)を実施し、3次元データ納品を行った場合の費用の計上方法については、受注者より提出された見積りにより費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。</u> <u>なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。</u> <u>また、受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。</u> ・共通仮設費率補正係数：1.2 ・現場管理費率補正係数：1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)~~及び2)~~とし、ICT活用工事(土工)実施要領に示されたICT建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理~~及びその他の3次元計測技術(「1)に類似する」技術以外)~~<u>及びその他の3次元計測技術(「1)に類似する」技術以外)</u>を用いた出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるた
---	---

(2) 費用計上にあたっての留意事項 1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。 5. 発注者指定型における積算方法 河床等掘削(ICT)は、ICT建設機械による施工歩掛(以下、「河床等掘削(ICT)[ICT建設機械使用割合100%]」という。)と通常建設機械による施工歩掛(以下、「掘削(通常)」という。)を用いて積算するものとする。 5-1 河床等掘削(ICT)の施工数量50,000m3未満における積算 当初積算時に計上する施工数量は、官積算工程において必要な施工日数から計上割合を設定し、その計上割合により施工数量を計上するものとする。 変更積算は、ICT施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量はICT建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。 なお、変更に伴い施工数量が50,000m3以上となるものについても施工数量に応じて変更を行うものとする。 また、ICT建設機械を活用し、ICT建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。 5-1-1 当初積算 (1) 河床等掘削(ICT)にかかる施工日数の算出 施工数量(m3)を作業日当り標準作業量(m3/日)で除した値を施工日数とする。 なお、施工日数は、小数点第1位を切り上げた整数とする。 (2) 計上割合の設定 (1)で求めた施工日数から表-1により、計上割合を設定する。	め、別途計上は行わない。 1) 音響測深機器を用いた出来形管理 ~~2) 上記1)に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ (2) 費用計上にあたっての留意事項 <u>1)「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上しない。</u> <u>2) 受注者からの見積又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。</u> <u>①補正係数を乗じて算出される金額を計上する場合</u> <u>・補正係数を乗じて算出される金額<受注者からの見積による金額</u> <u>②受注者からの見積による金額を計上する場合</u> <u>・補正係数を乗じて算出される金額>受注者からの見積による金額</u> 5. 施工箇所が点在するICT活用工事の積算について 施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。 ~~6-5.~~ 発注者指定型における積算方法 <u>全土工数量において、ICT建設機械による施工を原則としているが、現場条件により、ICT建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してもよい。その場合は、以下「掘削(ICT)における積算」より変更積算するものとする。</u> <u>なお、当初積算は全土工数量をICT建設機械による施工を原則とする。</u> 6-1 河床等掘削(ICT)における積算 河床等掘削(ICT)は、ICT建設機械による施工歩掛(以下、「河床等掘削(ICT)[ICT建設機械使用割合100%]」という。)と通常建設機械による施工歩掛(以下、「掘削(通常)」という。)を用いて積算するものとする。 6-1-1 河床等掘削(ICT)の施工数量50,000m3未満における積算 変更積算は、ICT施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量はICT建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。 なお、変更に伴い施工数量が50,000m3以上となるものについても施工数量に応じて変更を行うものとする。 また、ICT建設機械を活用し、ICT建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。 【変更積算】 現場でのICT施工の実績により、変更するものとする。 (1) 河床等掘削(ICT)にかかるICT建設機械稼働率の算出 ICT建設機械による施工日数(使用台数)をICT施工に要した全施工日数(ICT建設機械と通常建設機械の延べ使用台数)で除した値をICT建設機械稼働率とする。 なお、ICT建設機械稼働率は、小数点第3位を切り捨て小数点第2位止とする。 (2) 変更施工数量の算出
--	---

表－１　施工数量50,000m3未満における河床等掘削(ICT)の計上割合

施工日数	割合
２０日未満	100%
２０日以上６０日未満	50%
６０日以上	25%

（３）施工数量の算出

河床等掘削（ICT）の全施工数量に計上割合を乗じた値を ICT 施工（河床等掘削（ICT））〔ICT 建設機械使用割合 100%〕の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

なお、計上割合を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は「土木工事標準積算基準書（共通編）」第５章　数値基準等によるものとする。

５－１－２　変更積算

現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。

（１）河床等掘削（ICT）にかかる ICT 建設機械稼働率の算出

ICT 建設機械による施工日数（使用台数）を ICT 施工に要した全施工日数（ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。

なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第３位を切り捨て小数点第２位止とする。

（２）変更施工数量の算出

河床等掘削（ICT）の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の２５％を ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）により変更設計書に計上するものとする。

５－２　特記仕様書への条件明示【参考】

特記仕様書に追記する記載例は、以下とおりとする。

なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。

第〇〇条　ICT活用工事の費用について
○．河床等掘削工の ICT 建設機械による施工は、当面の間、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。
受注者は、ICT 施工に要した建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。
なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の２５％を「河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕」の施工数量として変更するものとする。

河床等掘削（ICT）の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の２５％を ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）により変更設計書に計上するものとする。

６－１－２　河床等掘削（ICT）の施工数量 50,000m3 以上における積算

変更積算は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。

なお、変更に伴い施工数量が 50,000m3 未満となるものについても、施工数量に応じて変更するものとする。

また、ICT 建設機械を活用し、ICT 建設機械の施工土量が把握できる場合は、この値を活用し変更するものとする。

【変更積算】

現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。

（１）河床等掘削（ICT）にかかる ICT 建設機械稼働率の算出

ICT 建設機械による施工日数（使用台数）を ICT 施工に要した全施工日数（ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。

なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第３位を切り捨て小数点第２位止とする。

（２）変更施工数量の算出

河床等掘削（ICT）の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の２５％を ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）により変更設計書に計上するものとする。

６－２　特記仕様書への条件明示【参考】

特記仕様書に追記する記載例は、以下とおりとする。

なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。

第〇〇条　ICT活用工事の費用について
○．河床等掘削工の ICT 建設機械による施工については、全土工数量分見込んでいるが、現場条件により、従来型建設機械による施工を実施した場合は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。

6．施工者希望型における変更積算方法

受注者からの提案・協議により ICT 施工を実施した場合は、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は ICT 建設機械の稼働率を用いて算出するものとする。

河床等掘削（ICT）の変更積算は、ICT 建設機械による施工歩掛（以下、「河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕」という。）と通常建設機械による施工歩掛（以下、「掘削（通常）」という。）を用いて積算するものとする。

7－1 変更積算

現場での ICT 施工の実績により、変更するものとする。

①ICT 土工にかかる ICT 建設機械稼働率の算出

ICT 建設機械による施工日数（使用台数）を ICT 施工に要した全施工日数（ICT 建設機械と通常建設機械の延べ使用台数）で除した値を ICT 建設機械稼働率とする。

なお、ICT 建設機械稼働率は、小数点第 3 位を切り捨て小数点第 2 位止とする。

②変更施工数量の算出

ICT 土工の全施工数量に ICT 建設機械稼働率を乗じた値を ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）の施工数量とし、全施工数量から ICT 施工（掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）を引いた値を通常施工（掘削（通常））の施工数量とする。

ICT 建設機械稼働率を乗じた値は四捨五入した数値とし、数位は当初積算に準ずるものとする。

なお、ICT 施工は実施しているが、ICT 建設機械稼働率を算出するための根拠資料が確認できない場合は、従来の ICT 建設機械使用割合相当とし、全施工数量の 2 5 %を ICT 施工（河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕）により変更設計書に計上するものとする。

7－2 特記仕様書への条件明示【参考】

特記仕様書に追記する記載例は、以下とおりとする。

なお、記載例に無いものについては、別途作成するものとする。

第〇〇条 ICT活用工事の費用について

○．河床等掘削工の ICT 建設機械による施工は、当面の間、ICT 施工現場での施工数量に応じて変更を行うものとし、施工数量は建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績を用いて算出するものとする。

受注者は、ICT 施工に要した建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。

なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の 2 5 %を「河床等掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕」の施工数量として変更するものとする。

受注者は、ICT 施工に要した建設機械（ICT 建設機械、通常建設機械）の稼働実績（延べ使用台数）が確認できる資料を監督職員へ提出するものとする。

なお、稼働実績が確認できる資料の提出が無い等、稼働実績が適正と認められない場合においては、全施工数量の 2 5 %を「掘削（ICT）〔ICT 建設機械使用割合 100%〕」の施工数量として変更するものとする。

R 6 室長通知 別紙―3 I C T活用工事（作業土工（床掘））実施要領	R 7 室長通知 別紙― ~~3~~ <u>6</u> I C T活用工事（作業土工（床掘工））実施要領
別紙―3	別紙― ~~3~~ <u>6</u>
I C T活用工事 （作業土工(床掘)）実施要領	I C T活用工事（作業土工（床掘 <u>工</u> ））実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1－1 概要	1－1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセス全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1－2 I C T活用工事における作業土工（床掘）	1－2 I C T活用工事における作業土工（ <u>床掘工</u> ）
次の①②③⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（作業土工（床掘））とする。また、「I C T作業土工（床掘）」という略称を用いることがある。	次の①(<u>選択</u>)②③⑤の <u>全て</u> の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（作業土工（床掘 <u>工</u> ））とする。また「I C T作業土工（床掘 <u>工</u> ）」という略称を用いる <u>ことがある</u> 。
① 3次元起工測量	① ~~3次元起工測量~~ （ <u>選択</u> ）
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ I C T建設機械による施工	③ I C T建設機械による施工
④ 該当無し	④ 該当なし
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1－3 I C T施工技術の具体的内容	1－3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表－1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、以下の①～⑤によるものと <u>し、関連要領等については、最新のものを適用するものとする</u> 。 <u>関連要領等：https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html</u>
① 3次元起工測量	① ~~3次元起工測量~~ （ <u>選択</u> ）
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記1）～8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。	起工測量において、 <u>従来手法による起工測量を原則とするが、I C T土工等で取得した3次元起工測量データがある場合は、積極的に活用する</u> 。
但し、I C T土工等の起工測量データ等を活用することができる。	<u>また、3次元測量データを取得するため、下記以下1）～~~8~~<u>7</u>）から選択（複数<u>以上選択</u>可）して起工測量を<u>実施してもよいものとする</u>。</u>
1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
5）T S 等光波方式を用いた起工測量	5）T S 等光波方式を用いた起工測量
6）T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量	6）T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量
7）R T K－G N S Sを用いた起工測量	7）R T K－G N S Sを用いた起工測量
8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量	~~8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
1－3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、作業土工(床掘)を行うための3次元設計データを作成する。	1－3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、 ~~作業土工(床掘)~~ <u>を行うI C T建設機械による施工を行う</u> ため、3次元設計データを作成する。

③ I C T建設機械による施工 1－3②で作成した3次元設計データを用い、下記1）に示すI C T建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。 1）3次元MCまたは3次元MG建設機械 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 作業土工（床掘）においては該当無し ⑤ 3次元データの納品 作業土工（床掘）においては該当無し 1－3②による3次元設計データを、工事完成図書として電子納品する。	③ I C T建設機械による施工 1－3②で作成した3次元設計データを用い、<u>平記以下</u>1）に示すI C T建設機械~~を作業に応じて選択して~~により施工を実施する。<u>位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。</u> なお、<u>位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和5年3月31日 国土交通省告示第250号）付録1測量機器検定基準2－6の性能における検定基準を満たすこと。</u> 1）3次元MCまたは3次元MG建設機械※ <u>※MC：「マシンコントロール」 MG：「マシンガイダンス」の略称</u> <u>建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川・海岸・道路土工の掘削等を実施する。</u> ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ~~作業土工（床掘）においては該当無し~~ <u>基本的に作業土工であるため該当なし</u> ⑤ 3次元データの納品 ~~作業土工（床掘）においては該当無し~~ 1－3②に<u>より作成した</u>3次元設計データを工事完成図書として電子納品する。 <u>ただし、1－3①において、3次元起工測量を実施した場合は、取得した3次元測量データも3次元データ納品の対象とする。</u>
--	---

《表－1　I C T活用工事と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査	備考
				新設	修繕	施工管理	
3次元起工測量 ／3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	測量	－	○	○	①、②、③、④	土工
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量	測量	－	○	○	①、⑤	土工
	TS等光波方式を用いた起工測量	測量	－	○	○	①	土工
	TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量	測量	－	○	○	①	土工
	R T K-G N S Sを用いた起工測量	測量	－	○	○	①	土工
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	測量	－	○	○	①、②、③	土工
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	測量	－	○	○	①	土工
ICT建設機械 による施工	3次元マシンコントロール技術 3次元マシンガイダンス技術	床掘	ICT 建設機械	○	○	－	

【凡例】○：適用可能　－：適用外

《表－1　I C T活用工事と適用工種》

削 除

《表－１． ＩＣＴ活用工事と適用工種（その２）》

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編
	②	空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	③	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	④	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑤	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑦	TS(ノンプリ)を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑧	RTK-GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑨	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	⑩	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)河川浚渫工編
	⑪	音響測深機器を用いた出来形の監督・検査要領(河川浚渫編)(案)
	⑫	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(河川浚渫編)(案)
	⑬	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工編
	⑭	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)
	⑮	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)護岸工編
	⑯	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(護岸工事編)(案)
	⑰	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)表層安定処理等・固結工(中層混合処理)編
	⑱	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(案)
	⑲	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)固結工(スラリー攪拌工)編
	⑳	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(固結工(スラリー攪拌工)編)(案)
	㉑	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)法面工編
	㉒	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領(案)
	㉓	TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領
	㉔	TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理の監督・検査要領
	㉕	地上写真測量を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
	㉖	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	㉗	公共測量におけるUAVの使用に関する安全基準－国土地理院
	㉘	UAVを用いた公共測量マニュアル(案)－国土地理院
	㉙	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル(案)－国土地理院
	㉚	モバイル端末を用いた3次元計測技術(多点計測技術)

1－4 ＩＣＴ活用工事の対象工事

ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）はＩＣＴ活用工事（土工）とする。

~~《表－１． ＩＣＴ活用工事と適用工種（その２）》~~

削 除

1－4 ＩＣＴ活用工事の対象工事

ＩＣＴ活用工事の対象~~工事（発注工種）はＩＣＴ活用工事（土工）は、以下のとおりとする。~~

（１）対象工種

作業土工（床掘）を含む工種を対象とする。

（２）対象規模

ＩＣＴ活用工事の対象規模は、以下の作業土工（床掘工）を含む工事とする。

- ・平均施工幅 2 m以上の土砂の掘削等である床掘り
- ・平均施工幅 1 m以上 2 m未満の土砂の掘削等である床掘り
- ・平均施工幅 1 m未満の土砂の掘削等である床掘り

2. ICT活用工事の実施方法
ICT土工における関連施工種とするため、ICT作業土工（床掘）単独での発注は行わない。

2. ICT活用工事の実施方法
~~ICT土工における関連施工種とするため、ICT作業土工（床掘）単独での発注は行わない。~~
2-1 発注方式
ICT活用工事の発注は、以下によるものとするが、工事内容及びICT施工技術の活用が困難な場合及びICT施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など工事内容及び現場条件等を勘案し決定する。
（1）施工者希望Ⅱ型
本発注方式は、ICT活用工事（施工者希望Ⅱ型）とする。
※「そのほか」
ICT活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、ICT活用工事として事後設定できるものとし、ICT活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。

2-2 発注における入札公告等
入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。
なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。

（1）施工者希望Ⅱ型

【入札公告】記載例

（記載例）
【メモ：作業土工（床掘工）を含む一般土木工事、アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事、法面処理工事、または維持修繕工事の場合は、（番号）を追記】
『（番号） 工事概要』に以下を追記する。

（番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ICT施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する ICT活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。

【入札説明書】記載例

（記載例）
【メモ：作業土工（床掘工）を含む一般土木工事、アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事、法面処理工事、または維持修繕工事の場合は、（番号）工事の実施形態に以下を追記】
『（番号） 工事概要』に以下を記載

（番号）工事の実施形態

（番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ICT施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する ICT活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。

	<u>受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にＩＣＴ施工技術の活用を行うことができる。</u> <u>本工事おけるＩＣＴ施工技術の活用は、作業土工（床掘工）において、以下の①（選択）②③⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとし、詳細については、特記仕様書によるものとする。作業土工（床掘工）において、以下の①（選択）②③⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとし、詳細については、特記仕様書によるものとする。但し、現場条件により、ＩＣＴ建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員と協議の上、従来型建設機械による施工を実施してもＩＣＴ活用工事とする。</u> <u>①起工測量（選択）</u> <u>②３次元設計データ作成</u> <u>③ＩＣＴ建設機械による施工</u> <u>④該当なし</u> <u>⑤３次元データの納品</u> <u>・ＩＣＴ建設機械</u> <u>１）３次元MCまたは３次元MG建設機械</u> <u>なお、MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。</u> <u>『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載</u> <u>（番号）ＩＣＴ活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。</u> <u>但し、ＩＣＴ活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※</u> <u>※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。</u> <u>※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。</u> <u>【特記仕様書】記載例</u> <u>（記載例）</u> <u>第〇〇条　ＩＣＴ活用工事について</u> <u>１．　ＩＣＴ活用工事</u> <u>　　本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事である。</u> <u>２．　定義</u> <u>（１）i-Construction とは、ＩＣＴ施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を</u>
--	--

	<u>図る取り組みである。本工事では、受注者の希望により、その実現に向けてＩＣＴ施工技術を活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。</u> <u>（２）ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、ＩＣＴ施工技術を全面的に活用する工事である。また、本工事においては、次の①（選択）②③⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することをＩＣＴ活用工事とする。</u> <u>対象は、作業土工（床掘工）を含む工事とする。</u> <u>① 起工測量（選択）</u> <u>② ３次元設計データ作成</u> <u>③ ＩＣＴ建設機械による施工</u> <u>④ 該当なし</u> <u>⑤ ３次元データの納品</u> <u>３．受注者は、特記仕様書に指定された作業土工以外の工種に、ＩＣＴ施工技術の活用を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に以下４～６によりＩＣＴ施工技術の活用を行うことができる。</u> <u>４．ＩＣＴ施工技術を用い、土工について以下の施工を実施する。</u> <u>① 起工測量（選択）</u> <u>受注者は、起工測量にあたって、従来手法による起工測量またはＩＣＴを用いた起工測量を選択できるものとし、作業土工以外の工種で取得した３次元起工測量データがある場合は、積極的に活用するものとする。</u> <u>ＩＣＴを用いた起工測量としては、３次元測量データを取得するため、以下１）～７）から選択（複数選択可）して測量を行うことができるものとする。</u> <u>１）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量</u> <u>２）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量</u> <u>３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量</u> <u>４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量</u> <u>５）ＴＳ等光波方式を用いた起工測量</u> <u>６）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた起工測量</u> <u>７）ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた起工測量</u> <u>② ３次元設計データ作成</u> <u>受注者は、４．①で得られたデータと発注者が貸与する発注図データを用いて、ＩＣＴ建設機械による施工を行うため、３次元設計データを作成する。</u> <u>③ ＩＣＴ建設機械による施工</u> <u>４．②で作成した３次元設計データを用いて、作業に応じて以下に示すＩＣＴ建設機械を選択して施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。</u> <u>なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和５年３月３１日 国土交通省告示第２５０号）付録１測量機器検定基準２－６の性能における検定基準を満たすこと。</u> <u>１）３次元ＭＣまたは３次元ＭＧ建設機械※</u>	
--	---	--

	<u>※MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。</u> <u>建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する３次元マシンコントロール技術</u> <u>または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する３次元マシンガイダンス技術</u> <u>を用いて、河川・海岸・道路土工の掘削等を実施する。</u> <u>但し、現場条件により、③ＩＣＴ建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してよいものとし、丁張設置等には積極的に３次元設計データ等を活用するものとする。</u> <u>④ ３次元出来形管理等の施工管理</u> <u>作業土工であるため、該当しない。</u> <u>⑤ ３次元データの納品</u> <u>４．②により作成した３次元設計データを工事完成図書として電子納品する。</u> <u>ただし、１－３①において、３次元起工測量を実施した場合は、取得した３次元測量データも３次元データ納品の対象とする。</u> <u>５．上記４．①（選択）②③の施工を実施するために使用するＩＣＴ機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。</u> <u>発注者は、３次元設計データの作成に必要となる詳細設計において作成したＣＡＤデータを受注者に貸与する。また、ＩＣＴ施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。</u> <u>６．本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。</u> <u>第〇〇条 ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について</u> <u>１．図面</u> <u>図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。</u> <u>なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。</u> <u>第〇〇条 ＩＣＴ活用工事の費用について</u> <u>１．受注者が、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、作業土工（床掘工）及び作業土工（床掘工）以外の工種に関するＩＣＴ活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、監督職員へ協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ施工技術の活用を実施する項目については、各段階を設計</u>
--	---

4－2　3次元設計データ等の貸与 (1)　I C T活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 (2)　発注者は、詳細設計において、I C T活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 4－3　工事費の積算 (1)　施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりI C T活用施工を実施する場合、下記1）～2）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 なお、I C T活用について協議を行う際には、「1－2①～③」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 1）I C T活用工事（作業土工（床掘））積算要領 2）I C T活用工事（小規模土工）積算要領」（施工幅2 m未満の床掘の場合） また、現行基準による2次元の設計ストック等によりI C T活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－3 6「I C T活用工事の見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 4－4　I C T監督・検査体制の構築 I C T活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、I C T検査官等の任命や研修等でのI C T施工技術の習得を図るなど、I C T活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5　現場見学会・講習会の実施 I C T活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。	4－2　3次元設計データ等の貸与 ~~(1)　I C T活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ <del>(2)　</del>発注者は、<u>3次元設計データ作成に必要な</u>詳細設計において<u>作成したC A DデータをI C T活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、</u>受注者に貸与するほか、I C T<u>活用施工技術の活用</u>を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、<u>施工区間の前後を含め必要な範囲を</u>積極的に受注者に貸与するものとする。	4－3　工事費の積算 ~~(1)　施工者希望型における積算方法~~ 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりI C T<u>活用施工を実施技術を活用</u>する場合、~~別紙－4「I C T活用工事（作業土工（床掘））積算要領」、施工幅2 m未満の床掘については「別紙－6 I C T活用工事（小規模土工）積算要領」~~<u>I C T施工技術を活用する項目については、各段階を設計変更の対象とし、以下の積算要領</u>に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 ・I C T活用工事（作業土工（<u>床掘工</u>））積算要領 なお、I C T施工技術の活用について協議を行う際には、「1－2①～③」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 ~~また、現行基準による2次元の設計ストック等によりI C T活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－3 6「I C T活用工事の見積り書の依頼について」を参考にするものとする。~~ 4－4　I C T監督・検査体制の構築 I C T<u>活用施工技術の活用における</u>監督検査を適切に行うことを目的に、I C T検査官等の任命や研修等でのI C T施工技術の習得を図るなど、I C T<u>活用工事施工技術の活用</u>に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5　現場見学会・講習会の実施 I C T活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。
---	---	--

5. 地方整備局等における I C T活用工事に関する調査等

I C T活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

6. I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 調査票の回収について

I C T土工における関連施工種とするため、一体として実施。

5. 地方整備局等における I C T活用工事に関する調査等

I C T活用工事の活用発注見通し、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）

I C T活用工事として活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1－4、2－1で定める工事とする。

5－2 I C T活用工事の活用実績の報告（別途指示）

I C T活用工事の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示するものとする。

5－~~1~~3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する場合別途指示する。

6. I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 対象工事の選定

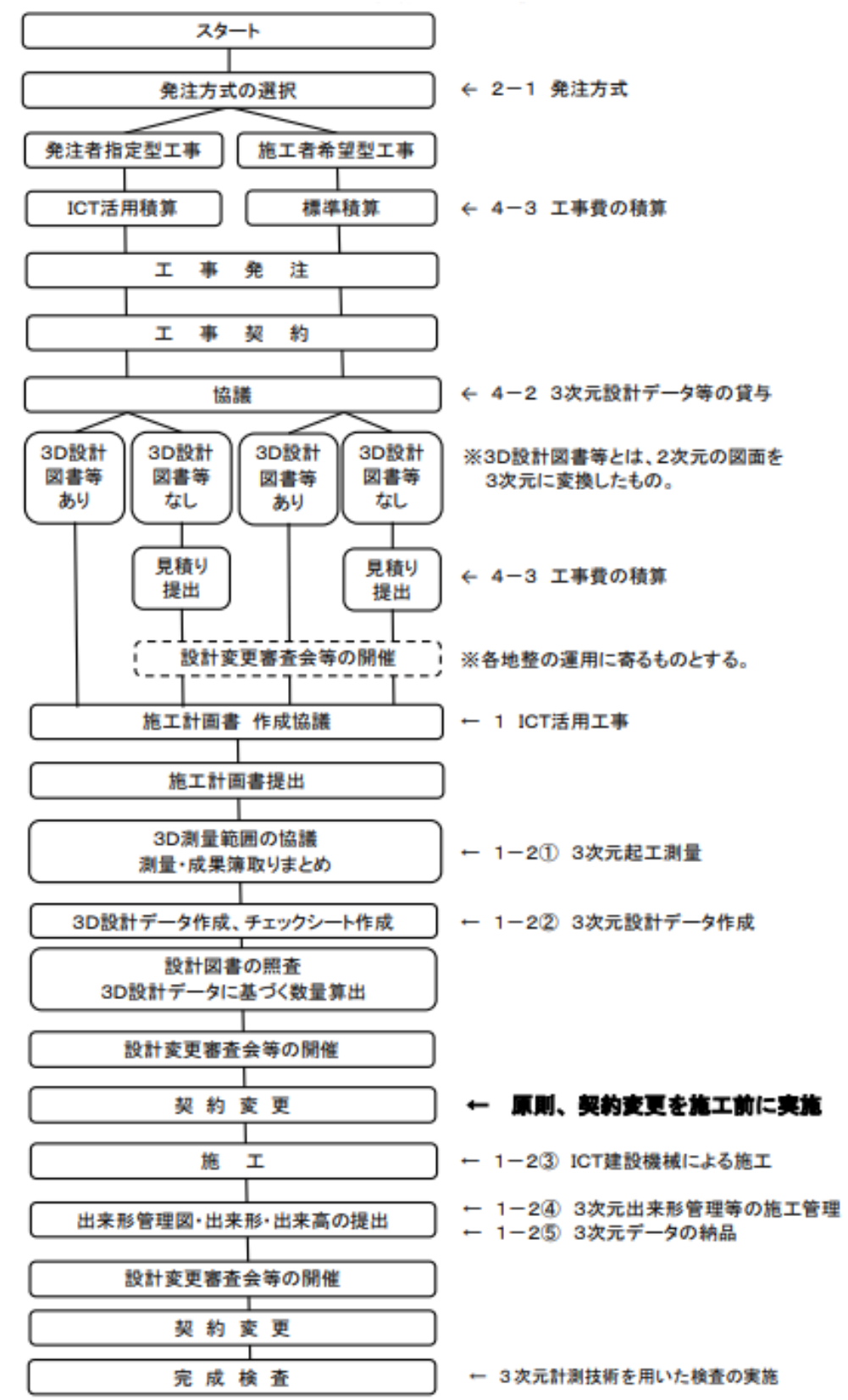
調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	全ての I C T活用工事	受注者

1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

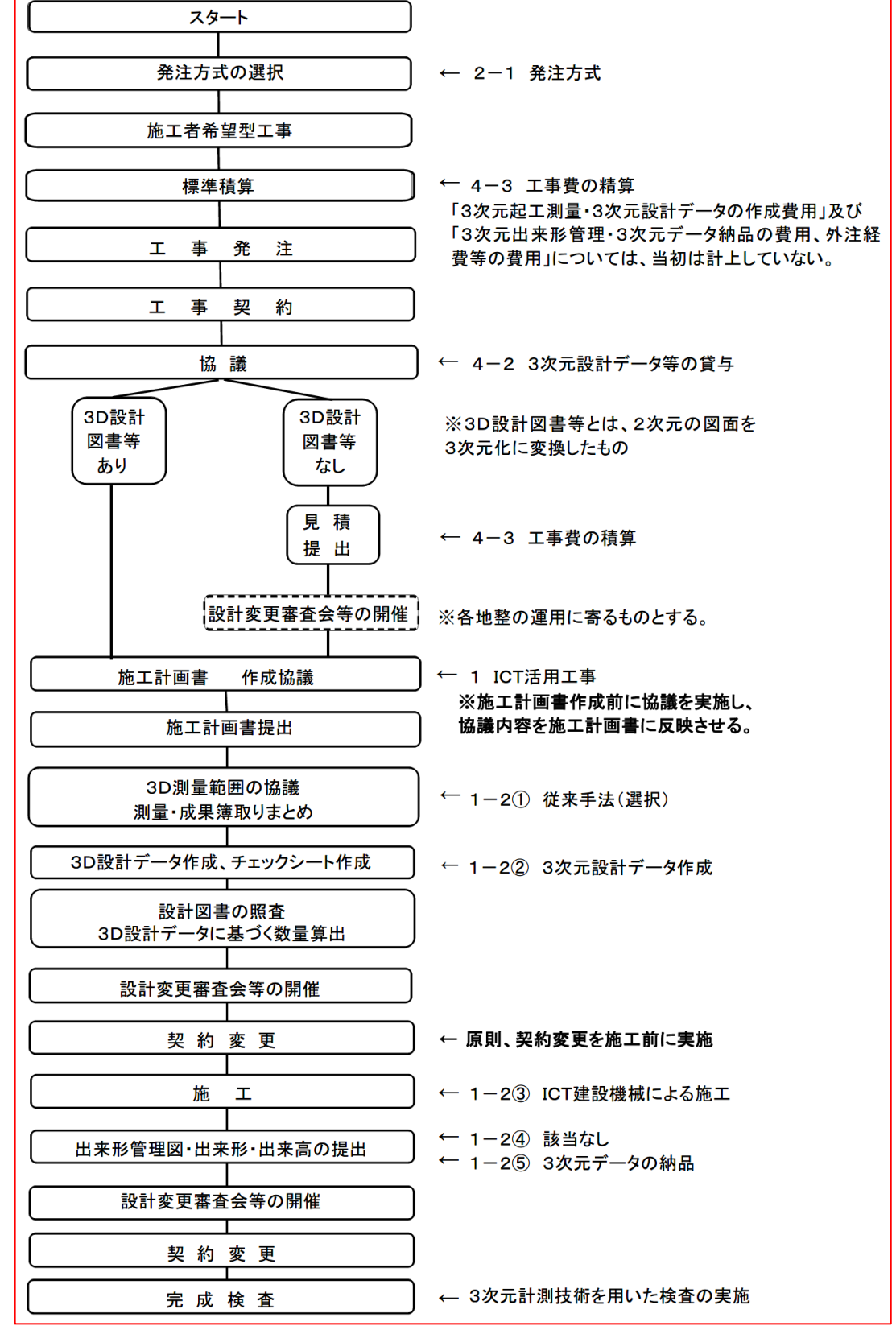
6－~~1~~2 調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT作業土工（床掘工） 適用範囲

項目	代表機材規格	施工方法						備考
		標準	平均 施工幅 1m 以上 2m 未満	掘削 深さ 5m 超 20m 以下	掘削 深さ 20m 超	左記 以外 (小規模)	現場 制約あり	
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 山積 0.8m ³ （平積 0.6m ³ ）	○					賃料
		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 山積 0.45m ³ （平積 0.35m ³ ）		○				賃料
		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.28m ³ （平積 0.2m ³ ）				○		
		クラムシエル〔油圧ロープ式・クローラ型〕 平積 0.8m ³				○		
		クラムシエル〔油圧クラムシエル・テレスコピック式〕 平積 0.4m ³			○			
	K2	小型バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.08m ³ （平積 0.06m ³ ）			◎	○		
	K3	—						
労務	R1	運転手（特殊）	○	○	○	○	○	
	R2	普通作業員	△	△	○	○	○	
	R3	特殊作業員			◎	○		
	R4	—						
材料	Z1	軽油 バトロール給油	○	○	○	○	○	
	Z2	—						
	Z3	—						
	Z4	—						
市場単価	S	—						

※◎：障害有りの場合、△：土留方式無し以外の場合

R 6 室長通知 別紙－4 I C T活用工事（作業土工（床堀））積算要領	R 7 室長通知 別紙－ ~~4~~ <u>7</u> I C T活用工事（作業土工（床掘工））積算要領																								
別紙－4	別紙－ ~~4~~ <u>7</u>																								
I C T活用工事（作業土工（床掘））積算要領	I C T活用工事（作業土工（床掘 <u>工</u> ））積算要領																								
1. 適用範囲 本資料は、I C T施工において、3次元マシンガイダンス（バックホウ）技術及び3次元マシンコントロール（バックホウ）技術を使用して、構造部の築造又は撤去を目的とした、土砂、岩塊・玉石の掘削等である床掘に適用する。 平均施工幅2 m以上の土砂の掘削等である床掘の I C T建設機械による施工積算にあたっては、床掘り（I C T）の施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 平均施工幅2 m未満の土砂の掘削等である床掘の積算にあたっては、別紙－6「I C T活用工事（小規模土工）積算要領」によるものとする。	1. 適用範囲 本資料は、 ~~I C T施工において、~~ 3次元マシンガイダンス ~~（バックホウ）技術~~ 及び3次元マシンコントロール ~~（バックホウ）技術を使用して、構造部の築造又は撤去を目的とした、土砂、岩塊・玉石の掘削等である床掘~~ 搭載したバックホウを用いて行う以下のいずれかに該当する作業土工（床掘工）に適用する。 ~~平均施工幅2 m以上の土砂の掘削等である床掘の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。~~ ~~平均施工幅2 m未満の土砂の掘削等である床掘の積算にあたっては、別紙－6「I C T活用工事（小規模土工）積算要領」によるものとする。~~ <u>・平均施工幅2 m以上の土砂の掘削等である床掘り</u> <u>・平均施工幅1 m以上2 m未満の土砂の掘削等である床掘り</u> <u>・平均施工幅1 m未満の土砂の掘削等である床掘り</u>																								
2. 機械経費 2－1 機械経費 床掘り（I C T）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、土木工事標準積算基準書の「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。	2. 機械経費 2－1 機械経費 ~~床掘り（I C T）~~ 作業土工（床掘工）の積算で使用する I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、賃料については、土木工事標準積算基準書の <u>第I編 総則</u> 「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 ~~作業土工（床掘）（I C T）~~ <u>①平均施工幅2 m以上の土砂の掘削等である床掘り</u>																								
作業土工（床掘）（I C T） <table><tr><td>I C T建設機械名</td><td>規格</td><td>機械経費</td><td>備考</td></tr><tr><td>バックホウ（クローラ型）</td><td>標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t</td><td>賃料にて計上</td><td>ICT 建設機械経費加算額は別途計上</td></tr></table> ※2－1機械経費のうち、賃料にて計上するI C T施工対応型の機械経費には、地上の基準局・管理局以外の賃貸費用が含まれている。	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ（クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上	<table><tr><td>I C T建設機械名</td><td>規格</td><td>機械経費</td><td>備考</td></tr><tr><td>バックホウ（クローラ型）</td><td>標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)山積0.8 m³(平積0.6 m³) 吊能力2.9t</td><td>賃料にて計上</td><td>I C T建設機械経費加算額は別途計上</td></tr></table> ※2－1機械経費のうち、賃料にて計上するI C T施工対応型の機械経費には、地上の基準局・管理局以外の賃貸費用が含まれている。 <u>②平均施工幅1 m以上2 m未満の土砂の掘削等である床掘り</u> <u>（適用土質は、土砂（砂質土及び砂、粘性土、レキ質土）とする）</u> <table><tr><td><u>I C T建設機械名</u></td><td><u>規格</u></td><td><u>機械経費</u></td><td><u>備考</u></td></tr><tr><td><u>バックホウ（クローラ型）</u></td><td><u>後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）</u> <u>山積0.45 m³(平積0.35 m³)</u></td><td><u>損料にて計上</u></td><td><u>I C T建設機械経費加算額は別途計上</u></td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ（クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)山積0.8 m³(平積0.6 m³) 吊能力2.9t	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上	<u>I C T建設機械名</u>	<u>規格</u>	<u>機械経費</u>	<u>備考</u>	<u>バックホウ（クローラ型）</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）</u> <u>山積0.45 m³(平積0.35 m³)</u>	<u>損料にて計上</u>	<u>I C T建設機械経費加算額は別途計上</u>
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																						
バックホウ（クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上																						
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																						
バックホウ（クローラ型）	標準型・I C T施工対応型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制)山積0.8 m³(平積0.6 m³) 吊能力2.9t	賃料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上																						
<u>I C T建設機械名</u>	<u>規格</u>	<u>機械経費</u>	<u>備考</u>																						
<u>バックホウ（クローラ型）</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）</u> <u>山積0.45 m³(平積0.35 m³)</u>	<u>損料にて計上</u>	<u>I C T建設機械経費加算額は別途計上</u>																						

2-2 ICT 建設機械経費加算額 2-2-1 賃料加算額 ICT 建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費のうち賃料にて計上する ICT 建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 (1) 作業土工（床掘り）（ICT） 対象建設機械：バックホウ（ICT 施工対応型） 賃料加算額：13,000円／日 2-3 その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 2-3-1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 (1) 作業土工（掘削）(ICT)床掘工（ICT） 保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量(m3/日)}}$ (注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。 (注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。 2-3-2 システム初期費 ICT 施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。	③平均施工幅 1 m未満の土砂の掘削等である床掘り (適用土質は、土砂（砂質土及び砂、粘性土、レキ質土）とする) <table><tr><th>ICT建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>バックホウ (クローラ型)</td><td>後方超小旋回型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28 m³(平積 0.2 m³)</td><td>損料にて計上</td><td>ICT建設機械経費 加算額別途計上</td></tr></table> 2-2 ICT 建設機械経費加算額 2-2-1 賃料加算額 ICT 建設機械経費賃料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費のうち賃料にて計上する ICT 建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 (1) 作業土工（床掘り）(ICT)平均施工幅 2 m以上の土砂の掘削等である床掘り 対象建設機械：バックホウ（ICT 施工対応型） 費用：13,000 円/日 2-2-2 損料加算額 ICT 建設機械経費損料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費のうち損料にて計上する ICT 建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 (2) 平均施工幅 1 m以上 2 m未満の土砂の掘削等である床掘り 対象建設機械：バックホウ 費用：5,470 円／日 (3) 平均施工幅 1 m未満の土砂の掘削等である床掘り 対象建設機械：バックホウ 費用：5,470 円／日 2-3 その他 ICT 建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 ~~2-3-1 保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~(1) 作業土工（掘削）(ICT)~~ ~~保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量(m3/日)}}$~~ ~~(注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」の ICT 標準作業量による。~~ ~~(注) 施工数量は、ICT 施工の数量とする。~~ 2-3-2.1 システム初期費 ICT 建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT 建設機械精度確認等、ICT 建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者	ICT建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28 m³(平積 0.2 m³)	損料にて計上	ICT建設機械経費 加算額別途計上
ICT建設機械名	規格	機械経費	備考						
バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・ 排出ガス対策型 (第2次基準値) 山積 0.28 m³(平積 0.2 m³)	損料にて計上	ICT建設機械経費 加算額別途計上						

(1) ~~作業土工(掘削)~~掘削(床掘り)(ICT) 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 床掘工 (ICT) については、出来形管理を行わないため、費用は計上しない。	が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を計上する。 (1) ~~作業土工(掘削)~~(ICT) <u>平均施工幅 2 m以上の土砂の掘削等である床掘り</u> 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 <u>※ 1 工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業で ICT 建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。</u> <u>(2) 平均施工幅 1 m以上 2 m未満の土砂の掘削等である床掘り</u> <u>ICT 建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT 建設機械精度確認等、ICT 建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用については、ICT 建設機械経費損料加算額に含んでいる。</u> <u>(3) 平均施工幅 1 m未満の土砂の掘削等である床掘り</u> <u>ICT 建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT 建設機械精度確認等、ICT 建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用については、ICT 建設機械経費損料加算額に含んでいる。</u> 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元~~起工測量~~・設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。<u>また、3次元起工測量を実施した場合は、3次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。</u> <u>費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>また、前工事及び設計段階での 3次元データを活用した場合、発注者が貸与する 3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。</u> <u>なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。</u> 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 ~~床掘工 (ICT) については、~~出来形管理を実施しないため、~~費用~~<u>標記経費</u>は計上しない。 <u>5. 施工箇所が点在する ICT 活用工事の積算について</u> <u>施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第 1 編第 2 章 工事費の積算」及び「第 I 編第 11 章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。</u> <u>6. 積算方法</u> <u>受注者からの提案・協議により ICT 施工技術の活用を実施した場合は、実績数量に基づき積算する</u>
---	---

ものとする。

[参考]

1. 各作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 1. 1 機種を選定

<u>作業の種類</u>	<u>作業の内容</u>	<u>機 械 名</u>	<u>機械経費</u>	<u>規 格</u>	<u>摘 要</u>
<u>床 掘 り</u>	<u>施 工 幅 1 m 未 満</u>	<u>バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)</u>	<u>損料にて計上</u>	<u>後方超小旋回型・排出ガス対策型(第2次基準値)</u> <u>山積0.28m³(平積0.2m³)</u>	
<u>床 掘 り</u>	<u>施 工 幅 1 m 以 上 2 m 未 満</u>	<u>バ ッ ク ホ ウ (クローラ型)</u>	<u>損料にて計上</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)</u> <u>山積0.45m³(平積0.35m³)</u>	

2. 床掘作業

2-1 施工幅1m未満

2-1-1 日当り施工量バックハウによる床掘作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 2. 1 日当り施工量 (1日当り)

<u>名 称</u>	<u>規 格</u>	<u>単 位</u>	<u>数 量</u>
<u>バ ッ ク ホ ウ (クローラ型) 運転</u>	<u>後方超小旋回型・排出ガス対策型(第2次基準値)</u> <u>山積0.28m³(平積0.2m³)</u>	<u>m³</u>	<u>34</u>

2-1-2 補助労務

床掘作業の補助労務は、作業の内容にかかわらず次表を標準とする。

表 2. 2 床掘補助労務 (10m³当り)

<u>名 称</u>	<u>単 位</u>	<u>数 量</u>	<u>摘 要</u>
<u>普 通 作 業 員</u>	<u>人</u>	<u>0.3</u>	<u>基面整正及び浮き石除去含む</u>

2-2 施工幅1m以上2m未満

2-2-1 日当り施工量

バックハウによる床掘り(作業土工)の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 2. 3 日当り施工量 (1日当り)

<u>作業の 内容</u>	<u>名 称</u>	<u>土質名</u>	<u>規 格</u>	<u>単位</u>	<u>数量</u>	
					<u>障害 なし</u>	<u>障害 あり</u>
<u>標準 (平均施工 幅 1 m 以上 2m 未満)</u>	<u>バックハウ (クローラ型) 運転</u>	<u>レキ質土・砂・ 砂質土・粘性土</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型(第 3 次基準 値)</u> <u>山積 0.45mm³(平積 0.35 m³)</u>	<u>m³</u>	<u>163</u>	<u>109</u>

		値) 山積0.45m3(平積0.35m3)			
諸雑費			式	1	
計					

(注) D：日当り施工量

(2) 機械運転単価表

機 械 名	規 格	適用単価	指 定 事 項
<u>バックホウ</u> <u>(クローラ型)</u>	<u>後方超小旋回型・</u> <u>排出ガス対策型(第2次基準値)</u> <u>山積0.28m³(平積0.2m³)</u>	<u>機一33</u>	<u>運転労務数量→ 1.00</u> <u>燃料消費量 → 37</u> <u>機械損料数量→ 1.59</u>
<u>〃</u>	<u>後方超小旋回型・超低騒音型</u> <u>排出ガス対策型(第3 次基準値)</u> <u>山積0.45m3(平積0.35m3)</u>	<u>機一33</u>	<u>運転労務数量→1.00</u> <u>燃料消費量 → 44</u> <u>機械損料数量→1.33</u>

※参考 ICT作業土工（床掘工） 適用範囲

項目		代表機労材規格	施工方法						備考
			標準	平均 施工幅 1m以上 2m未満	掘削 深さ 5m超 20m以下	掘削 深さ 20m超	左記 以外 (小規模)	現場 制約 あり	
機械	K1	バックホウ（クローラ型）〔標準型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 山積 0.8m3（平積 0.6m3）	○						賃料
		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型（第3次基準値）〕 山積 0.45m3（平積 0.35m3）		○					賃料
		バックホウ（クローラ型）〔後方超小旋回型・排出ガス対策型（第2次基準値）〕 山積 0.28m3（平積 0.2m3）					○		
		クラムシェル〔油圧ロープ式・クローラ型〕 平積 0.8m3				○			
		クラムシェル〔油圧クラムシェル・テレスコピック式〕 平積 0.4m3			○				
		小型バックホウ（クローラ型）〔標準型・排出ガス対策型（第1次基準値）〕 山積 0.08m3（平積 0.06m3）			◎	○			
		K3 ー							
労務	R1	運転手（特殊）	○	○	○	○	○		
	R2	普通作業員	△	△	○	○	○	○	
	R3	特殊作業員			◎	○			
	R4	ー							
材料	Z1	軽油 バトロール給油	○	○	○	○	○		
	Z2	ー							
	Z3	ー							
	Z4	ー							
市場単価	S	ー							

※◎：障害有りの場合，△：土留方式無し以外の場合

R 6 室長通知 別紙―1 1 I C T活用工事（付帯構造物設置工）実施要領	R 7 室長通知 別紙―8 I C T活用工事（付帯構造物設置工）実施要領
別紙―1 1	別紙― ~~8-1-1~~
I C T活用工事（付帯構造物設置工）実施要領	I C T活用工事（付帯構造物設置工）実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1－1 概要	1－1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセス全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1－2 I C T活用工事における付帯構造物設置工	1－2 I C T活用工事における付帯構造物設置工
また、次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（付帯構造物設置工）とする。また、「I C T付帯構造物設置工」という略称を用いることがある。	次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（付帯構造物設置工）とする。また、「I C T付帯構造物設置工」という略称を用いる。
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ 該当無し	③ 該当無し
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1－3 I C T施工技術の具体的内容	1－3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表―1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤ ~~及び表―1~~ によるものと ~~する。~~ し、 ~~関連要領等については、最新のものを適用するものとする。~~
	~~関連要領等：~~ https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記1）～8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。	起工測量において、3次元測量データを取得するため、以下1）～ ~~7-8~~ ）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。
起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。	起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。
また、付帯構造物設置工の関連施工として I C T土工及び I C T舗装工が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、I C T活用とする。	また、付帯構造物設置工の関連施工として I C T土工 ~~等及びI C T舗装工~~ が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、I C T活用工事とする。
1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
5）T S 等光波方式を用いた起工測量	5）T S 等光波方式を用いた起工測量
6）T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量	6）T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量
7）R T K－G N S S を用いた起工測量	7）R T K－G N S S を用いた起工測量
8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量	~~8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成

1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 3次元設計データ作成はICT土工及びICT舗装工と合わせて行うが、ICT付帯構造物設置工の施工管理においては、3次元設計データとして、3次元座標を用いた線形データも活用できる。TIN形式でのデータ作成は必須としない。 ③ ICT建設機械による施工 付帯構造物設置工においては該当無し ④ 3次元出来形管理等の施工管理 付帯構造物設置工の施工管理において、下記に示す方法により、出来形管理を実施する。 (1) 出来形管理 下記1)～8)の技術から選択(複数以上可)して、出来形管理を行うものとする。 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) TS等光波方式を用いた起工測量 6) TS(ノンプリズム方式)を用いた起工測量 7) RTK-GNSSを用いた起工測量 8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量 なお、監督職員との協議の上で他の計測技術による出来形管理を行ってもよい。 (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。 (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測(管理)すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 1－3④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。	1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 3次元設計データ作成はICT土工等及び~~ICT舗装工~~と合わせて行うが、ICT付帯構造物設置工の施工管理においては、3次元設計データとして、3次元座標を用いた線形データも活用できる。TIN形式でのデータ作成は必須としない。 ③ ICT建設機械による施工 付帯構造物設置工においては該当無し ④ 3次元出来形管理等の施工管理 付帯構造物設置工の施工管理において、以下に示す方法により、出来形管理を実施する。 (1) 出来形管理 ~~下記1)～8)の技術から選択(複数以上可)して、出来形管理を行うものとする。~~ 付帯構造物設置工の施工管理において、以下1)～7)の技術から選択(複数以上可)して、出来形管理を実施するものとする。 また、以下1)～4)の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5) TS等光波方式を用いた出来形管理 6) TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 7) RTK-GNSSを用いた出来形管理 ~~8)その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。 (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測(管理)すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 1－3①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。
--	--

《表－1　I C T施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査	備考
				新設	修繕	施工管理	
3次元起工測量 ／3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、②、⑭、⑮、⑯	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、③、⑰	
	TS等光波方式を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑥	
	TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑦	
	R T K－G N S Sを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、④、⑭、⑮	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑤	
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形管理技術（舗装工事編）	出来形計測	－	○	○	⑨、⑩	付帯構造物設置工
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形管理技術（護岸工事編）	出来形計測	－	○	○	⑪、⑫	護岸工
	3次元計測技術を用いた出来形計測	出来形計測	－	○	○	①、⑬	護岸工

【凡例】○：適用可能　－：適用外

削 除

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）土工編
	②	空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	③	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	④	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑤	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑦	TS（ノンプリ）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑧	RTK－GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑨	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）舗装工編
	⑩	IS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（舗装工事編）（案）
	⑪	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）護岸工編
	⑫	IS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（護岸工事編）（案）
	⑬	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領（案）
	⑭	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	⑮	公共測量におけるUAVの使用に関する安全基準－国土地理院
	⑯	UAVを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院
	⑰	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院

1－4 I C T活用工事の対象工事

I C T活用工事の対象工事（発注工種）は、「一般土木工事」、「アスファルト舗装工事」、「セメント・コンクリート舗装工事」、「法面処理工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。

（１）対象工種

I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。

- 1）コンクリートブロック工（コンクリートブロック積）
（コンクリートブロック張）
（連節ブロック張）
（天端保護ブロック）

- 緑化ブロック工
石積（張）工
側溝工（プレキャストU型側溝）
（L型側溝）
（自由勾配側溝）

- 管渠工
暗渠工
縁石工（縁石・アスカーブ）
基礎工（護岸）（現場打基礎）
基礎工（護岸）（プレキャスト基礎）
海岸コンクリートブロック工
コンクリート被覆工

削 除

1－4 I C T活用工事の対象工事

I C T活用工事の対象工事（発注工種）は、「一般土木工事」、「アスファルト舗装工事」、「セメント・コンクリート舗装工事」、「法面処理工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、以下（１）～（３）に該当する工事とする。

（１）対象工種

I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける以下の工種とする。

- 1）コンクリートブロック工（コンクリートブロック積）
（コンクリートブロック張）
（連節ブロック張）
（天端保護ブロック）

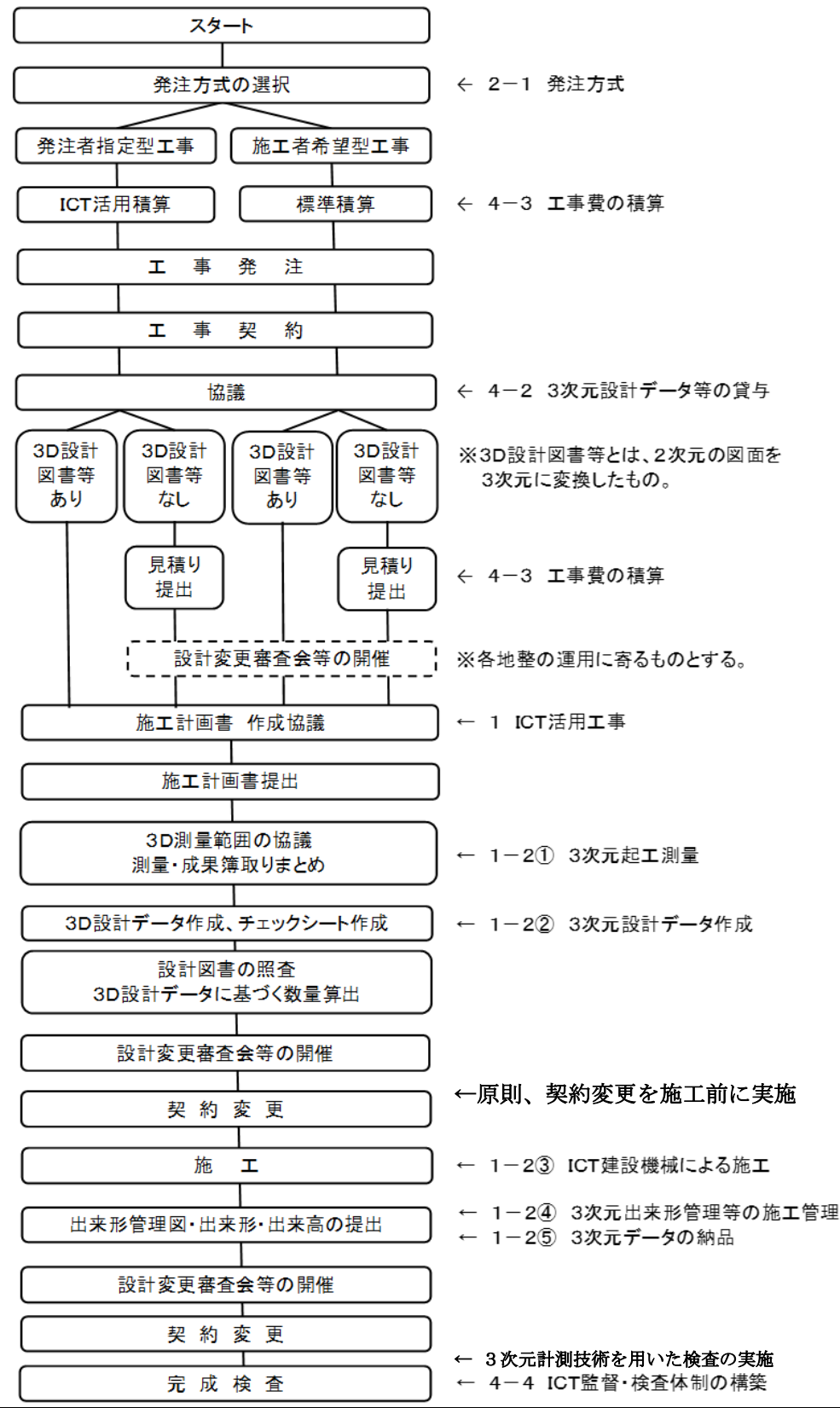
- 緑化ブロック工
石積（張）工
側溝工（プレキャストU型側溝）
（L型側溝）
（自由勾配側溝）

- 管渠工
暗渠工
縁石工（縁石・アスカーブ）
基礎工（護岸）（現場打基礎）
基礎工（護岸）（プレキャスト基礎）
海岸コンクリートブロック工
コンクリート被覆工

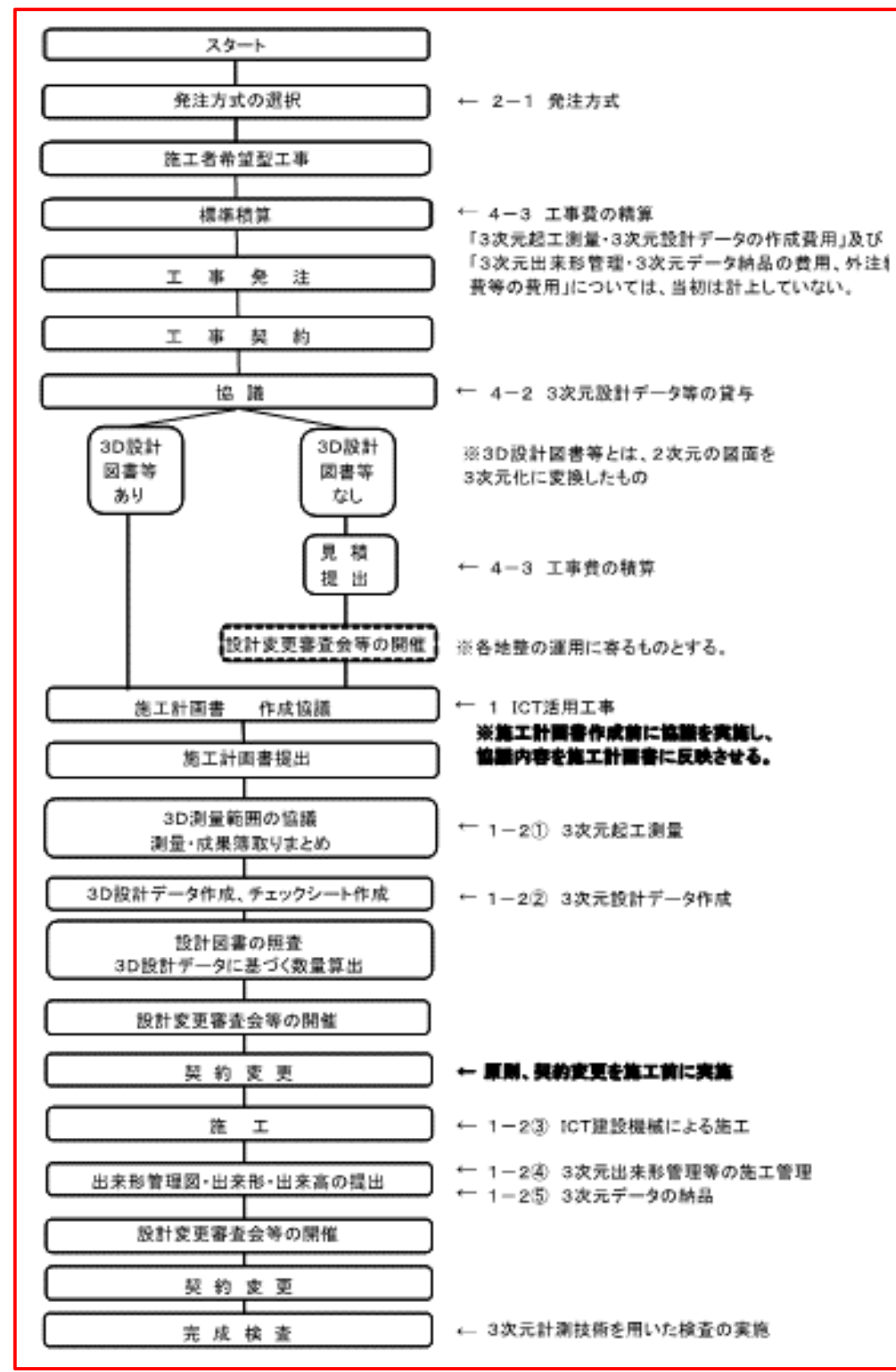
護岸付属物工	護岸付属物工
(2) 適用対象外 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。	(2) 適用対象外 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。
(3) 対象規模 I C T活用工事（付帯構造物設置工）の対象規模は、1－4（1）対象工種を条件とし、数量は規定しない。	(3) 対象規模 I C T活用工事（付帯構造物設置工）の対象規模は、1－4（1）対象工種を条件とし、数量は規定しない。
2. I C T活用工事の実施方法 I C T土工及びI C T舗装工における関連施工種とするため、I C T付帯構造物設置工単独での発注は行わない。	2. I C T活用工事の実施方法 I C T土工等及びI C T舗装工における関連施工種とするため、I C T付帯構造物設置工単独での発注は行わない。
3. I C T活用工事実施の推進のための措置 I C T土工及びI C T舗装工における関連施工種とするため、I C T活用工事（土工）実施要領による。	3. I C T活用工事実施の推進のための措置 I C T土工等及びI C T舗装工における関連施工種とするため、I C T活用工事（土工）実施要領によるものとする。
4. I C T活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にI C T活用施工を導入し、I C T施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表1【要領一覧】）に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。	4. I C T活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にI C T活用施工技術を導入し、I C T施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T施工技術の活用を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表1【要領一覧】）、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」及び各種「出来形管理の監督・検査要領（案）」に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。
4－2 3次元設計データ等の貸与 (1) I C T活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事で変更計上するものとする。 (2) 発注者は、詳細設計において、I C T活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事で変更計上するものとする。	4－2 3次元設計データ等の貸与 ~~（1）I C T活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事で変更計上するものとする。~~ ~~（2）発注者は、詳細設計において、I C T活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。~~ ~~なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事で変更計上するものとする。~~

4－3 工事費の積算 （１）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりＩＣＴ活用施工を実施する場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記１）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（付帯構造物設置工）積算要領 なお、ＩＣＴ活用について協議を行う際には、「１－２①②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－３６「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 4－4 ＩＣＴ監督・検査体制の構築 ＩＣＴ活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5 現場見学会・講習会の実施 ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。 5. 地方整備局等におけるＩＣＴ活用工事に関する調査等 ＩＣＴ活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。 5－1 施工合理化調査 施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。 6. ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示） 6－1 調査票の回収について ＩＣＴ土工及びＩＣＴ舗装工における関連施工種とするため、一体として実施。	発注者は、３次元設計データ作成に必要な詳細設計において作成したＣＡＤデータを受注者に貸与する。ほか、ＩＣＴ施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 4－3 工事費の積算 （１）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりＩＣＴ~~活用~~施工~~技術の活用~~を実施する場合、ＩＣＴ~~活用~~施工~~技術の活用~~を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、~~平記以下~~１）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（付帯構造物設置工）積算要領 なお、ＩＣＴ活用について協議を行う際には、「１－２①②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－~~3-6-3~~ 4「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 4－4 ＩＣＴ監督・検査体制の構築 ＩＣＴ施工技術における監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ施工技術の活用に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5 現場見学会・講習会の実施 ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。 5. 地方整備局等におけるＩＣＴ活用工事に関する調査等 ＩＣＴ活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。 5－1 施工合理化調査 施工合理化調査を実施する場合は別途指示する。 6. ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示） 6－1 調査票の回収について ＩＣＴ土工<del>等及び</del>~~ＩＣＴ舗装工~~における関連施工種とするため、一体として実施する。
--	--

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



R 6 室長通知 別紙―1 1 I C T活用工事（付帯構造物設置工）実施要領	R 7 室長通知 別紙―9 I C T活用工事（付帯構造物設置工）実施要領
別紙―1 2	別紙― ~~9-1-2~~
I C T活用工事（付帯構造物設置工）積算要領	I C T活用工事（付帯構造物設置工）積算要領
1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した付帯構造物設置工（以下、付帯構造物設置工（I C T））に適用する。なお、付帯構造物設置工（I C T）については、I C T土工及びI C T舗装工と同時に実施する場合に適用できるものとする。	1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した付帯構造物設置工（以下、付帯構造物設置工（I C T））に適用する。なお、付帯構造物設置工（I C T）については、I C T土工等と同時に実施する場合に適用できるものとする。
2. 適用工種 コンクリートブロック工（コンクリートブロック積） （コンクリートブロック張） （連節ブロック張） （天端保護ブロック） 緑化ブロック工 石積（張）工 側溝工（プレキャストU型側溝）（L型側溝）（自由勾配側溝） 管渠工 暗渠工 縁石工（縁石・アスカーブ） 基礎工（護岸）（現場打基礎） 基礎工（護岸）（プレキャスト基礎） 海岸コンクリートブロック工 コンクリート被覆工 護岸付属物工	2. 適用工種 コンクリートブロック工（コンクリートブロック積） （コンクリートブロック張） （連節ブロック張） （天端保護ブロック） 緑化ブロック工 石積（張）工 側溝工（プレキャストU型側溝）（L型側溝）（自由勾配側溝） 管渠工 暗渠工 縁石工（縁石・アスカーブ） 基礎工（護岸）（現場打基礎） 基礎工（護岸）（プレキャスト基礎） 海岸コンクリートブロック工 コンクリート被覆工 護岸付属物工
3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。	3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。
4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。ただし、付帯構造物設置工（I C T）と同時に実施する、I C T土工及びI C T舗装工において補正係数を乗じる場合は適用しない。	4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 ~~3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。ただし、付帯構造物設置工（I C T）と同時に実施する、I C T土工及びI C T舗装工において補正係数を乗じる場合は適用しない。~~

R 6 室長通知 別紙― 9 I C T活用工事（法面工）実施要領	R 7 室長通知 別紙― 1 0 I C T活用工事（法面工）実施要領
別紙― 9	別紙― 1 0
I C T活用工事（法面工）実施要領	I C T活用工事（法面工）実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1－1 概要	1－1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセス全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1－2 I C T活用工事における法面工	1－2 I C T活用工事における法面工
また、次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（法面工）とする。また、「I C T法面工」という略称を用いることがある。	~~また、~~ 次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（法面工）とする。また、「I C T法面工」という略称を用いる ~~ことがある。~~
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ 該当なし	③ 該当なし
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1－3 I C T施工技術の具体的内容	1－3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表― 1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤によるものとし、関連要領等については、最新のものを適用するものとする。
	関連要領等： https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記 1）～ 8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。	起工測量において、3次元測量データを取得するため、以下 1）～ 7）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。
起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。	起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。
また、法面工の関連施工として I C T土工が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、I C T活用とする。	また、法面工の関連施工として I C T土工等が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、I C T活用工事とする。
I C T土工等の起工測量データ等を活用することができる。	~~I C T土工等の起工測量データ等を活用することができる。~~
1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理	3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理	4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
5）T S 等光波方式を用いた出来形管理	5）T S 等光波方式を用いた起工測量
6）T S （ノンプリズム方式）を用いた出来形管理	6）T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量
7）R T K－G N S S を用いた出来形管理	7）R T K－G N S S を用いた起工測量
8）その他の 3 次元計測技術を用いた出来形管理	~~8）その他の 3 次元計測技術を用いた出来形管理~~

② 3次元設計データ作成 1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 3次元設計データ作成はICT土工と合わせて行うが、ICT法面工の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 現地合わせによる施工を行う法枠工・植生工・吹付工においては、出来形計測時に用いる設計値は従来どおりとし、3次元設計データの作成は必須としない。 ③ICT建設機械による施工 法面工においては該当無し ④3次元出来形管理等の施工管理 法面工の施工管理において、下記に示す方法により出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 下記1）～8）の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5）TS等光波方式を用いた出来形管理 6）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7）RTK-GNSSを用いた出来形管理 8）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により1）～7）のICTを用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員との協議する （2）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記（1）で定める計測技術を用い下記1）の出来形管理要領（案）による 1）3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） （3）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。	② 3次元設計データ作成 1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 なお、発注者が貸与する3次元データを活用する場合もICT活用工事とする。 また、3次元設計データ作成はICT土工等と合わせて行うが、ICT法面工の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 現地合わせによる施工を行う法枠工・植生工・吹付工においては、出来形計測時に用いる設計値は従来どおりとし、3次元設計データの作成は必須としない。 ③ICT建設機械による施工 法面工においては該当無し ④3次元出来形管理等の施工管理 法面工の施工管理において、以下に示す方法により出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 法面工等の施工管理において、以下1）～7）の技術から選択（複数以上可）して、出来形管理を実施するものとする。 また、以下1）～4）の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5）TS等光波方式を用いた出来形管理 6）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7）RTK-GNSSを用いた出来形管理 ~~8）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により上記1）～7）のICT施工技術を用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、監督職員と協議の上、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなどして出来形管理を行っても良いものとする。 （2）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記（1）で定める計測技術を用い以下1）の出来形管理要領による。 1）3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） （3）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。
--	---

⑤ 3次元データの納品
1－3④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

《表－1 I C T施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量 ／3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、③、⑪、⑫、⑬	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、④、⑭	
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑥	
	TS（ノンブリズム方式）を用いた起工測量／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑦	
	RTK-GNSSを用いた起工測量／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑨	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑩	
	3次元計測技術を用いた出来形計測	出来形計測	－	○	○	②、⑤	

①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編
②	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)法面工編
③	空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
④	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
⑤	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領(案)
⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
⑦	TS(ノンブリ)を用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
⑧	RTK-GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
⑨	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(土工編)(案)
⑩	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
⑪	公共測量におけるUAVの使用に関する安全基準－国土地理院
⑫	UAVを用いた公共測量マニュアル(案)－国土地理院
⑬	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル(案)－国土地理院
⑭	モバイル端末を用いた3次元計測技術(多点計測技術)

【凡例】○：適用可能　－：適用外

⑤ 3次元データの納品
1－3①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。

削 除

1－4 I C T活用工事の対象工事 I C T活用工事の対象工事（発注工種）は、「一般土木工事」、「法面処理工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。 （１）対象工種 I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。 1）植生工：（種子散布） （張芝） （筋芝） （市松芝） （植生シート） （植生マット） （植生筋） （人工張芝） （植生穴） 植生工：（植生基材吹付） （客土吹付） 吹付工：（コンクリート吹付） （モルタル吹付） 吹付法粹工 落石雪害防止工 （２）適用対象外 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 （３）対象規模 I C T活用工事（法面工）の対象規模は、1－4（１）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2. I C T活用工事の実施方法 2－1 発注方式 I C T活用工事の発注は、施工者希望Ⅱ型とするが、工事内容及び地域における I C T施工機器の普及状況等を勘案し決定する。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の	1－4 I C T活用工事の対象工事 I C T活用工事の対象工事（発注工種）は、「一般土木工事」、「法面処理工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、以下（１）～（３）に該当する工事とするが、以下（１）（２）以外の工種においても、I C T施工技術を活用できる場合は、I C T活用工事としてもよい。 （１）対象工種 I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける以下の工種とする。 1）植生工：（種子散布） （張芝） （筋芝） （市松芝） （植生シート） （植生マット） （植生筋） （人工張芝） （植生穴） 植生工：（植生基材吹付） （客土吹付） 吹付工：（コンクリート吹付） （モルタル吹付） 吹付法粹工 落石雪害防止工 （２）適用対象外 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 （３）対象規模 I C T活用工事（法面工）の対象規模は、1－4（１）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2. I C T活用工事の実施方法 2－1 発注方式 I C T活用工事の発注は、以下によるものとするが、I C T施工技術の活用が困難な場合及びI C T施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など工事内容及び現場条件等を勘案し決定する。 （１）施工者希望Ⅱ型 1－4（１）に示す対象工種に該当する工種については、施工者希望Ⅱ型での発注を原則とする。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の
---	---

取り扱いとする。 2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 (1) 施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例 (記載例) 【メモ：法面工を含む一般土木工事の場合は、(番号)を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。 【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：法面工を含む一般土木工事の場合は、(番号)工事の実施形態に下記を追記】 『(番号) 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にI C T活用施工を行うことができる。 本工事におけるI C T活用施工は、①に示す3次元起工測量と3次元設計データの作成を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品することをいう。 なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3次元起工測量 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	取り扱いとする。 2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 (1) 施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例 (記載例) 【メモ：法面工を含む一般土木工事の場合は、(番号)を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。 【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：法面工を含む一般土木工事の場合は、(番号)工事の実施形態に以下を追記】 『(番号) 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にI C T活用施工を行うことができる。 本工事におけるI C T施工技術の活用は、以下の①②④⑤の段階でI C T施工技術を活用することをいう。 なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理
---	--

4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5) T S 等光波方式を用いた出来形管理 6) T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理 7) R T K − G N S S を用いた出来形管理 8) その他の 3 次元計測技術を用いた出来形管理 『(番号) 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T 活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案(施工計画等)」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T 活用施工に掛かる技術を応用(別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む)した技術提案については、その応用部分(付加的な内容)についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書(施工計画等)」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書(施工計画等)」は、求める書式名称に随時修正すること。		⑤ 3 次元データ納品 『(番号) 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T 活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案(施工計画等)」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T 活用施工に掛かる技術を応用(別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む)した技術提案については、その応用部分(付加的な内容)についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書(施工計画等)」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書(施工計画等)」は、求める書式名称に随時修正すること。	
【特記仕様書】記載例 (記載例) 第〇〇条 I C T 活用工事について 1. I C T 活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事の対象工事である。 2. 定義 (1) i-Construction とは、I C T の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けて I C T を活用した工事(I C T 活用工事)を実施するものとする。 (2) I C T 活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、I C T を全面的に活用する工事である。また、次の①②④⑤の段階で I C T 施工技術を活用することを I C T 活用工事という。 対象は、法面工等を含む一般土木工事とする。 ① 3 次元起工測量 ② 3 次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3 次元データの納品 3. 受注者は、I C T 活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出(施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む)までに監督職員へ提案・協議		【特記仕様書】記載例 (記載例) 第〇〇条 I C T 活用工事について 1. I C T 活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T 施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事の対象工事である。 2. 定義 (1) i-Construction とは、I C T 施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けて I C T 施工技術を活用した工事(I C T 活用工事)を実施するものとする。 (2) I C T 活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、I C T 施工技術を全面的に活用する工事である。また、本工事では、施工プロセスの以下❖①②④⑤の段階で I C T 施工技術を活用することを I C T 活用工事とする。 対象は、法面工等を含む一般土木工事とする。 ① 3 次元起工測量 ② 3 次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3 次元データの納品 3. 受注者は、I C T 施工技術の活用を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出(施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む)までに監督職員へ提案・	

を行い、協議が整った場合に下記４～９によりＩＣＴ活用施工を行うことができる。 ４．原則、本工事においては上記①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとし法面工等の施工範囲の全てで適用することとし、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 ５．ＩＣＴを用い、以下の施工を実施する。 ① ３次元起工測量 受注者は、３次元測量データを取得するため、下記１）～８）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 但し、法面工等の関連施工としてＩＣＴ土工が行われる場合、その起工測量データを活用することができるものとし、ＩＣＴ活用とする。なお、監督職員と協議する。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 ２）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ５）ＴＳ等光波方式を用いた出来形管理 ６）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 ７）ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた出来形管理 ８）その他の３次元計測技術を用いた出来形管理 ② ３次元設計データ作成 受注者は、設計図書や５．①で得られたデータを用いて、３次元出来形管理を行うための３次元設計データを作成する。 ③ 該当なし ④ ３次元出来形管理等の施工管理 （１）出来形管理 法面工等の施工管理において、下記１）～７）の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 ２）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ５）ＴＳ等光波方式を用いた出来形管理 ６）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 ７）ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた出来形管理		協議を行い、協議が整った場合に以下４～８によりＩＣＴ施工技術の活用を行うことができる。 ４．原則、本工事においては上記①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとする。法面工等の施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 ５．ＩＣＴ施工技術を用い、以下の施工を実施する。 ① ３次元起工測量 受注者は、３次元測量データを取得するため、以下１）～７）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 但し、法面工等の関連施工としてＩＣＴ土工等が行われる場合、監督職員との協議の上、その起工測量データを活用することができるものとし、ＩＣＴ活用工事とする。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 ２）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ５）ＴＳ等光波方式を用いた起工測量 ６）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ７）ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた起工測量 ~~８）その他の３次元計測技術を用いた出来形管理~~ ② ３次元設計データ作成 受注者は、５．①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図を用いて、３次元出来形管理を行うための３次元設計データを作成する。 なお、発注者が貸与する３次元データを活用する場合もＩＣＴ活用工事とする。 また、３次元設計データ作成はＩＣＴ土工等と合わせて行うが、ＩＣＴ法面工の施工管理においては、３次元設計データ（ＴＩＮ）形式での作成は必須としない。 現地合わせによる施工を行う法枠工・植生工・吹付工においては、出来形計測時に用いる設計値は従来どおりとし、３次元設計データの作成は必須としない。 ③ 該当なし ④ ３次元出来形管理等の施工管理 （１）出来形管理 法面工等の施工管理において、以下１）～７）の技術から選択（複数以上可）して、出来形管理を実施するものとする。 また、以下１）～４）の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 ２）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ５）ＴＳ等光波方式を用いた出来形管理 ６）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 ７）ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた出来形管理	
---	--	---	--

8) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係によりI C Tを用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合においては、写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員との協議する。 (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い下記1)の出来形管理要領による 1) 3次元計測技術を用いた出来形出来形管理要領(案) (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測(管理)すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として納品する。 6. 上記5. ①②④⑤の施工を実施するために使用するI C T機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なI C T活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したC A Dデータを		~~8)その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により上記1)～7)のI C T 施工技術を用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合、監督職員と協議の上、写真・画像データ等と併用するなどして出来形管理を行っても良い。 【メモ：条件明示として実施した出来形管理及び3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】 【変更特記記載例】 (3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合) 本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。(している。) 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 (実施する(した)出来形管理を具体的に掲載する。) (3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合) 本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については計上していない。 5) T S等光波方式を用いた出来形管理 6) T S(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 7) R T K-G N S Sを用いた出来形管理 (実施する(した)出来形管理を具体的に掲載する。) (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い以下1)の出来形管理要領による 1) 3次元計測技術を用いた出来形出来形管理要領(案) (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測(管理)すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 5. ①②④により作成した3次元データを、工事完成図書として納品する。 6. 上記5. ①②④⑤の施工を実施するために使用するI C T機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したC A Dデータを	
---	--	--	--

受注者に貸与する。また、ＩＣＴ活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7．上記5．①②④⑤で使用するＩＣＴ機器に入力した３次元設計データを監督職員に提出すること。 8．土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9．受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10．本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について 1．図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の費用について 【施工者希望型Ⅱ工事の場合】 1　受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。 ・ＩＣＴ活用工事（法面工）積算要領 ただし、監督職員の指示に基づき、３次元起工測量、３次元設計データの作成並びに３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。	受注者に貸与する。また、ＩＣＴ施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~7．上記5．①②④⑤で使用するＩＣＴ機器に入力した３次元設計データを監督職員に提出すること。~~ 7．土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 ~~9．受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ 8．本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について 1．図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の費用について 【施工者希望型Ⅱ工事の場合】 1　受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ施工技術を活用する項目については、以下の積算要領に基づき以下の（１）（２）により費用を計上することとする。 ・ＩＣＴ活用工事（法面工）積算要領 （１）３次元起工測量・３次元設計データの作成費用 ３次元起工測量・３次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「３次元起工測量・３次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 （２）３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用 出来形管理の計測範囲において、面的に座標を取得し、ソフトウェア上で面の法長・高さ等の出来形管理を実施し、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、３次元データ納品を行った場合、標記費用の対象とする。 費用の計上方法については、受注者より提出された見積りにより費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正の補正係数を乗じるものとする。 なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者
---	---

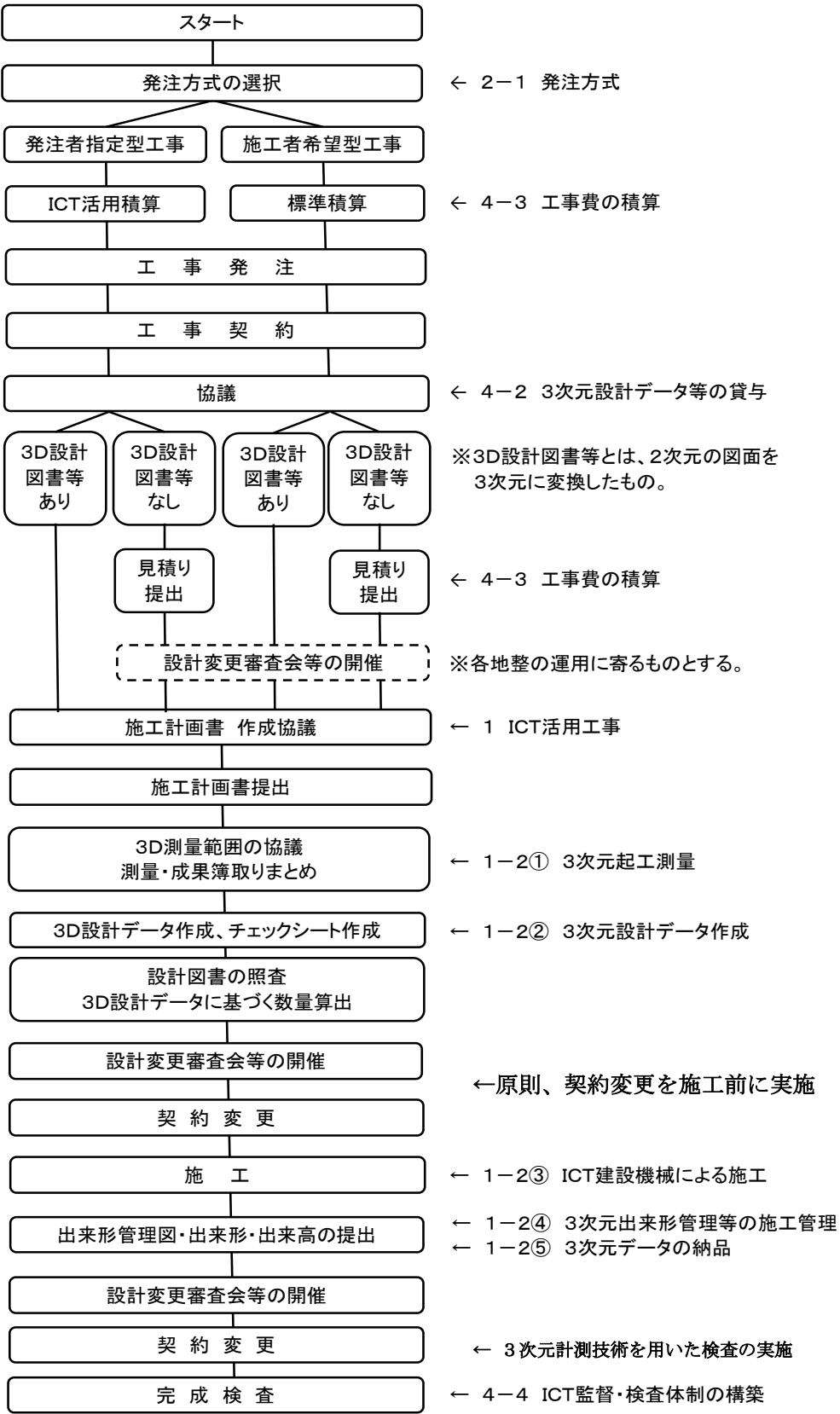
2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 I C T活用工事の活用効果等に関する調査 I C T活用施工を行った、全ての I C T活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「I C T活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。		からの見積により算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積により算出される金額を積算計上額とする。 また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。ただし、法面工（I C T）と同時に実施する土工（I C T）等他工種において補正係数を乗じる場合は適用しない。 ・ 共通仮設費率補正係数：1.2 ・ 現場管理費率補正係数：1.1 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～4）とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1） 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2） 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3） 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4） 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 なお、以下の5）～7）による出来形管理を実施した場合は、「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、計上しない。 5） T S等光波方式を用いた出来形管理 6） T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7） R T K－G N S Sを用いた出来形管理 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 I C T活用工事の活用効果等に関する調査 I C T活用~~工事~~を行った、~~全てのI C T活用工事の~~施工者は、活用目的等の把握のための「I C T活用工事の活用効果等に関する調査」の対象~~工事~~であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	
3. I C T活用工事実施の推進のための措置 3－1 工事成績評価における措置 I C T活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT 活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの①②④⑤の段階で ICT を活用した工事。 ※本項目は2点の加点とする。		3. I C T活用工事実施の~~推進のための~~措置 3－1 工事成績評価における措置 I C T活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT 活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの①②④⑤の段階で ICT を活用した工事。 ※本項目は2点の加点とする。	

※ICT 活用による加点は最大 2 点の加点とする (1) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案により I C T 活用施工（1－2 ①～⑤の全て）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点は行わない。 4. I C T 活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に I C T 活用施工を導入し、I C T 施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T 活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表 1【要領一覧】）に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 (1) I C T 活用工事の導入初期段階においては、従来基準による 2 次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「3 次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 (2) 発注者は、詳細設計において、I C T 活用施工に必要な 3 次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T 活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する 3 次元設計データに 3 次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「貸与する 3 次元設計データと 3 次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 4－3 工事費の積算 (1) 施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案により I C T 活用施工を実施する場合、I C T 活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記に基づき積算し、落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 なお、I C T 活用について協議を行う際には、「1－2 ①②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 ・I C T 活用工事（法面工）積算要領	※ICT 活用による加点は最大 2 点の加点とする (1) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案により I C T 活用施工（1－2 ①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点は行わない。 4. I C T 活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に I C T 施工技術を導入し、~~I C T 施工技術~~を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T 施工技術の活用を実施するにあたって、別途発出されている「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」及び各種「出来形管理の監督・検査要領（案）」に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 発注者は、受注者が 3 次元設計データ作成に必要な詳細設計において作成した C A D データを受注者に貸与するほか、I C T 施工技術を活用する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~（1）I C T 活用工事の導入初期段階においては、従来基準による 2 次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「3 次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ ~~（2）発注者は、詳細設計において、I C T 活用施工に必要な 3 次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T 活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。~~ ~~なお、貸与する 3 次元設計データに 3 次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「貸与する 3 次元設計データと 3 次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ 4－3 工事費の積算 (1) 施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案により I C T 施工技術を活用する場合、I C T 施工技術を活用する項目については、各段階を設計変更の対象とし、以下に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 なお、I C T 活用について協議を行う際には、「1－2 ①②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 ・I C T 活用工事（法面工）積算要領
---	---

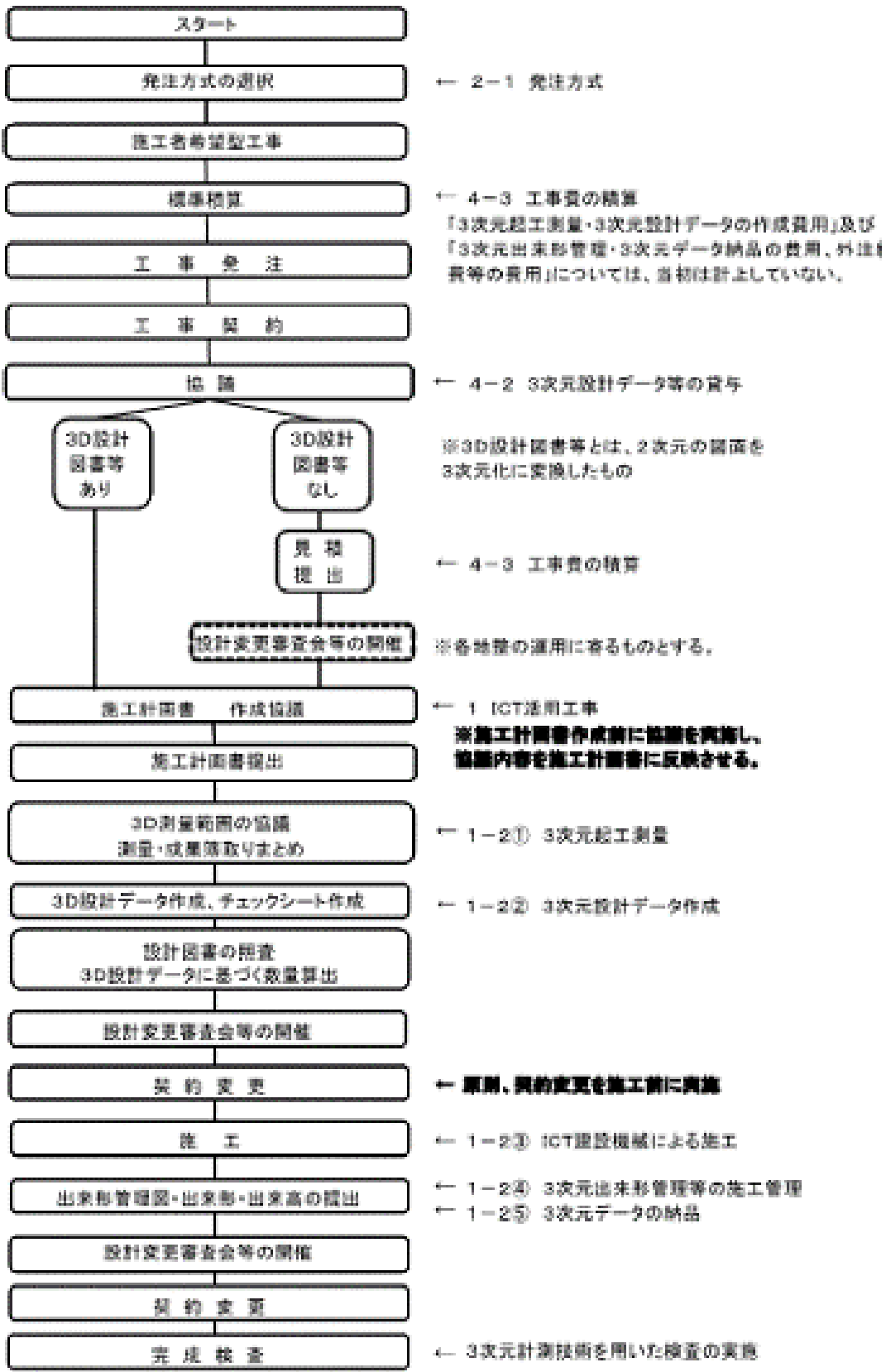
また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－３６「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 ４－４　ＩＣＴ監督・検査体制の構築 　　ＩＣＴ活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 ４－５　現場見学会・講習会の実施 　　ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 　　また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。 ５．地方整備局等におけるＩＣＴ活用工事に関する調査等 　　ＩＣＴ活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。 ５－１　発注見通しの調査（母集団調査）（提出様式は別途指示） 　　ＩＣＴ活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、対象工事の概要等を本省へ報告するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。 　　なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、１－４、２－１で定める工事とする。 ５－２　ＩＣＴ活用工事の活用実績の報告（提出様式は別途指示） 　　母集団調査とともにＩＣＴ活用工事を活用する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。 ５－３　施工合理化調査 　　施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。 ６．ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示） ６－１　対象工事の選定 <table><tr><th>調査名</th><th>目的</th><th>対象工事</th><th>対象者</th></tr><tr><td>ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査</td><td>活用目的等の把握</td><td>ＩＣＴ活用施工を行った、全てのＩＣＴ活用工事</td><td>受注者</td></tr></table> １）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等におい	調査名	目的	対象工事	対象者	ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	ＩＣＴ活用施工を行った、全てのＩＣＴ活用工事	受注者	また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－３４「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 ４－４　ＩＣＴ監督・検査体制の構築 　　ＩＣＴ施工技術の活用における監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ施工技術の活用に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 ４－５　現場見学会・講習会の実施 　　ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 　　また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。 ５．地方整備局等におけるＩＣＴ活用工事に関する調査等 　　ＩＣＴ活用工事の発注見通し、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。 ５－１　発注見通しの調査（母集団調査）~~（提出様式は別途指示）~~ 　　ＩＣＴ活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、対象工事の概要等を本省へ報告するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。 　　なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、１－４、２－１で定める工事とする。 ５－２　ＩＣＴ活用工事の活用実績の報告（~~提出様式は~~別途指示） 　　母集団調査とともにＩＣＴ活用工事の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示するものとする。 ５－３　施工合理化調査 　　施工合理化調査を実施する場合は別途指示する。 ６．ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示） ６－１　対象工事の選定 <table><tr><th>調査名</th><th>目的</th><th>対象工事</th><th>対象者</th></tr><tr><td>ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査</td><td>活用目的等の把握</td><td>~~ＩＣＴ活用施工を行った、~~全てのＩＣＴ活用工事</td><td>受注者</td></tr></table> １）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等におい	調査名	目的	対象工事	対象者	ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	~~ＩＣＴ活用施工を行った、~~ 全てのＩＣＴ活用工事	受注者
調査名	目的	対象工事	対象者														
ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	ＩＣＴ活用施工を行った、全てのＩＣＴ活用工事	受注者														
調査名	目的	対象工事	対象者														
ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	~~ＩＣＴ活用施工を行った、~~ 全てのＩＣＴ活用工事	受注者														

て、独自の調査を追加して実施しても構わない。 2) 施工者希望Ⅱ型で実施する。 6－2 調査票の回収について 受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。	て、独自の調査を追加して実施しても構わない。 ~~2) 施工者希望Ⅱ型で実施する。~~ 6－2 調査票の回収について 受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。
---	--

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



R 6 室長通知 別紙― 1 0 I C T活用工事（法面工）積算要領	R 7 室長通知 別紙― 1 1 I C T活用工事（法面工）積算要領
別紙― 1 0	別紙― 1 1
I C T活用工事（法面工）積算要領	I C T活用工事（法面工）積算要領
1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した法面工に適用する。	1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した法面工に適用する。
2. 適用工種 ○法面工 モルタル吹付 コンクリート吹付 機械播種施工による植生工（植生基材吹付，客土吹付，種子散布） 人力施工による植生工（植生マット，植生シート，植生筋，筋芝，張芝） 現場吹付法枠工 落石雪害防止工	2. 適用工種 ○法面工 モルタル吹付 コンクリート吹付 機械播種施工による植生工（植生基材吹付，客土吹付，種子散布） 人力施工による植生工（植生マット，植生シート，植生筋，筋芝，張芝） 現場吹付法枠工 落石雪害防止工 なお、上記以外の工種においても、I C T施工技術を活用できる場合は、I C T活用工事としてもよい。
4. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。	3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。
5. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 （1）3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。ただし、法面工（I C T）と同時に実施する土工（I C T）において補正係数を乗じる場合は適用しない。	4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 （1）出来形管理の計測範囲において、面的に座標を取得し、ソフトウェア上で面の法長・高さ等の出来形管理を実施し、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、3次元データ納品を行った場合、標記費用の対象とする。 費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。 また、受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。ただし、法面工（I C T）と同時に実施する土工（I C T）等他工種において補正係数を乗じる場合は適用しない。

 ・ 共通仮設費率補正係数 ： 1.2 ・ 現場管理費率補正係数 ： 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)～5)とし、I C T活用工事（法面工）実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、変更の対象としない。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理（現場吹付法枠工は除く） 5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 （2）費用計上にあたっての留意事項 1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が（1）で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。	 ・ 共通仮設費率補正係数 ： 1.2 ・ 現場管理費率補正係数 ： 1.1 ※~~小数点第3位四捨五入2位止め~~ 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)～~~4~~)とし、~~それ以外~~の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、変更の対象としない。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた~~出来形管理~~ 2) 地上型レーザースキャナーを用いた~~出来形管理~~ 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた~~出来形管理~~ 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた<del>出来形管理</del>~~（現場吹付法枠工は除く）~~ ~~5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ （2）費用計上にあたっての留意事項 1) 「~~3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用~~」については、当初は計上しない。 2) 受注者からの見積又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。 ①補正係数を乗じて算出される金額を計上する場合 ・ 補正係数を乗じて算出される金額<受注者からの見積による金額 ②受注者からの見積による金額を計上する場合 ・ 補正係数を乗じて算出される金額>受注者からの見積による金額 5. ~~施工箇所が点在する I C T活用工事の積算について~~ ~~施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。~~
---	--

R 6 室長通知 別紙― 1 3 I C T活用工事（擁壁工）実施要領	R 7 室長通知 別紙― 1 2 I C T活用工事（擁壁工）実施要領
別紙― 1 3	別紙― 1 2
I C T活用工事 （擁壁工）実施要領	I C T活用工事 （擁壁工）実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1－1 概要	1－1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセス全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1－2 I C T活用工事における擁壁工	1－2 I C T活用工事における擁壁工
次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（擁壁工）とする。 また、「I C T擁壁工」という略称を用いることがある。	次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（擁壁工）とする。 また、「I C T擁壁工」という略称を用いることがある。
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ 該当無し	③ 該当無し
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1－3 I C T施工技術の具体的内容	1－3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表― 1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表― 1 によるものとする。 ものとし、関連要領等については、最新のものを適用するものとする。 関連要領等： https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記 1）～ 8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。	起工測量において、3次元測量データを取得するため、以下下記 1）～ 7-8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。
起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。	起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。
また、擁壁工の関連施工として I C T土工が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、I C T活用とする。	また、擁壁工の関連施工として I C T土工等が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、I C T活用工事とする。
I C T土工等の起工測量データ等を活用することができる。	~~I C T土工等の起工測量データ等を活用することができる。~~
1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
5）T S等光波方式を用いた起工測量	5）T S等光波方式を用いた起工測量
6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量	6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量
7）R T K－G N S Sを用いた起工測量	7）R T K－G N S Sを用いた起工測量
8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量	~~8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~

② 3次元設計データ作成 1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 3次元設計データ作成はICT土工と合わせて行うが、ICT擁壁工の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 ③ ICT建設機械による施工 擁壁工においては該当無し ④ 3次元出来形管理等の施工管理 擁壁工の施工管理において、下記に示す方法により出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 下記1）～8）の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5）TS等光波方式を用いた出来形管理 6）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7）RTK-GNSSを用いた出来形管理 8）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により1）～8）のICTを用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員との協議する （2）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記（1）で定める計測技術を用い下記1）の出来形管理要領による。 1）3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） （3）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。	② 3次元設計データ作成 1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ~~3~~3次元設計データ作成はICT土工等と合わせて行うが、ICT擁壁工の施工管理においては、~~3~~3次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 ③ ICT建設機械による施工 擁壁工においては該当無し ④ 3次元出来形管理等の施工管理 擁壁工の施工管理において、~~下記以下~~に示す方法により出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 ~~下記1）～8）の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。~~ 擁壁工の施工管理において、以下1）～7）の技術から選択（複数以上可）して、出来形管理を実施するものとする。 また、以下1）～4）の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5）TS等光波方式を用いた出来形管理 6）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7）RTK-GNSSを用いた出来形管理 ~~8）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により上記1）～7-8）のICT施工技術を用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、監督職員と協議の上、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなどして、~~他の計測技術による~~出来形管理を行っても良いものとする。~~ものとし監督職員との協議する~~ （2）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記（1）で定める計測技術を用い~~下記以下~~1）の出来形管理要領による。 1）3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） （3）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の~~3~~3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の~~3~~3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。
---	---

⑤ 3次元データの納品
1－3④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

《表－1 I C T施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量／ 3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、③、⑪ ⑫、⑬	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、④、⑭	
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形計測 技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑥	
	TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑦	
	RTK－GNSSを用いた起工測量／出来形計測技 術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用い た起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑨	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用い た起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑩	
	3次元計測技術を用いた出来形計測	出来形計測	－	○	○	②、⑤	

【凡例】○：適用可能 ー：適用外

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）土工編
	②	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）法面工編
	③	空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	④	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑤	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領（案）
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑦	TS（ノンプリ）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑧	RTK－GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑨	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑩	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑪	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	⑫	公共測量における UAV の使用に関する安全基準－国土地理院
	⑬	UAV を用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院
	⑭	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院

⑤ 3次元データの納品
1－3①②④によりり作成した3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

《表－1 I C T施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量／ 3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、③、⑪ ⑫、⑬	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、④、⑭	
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形計測 技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑥	
	TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑦	
	RTK－GNSSを用いた起工測量／出来形計測技 術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用い た起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑨	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用い た起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑩	
	3次元計測技術を用いた出来形計測	出来形計測	－	○	○	②、⑤	

【凡例】○：適用可能 ー：適用外

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）土工編
	②	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）法面工編
	③	空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	④	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑤	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領（案）
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑦	TS（ノンプリ）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑧	RTK－GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑨	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑩	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑪	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	⑫	公共測量における UAV の使用に関する安全基準－国土地理院
	⑬	UAV を用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院
	⑭	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院

1－4 I C T活用工事の対象工事 I C T活用工事の対象工事（発注工種）は、「一般土木工事」、「擁壁工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。 (1) 対象工種 I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。 1) 擁壁工 (2) 適用対象外 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 (3) 対象規模 I C T活用工事（擁壁工）の対象規模は、1－4（１）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2. I C T活用工事の実施方法 2－1 発注方式 I C T活用工事の発注は、施工者希望Ⅱ型とするが、工事内容及び地域における I C T施工機器の普及状況等を勘案し決定する。 (1) 施工者希望Ⅱ型 I C T擁壁工の対象工種が含まれる、発注者が設定した対象工種に適用する。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 (1) 施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例	1－4 I C T活用工事の対象工事 I C T活用工事の対象工事（発注工種）は、「一般土木工事」、「擁壁工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、下記以下（１）～（３）に該当する工事とする。 (1) 対象工種 I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記以下の工種とする。 1) 擁壁工 (2) 適用対象外 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 (3) 対象規模 I C T活用工事（擁壁工）の対象規模は、1－4（１）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2. I C T活用工事の実施方法 2－1 発注方式 I C T活用工事の発注は、~~施工者希望Ⅱ型とするが、工事内容及び地域における I C T施工機器の普及状況等を以下~~によるものとするが、I C T施工技術の活用が困難な場合及び I C T施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など工事内容及び現場条件等を勘案し決定する。 (1) 施工者希望Ⅱ型 ~~I C T擁壁工の対象工種が含まれる、発注者が設定した対象工種に適用する。~~ 1－4（１）に示す対象工種に該当する工種については、施工者希望Ⅱ型での発注を原則とする。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 (1) 施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例
--	--

(記載例) 【メモ：擁壁工を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。	(記載例) 【メモ：擁壁工を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。
【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：擁壁工を含む一般土木工事の場合は、（番号）工事の実施形態に下記を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 （番号）工事の実施形態 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にI C T活用施工を行うことができる。 本工事におけるI C T活用施工は、①に示す3次元起工測量と3次元設計データの作成を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品することをいう。 なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3次元起工測量 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) T S等光波方式を用いた起工測量 6) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 7) R T K－G N S Sを用いた起工測量 8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量	【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：擁壁工を含む一般土木工事の場合は、（番号）工事の実施形態に下記以下を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 （番号）工事の実施形態 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にI C T施工技術の活用施工を行うことができる。 本工事におけるI C T施工技術の活用施工は、以下の①②④⑤の段階でI C T施工技術を活用することをいう。~~に示す3次元起工測量と3次元設計データの作成を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品することをいう。~~ なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ~~① 3次元起工測量~~ ~~1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量~~ ~~2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~5) T S等光波方式を用いた起工測量~~ ~~6) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量~~ ~~7) R T K－G N S Sを用いた起工測量~~ ~~8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成

『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号）ＩＣＴ活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、ＩＣＴ活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	③該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データ納品 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号）ＩＣＴ施工技術の活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、ＩＣＴ施工技術の活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。
【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3次元データを活用する ＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２． 定義 （１）i-Construction とは、ＩＣＴの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けて ＩＣＴを活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２） ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、 ＩＣＴを全面的に活用する工事である。また、次の①②④⑤の段階で ＩＣＴ施工技術を活用することを ＩＣＴ活用工事という。 対象は、擁壁工等を含む一般土木工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 ３． 受注者は、 ＩＣＴ活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記 4～9により ＩＣＴ活用施工を行うことができる。 ４． 原則、本工事においては上記①②④⑤の段階で ＩＣＴ施工技術を活用することとする。 擁壁工等について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を	【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3次元データを活用する ＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２． 定義 （１）i-Construction とは、ＩＣＴ施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けて ＩＣＴ施工技術を活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２） ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの平記以下段階において、 ＩＣＴ施工技術を全面的に活用する工事である。また、以下の次の①②④⑤の段階で ＩＣＴ施工技術を活用することを ＩＣＴ活用工事という。 対象は、擁壁工等を含む一般土木工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 ３． 受注者は、 ＩＣＴ施工技術の活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に平記以下 4～~~9~~8により ＩＣＴ施工技術の活用施工を行うことができる。 ４． 原則、本工事においては上記①②④⑤の段階で ＩＣＴ施工技術を活用することとする。

明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 5. ICTを用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1)～8)から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 但し、擁壁工等の関連施工としてICT土工が行われる場合、その起工測量データを活用することができるものとし、ICT活用とする。なお、監督職員と協議する。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) TS等光波方式を用いた起工測量 6) TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 7) RTK-GNSSを用いた起工測量 8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や5. ①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 擁壁工等の施工管理において、下記1)～8)の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5) TS等光波方式を用いた出来形管理 6) TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7) RTK-GNSSを用いた出来形管理 8) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係によりICTを用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合においては、写	擁壁工等について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 5. ICT~~施工技術~~を用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、~~以下平記~~1)～~~7-8)~~から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 但し、擁壁工等の関連施工としてICT土工~~等~~が行われる場合、~~監督職員との協議の上、~~その起工測量データを活用することができるものとし、ICT活用~~工事~~とする。 ~~なお、監督職員と協議する。~~ 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) TS等光波方式を用いた起工測量 6) TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 7) RTK-GNSSを用いた起工測量 ~~8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ ② 3次元設計データ作成 受注者は、~~設計図書や~~5. ①で得られた~~測量データと、~~発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ~~3次元設計データ作成はICT土工等と併せて行うが、ICT擁壁工の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必要としない。~~ ~~なお、ICT擁壁工の3次元設計データとは、3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）（擁壁工編）で定義する擁壁工設計データのことを言う。~~ ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 ~~擁壁工等の施工管理において、下記1)～8)の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。~~ ~~また、以下1)～4)の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。~~ ~~擁壁工等の施工管理において、下記1)～8)の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。~~ 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ~~5) TS等光波方式を用いた出来形管理~~ ~~6) TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理~~
---	--

真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員との協議する (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い下記1)の出来形管理要領による 1) 3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測(管理)すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として納品する。 6. 上記5. ①②④⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使	7) RTK-GNSSを用いた出来形管理 ~~8) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により上記1)～7)のICT施工技術を用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合においては、監督職員と協議の上、写真・画像データ等と併用するなど、~~他の計測技術による~~出来形管理を行っても良いものとする。~~ものとし監督職員との協議する~~ 【メモ:条件明示として実施した出来形管理及び3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】 【変更特記記載例】 (3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合) 本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。(している。) 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 (実施する(した)出来形管理を具体的に掲載する。) (3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合) 本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については計上していない。 5) TS等光波方式を用いた出来形管理 6) TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 7) RTK-GNSSを用いた出来形管理 (実施する(した)出来形管理を具体的に掲載する。) (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い~~下記~~以下1)の出来形管理要領によるものとする。 1) 3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測(管理)すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 5. ①②④により作成した確認された3次元施工管理データを工事完成図書として納品する。 6. 上記5. ①②④の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達するこ
--	--

用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、３次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したＣＡＤデータを受注者に貸与する。また、ＩＣＴ活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ７．上記５．①②④⑤で使用するＩＣＴ機器に入力した３次元設計データを監督職員に提出すること。 ８．土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 ９．受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 １０．本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について １．図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の費用について 【施工者希望型工事の場合】 １　受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。 ・ＩＣＴ活用工事（擁壁工）積算要領 ただし、３次元起工測量、３次元設計データの作成並びに３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、「３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、官積算と見積額を比較し、官積算額を上限に計上するものとする。 また、受注者からの見積りの提出がない場合は、「３次元出来形管理・３次元データの納品の費用、外注経費等の費用」は計上しないものとする。	と。また、施工に必要な~~ＩＣＴ活用~~施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、３次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したＣＡＤデータを受注者に貸与する。また、ＩＣＴ~~活用施工技術の活用~~を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ７．~~上記５．①②④⑤で使用するＩＣＴ機器に入力した３次元設計データを監督職員に提出すること。~~ ~~８．土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。~~ ~~９．受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ ８．~~１０．~~本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について １．図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の費用について 【施工者希望型工事の場合】 １　受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ~~活用施工技術を活用実施~~する項目については、~~以下の積算要領に基づき以下の（１）（２）により費用を計上することとする。各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。~~ ・ＩＣＴ活用工事（擁壁工）積算要領 ~~ただし、３次元起工測量、３次元設計データの作成並びに３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。~~ ~~なお、「３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、官積算と見積額を比較し、官積算額を上限に計上するものとする。~~ ~~また、受注者からの見積りの提出がない場合は、「３次元出来形管理・３次元データの納品の費用、外注経費等の費用」は計上しないものとする。~~ （１）３次元起工測量・３次元設計データの作成費用 ３次元起工測量・３次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は
---	--

2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用施工を行った、全てのICT活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 (2) 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 出来形管理の計測範囲において、面的に座標を取得し、ソフトウェア上で面の法長・高さ等の出来形管理を実施し、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、3次元データ納品を行った場合、標記費用の対象とする。 費用の計上方法については、受注者より提出された見積りにより費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正の補正係数を乗じるものとする。 なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者からの見積りにより算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする。 また、受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。ただし、擁壁工（ICT）と同時に実施する土工（ICT）等他工種において補正係数を乗じる場合は適用しない。 ・共通仮設費率補正係数：1.2 ・現場管理費率補正係数：1.1 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～4）とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 なお、以下の5）～7）による出来形管理を実施した場合は、「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、計上しない。 5）TS等光波方式を用いた出来形管理 6）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7）RTK-GNSSを用いた出来形管理 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用~~工事施工~~を行った、~~全てのICT活用工事の~~施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。
--	--

3. I C T活用工事実施の推進のための措置 3－1 工事成績評価における措置 I C T活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの①②④⑤の段階で ICT を活用した工事。 ※本項目は2点の加点とする。 ※ICT活用による加点は最大2点の加点とする （1）施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案により I C T活用施工（1－2①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評価における減点は行わない。 4. I C T活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に I C T活用施工を導入し、I C T施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表1【要領一覧】）に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 （1）I C T活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事で変更計上するものとする。 （2）発注者は、詳細設計において、I C T活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事で変更計上するものとする。	3. I C T活用工事実施の~~推進のための~~措置 3－1 工事成績評価における措置 I C T活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの①②④⑤の段階で ICT を活用した工事。 ※本項目は2点の加点とする。 ※ICT活用による加点は最大2点の加点とする （1）施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案により I C T活用施工（1－2①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評価における減点は行わない。 4. I C T活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に I C T活用施工を導入し、I C T施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T~~活用~~施工~~技術の活用~~を実施するにあたって、別途発出されている~~施工管理要領、監督検査要領（表1【要領一覧】）~~「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」及び各種「出来形管理の監督・検査要領（案）」に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 ~~（1）I C T活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事で変更計上するものとする。~~ ~~（2）発注者は、詳細設計において、I C T活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事で変更計上するものとする。~~ 発注者は、3次元設計データ作成に必要な詳細設計において作成したC A Dデータを受注者に貸与する。ほか、I C T施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に
---	--

4－3 工事費の積算 （１）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりＩＣＴ活用施工を実施する場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記１）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（擁壁工）積算要領 なお、ＩＣＴ活用について協議を行う際には、「１－２①②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－３６「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－4 ＩＣＴ監督・検査体制の構築 ＩＣＴ活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5 現場見学会・講習会の実施 ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。 5. 地方整備局等におけるＩＣＴ活用工事に関する調査等 ＩＣＴ活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。 5－1 発注見通しの調査（母集団調査）（提出様式は別途指示） ＩＣＴ活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、対象工事の概要等を本省へ報告するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。 なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、１－~~4~~、２－１で定める工事とする。	受注者に貸与するものとする。 4－3 工事費の積算 （１）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりＩＣＴ~~施工技術活用施工~~を実施する場合、ＩＣＴ~~施工技術活用施工~~を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、~~下記以下~~１）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（擁壁工）積算要領 なお、ＩＣＴ活用について協議を行う際には、「１－２①②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－~~34-3-6~~「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－4 ＩＣＴ監督・検査体制の構築 ＩＣＴ~~施工技術における活用施工~~の監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ~~施工技術の活用施工~~に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5 現場見学会・講習会の実施 ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。 5. 地方整備局等におけるＩＣＴ活用工事に関する調査等 ＩＣＴ活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。 5－1 発注見通しの調査（母集団調査）~~（提出様式は別途指示）~~ ＩＣＴ活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施~~し、対象工事の概要等を本省へ報告~~するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。 なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、１－４、２－１で定める工事とする。
---	---

5－2　I C T活用工事の活用実績の報告（提出様式は別途指示）

母集団調査とともにI C T活用工事を活用する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。

5－3　施工合理化調査

施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

6．I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1　対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	I C T活用施工を行った、全てのI C T活用工事	受注者

1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

2）施工者希望Ⅱ型で実施する。

6－2　調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

5－2　I C T活用工事の活用実績の報告（~~提出様式は~~別途指示）

~~母集団調査とともにI C T活用工事の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示するものとする。を活用する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。~~

5－3　施工合理化調査

施工合理化調査を実施する場合は。~~なお、内容はその都度、~~別途指示する。

6．I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1　対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	~~I C T活用施工を行った、~~ 全てのI C T活用工事	受注者

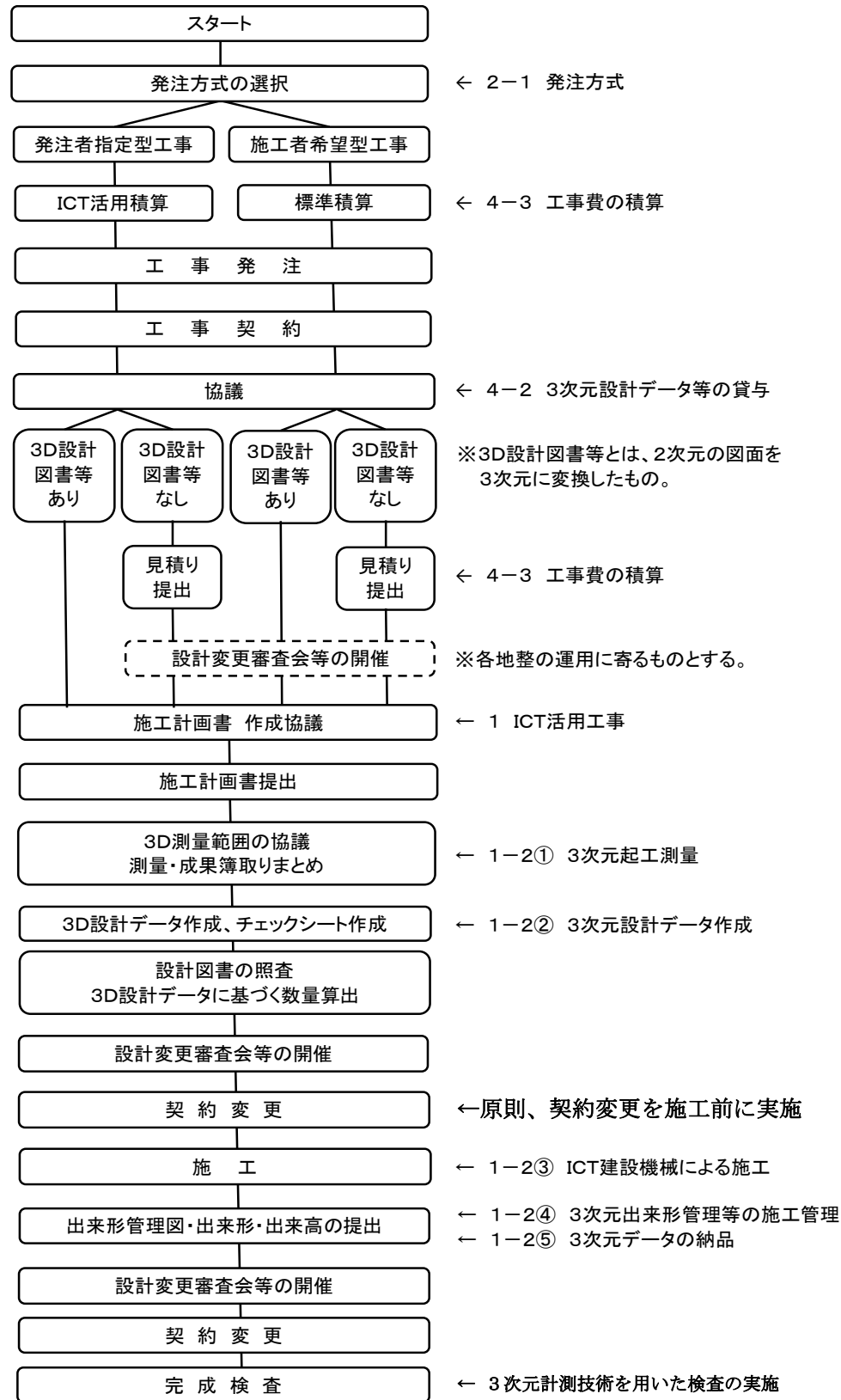
1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

~~2）施工者希望Ⅱ型で実施する。~~

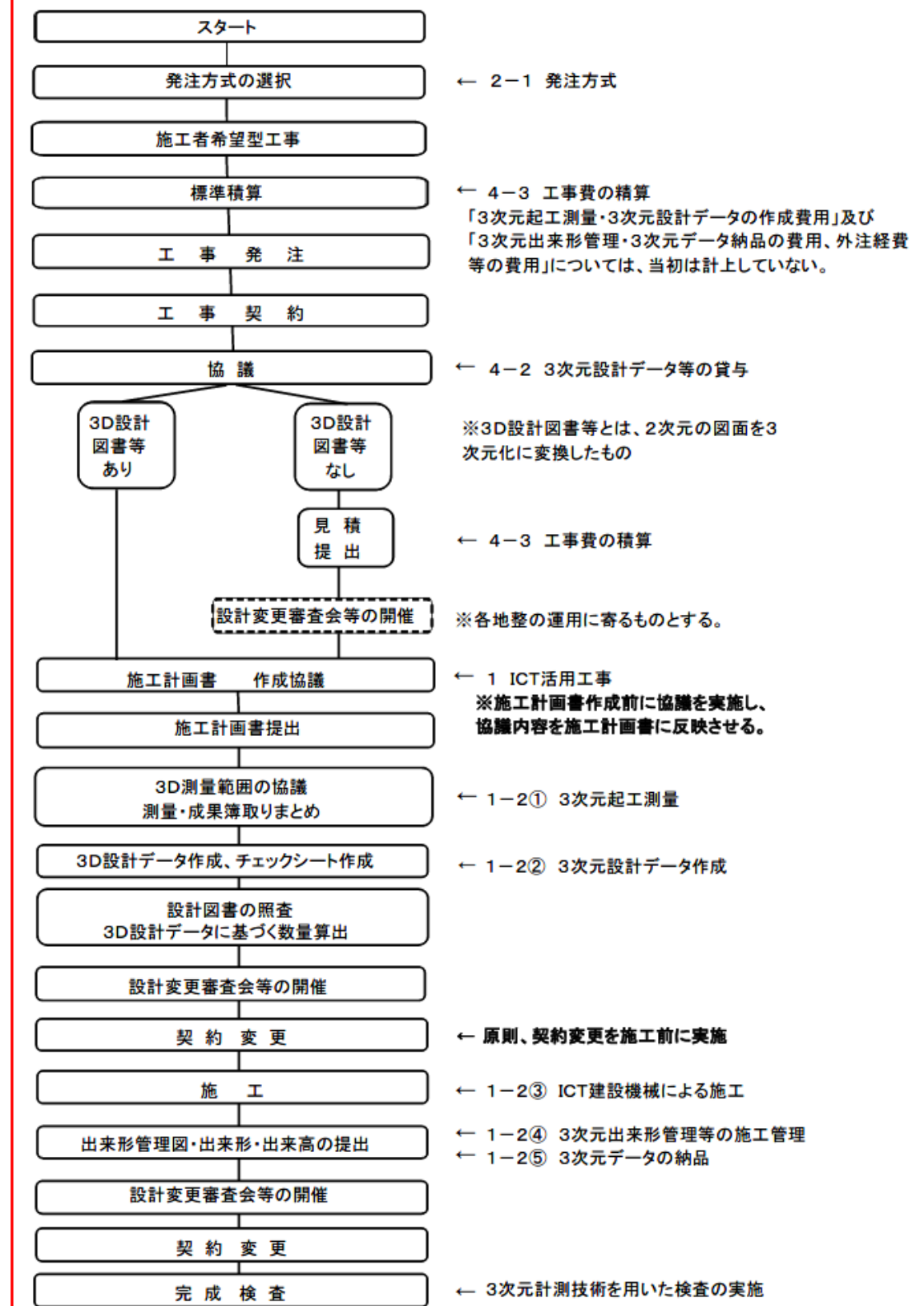
6－2　調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



R 6 室長通知 別紙― 1 4 I C T活用工事（擁壁工）積算要領	R 7 室長通知 別紙― 1 3 I C T活用工事（擁壁工）積算要領
別紙― 1 4	別紙― 1 3
I C T活用工事（擁壁工）積算要領	I C T活用工事（擁壁工）積算要領
1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した擁壁工（以下、擁壁工（I C T））に適用する。	1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した擁壁工（以下、擁壁工（I C T））に適用する。
2. 適用工種 擁壁工	2. 適用工種 擁壁工
3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。	3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。
4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)～5)とし、それ以外の、I C T活用工事（擁壁工）実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 5) 上記1)～4)に類似する3次元計測技術を用いた出来形管理	4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) ~~3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理の計測範囲において、面的に座標を取得し、ソフトウェア上で面の法長・高さ等の出来形管理を実施し、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、3次元データ納品を行った場合、標記費用の対象とする。及び3次元データ納品を行う場合における~~ 費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。 また、受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。ただし、擁壁工（I C T）と同時に実施する土工（I C T）等他工種において補正係数を乗じる場合は適用しない。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※ ~~小数点第3位四捨五入2位止め~~ 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)～ ~~4.5)~~ とし、それ以外の ~~の、I C T活用工事（擁壁工）実施要領に示すその他の~~ 出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理

(2) 費用計上にあたっての留意事項 1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。	3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理 ~~5) 上記1)～4)に類似する3次元計測技術を用いた出来形管理~~ (2) 費用計上にあたっての留意事項 ~~1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。~~ ~~2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。~~ 1) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上しない。 2) 受注者からの見積又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。 ①補正係数を乗じて算出される金額を計上する場合 ・補正係数を乗じて算出される金額<受注者からの見積による金額 ②受注者からの見積による金額を計上する場合 ・補正係数を乗じて算出される金額>受注者からの見積による金額 5. 施工箇所が点在するICT活用工事の積算について 施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。
---	--

R 6 室長通知 別紙－1 5 I C T活用工事（地盤改良工）実施要領	R 7 室長通知 別紙－1 4 I C T活用工事（地盤改良工）実施要領
別紙－1 5	別紙－1 4
I C T活用工事（地盤改良工）実施要領	I C T活用工事（地盤改良工）実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1－1 概要	1－1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセス全ての段階において、以下に示すI C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示すI C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1－2 I C T活用工事における地盤改良工	1－2 I C T活用工事における地盤改良工
次の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事（地盤改良工）とする。 また、「I C T地盤改良工」という略称を用いることがある。	次の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事（地盤改良工）とする。 また、「I C T地盤改良工」という略称を用いることがある。
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ I C T建設機械による施工	③ I C T建設機械による施工
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1－3 I C T施工技術の具体的内容	1－3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表－1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤によるものとし、関連要領等については、最新のものを適用するものとする。 関連要領等： https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html ~~及び表－1によるものとする。~~
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記1）～8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもI C T活用工事とする。 また、地盤改良の関連施工としてI C T土工が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、I C T活用とする。	起工測量において、3次元測量データを取得するため、以下平記1）～7-8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもI C T活用工事とする。 また、地盤改良の関連施工としてI C T土工が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、I C T活用工事とする。
1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
5）T S等光波方式を用いた起工測量	5）T S等光波方式を用いた起工測量
6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量	6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量
7）R T K－G N S Sを用いた起工測量	7）R T K－G N S Sを用いた起工測量
8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量	~~8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成

1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 なお、I C T地盤改良工の3次元設計データとは、「施工履歴データを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(固結工(スラリー攪拌工)編)」で定義する地盤改良設計データのことを言う。 ③ I C T建設機械による施工 1－3②で作成した3次元設計データを用い、下記1) 2) に示すI C T建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。 1) 3次元MG機能を持つ地盤改良機 2) 3次元MCまたは3次元MG建設機械 ※MC:「マシンコントロール」の略称、MG:「マシンガイダンス」の略称 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 1－3③による工事の施工管理において、下記に示す方法により、出来形管理を実施する。 (1) 出来形管理 下記1) を用いて、出来形管理を行うものとする。 1) 施工履歴データを用いた出来形管理 ⑤ 3次元データの納品 1－3④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。	1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 なお、I C T地盤改良工の3次元設計データとは、「施工履歴データを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(固結工(スラリー攪拌工)編)」で定義する地盤改良設計データのことを言う。 ③ I C T建設機械による施工 1－3②で作成した3次元設計データを用い、平記以下1) 2) に示すI C T建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。 なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則(令和5年3月31日 国土交通省告示第250号)付録1 測量機器検定基準2－6の性能における検定基準を満たすこと。 1) 3次元MG機能を持つ地盤改良機 2) 3次元MCまたは3次元MG建設機械 ※MC:「マシンコントロール」の略称、MG:「マシンガイダンス」の略称 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、地盤改良を実施する。 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 1－3③による工事の施工管理において、平記以下に示す方法により、出来形管理を実施する。 また、受注者は地盤改良の出来形管理について施工履歴データにより行うこととするが、改良土を盛立など履歴データによる管理が非効率となる部分について監督職員との協議の上、従来手法による出来形管理を行っても良いものとする。 (1) 出来形管理 平記以下1) を用いて、出来形管理を行うものとする。 1) 施工履歴データを用いた出来形管理 ⑤ 3次元データの納品 1－3①②④により作成したる3次元施工管理データを—工事完成図書として電子納品する。
---	---

《表－1　I C T施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査	備考
				新設	修繕	施工管理	
3次元起工測量 ／3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、④、⑬、 ⑭、⑮	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑤、⑯	
	TS等光波方式を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑥	
	TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑦	
	RTK-GNSSを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑨、⑬、 ⑭	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑩	
	施工履歴データを用いた出来形管理技術	出来形計測 出来形管理	－	○	○	②、③、⑪、 ⑫	地盤改良工
ICT建設機械 による施工	3次元マシンコントロール技術 3次元マシンガイダンス技術	地盤改良	ICT 建設機械	○	○	－	

【凡例】○：適用可能　－：適用外

~~《表－1　I C T施工技術と適用工種》~~

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査	備考
				新設	修繕	施工管理	
3次元 ／3次元 等	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、④、⑬、 ⑭、⑮	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）						
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	○	①、⑩	
	施工履歴データを用いた出来形管理技術	出来形計測 出来形管理	－	○	○	②、③、⑪、 ⑫	地盤改良工
ICT建設機械 による施工	3次元マシンコントロール技術 3次元マシンガイダンス技術	地盤改良	ICT 建設機械	○	○	－	

~~【凡例】○：適用可能　－：適用外~~

2. ICT活用工事の実施方法

2-1 発注方式

ICT活用工事の発注は、施工者希望Ⅱ型とするが、工事内容及び地域におけるICT施工機器の普及状況等を勘案し決定する。

※「そのほか」

ICT活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、ICT活用工事として事後設定できるものとし、ICT活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする

2-2 発注における入札公告等

入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。
なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。

(1) 施工者希望Ⅱ型

【入札公告】記載例

(記載例)

【メモ：地盤改良工を含む一般土木工事の場合は、(番号)を追記】

『1 工事概要』に以下を追記する。

(番号) 本工事は、国土交通省が提唱するi-Constructionに基づき、ICTの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するICT活用工事(施工者希望Ⅱ型)の対象工事である。

【入札説明書】記載例

(記載例)

【メモ：地盤改良工を含む一般土木工事の場合は、(番号)工事の実施形態に下記を追記】

『(番号) 工事概要』に以下を記載

1 (番号) 工事の実施形態

(番号) 本工事は、国土交通省が提唱するi-Constructionに基づき、ICTの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI

2. ICT活用工事の実施方法

2-1 発注方式

ICT活用工事の発注は、以下によるものとするが、ICT施工技術の活用が困難な場合及びICT施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など工事内容及び現場条件等を施工者希望Ⅱ型とするが、工事内容及び地域におけるICT施工機器の普及状況等を勘案し決定する。

(1) 施工者希望Ⅱ型

1-4(1)に示す対象工種に該当する工種については、施工者希望Ⅱ型での発注を原則とする。

※「そのほか」

ICT活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、ICT活用工事として事後設定できるものとし、ICT活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする

2-2 発注における入札公告等

入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。
なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。

(1) 施工者希望Ⅱ型

【入札公告】記載例

(記載例)

【メモ：地盤改良工を含む一般土木工事の場合は、(番号)を追記】

『1 工事概要』に以下を追記する。

(番号) 本工事は、国土交通省が提唱するi-Constructionに基づき、ICT施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するICT活用工事(施工者希望Ⅱ型)の対象工事である。

【入札説明書】記載例

(記載例)

【メモ：地盤改良工を含む一般土木工事の場合は、(番号)工事の実施形態に下記以下を追記】

『(番号) 工事概要』に以下を記載

1 (番号) 工事の実施形態

(番号) 本工事は、国土交通省が提唱するi-Constructionに基づき、ICT施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活

C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に I C T活用施工を行うことができる。 本工事における I C T活用施工は、下記に示す I C T建設機械を用いた施工を行い、I C Tを用いた 3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた 3次元データを納品することをいう。 なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ・ I C T建設機械 1） 3次元MG機能を持つ地盤改良機 2） 3次元MCまたは3次元MG建設機械 なお、MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号） I C T活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。		用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に I C T活用施工を行うことができる。 本工事における I C T~~施工技術~~の活用~~施工~~は、以下の①～⑤の全ての段階で I C T~~施工技術~~を活用することとし、詳細については特記仕様書によるものとする。但し、現場条件により、以下に示す I C T建設機械による施工が困難となる場合は従来型建設機械による施工を実施しても I C T活用工事とする。~~下記に示す I C T建設機械を用いた施工を行い、I C Tを用いた 3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた 3次元データを納品することをいう。~~ ~~なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。~~ ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データ納品 ・ I C T建設機械 1） 3次元MG機能を持つ地盤改良機 2） 3次元MCまたは3次元MG建設機械 なお、MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号） I C T活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	
【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 I C T活用工事について 1. I C T活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事である。		【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 I C T活用工事について 1. I C T活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T~~施工技術~~の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事である。	

2. 定義 (1) i-Construction とは、I C Tの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてI C Tを活用した工事（I C T活用工事）を実施するものとする。 (2) I C T活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、I C Tを全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事という。 対象は、土工を含む一般土木工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、I C T活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記4～9によりI C T活用施工を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することとし地盤改良工の施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び対象範囲を監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 5. I C Tを用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1）～8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択できる。 また、地盤改良の前施工としてI C T土工が行われる場合、その起工測量データ、施工用データを活用することができるものとし、I C T活用とする。なお、監督職員と協議する。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5）T S等光波方式を用いた起工測量 6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 7）R T K－G N S Sを用いた起工測量 8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や5. ①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。なお、I C T地盤改良工の3次元設計データとは、「施工履歴データを用いた出来形管理要領（表層安定処理等・中層地盤改良工事編）（固	2. 定義 (1) i-Construction とは、I C Tの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてI C T施工技術を活用した工事（I C T活用工事）を実施するものとする。 (2) I C T活用工事とは、施工プロセスの平記以下段階において、I C T施工技術を全面的に活用する工事である。また、次以下の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事という。 対象は、土工を含む一般土木工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、I C T施工技術の活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に平記以下4～9によりI C T施工技術の活用施工を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することとし地盤改良工の施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び対象範囲を監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 5. I C T施工技術を用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、以下平記1）～7-8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択できる。 また、地盤改良の前施工としてI C T土工等が行われる場合、監督職員との協議の上、その起工測量データ、施工用データを活用することができるものとし、I C T活用工事とする。なお、監督職員と協議する。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5）T S等光波方式を用いた起工測量 6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 7）R T K－G N S Sを用いた起工測量 8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ②② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や5. ①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、I C T建設機械による施工、及び3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。なお、I C T地盤改良工の3次元設計データとは、「施工履歴デー
--	---

結工(スラリー攪拌工)編)」で定義する地盤改良設計データのことを言う。 ③ I C T建設機械による施工 5. ②で作成した3次元設計データを用い、下記1) 2) に示すI C T建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。 1) 3次元MG機能を持つ地盤改良機 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、地盤改良を実施する。 2) 3次元MCまたは3次元MG建設機械 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、地盤改良を実施する。 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 5. ③による工事の施工管理において、下記1) の出来形管理行うものとする。 1) 施工履歴データを用いた出来形管理 受注者は地盤改良の出来形管理について施工履歴データにより行うこととするが、改良土を盛立てるなど履歴データによる管理が非効率となる部分について監督職員との協議の上で他の計測技術による出来形管理を行っても良い。ただし改良範囲の施工履歴データは⑤によって納品するものとする。 ⑤ 3次元データの納品 ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。 6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するI C T機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なI C T活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したC A Dデータを受注者に貸与する。また、I C T活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. 上記5. ①～⑤で使用するI C T機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 8. 土木工事施工管理基準(案)に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。		タを用いた出来形管理要領(表層安定処理等・中層地盤改良工事編)(固結工(スラリー攪拌工)編)」で定義する地盤改良設計データのことを言う。 ③ I C T建設機械による施工 5. ②で作成した3次元設計データを用い、平記以下1) 2) に示すI C T建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。 1) 3次元MG機能を持つ地盤改良機※ 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、地盤改良を実施する。 2) 3次元MCまたは3次元MG建設機械※ 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、地盤改良を実施する。 ※MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 5. ③による工事の施工管理において、平記以下1) の出来形管理行うものとする。 1) 施工履歴データを用いた出来形管理 受注者は地盤改良の出来形管理について施工履歴データにより行うこととするが、改良土を盛立てるなど履歴データによる管理が非効率となる部分について監督職員との協議の上、従来手法で他の計測技術による出来形管理を行っても良い。ただし改良範囲の施工履歴データは⑤によって納品するものとする。 ⑤ 3次元データの納品 5. ①②④により作成した確認された3次元施工管理データを、~~工事完成図書として電子納品する。~~ 6. 上記5. ①～④⑤の施工を実施するために使用するI C T機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なI C T活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したC A Dデータを受注者に貸与する。また、I C T施工技術の活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. ~~上記5. ①～⑤で使用するI C T機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ ~~8. 土木工事施工管理基準(案)に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。~~ ~~9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ 8. ~~10.~~ 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。	
---	--	---	--

第〇〇条　ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について 1．図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の費用について 1．受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。 ・ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（安定処理）積算要領 ・ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（中層混合処理）積算要領 ・ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（スラリー攪拌工）積算要領 ・ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（ペーパードレーン工）積算要領 ただし、監督職員の指示に基づき、３次元起工測量を実施するとともに３次元設計データの作成を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。 2．施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査 ＩＣＴ活用施工を行った、全てのＩＣＴ活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	第〇〇条　ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について 1．図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の費用について 1．受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ~~活用~~施工~~技術~~を~~活用実施~~する項目については、~~以下の積算要領に基づき~~各段階を設計変更の対象とする。~~も、下記により計上することとする。~~ ・ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（安定処理）積算要領 ・ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（中層混合処理）積算要領 ・ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（スラリー攪拌工）積算要領 ・ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（ペーパードレーン工）積算要領 ・~~ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（サンドコンパクションパイル工）積算要領~~ （１）~~３次元起工測量・３次元設計データの作成費用~~ ３次元起工測量・３次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「３次元起工測量・３次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、「３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれているため、費用の計上はしないものとする。 ~~ただし、監督職員の指示に基づき、３次元起工測量を実施するとともに３次元設計データの作成を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。~~ 2．施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査 ＩＣＴ活用~~工事施工~~を行った、~~全てのＩＣＴ活用工事の~~施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。
--	---

3. ICT活用工事実施の推進のための措置

3-1 工事成績評価における措置

ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加
点」において該当する項目で評価するものとする。

□ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品
のみは除く）

※本項目は1点の加点とする。

□ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの全ての段階でICTを活用した工事。

※本項目は2点の加点とする。

※ICT活用による加点は最大2点の加点とする

(1) 施工者希望Ⅱ型

工事契約後の受注者からの提案によりICT活用施工（1-2①～⑤の全て）を行うため、実施さ
れなかった場合においても、工事成績評価における減点は行わない。

4. ICT活用工事の導入における留意点

受注者が円滑にICT活用施工を導入し、ICT施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施す
るものとする。

4-1 施工管理、監督・検査の対応

ICT活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表1【要領
一覧】）に則り、監督・検査を実施するものとする。

監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する
場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。

4-2 3次元設計データ等の貸与

(1) ICT活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注する
ことになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設
計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するもの
とする。

(2) 発注者は、詳細設計において、ICT活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受
注者に貸与するほか、ICT活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作
成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。

なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発
注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起
工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上す
るものとする。

3. ICT活用工事実施の推進のための措置

3-1 工事成績評価における措置

ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加
点」において該当する項目で評価するものとする。

□ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品
のみは除く）

※本項目は1点の加点とする。

□ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの全ての段階でICTを活用した工事。

※本項目は2点の加点とする。

※ICT活用による加点は最大2点の加点とする

(1) 施工者希望Ⅱ型

工事契約後の受注者からの提案によりICT活用施工（1-2①～⑤の全て）を行うため、実施さ
れなかった場合においても、工事成績評価における減点は行わない。

4. ICT活用工事の導入における留意点

受注者が円滑にICT活用施工を導入し、ICT施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施す
るものとする。

4-1 施工管理、監督・検査の対応

ICT活用施工技術の活用を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領
（表1【要領一覧】）「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」及び各種「出来形管理の監督・
検査要領（案）」に則り、監督・検査を実施するものとする。

監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する
場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。

4-2 3次元設計データ等の貸与

発注者は、3次元設計データ作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸
与する。ほか、ICT施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成
果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するもの
とする。

（1）ICT活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注する
ことになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設
計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するもの
とする。

（2）発注者は、詳細設計において、ICT活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受
注者に貸与するほか、ICT活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作
成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。

なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発
注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起

4－3 工事費の積算 （１）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりＩＣＴ活用施工を実施する場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記１）～４）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（安定処理）積算要領 ２）ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（中層混合処理）積算要領 ３）ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（スラリー攪拌工）積算要領 ４）ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（ペーパードレーン工）積算要領 なお、ＩＣＴ活用について協議を行う際には、①～④にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－３６「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－4 ＩＣＴ監督・検査体制の構築 ＩＣＴ活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5 現場見学会・講習会の実施 ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。 5. 地方整備局等におけるＩＣＴ活用工事に関する調査等 ＩＣＴ活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。 5－1 発注見通しの調査（母集団調査）（提出様式は別途指示） ＩＣＴ活用工事として、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、対象工事の概要等を本省へ報告するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。 なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、１－４、２－１で定める工事とする。	~~工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ 4－3 工事費の積算 （１）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりＩＣＴ~~施工技術活用施工~~を実施する場合、ＩＣＴ~~施工技術活用施工~~を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、~~下記以下~~１）～~~5-4~~）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（安定処理）積算要領 ２）ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（中層混合処理）積算要領 ３）ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（スラリー攪拌工）積算要領 ４）ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（ペーパードレーン工）積算要領 ~~5）ＩＣＴ活用工事（地盤改良工）（サンドコンパクションパイル工）積算要領~~ なお、ＩＣＴ活用について協議を行う際には、「~~1－2~~①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－~~3-4-3-6~~「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－4 ＩＣＴ監督・検査体制の構築 ＩＣＴ~~施工技術における活用施工~~の監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ~~施工技術の活用工事~~に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5 現場見学会・講習会の実施 ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。 5. 地方整備局等におけるＩＣＴ活用工事に関する調査等 ＩＣＴ活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。 5－1 発注見通しの調査（母集団調査）~~（提出様式は別途指示）~~ ＩＣＴ活用工事として、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施~~し、対象工事の概要等を本省へ報告~~するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。 なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、１－４、２－１で定める工事とする。
---	---

5－2

I C T活用工事の活用実績の報告（提出様式は別途指示）

母集団調査とともに、I C T活用施工を実施する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。

5－3

施工合理化調査

施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

6．

I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1

対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	I C T活用施工を行った、全ての I C T活用工事	受注者

1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

2）施工者希望Ⅱ型で実施する。

6－2

調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

5－2

I C T活用工事の活用実績の報告（~~提出様式は~~別途指示）

~~母集団調査とともに、~~I C T活用工事の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示するものとする。~~施工を実施する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。~~

5－3

施工合理化調査

施工合理化調査を実施する場合は。~~なお、内容はその都度、~~別途指示する。

6．

I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1

対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	~~I C T活用施工を行った、~~ 全ての I C T活用工事	受注者

1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

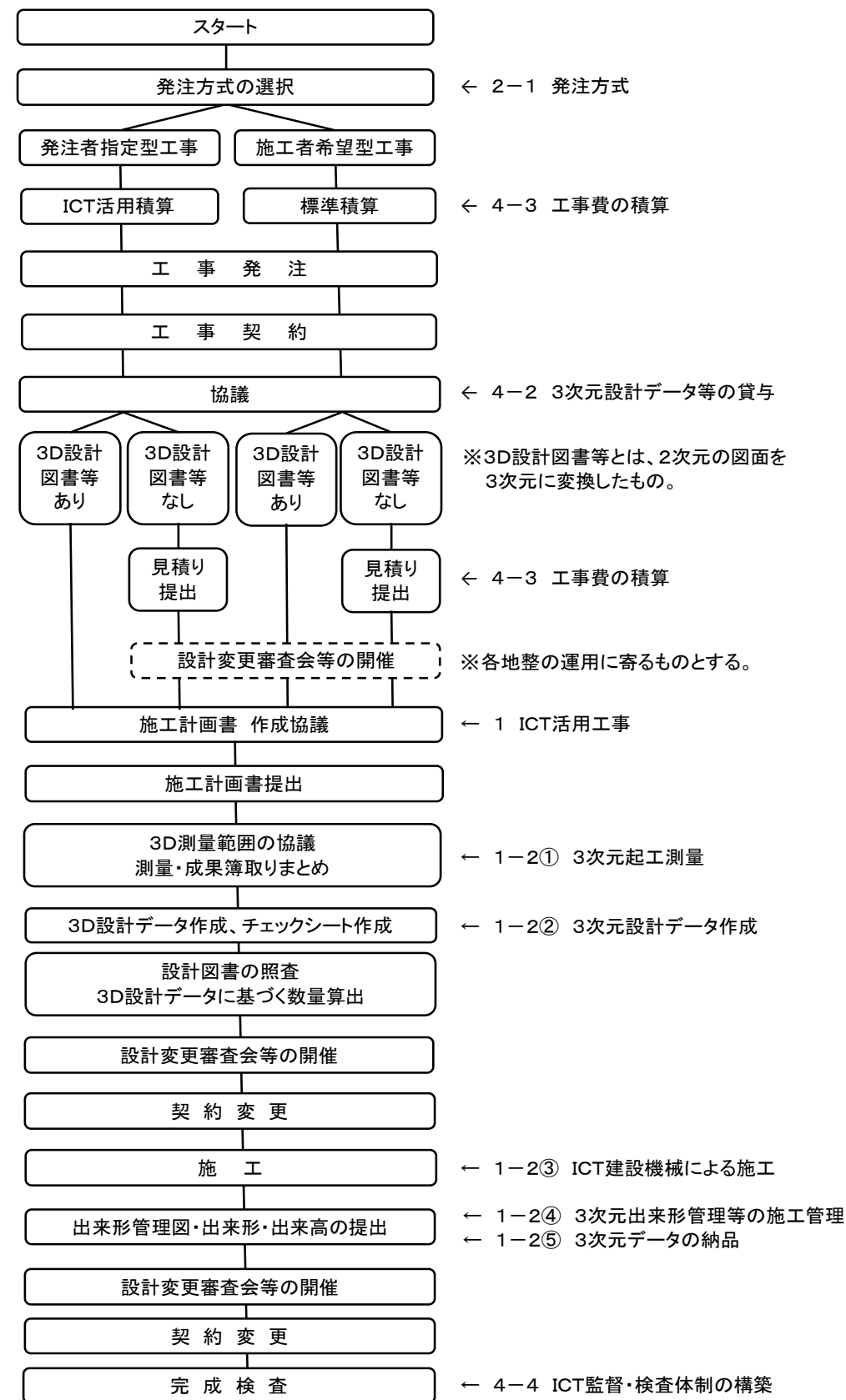
~~2）施工者希望Ⅱ型で実施する。~~

6－2

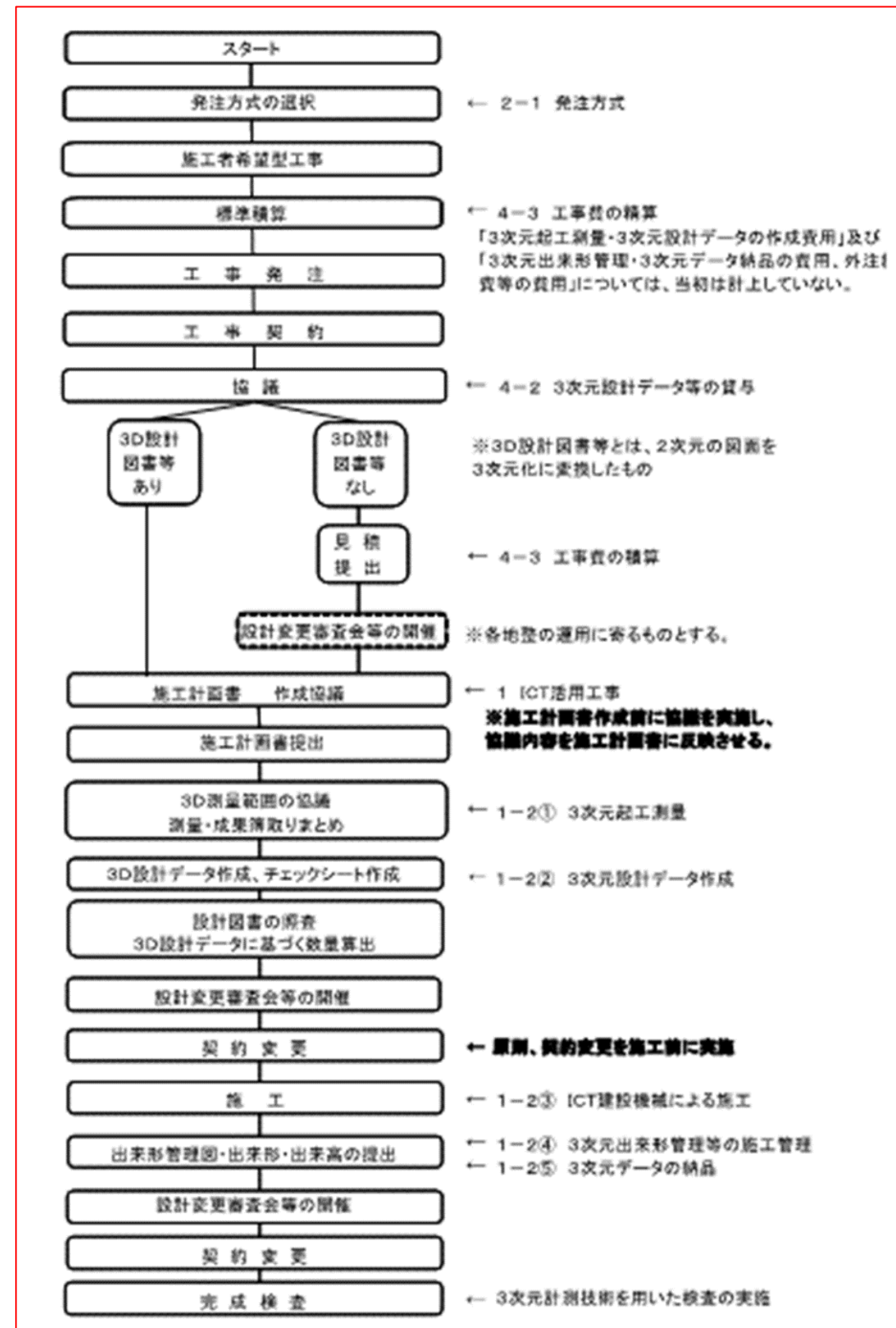
調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



R 6 室長通知 別紙－1 6 I C T活用工事（地盤改良工）（安定処理）積算要領	R 7 室長通知 別紙－1 5 I C T活用工事（地盤改良工）（安定処理）積算要領																												
別紙－1 6	別紙－1 5																												
I C T活用工事（地盤改良工）（安定処理）積算要領	I C T活用工事（地盤改良工）（安定処理）積算要領																												
1．適用範囲 本資料は、I C Tによる地盤改良工（以下、地盤改良工（I C T））のうち、バックホウ混合における安定処理（I C T）に適用する。 I C T建設機械による施工の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 （1）安定処理（I C T）の適用範囲 現場条件によりスタビライザによる施工が出来ない路床改良工事のうち1層の混合深さが路床1 m以下における現位置での混合作業、又は、構造物基礎の地盤改良工事で1層の混合深さが2 m以下における現位置での混合作業に適用する。 なお、固化材はセメント系のみとし、路床改良における適用可能な現場条件とは次のいずれかに該当する箇所とする。 ① 施工現場が狭隘な場合 ② 転石がある場合 ③ 移設出来ない埋設物がある場合	1．適用範囲 本資料は、 ~~I~~ 、I C Tによる地盤改良工（以下、地盤改良工（I C T））のうち、バックホウ混合における安定処理（I C T）に適用する。 I C T建設機械による施工の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 （1）安定処理（I C T）の適用範囲 現場条件によりスタビライザによる施工が出来ない路床改良工事のうち1層の混合深さが路床1 m以下における現位置での混合作業、又は、構造物基礎の地盤改良工事で1層の混合深さが2 m以下における現位置での混合作業に適用する。 なお、固化材はセメント系のみとし、路床改良における適用可能な現場条件とは次のいずれかに該当する箇所とする。 ① 施工現場が狭隘な場合 ② 転石がある場合 ③ 移設出来ない埋設物がある場合																												
2．機械経費 2－1 機械経費 地盤改良工（I C T）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、賃料については、土木工事標準積算基準書の「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 ① 安定処理（I C T）	2．機械経費 2－1 機械経費 地盤改良工（I C T）の積算で使用する ~~ICT~~ I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、賃料については、土木工事標準積算基準書 第Ⅰ編 総則 ~~の~~ 「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 ② 安定処理（I C T）																												
<table><tr><th>I C T 建設機械名</th><th>施工箇所</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">バックホウ （クローラ 型）</td><td>路床</td><td>[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2011年規制)] 山積0.5m3（平積0.4m3） 吊能力2.9t</td><td>賃料にて計上</td><td>ICT 建設機械経費加算額を加算</td></tr><tr><td>構造物基礎</td><td>[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t</td><td>賃料にて計上</td><td>ICT 建設機械経費加算額を加算</td></tr></table>	I C T 建設機械名	施工箇所	規格	機械経費	備考	バックホウ （クローラ 型）	路床	[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2011年規制)] 山積0.5m3（平積0.4m3） 吊能力2.9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額を加算	構造物基礎	[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額を加算	<table><tr><th>I C T 建設機械名</th><th>施工箇所</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">バックホウ （クローラ 型）</td><td>路床</td><td>[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(<del>2014</del>~~2011~~年規制)] 山積0.5m3（平積0.4m3） 吊能力2.9t</td><td>賃料にて計上</td><td>~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額を加算は別途計上</td></tr><tr><td>構造物基礎</td><td>[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(~~2014~~年規制第3次基準値)] 山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t</td><td>賃料にて計上</td><td>~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額を加算は別途計上</td></tr></table>	I C T 建設機械名	施工箇所	規格	機械経費	備考	バックホウ （クローラ 型）	路床	[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(~~2014~~ ~~2011~~ 年規制)] 山積0.5m3（平積0.4m3） 吊能力2.9t	賃料にて計上	~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額を加算は別途計上	構造物基礎	[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(~~2014~~ 年規制第3次基準値)] 山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t	賃料にて計上	~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額を加算は別途計上
I C T 建設機械名	施工箇所	規格	機械経費	備考																									
バックホウ （クローラ 型）	路床	[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2011年規制)] 山積0.5m3（平積0.4m3） 吊能力2.9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額を加算																									
	構造物基礎	[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(第3次基準値)] 山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額を加算																									
I C T 建設機械名	施工箇所	規格	機械経費	備考																									
バックホウ （クローラ 型）	路床	[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(~~2014~~ ~~2011~~ 年規制)] 山積0.5m3（平積0.4m3） 吊能力2.9t	賃料にて計上	~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額を加算は別途計上																									
	構造物基礎	[標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(~~2014~~ 年規制第3次基準値)] 山積0.8m3(平積0.6m3) 吊能力2.9t	賃料にて計上	~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額を加算は別途計上																									
2－2 ICT 建設機械経費加算額 ICT建設機械経費賃料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費	2－2 ~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額 ~~ICT~~ I C T建設機械経費賃料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局 の賃																												

用とし、２－１機械経費にて計上するICT建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （１）安定処理（ＩＣＴ） 対象建設機械：バックホウ 賃料加算額：41,000円／日 ２－３．その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 ２－３－１ 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 安定処理（ICT） $\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m2)}}{\text{作業日当り標準作業量(m2/日)} \times 1.04}$ （注）作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」の標準作業量（施工パッケージ「安定処理工【安定処理】」による。 （注）施工数量は、ICT 施工の数量とする。 ２－３－２ システム初期費 ＩＣＴ施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 安定処理（ＩＣＴ） 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 ３． ３次元起工測量・３次元設計データの作成費用 ３次元起工測量・３次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 ４． ３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用 安定処理（ＩＣＴ）における、ＩＣＴ建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。	貸費用とし、２－１機械経費にて計上する~~ICT~~ ＩＣＴ建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （１）安定処理（ＩＣＴ） 対象建設機械：バックホウ 賃料加算額：41,000円／日 ２－３ その他 ~~ICT~~ ＩＣＴ建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 ~~２－３－１ 保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~安定処理（ICT）~~ $\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m2)}}{\text{作業日当り標準作業量(m2/日)} \times 1.04}$ ~~（注）作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」の標準作業量（施工パッケージ「安定処理工【安定処理】」による。~~ ~~（注）施工数量は、ICT 施工の数量とする。~~ ２－３－~~2~~ 1 システム初期費 ＩＣＴ施工用機器建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ＩＣＴ建設機械精度確認等、ＩＣＴ建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、~~システムの初期費用等、~~貸出しに要する全ての費用は、として、~~以下のとおりと費用を計上する。~~ （１）安定処理（ＩＣＴ） 対象建設機械：バックホウ 費用：598,000 円／式 ※１工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でＩＣＴ建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。 ３． ３次元起工測量・３次元設計データの作成費用 ３次元起工測量・３次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「３次元起工測量・３次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、前工事及び設計段階での３次元データを活用した場合、発注者が貸与する３次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 なお、「３次元起工測量・３次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。 ４． ３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用 安定処理（ＩＣＴ）における、ＩＣＴ建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。
---	--

5. 土木工事標準積算基準書に対する補正

5－1 作業日当り標準作業量の補正

路床（ＩＣＴ）、構造物基礎（ＩＣＴ）を実施する場合、作業日当り標準作業量（施工パッケージ「安定処理工【安定処理】」）に対して1.04を乗じる。（小数第2位止め、四捨五入）

※変更積算については実際にＩＣＴ施工による数量についてのみ補正するものとする。

参考

地盤改良工（ＩＣＴ）については、以下の考え方により施工パッケージ「安定処理工【安定処理】」の標準単価Pを補正し、P’とするものである。

1) 施工パッケージコード

P’：積算単価(積算地区、積算年月)

P：標準単価(東京地区、基準年月)

Kr：標準単価における全機械(K1～K3,他)の構成比合計

K1r～K3r：標準単価における代表機械規格 K1～3 の構成比

K1t～K3t：代表機械規格 K1～3 の単価(東京地区、基準年月)

K1t’～K3t’：代表機械規格 K1～3 の単価(積算地区、積算年月)

Rr：標準単価における全労務(R1～R4,他)の構成比合計

R1r～R4r：標準単価における代表労務規格 R1～4 の構成比

R1t～R4t：代表労務規格 R1～4 の単価(東京地区、基準年月)

R1t’～R4t’：代表労務規格 R1～4 の単価(積算地区、積算年月)

Zr：標準単価における全材料(Z1～Z4,他)の構成比合計

Z1r～Z4r：標準単価における代表材料規格 Z1～4 の構成比

Z1t～Z4t：代表材料規格 Z1～4 の単価(東京地区、基準年月)

Z1t’～Z4t’：代表材料規格 Z1～4 の単価(積算地区、積算年月)

Sr：標準単価における市場単価 S の構成比

St：市場単価 S の所与条件における単価(東京地区、基準年月)

St’：市場単価 S の所与条件における単価(積算地区、積算年月)

※標準単価 P・機労材の構成比Kr～Z4r・単価K1t,K1t’～Z1t,Z1t’は、「施工パッケージ型積算方式標準単価表」の「安定処理工【安定処理】」における該当部分を用いる。ただし、K1t’～K3t’のうち、ICT 建設機械を適用するものについては、「2－1 機械経費」の単価を用いる。

※施工パッケージ「安定処理工【安定処理】」の適用条件は、下表とする。

使用機種	施工箇所	混合深さ
バックホウ	路床	1m以下
	構造物基礎	1m以下
		1mを超え 2m以下

2) 以下の点を考慮してP’を計算する。

・日当り施工量に 1.04 を乗じる

5. 施工箇所が点在するＩＣＴ活用工事の積算について

施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。

6-5. 土木工事標準積算基準書に対する補正

6-5－1 作業日当り標準作業量の補正

路床（ＩＣＴ）、構造物基礎（ＩＣＴ）を実施する場合、作業日当り標準作業量（施工パッケージ「安定処理工【安定処理】」）に対して1.04を乗じる。（小数第2位止め、四捨五入）

※変更積算については実際にＩＣＴ施工による数量についてのみ補正するものとする。

参考

地盤改良工（ＩＣＴ）については、以下の考え方により施工パッケージ「安定処理工【安定処理】」の標準単価Pを補正し、P’とするものである。

1) 施工パッケージコード

P’：積算単価(積算地区、積算年月)

P：標準単価(東京地区、基準年月)

Kr：標準単価における全機械(K1～K3,他)の構成比合計

K1r～K3r：標準単価における代表機械規格 K1～3 の構成比

K1t～K3t：代表機械規格 K1～3 の単価(東京地区、基準年月)

K1t’～K3t’：代表機械規格 K1～3 の単価(積算地区、積算年月)

Rr：標準単価における全労務(R1～R4,他)の構成比合計

R1r～R4r：標準単価における代表労務規格 R1～4 の構成比

R1t～R4t：代表労務規格 R1～4 の単価(東京地区、基準年月)

R1t’～R4t’：代表労務規格 R1～4 の単価(積算地区、積算年月)

Zr：標準単価における全材料(Z1～Z4,他)の構成比合計

Z1r～Z4r：標準単価における代表材料規格 Z1～4 の構成比

Z1t～Z4t：代表材料規格 Z1～4 の単価(東京地区、基準年月)

Z1t’～Z4t’：代表材料規格 Z1～4 の単価(積算地区、積算年月)

Sr：標準単価における市場単価 S の構成比

St：市場単価 S の所与条件における単価(東京地区、基準年月)

St’：市場単価 S の所与条件における単価(積算地区、積算年月)

※標準単価 P・機労材の構成比Kr～Z4r・単価K1t,K1t’～Z1t,Z1t’は、「施工パッケージ型積算方式標準単価表」の「安定処理工【安定処理】」における該当部分を用いる。ただし、K1t’～K3t’のうち、ICT 建設機械を適用するものについては、「2－1 機械経費」の単価を用いる。

※施工パッケージ「安定処理工【安定処理】」の適用条件は、下表とする。

使用機種	施工箇所	混合深さ
バックホウ	路床	1m以下
	構造物基礎	1m以下
		1mを超え 2m以下

2) 以下の点を考慮してP’を計算する。

・日当り施工量に 1.04 を乗じる

①安定処理（ＩＣＴ）〔路床〕

$$P' = P \times \left\{ \left(\left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \frac{K2r}{100} \times \frac{K2t'}{K2t} + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Kr}{K1r + K2r + K3r} \right. \\ + \left(\left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \frac{R2r}{100} \times \frac{R2t'}{R2t} + \frac{R3r}{100} \times \frac{R3t'}{R3t} \right) \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Rr}{R1r + R2r + R3r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \frac{Z2r}{100} \times \frac{Z2t'}{Z2t} \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + Z2r} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr}{100} \right\}$$

※P' は有効数字4桁、5桁目切り上げ

※K1をバックハウ、K2をタイヤローラ、K3を振動ローラ、R1を運転手（特殊）、R2を普通作業員、R3を土木一般世話役、Z1を固化材、Z2を軽油とする。ただし、K1t' は、バックハウ(クローラ型)（ＩＣＴ施工対応型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（2011年規制）山積 0.5m3（平積 0.4m3）吊能力 2.9t とし、「2－1 機械経費」の単価を用いる。

②安定処理（ＩＣＴ）〔構造物基礎〕

$$P' = P \times \left\{ \left(\left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \frac{K2r}{100} \times \frac{K2t'}{K2t} \right) \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Kr}{K1r + K2r} \right. \\ + \left(\left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \frac{R2r}{100} \times \frac{R2t'}{R2t} + \frac{R3r}{100} \times \frac{R3t'}{R3t} + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Rr}{R1r + R2r + R3r + R4r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \frac{Z2r}{100} \times \frac{Z2t'}{Z2t} \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + Z2r} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr}{100} \right\}$$

※P'は有効数字4桁、5桁目切り上げ

※K1をバックハウ、K2を振動ローラ、R1を土木一般世話役、R2を運転手（特殊）、R3を特殊作業員、R4を普通作業員、Z1を固化材、Z2を軽油とする。ただし、K1t' は、バックハウ(クローラ型)（ＩＣＴ施工対応型）〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（第3次基準値）山積 0.8m3(平積 0.6m3)吊能力 2.9t とし、「2－1 機械経費」の単価を用いる。

①安定処理（ＩＣＴ）〔路床〕

$$P' = P \times \left\{ \left(\left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \frac{K2r}{100} \times \frac{K2t'}{K2t} + \frac{K3r}{100} \times \frac{K3t'}{K3t} \right) \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Kr}{K1r + K2r + K3r} \right. \\ + \left(\left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \frac{R2r}{100} \times \frac{R2t'}{R2t} + \frac{R3r}{100} \times \frac{R3t'}{R3t} \right) \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Rr}{R1r + R2r + R3r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \frac{Z2r}{100} \times \frac{Z2t'}{Z2t} \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + Z2r} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr}{100} \right\}$$

※P' は有効数字4桁、5桁目切り上げ

※K1をバックハウ、K2をタイヤローラ、K3を振動ローラ、R1を運転手（特殊）、R2を普通作業員、R3を土木一般世話役、Z1を固化材、Z2を軽油とする。ただし、K1t' は、バックハウ(クローラ型)~~－（ＩＣＴ施工対応型）~~〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（~~2014~~~~2011~~年規制）山積 0.5m3（平積 0.4m3）吊能力 2.9t とし、「2－1 機械経費」の単価を用いる。

②安定処理（ＩＣＴ）〔構造物基礎〕

$$P' = P \times \left\{ \left(\left(\frac{K1r}{100} \times \frac{K1t'}{K1t} + \frac{K2r}{100} \times \frac{K2t'}{K2t} \right) \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Kr}{K1r + K2r} \right. \\ + \left(\left(\frac{R1r}{100} \times \frac{R1t'}{R1t} + \frac{R2r}{100} \times \frac{R2t'}{R2t} + \frac{R3r}{100} \times \frac{R3t'}{R3t} + \frac{R4r}{100} \times \frac{R4t'}{R4t} \right) \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Rr}{R1r + R2r + R3r + R4r} \\ + \left(\frac{Z1r}{100} \times \frac{Z1t'}{Z1t} + \frac{Z2r}{100} \times \frac{Z2t'}{Z2t} \times \frac{1}{1.04} \right) \times \frac{Zr}{Z1r + Z2r} \\ \left. + \frac{100 - Kr - Rr - Zr}{100} \right\}$$

※P'は有効数字4桁、5桁目切り上げ

※K1をバックハウ、K2を振動ローラ、R1を土木一般世話役、R2を運転手（特殊）、R3を特殊作業員、R4を普通作業員、Z1を固化材、Z2を軽油とする。ただし、K1t' は、バックハウ(クローラ型)~~－（ＩＣＴ施工対応型）~~〔標準型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型（~~2014~~年規制~~第3次基準値~~）山積 0.8m3(平積 0.6m3)吊能力 2.9t とし、「2－1 機械経費」の単価を用いる。

R 6 室長通知 別紙－1 7 I C T活用工事（地盤改良工）（中層混合処理）積算要領				R 7 室長通知 別紙－1 6 I C T活用工事（地盤改良工）（中層混合処理）積算要領																									
別紙－1 7				別紙－ ~~1 7~~ 1 6																									
I C T活用工事（地盤改良工）（中層混合処理）積算要領				I C T活用工事（地盤改良工）（中層混合処理）積算要領																									
1. 適用範囲				1. 適用範囲																									
本資料は、I C Tによる地盤改良工（以下、地盤改良工（I C T））のうち、粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行う中層混合処理工（I C T）に適用する。				本資料は ~~、~~ 、I C Tによる地盤改良工（以下、地盤改良工（I C T））のうち、粘性土 ~~、~~ 、砂質土 ~~、~~ 、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行う中層混合処理工（I C T）に適用する。																									
施工方式はスラリー噴射方式の機械攪拌混合とする。				施工方式はスラリー噴射方式の機械攪拌混合とする。																									
改良形式は全面改良とし、改良深度2 mを超え1 3 m以下の陸上施工に適用する。				改良形式は全面改良とし ~~、~~ 、改良深度2 mを超え1 3 m以下の陸上施工に適用する。																									
積算にあたっては、土木工事標準積算基準書（以下、「積算基準」）により行うこととする。				積算にあたっては、土木工事標準積算基準書（以下、「積算基準」）により行うこととする。																									
・中層混合処理工				・中層混合処理工（I C T）																									
2. 機械経費				2. 機械経費																									
2－1 機械経費				2－1 機械経費																									
中層混合処理工（I C T）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。				中層混合処理工（I C T）の積算で使用する ~~ICT~~ I C T 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。																									
なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。				なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。																									
① 中層混合処理工（I C T）				② 中層混合処理工（I C T）																									
<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="4">中層混合 処理機 トレンチャ式</td><td>[ベースマシン] 20t(山積0.8m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）5m [施工管理装置] 1ピースブーム用</td><td rowspan="4">損料にて計上</td><td rowspan="4">ICT 建設機械経費加 算額は別途計上</td></tr><tr><td>[ベースマシン] 30t(山積1.4m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）8m [施工管理装置] 1ピースブーム用</td></tr><tr><td>[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）10m [施工管理装置] 1ピースブーム用</td></tr><tr><td>[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ (2ピースブーム) [攪拌混合装置]</td></tr></table>				I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	中層混合 処理機 トレンチャ式	[ベースマシン] 20t(山積0.8m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）5m [施工管理装置] 1ピースブーム用	損料にて計上	ICT 建設機械経費加 算額は別途計上	[ベースマシン] 30t(山積1.4m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）8m [施工管理装置] 1ピースブーム用	[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）10m [施工管理装置] 1ピースブーム用	[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ (2ピースブーム) [攪拌混合装置]	<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="4">中層混合 処理機 トレンチャ式</td><td>[ベースマシン] 20t(山積0.8m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）5m [施工管理装置] 1ピースブーム用</td><td rowspan="4">損料にて計上</td><td rowspan="4">~~ICT~~ I C T 建設機械 経費加算額は別途計 上</td></tr><tr><td>[ベースマシン] 30t(山積1.4m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）8m [施工管理装置] 1ピースブーム用</td></tr><tr><td>[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）10m [施工管理装置] 1ピースブーム用</td></tr><tr><td>[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ (2ピースブーム) [攪拌混合装置]</td></tr></table>				I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	中層混合 処理機 トレンチャ式	[ベースマシン] 20t(山積0.8m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）5m [施工管理装置] 1ピースブーム用	損料にて計上	~~ICT~~ I C T 建設機械 経費加算額は別途計 上	[ベースマシン] 30t(山積1.4m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）8m [施工管理装置] 1ピースブーム用	[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）10m [施工管理装置] 1ピースブーム用	[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ (2ピースブーム) [攪拌混合装置]
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																										
中層混合 処理機 トレンチャ式	[ベースマシン] 20t(山積0.8m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）5m [施工管理装置] 1ピースブーム用	損料にて計上	ICT 建設機械経費加 算額は別途計上																										
	[ベースマシン] 30t(山積1.4m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）8m [施工管理装置] 1ピースブーム用																												
	[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）10m [施工管理装置] 1ピースブーム用																												
	[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ (2ピースブーム) [攪拌混合装置]																												
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																										
中層混合 処理機 トレンチャ式	[ベースマシン] 20t(山積0.8m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）5m [施工管理装置] 1ピースブーム用	損料にて計上	~~ICT~~ I C T 建設機械 経費加算額は別途計 上																										
	[ベースマシン] 30t(山積1.4m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）8m [施工管理装置] 1ピースブーム用																												
	[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ [攪拌混合装置] 改良深度（標準）10m [施工管理装置] 1ピースブーム用																												
	[ベースマシン] 40t(山積1.9m3)級バックホ (2ピースブーム) [攪拌混合装置]																												

		改良深度（標準）13m [施工管理装置] 2ヒースブーム用					改良深度（標準）13m [施工管理装置] 2ヒースブーム用		
2－2 ICT 建設機械経費加算額 ICT建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費で示すICT建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1）中層混合処理工（ICT） 対象建設機械：中層混合処理機トレンチャ式 損料加算額：48,000円／日					2－2 ~~ICT~~ ICT 建設機械経費加算額 ~~ICT~~ ICT 建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局 の賃貸費用とし、2－1 機械経費で示す ~~ICT~~ ICT 建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1）中層混合処理工（ICT） 対象建設機械：中層混合処理機トレンチャ式 損料加算額：48,000 円／日				
2－3 その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 2－3－1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 （1）中層混合処理（ICT） $\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m3/日)}}$ （注）作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」の標準作業量による。 （注）施工数量は、ICT 施工の数量とする。					2－3 その他 ~~ICT~~ ICT 建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 ~~2－3－1 保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~（1）中層混合処理（ICT）~~ $\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m3)}}{\text{作業日当り標準作業量 (m3/日)}}$ ~~（注）作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」の標準作業量による。~~ ~~（注）施工数量は、ICT 施工の数量とする。~~				
2－3－2 システム初期費 ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 （1）中層混合処理工（ICT） 対象建設機械：中層混合処理機トレンチャ式 費用：1,150,000 円／式					2－3－ ~~2~~ 1 システム初期費 ICT ~~施工用機器の建設機械~~ による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT 建設機械精度確認等、ICT 建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、 ~~システムの初期費用等~~ 、貸出しに要する全ての費用 ~~はとして~~ 、以下の ~~とおりと費用を~~ 計上する。 （1）中層混合処理工（ICT） 対象建設機械：中層混合処理機トレンチャ式 費用：1,150,000 円／式 ※1 工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業で ICT 建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。				
3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。					3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。				

4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用

中層混合処理工（ICT）における、ICT建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。

5. 土木工事標準積算基準書に対する補正

5-1 作業日当り標準作業量の補正

中層混合処理工（ICT）を実施する場合、作業日当り標準作業量に対して**1.03**を乗じる。（小数第2位止め、四捨五入）

※変更積算については実際にICT施工による数量についてのみ補正するものとする。

5-2 単価表の補正

積算基準の「6. 単価表（1）中層混合処理工100m3当り単価表」にて建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。

名称	規格	単位	数量	指定事項
ICT建設機械経費加算額		日	100/D	機械損料数量 1.68

(注) D：1日当り作業量（m3／日）

6. 諸雑費

中層混合処理工（ICT）を実施する場合、諸雑費率を乗じる合計額に、ICT建設機械経費加算額は含めない。

また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。

なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。

4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用

中層混合処理工（ICT）における、ICT建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。

5. 施工箇所が点在するICT活用工事の積算について

施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。

~~5. 土木工事標準積算基準書に対する補正~~

~~5-1 作業日当り標準作業量の補正~~

~~中層混合処理工（ICT）を実施する場合、作業日当り標準作業量に対して**1.03**を乗じる。（小数第2位止め、四捨五入）~~

~~※変更積算については実際にICT施工による数量についてのみ補正するものとする。~~

~~5-2 単価表の補正~~

~~積算基準の「6. 単価表（1）中層混合処理工100m3当り単価表」にて建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。~~

名称	規格	単位	数量	指定事項
~~ICT建設機械経費加算額~~		~~日~~	~~100/D~~	~~機械損料数量 1.68~~

~~(注) D：1日当り作業量（m3／日）~~

~~6. 諸雑費~~

~~中層混合処理工（ICT）を実施する場合、諸雑費率を乗じる合計額に、ICT建設機械経費加算額は含めない。~~

R 6 室長通知 別紙ー1 8 I C T活用工事（地盤改良工）（スラリー攪拌工）積算要領	R 7 室長通知 別紙ー1 7 I C T活用工事（地盤改良工）（スラリー攪拌工）積算要領																												
別紙ー1 8	別紙ー ~~1 8~~ 1 7																												
I C T活用工事（地盤改良工）（スラリー攪拌工）積算要領	I C T活用工事（地盤改良工）（スラリー攪拌工）積算要領																												
1. 適用範囲 本資料は、I C Tによる地盤改良工（以下、地盤改良工（I C T））のうち、粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行うセメント及び石灰によるスラリー攪拌工（I C T）の陸上施工に適用する。 変位低減型（排土式）のうち、複合噴射攪拌式は除くものとする。 打設長及び杭径は以下のとおりとする。なお、軸の継足しがある場合は、適用外とする。 積算にあたっては、土木工事標準積算基準書（以下、「積算基準」）により行うこととする。 （１）単軸施工：打設長 3 mを超え 10m以下 杭径 800 mm～1, 200 mm （２）単軸施工：打設長 10mを超え 30m以下 杭径 1, 000 mm～1, 600 mm （３）単軸施工：打設長 3 mを超え 27m以下 杭径 1, 800 mm, 2, 000 mm （４）二軸施工：打設長 3 mを超え 40m以下 杭径 1, 000 mm （５）二軸施工（変位低減型）：打設長 3 mを超え 40m以下 杭径 1, 000 mm （６）二軸施工（変位低減型）：打設長 3 mを超え 36m以下 杭径 1, 600 mm また、単軸施工、二軸施工の選定にあたっては、下記条件等を考慮する。 （１） 杭の配列 （２） 作業面積及び施工箇所のトラフィカビリティ	1. 適用範囲 本資料は、I C Tによる地盤改良工（以下、地盤改良工（I C T））のうち、粘性土、砂質土、シルト及び有機質土等の軟弱地盤を対象として行うセメント及び石灰によるスラリー攪拌工（I C T）の陸上施工に適用する。 変位低減型（排土式）のうち、複合噴射攪拌式は除くものとする。 打設長及び杭径は以下のとおりとする。なお、軸の継足しがある場合は、適用外とする。 積算にあたっては、土木工事標準積算基準書（以下、「積算基準」）により行うこととする。 （１）単軸施工：打設長 3 mを超え 10m以下 杭径 800 mm～1, 200 mm （２）単軸施工：打設長 10mを超え 30m以下 杭径 1, 000 mm～1, 600 mm （３）単軸施工：打設長 3 mを超え 27m以下 杭径 1, 800 mm, 2, 000 mm （４）二軸施工：打設長 3 mを超え 40m以下 杭径 1, 000 mm （５）二軸施工（変位低減型）：打設長 3 mを超え 40m以下 杭径 1, 000 mm （６）二軸施工（変位低減型）：打設長 3 mを超え 36m以下 杭径 1, 600 mm また、単軸施工、二軸施工の選定にあたっては、 ~~平記~~ 以下 条件等を考慮する。 （１） 杭の配列 （２） 作業面積及び施工箇所のトラフィカビリティ																												
2. 機械経費	2. 機械経費																												
2ー1 機械経費 スラリー攪拌工（I C T）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。	2ー1 機械経費 スラリー攪拌工（I C T）の積算で使用する ~~ICT~~ I C T 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。																												
① スラリー攪拌工（I C T）単軸施工	① スラリー攪拌工（I C T）単軸施工																												
<table><tr><td>I C T建設機械名</td><td>規格</td><td>適用</td><td>機械経費</td><td>備考</td></tr><tr><td rowspan="3">深層混合処理機 スラリー式</td><td>単軸式 小型地盤改良機 27. 4kN・m</td><td>杭径 800mm～1, 200mm</td><td rowspan="3">損料にて計上</td><td rowspan="3">ICT 建設機械経費加算額は別途計上</td></tr><tr><td>単軸式 90～110kW×1</td><td>杭径 1, 000mm～1, 600mm</td></tr><tr><td>単軸式 90kW×2</td><td>杭径 1800mm、2, 000mm</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	適用	機械経費	備考	深層混合処理機 スラリー式	単軸式 小型地盤改良機 27. 4kN・m	杭径 800mm～1, 200mm	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上	単軸式 90～110kW×1	杭径 1, 000mm～1, 600mm	単軸式 90kW×2	杭径 1800mm、2, 000mm	<table><tr><td>I C T建設機械名</td><td>規格</td><td>適用</td><td>機械経費</td><td>備考</td></tr><tr><td rowspan="3">深層混合処理機 スラリー式</td><td>単軸式 小型地盤改良機 27. 4kN・m</td><td>杭径 800mm～1, 200mm</td><td rowspan="3">損料にて計上</td><td rowspan="3">~~ICT~~I C T建設機械経費加算額は別途計上</td></tr><tr><td>単軸式 90～110kW×1</td><td>杭径 1, 000mm～1, 600mm</td></tr><tr><td>単軸式 90kW×2</td><td>杭径 1800mm、2, 000mm</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	適用	機械経費	備考	深層混合処理機 スラリー式	単軸式 小型地盤改良機 27. 4kN・m	杭径 800mm～1, 200mm	損料にて計上	~~ICT~~ I C T 建設機械経費加算額は別途計上	単軸式 90～110kW×1	杭径 1, 000mm～1, 600mm	単軸式 90kW×2	杭径 1800mm、2, 000mm
I C T建設機械名	規格	適用	機械経費	備考																									
深層混合処理機 スラリー式	単軸式 小型地盤改良機 27. 4kN・m	杭径 800mm～1, 200mm	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上																									
	単軸式 90～110kW×1	杭径 1, 000mm～1, 600mm																											
	単軸式 90kW×2	杭径 1800mm、2, 000mm																											
I C T建設機械名	規格	適用	機械経費	備考																									
深層混合処理機 スラリー式	単軸式 小型地盤改良機 27. 4kN・m	杭径 800mm～1, 200mm	損料にて計上	~~ICT~~ I C T 建設機械経費加算額は別途計上																									
	単軸式 90～110kW×1	杭径 1, 000mm～1, 600mm																											
	単軸式 90kW×2	杭径 1800mm、2, 000mm																											
② スラリー攪拌工（I C T）二軸施工	② スラリー攪拌工（I C T）二軸施工																												
<table><tr><td>I C T建設機械名</td><td>規格</td><td>適用</td><td>機械経費</td><td>備考</td></tr><tr><td rowspan="2">深層混合処理機 スラリー式</td><td>二軸式 45kW×2</td><td>杭径 1, 000mm 打設長（L）3m超え 10m以下</td><td rowspan="2">損料にて計上</td><td rowspan="2">ICT 建設機械経費加算額は別途計上</td></tr><tr><td>二軸式 55～60kW×2</td><td>杭径 1, 000mm 打設長（L）10m</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	適用	機械経費	備考	深層混合処理機 スラリー式	二軸式 45kW×2	杭径 1, 000mm 打設長（L）3m超え 10m以下	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上	二軸式 55～60kW×2	杭径 1, 000mm 打設長（L）10m	<table><tr><td>I C T建設機械名</td><td>規格</td><td>適用</td><td>機械経費</td><td>備考</td></tr><tr><td rowspan="2">深層混合処理機 スラリー式</td><td>二軸式 45kW×2</td><td>杭径 1, 000mm 打設長（L）3m超え 10m以下</td><td rowspan="2">損料にて計上</td><td rowspan="2">~~ICT~~I C T建設機械経費加算額は別途計上</td></tr><tr><td>二軸式 55～60kW×2</td><td>杭径 1, 000mm 打設長（L）10m</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	適用	機械経費	備考	深層混合処理機 スラリー式	二軸式 45kW×2	杭径 1, 000mm 打設長（L）3m超え 10m以下	損料にて計上	~~ICT~~ I C T 建設機械経費加算額は別途計上	二軸式 55～60kW×2	杭径 1, 000mm 打設長（L）10m				
I C T建設機械名	規格	適用	機械経費	備考																									
深層混合処理機 スラリー式	二軸式 45kW×2	杭径 1, 000mm 打設長（L）3m超え 10m以下	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上																									
	二軸式 55～60kW×2	杭径 1, 000mm 打設長（L）10m																											
I C T建設機械名	規格	適用	機械経費	備考																									
深層混合処理機 スラリー式	二軸式 45kW×2	杭径 1, 000mm 打設長（L）3m超え 10m以下	損料にて計上	~~ICT~~ I C T 建設機械経費加算額は別途計上																									
	二軸式 55～60kW×2	杭径 1, 000mm 打設長（L）10m																											

2－3　その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 2－3－1　保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 (1) スラリー攪拌工 (ICT) 保守点検費＝土木一般世話役(円)×0.05(人/日)× 杭施工数量(本)1日当り杭施工本数(本/日) (注) 1日当り杭施工本数は「4.土木工事標準積算基準書に対する補正」による。 (注) 杭施工数量は、ICT施工の数量とする。 2－3－2　システム初期費 ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 (1) スラリー攪拌工 (ICT) 対象建設機械：深層混合処理機スラリー式 費用：1,150,000円／式 3．3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4．3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 スラリー攪拌工 (ICT) における、ICT建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。 5．土木工事標準積算基準書に対する補正 5－1　作業日当り標準作業量の補正	2－3　その他 ICT ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 ~~2－3－1　保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~(1) スラリー攪拌工 (ICT)~~ <del>保守点検費＝土木一般世話役(円)×0.05(人/日)× 杭施工数量(本)1日当り杭施工本数(本/日) </del> ~~(注) 1日当り杭施工本数は「4.土木工事標準積算基準書に対する補正」による。~~ ~~(注) 杭施工数量は、ICT施工の数量とする。~~ 2－3－~~2~~1　システム初期費 ICT ~~施工用機器の建設機械~~による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT建設機械精度確認等、ICT建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、~~システムの初期費用等~~、貸出しに要する全ての費用 ~~はとして~~、以下の ~~とおりと~~費用を計上する。 (1) スラリー攪拌工 (ICT) 対象建設機械：深層混合処理機スラリー式 費用：1,150,000円／式 ※1工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でICT建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。 3．3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。 4．3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 スラリー攪拌工 (ICT) における、ICT建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。 5．施工箇所が点在するICT活用工事の積算について 施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。 ~~6-5.~~ 土木工事標準積算基準書に対する補正
--	--

スラリー攪拌工（ＩＣＴ）を実施する場合、１日当り杭施工本数は下表とする。
※変更積算については実際にＩＣＴ施工による数量についてのみ補正するものとする。

表４．１　１日当り杭施工本数　（本／日）

打設長(L)		単軸施工 (杭径 800mm～1,200mm)
3 m 超え	4 m 未満	21
4 m 以上	5 m 未満	18
5 m 以上	6 m 未満	15
6 m 以上	7 m 未満	14
7 m 以上	8 m 未満	12
8 m 以上	9 m 未満	11
9 m 以上	10 m 以下	10

表４．２　１日当り杭施工本数　（本／日）

打設長(L)		単軸施工 (杭径1,000mm～1,600mm)
10 m 超え	12 m 未満	7
12 m 以上	14 m 未満	6
14 m 以上	19 m 未満	5
19 m 以上	25 m 未満	4
25 m 以上	30 m 以下	3

表４．３　１日当り杭施工本数　（本／日）

打設長(L)		単軸施工 (杭径1,800mm)
3 m 超え	4 m 未満	11
4 m 以上	5 m 未満	10
5 m 以上	6 m 未満	9
6 m 以上	7 m 未満	8
7 m 以上	8 m 未満	7
8 m 以上	12 m 未満	6
12 m 以上	16 m 未満	5
16 m 以上	21 m 未満	4
21 m 以上	25 m 未満	3
25 m 以上	27 m 以下	2

6-5-1 作業日当り標準作業量の補正

スラリー攪拌工（ＩＣＴ）を実施する場合、１日当り杭施工本数は下表とする。
※変更積算については実際にＩＣＴ施工による数量についてのみ補正するものとする。

表４．１　１日当り杭施工本数　（本／日）

打設長(L)		単軸施工 (杭径 800mm～1,200mm)
3 m 超え	4 m 未満	20
4 m 以上	5 m 未満	17
5 m 以上	6 m 未満	14
6 m 以上	7 m 未満	13
7 m 以上	8 m 未満	12
7 m 以上	9 m 未満	11
9 m 以上	10 m 以下	10

表４．２　１日当り杭施工本数　（本／日）

打設長(L)		単軸施工 (杭径1,000mm～1,600mm)
10 m 超え	12 m 未満	7
12 m 以上	14 m 未満	6
14 m 以上	19 m 未満	5
19 m 以上	25 m 未満	4
25 m 以上	30 m 以下	3

表４．３　１日当り杭施工本数　（本／日）

打設長(L)		単軸施工 (杭径1,800mm)
3 m 超え	4 m 未満	11
4 m 以上	5 m 未満	10
5 m 以上	6 m 未満	9
6 m 以上	7 m 未満	8
7 m 以上	8 m 未満	7
8 m 以上	12 m 未満	6
12 m 以上	16 m 未満	5
16 m 以上	21 m 未満	4
21 m 以上	25 m 未満	3
25 m 以上	27 m 以下	2

表 4. 4 1 日当り杭施工本数 (本／日)

打設長(L)		単軸施工 (杭径2,000mm)
3 m 超え	4 m未満	10
4 m以上	5 m未満	9
5 m以上	6 m未満	8
6 m以上	7 m未満	7
7 m以上	9 m未満	6
9 m以上	13 m未満	5
13 m以上	17 m未満	4
17 m以上	22 m未満	3
22 m以上	27 m以下	2

表 4. 5 1 日当り杭施工本数 (本／日)

打設長(L)		二軸施工 (杭径1,000mm)
3 m 超え	4 m未満	14
4 m以上	5 m未満	13
5 m以上	6 m未満	12
6 m以上	7 m未満	11
7 m以上	9 m未満	10
9 m以上	10 m未満	9
10 m以上	12 m未満	8
12 m以上	15 m未満	7
15 m以上	18 m未満	6
18 m以上	22 m未満	5
22 m以上	30 m未満	4
30 m以上	40 m以下	3

表 4. 6 1 日当り杭施工本数 (本／日)

打設長(L)		二軸施工(変位低減型) (杭径1,000mm)
3 m 超え	3.5 m未満	12
3.5 m以上	4.5 m未満	11
4.5 m以上	5.5 m未満	10
5.5 m以上	7 m未満	9
7 m以上	9 m未満	8
9 m以上	11 m未満	7
11 m以上	14 m未満	6
14 m以上	19 m未満	5
19 m以上	26 m未満	4
26 m以上	39 m未満	3
39 m以上	40 m以下	2

表 4. 4 1 日当り杭施工本数 (本／日)

打設長(L)		単軸施工 (杭径2,000mm)
3 m 超え	4 m未満	10
4 m以上	5 m未満	9
5 m以上	6 m未満	8
6 m以上	7 m未満	7
7 m以上	9 m未満	6
9 m以上	13 m未満	5
13 m以上	17 m未満	4
17 m以上	22 m未満	3
22 m以上	27 m以下	2

表 4. 5 1 日当り杭施工本数 (本／日)

打設長(L)		二軸施工 (杭径1,000mm)
3 m 超え	4 m未満	13
4 m以上	5 m未満	12
5 m以上	7 m未満	11
6 m以上	7 m未満	11
7 m以上	9 m未満	10
9 m以上	10 m未満	9
10 m以上	12 m未満	8
12 m以上	15 m未満	7
15 m以上	18 m未満	6
18 m以上	22 m未満	5
22 m以上	30 m未満	4
30 m以上	40 m以下	3

表 4. 6 1 日当り杭施工本数 (本／日)

打設長(L)		二軸施工(変位低減型) (杭径1,000mm)
3 m 超え	4.5 m未満	11
3.5 m以上	4.5 m未満	11
4.5 m以上	5.5 m未満	10
5.5 m以上	7 m未満	9
7 m以上	9 m未満	8
9 m以上	11 m未満	7
11 m以上	14 m未満	6
14 m以上	19 m未満	5
19 m以上	26 m未満	4
26 m以上	39 m未満	3
39 m以上	40 m以下	2

表 4. 7 1 日当り杭施工本数 (本／日)

打設長(L)		二軸施工(変位低減型) (杭径1,600mm)	
		ラップ式	杭式
3 m 超え	4 m未満	11	22
4 m以上	5 m未満	10	20
5 m以上	6 m未満	9	18
6 m以上	7 m未満	8	16
7 m以上	9 m未満	7	14
9 m以上	11.5 m未満	6	12
11.5 m以上	15 m未満	5	10
15 m以上	20.5 m未満	4	8
20.5 m以上	30 m未満	3	6
30 m以上	36 m以下	2	4

5－2 単価表の補正

積算基準の「6. 単価表（1）スラリー攪拌工杭長〇〇m 1 本当り単価表」にて建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。

名称	規格	単位	数量	指定事項
ICT建設機械経費加算額		日	1 / N	機械損料数量 1. 61

(注) N：1 日当り杭施工本数（本／日）

6. 諸雑費

スラリー攪拌工（I C T）を実施する場合、諸雑費率を乗じる合計額に、ICT 建設機械経費加算額は含めない。

表 4. 7 1 日当り杭施工本数 (本／日)

打設長(L)		二軸施工(変位低減型) (杭径1,600mm)	
		ラップ式	杭式
3 m 超え	4 m未満	11	22
4 m以上	5 m未満	10	20
5 m以上	6 m未満	9	18
6 m以上	7 m未満	8	16
7 m以上	9 m未満	7	14
9 m以上	11.5 m未満	6	12
11.5 m以上	15 m未満	5	10
15 m以上	20.5 m未満	4	8
20.5 m以上	30 m未満	3	6
30 m以上	36 m以下	2	4

~~6-5~~－2 単価表の補正

積算基準の「6. 単価表（1）スラリー攪拌工杭長〇〇m 1 本当り単価表」にて建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。

名称	規格	単位	数量	指定事項
ICT建設機械経費加算額		日	1 / N	機械損料数量 1. 61

(注) N：1 日当り杭施工本数（本／日）

~~7-6~~. 諸雑費

スラリー攪拌工（I C T）を実施する場合、~~一~~、諸雑費率を乗じる合計額に、~~ICT~~ I C T 建設機械経費加算額は含めない。

R 6 室長通知 別紙ー1 9 I C T活用工事（地盤改良工）（ペーパードレーン工）積算要領	R 7 室長通知 別紙ー1 8 I C T活用工事（地盤改良工）（ペーパードレーン工）積算要領																		
別紙ー1 9	別紙ー ~~1 9~~ 1 8																		
I C T活用工事（地盤改良工）（ペーパードレーン工）積算要領	I C T活用工事（地盤改良工）（ペーパードレーン工）積算要領																		
1. 適用範囲 本資料は、I C Tによる地盤改良工（以下、地盤改良工（I C T））のうち、粘土、シルト及び有機質土等の地盤を対象として行う軟弱地盤処理工のうちPVD工法（旧ペーパードレーン工法（I C T））に適用する。なお、サンドマット施工後の打設を標準とするが、プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機を湿地型としているため、敷鉄板については敷設しないことを標準とする。	1. 適用範囲 本資料は、I C Tによる地盤改良工（以下、地盤改良工（I C T））のうち、粘土、シルト及び有機質土等の地盤を対象として行う軟弱地盤処理工のうちPVD工法（旧ペーパードレーン工法（I C T））に適用する。なお、サンドマット施工後の打設を標準とするが、プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機を湿地型としているため、敷鉄板については敷設しないことを標準とする。																		
2. 機械経費	2. 機械経費																		
2ー1 機械経費 PVD工法（旧ペーパードレーン工法（I C T））の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。	2ー1 機械経費 PVD工法（旧ペーパードレーン工法（I C T））の積算で使用する ~~ICT~~ I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。																		
① PVD工法（旧ペーパードレーン工法（I C T））	② PVD工法（旧ペーパードレーン工法（I C T））																		
<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機</td><td>[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m 以下 [施工管理装置]</td><td rowspan="2">損料にて計上</td><td rowspan="2">ICT 建設機械経費加算額は別途計上</td></tr><tr><td>[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m を超え 40m 以下 [施工管理装置]</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機	[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m 以下 [施工管理装置]	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上	[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m を超え 40m 以下 [施工管理装置]	<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機</td><td>[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m 以下 [施工管理装置]</td><td rowspan="2">損料にて計上</td><td rowspan="2">~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額は別途計上</td></tr><tr><td>[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m を超え 40m 以下 [施工管理装置]</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機	[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m 以下 [施工管理装置]	損料にて計上	~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額は別途計上	[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m を超え 40m 以下 [施工管理装置]
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																
プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機	[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m 以下 [施工管理装置]	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上																
	[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m を超え 40m 以下 [施工管理装置]																		
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																
プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機	[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m 以下 [施工管理装置]	損料にて計上	~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額は別途計上																
	[ベースマシーン]湿地型 打設長 30m を超え 40m 以下 [施工管理装置]																		
2ー2 ICT 建設機械経費加算額 ICT建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2ー1 機械経費にて計上するICT建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1）PVD工法（旧ペーパードレーン工法（I C T）） 対象建設機械：プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機 損料加算額：48,000円／日	2ー2 ~~ICT~~ I C T建設機械経費加算額 ~~ICT~~ I C T建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2ー1 機械経費にて計上する ~~ICT~~ I C T建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1）PVD工法（旧ペーパードレーン工法（I C T）） 対象建設機械：プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機 損料加算額：48,000 円／日																		
2ー3 その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。	2ー3 その他 ~~ICT~~ I C T建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。																		
2ー3ー1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 （1）PVD工法（旧ペーパードレーン工法（I C T））	~~2ー3ー1 保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~（1）PVD工法（旧ペーパードレーン工法（I C T））~~																		
保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × 施工日数（日）	~~保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × 施工日数（日）~~																		

(注) 施工日数は、実際に ICT 施工による施工を行った日数とする。 2－3－2 システム初期費 I C T施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 (1) P V D工法（旧ペーパードレーン工法（I C T）） 対象建設機械：プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機 費用：1, 150, 000 円／式 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 P V D工法（旧ペーパードレーン工法（I C T））における、I C T建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。 5. 土木工事標準積算基準書に対する補正 5－1 単価表の補正 積算基準の「6. 単価表（1）P V D工 1 0 0本単価表」にて建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。 <table><tr><td>名称</td><td>規格</td><td>単位</td><td>数量</td><td>指定事項</td></tr><tr><td>ICT建設機械経費加算額</td><td></td><td>日</td><td>100×Tc／ 60×T</td><td>機械損料数量 1. 84</td></tr></table> (注) Tc：1本当り施工時間（min／本） T：プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機運転日当り運転時間（h）	名称	規格	単位	数量	指定事項	ICT建設機械経費加算額		日	100×Tc／ 60×T	機械損料数量 1. 84	~~（注）施工日数は、実際に ICT 施工による施工を行った日数とする。~~ 2－3－~~2~~1 システム初期費 I C T~~施工用機器の建設機械~~による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、I C T建設機械精度確認等、I C T建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、~~システムの初期費用等~~、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を計上する。 (1) P V D工法（旧ペーパードレーン工法（I C T）） 対象建設機械：プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機 費用：1, 150, 000 円／式 ※1 工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でI C T建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 P V D工法（旧ペーパードレーン工法（I C T））における、I C T建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。 5. 施工箇所が点在する I C T活用工事の積算について 施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。 6~~5~~. 土木工事標準積算基準書に対する補正 6~~5~~－1 単価表の補正 積算基準の「6. 単価表（1）P V D工 1 0 0本単価表」にて建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。 <table><tr><td>名称</td><td>規格</td><td>単位</td><td>数量</td><td>指定事項</td></tr><tr><td>ICT建設機械経費加算額</td><td></td><td>日</td><td>100×Tc／ 60×T</td><td>機械損料数量 1. 84</td></tr></table> (注) Tc：1本当り施工時間（min／本） T：プレファブリケイティッドバーチカルドレーン打機運転日当り運転時間（h）	名称	規格	単位	数量	指定事項	ICT建設機械経費加算額		日	100×Tc／ 60×T	機械損料数量 1. 84
名称	規格	単位	数量	指定事項																	
ICT建設機械経費加算額		日	100×Tc／ 60×T	機械損料数量 1. 84																	
名称	規格	単位	数量	指定事項																	
ICT建設機械経費加算額		日	100×Tc／ 60×T	機械損料数量 1. 84																	

=6.8（h／日） L ：打設長（m） 6．諸雑費 PVD工法（旧ペーパードレーン工法（ICT））を実施する場合，諸雑費率を乗じる合計額に、ICT建設機械経費加算額は含めない。	=6.8（h／日） L ：打設長（m） 7-6．諸雑費 PVD工法（旧ペーパードレーン工法（ICT））を実施する場合、~~7-~~、諸雑費率を乗じる合計額に、ICT建設機械経費加算額は含めない。
--	--

	R 7 室長通知 別紙ー 1 9 I C T活用工事（地盤改良工）（サンドコンパクションパイル工）積算要領 別紙ー 1 9 I C T活用工事（地盤改良工）（サンドコンパクションパイル工）積算要領 1. 適用範囲 本資料は、I C Tによる地盤改良工（以下、地盤改良工（I C T））のうち、粘土、シルト及び有機質土等の地盤を対象として行う軟弱地盤処理工のうちサンドコンパクションパイル工及びこれらの工種の併用工に適用する。 なお、サンドコンパクションパイル工はケーシングパイプ径 400mm、杭径 700mm 程度で、敷鉄板の使用を標準とし、打設長は 35m 未満とする。 2. 機械経費 2ー1 機械経費 サンドコンパクションパイル工法の積算で使用する I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。 ① サンドコンパクションパイル工法（I C T） <table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="3">クローラ式サンド パイル打機</td><td>【打設長】 10m 未満 【規 格】 リーダ式 75kW リーダ長 30m (35～37t 吊り)</td><td rowspan="3">損料にて計上</td><td rowspan="3">I C T建設機械 経費加算額は別 途計上</td></tr><tr><td>【打設長】 10m 以上 20m 未満 【規 格】 リーダ式 75kW リーダ長 30m (35～37t 吊り)</td></tr><tr><td>【打設長】 20m 以上 35m 未満 【規 格】 リーダ式 120kW リーダ長 45m (40t 吊り)</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	クローラ式サンド パイル打機	【打設長】 10m 未満 【規 格】 リーダ式 75kW リーダ長 30m (35～37t 吊り)	損料にて計上	I C T建設機械 経費加算額は別 途計上	【打設長】 10m 以上 20m 未満 【規 格】 リーダ式 75kW リーダ長 30m (35～37t 吊り)	【打設長】 20m 以上 35m 未満 【規 格】 リーダ式 120kW リーダ長 45m (40t 吊り)
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考								
クローラ式サンド パイル打機	【打設長】 10m 未満 【規 格】 リーダ式 75kW リーダ長 30m (35～37t 吊り)	損料にて計上	I C T建設機械 経費加算額は別 途計上								
	【打設長】 10m 以上 20m 未満 【規 格】 リーダ式 75kW リーダ長 30m (35～37t 吊り)										
	【打設長】 20m 以上 35m 未満 【規 格】 リーダ式 120kW リーダ長 45m (40t 吊り)										

	2－2　ＩＣＴ建設機械経費加算額 　　ＩＣＴ建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局　の賃貸費用とし、2－1機械経費にて計上する ICT 建設機械に適用する。 　　なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1）　サンドコンパクションパイル工法（ＩＣＴ） 　　　対象建設機械：クローラ式サンドパイル打機 　　　損料加算額：48,000 円／日 2－3　その他 　　ＩＣＴ建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 2－3－1　システム初期費 　　ＩＣＴ建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ＩＣＴ建設機械精度確認等、ＩＣＴ建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を計上する。 （1）　サンドコンパクションパイル工法（ＩＣＴ） 　　　対象建設機械：　クローラ式サンドパイル打機 　　　費用：1,150,000 円／式 　　　※1 工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でＩＣＴ建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。 3．　3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 　　3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 　　費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 　　また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 　　なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。 4．　3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 　　サンドコンパクションパイル工法（ＩＣＴ）における、ＩＣＴ建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。 5．　施工箇所が点在するＩＣＴ活用工事の積算について 　　施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章　工事費の積算」及び「第Ⅰ編第11章　施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。 6．　土木工事標準積算基準書に対する補正 6－1　単価表の補正 　　積積算基準の「第Ⅵ編土木工事標準単価及び市場単価　第2章市場単価　⑪軟弱地盤処理工」にて建
--	---

設機械に取付ける各種機器及び基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。

名称	規格	単位	数量	指定事項
ICT建設機械経費加算額		日	L/D	機械損料数量 1. 84

(注) L：杭 1 本当たり打設長（m）
D：1 日当たり標準施工量（m/日）

なお、1 日当たりの標準施工量は以下のとおりとする。

区 分	規格・使用	単位	施工数量
サンドコンパクションパイル工	打設長 10m未満	m	180
	打設長 10m以上20m未満	m	170
	打設長 20m以上35m未満	m	170

R 6 室長通知 別紙― 2 0 I C T活用工事（基礎工）実施要領	R 7 室長通知 別紙― 2 0 I C T活用工事（基礎工）実施要領
別紙― 2 0	別紙― 2 0
I C T活用工事 （基礎工）実施要領	I C T活用工事 （基礎工）実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1－1 概要	1－1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセス全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1－2 I C T活用工事における基礎工	1－2 I C T活用工事における基礎工
次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（基礎工）とする。また、「I C T基礎工」という略称を用いることがある。	次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（基礎工）とする。また、「I C T基礎工」という略称を用いる。
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ 該当無し	③ 該当無し
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1－3 I C T施工技術の具体的内容	1－3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表― 1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、以下の①～⑤によるものとし、関連要領等については、最新のものを適用するものとする。
	関連要領等： https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記1）～8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。	起工測量において、3次元測量データを取得するため、以下1）～7）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。
起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。	起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。
また、基礎工の関連施工として I C T土工が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、 I C T活用とする。	また、基礎工の関連施工として I C T土工等が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、 I C T活用工事とする。
I C T土工等の起工測量データ等を活用することができる。	~~I C T土工等の起工測量データ等を活用することができる。~~
1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
5）T S等光波方式を用いた起工測量	5）T S等光波方式を用いた起工測量
6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量	6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量
7）R T K－G N S Sを用いた起工測量	7）R T K－G N S Sを用いた起工測量
8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量	~~8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成

1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 3次元設計データ作成はICT土工と合わせて行うが、ICT基礎工の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 なお、ICT基礎工の3次元設計データとは、3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）（基礎工編）で定義する基礎工設計データのことを言う。 ③ ICT建設機械による施工 基礎工においては該当無し ④ 3次元出来形管理等の施工管理 基礎工の施工管理において、下記に示す方法により出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 下記1）～8）の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5）TS等光波方式を用いた出来形管理 6）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7）RTK-GNSSを用いた出来形管理 8）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により1）～8）のICTを用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員との協議する （2）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記（1）で定める計測技術を用い下記1）の出来形管理要領による。 1）3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） （3）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 1－3④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。	1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 なお、発注者が貸与する3次元データを活用する場合もICT活用工事とする。 また、3次元設計データ作成はICT土工と合わせて行うが、ICT基礎工の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 ICT基礎工の3次元設計データとは、3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）（基礎工編）で定義する基礎工設計データのことを言う。 ③ ICT建設機械による施工 基礎工においては該当無し ④ 3次元出来形管理等の施工管理 基礎工の施工管理において、以下に示す方法により出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 基礎工の施工管理において、以下1）～7）の技術から選択（複数以上可）して、出来形管理を実施するものとする。 また、以下1）～4）の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5）TS等光波方式を用いた出来形管理 6）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7）RTK-GNSSを用いた出来形管理 ~~8）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により上記1）～7）のICT施工技術を用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、監督職員と協議の上、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなどして出来形管理を行っても良いものとする。 （2）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記（1）で定める計測技術を用い以下1）の出来形管理要領による。 1）3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） （3）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 1－3①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。
--	---

《表－1 I C T施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量／ 3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、③、⑪ ⑫、⑬	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、④、⑭	
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形計測 技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑥	
	TS（ノンブリズム方式）を用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑦	
	RTK－GNSSを用いた起工測量／出来形計測技 術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用い た起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑨	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用い た起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑩	
	3次元計測技術を用いた出来形計測	出来形計測	－	○	○	②、⑤	

【凡例】○：適用可能　－：適用外

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）土工編
	②	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）表層安定処理等・固化工（中層混合処理）編
	③	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）固結工（スラリー攪拌工）編
	④	空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑤	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑦	TS（ノンブリ）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑧	RTK－GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑨	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑩	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑪	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（表層安定処理等・中層地盤改良工事編）（案）
	⑫	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（固結工（スラリー攪拌工）編）（案）
	⑬	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	⑭	公共測量におけるUAVの使用に関する安全基準－国土地理院
	⑮	UAVを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院
	⑯	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院

削 除

1－4　ＩＣＴ活用工事の対象工事 　　ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）は工事種別（２１種別）のうち、「一般土木工事」、「基礎工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。 （１）対象工種 　　ＩＣＴ活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。 　　１）矢板工 　　２）既製杭工 　　３）場所打杭工 （２）適用対象外 　　従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 （３）対象規模 　　ＩＣＴ活用工事（基礎工）の対象規模は、１－４（１）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2．ＩＣＴ活用工事の実施方法 2－1　発注方式 　　ＩＣＴ活用工事の発注は、施工者希望Ⅱ型とするが、工事内容及び地域におけるＩＣＴ施工機器の普及状況等を勘案し決定する。 ※「そのほか」 　　ＩＣＴ活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、ＩＣＴ活用工事として事後設定できるものとし、ＩＣＴ活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2　発注における入札公告等 　　入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 　　なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 （１）施工者希望Ⅱ型 　　【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：基礎工を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1　工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。	1－4　ＩＣＴ活用工事の対象工事 　　ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）は「一般土木工事」、「基礎工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、以下（１）～（３）に該当する工事とする。 （１）対象工種 　　ＩＣＴ活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける以下の工種とする。 　　１）矢板工 　　２）既製杭工 　　３）場所打杭工 （２）適用対象外 　　従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 （３）対象規模 　　ＩＣＴ活用工事（基礎工）の対象規模は、１－４（１）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2．ＩＣＴ活用工事の実施方法 2－1　発注方式 　　ＩＣＴ活用工事の発注は、以下によるものとするが、ＩＣＴ施工技術の活用が困難な場合及びＩＣＴ施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など工事内容及び現場条件等を勘案し決定する。 （１）施工者希望Ⅱ型 　　１－４（１）に示す対象工種に該当する工種については、施工者希望Ⅱ型での発注を原則とする。 ※「そのほか」 　　ＩＣＴ活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、ＩＣＴ活用工事として事後設定できるものとし、ＩＣＴ活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2　発注における入札公告等 　　入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 　　なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 （１）施工者希望Ⅱ型 　　【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：基礎工を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1　工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。
--	---

【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：基礎工を含む一般土木工事の場合は、（番号）工事の実施形態に下記を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に I C T 活用施工を行うことができる。 本工事における I C T 活用施工は、①に示す 3 次元起工測量と 3 次元設計データの作成を行い、I C T を用いた 3 次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた 3 次元データを納品することをいう。 なお、I C T の活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3 次元起工測量 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) T S 等光波方式を用いた起工測量 6) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 7) R T K－G N S S を用いた起工測量 8) その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T 活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T 活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：基礎工を含む一般土木工事の場合は、（番号）工事の実施形態に以下を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T 施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に I C T 活用施工を行うことができる。 本工事における I C T 施工技術の活用は、以下の①②④⑤の段階で I C T 施工技術を活用することをいう。 なお、I C T 施工技術の活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3 次元起工測量 ~~1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量~~ ~~2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~5) T S 等光波方式を用いた起工測量~~ ~~6) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量~~ ~~7) R T K－G N S S を用いた起工測量~~ ~~8) その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量~~ ② 3 次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3 次元データ納品 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T 施工技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T 施工技術の活用に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。
--	---

【特記仕様書】記載例 (記載例) 第〇〇条 I C T活用工事について 1. I C T活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事である。 2. 定義 (1) i-Construction とは、I C Tの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてI C Tを活用した工事（I C T活用工事）を実施するものとする。 (2) I C T活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、I C Tを全面的に活用する工事である。また、次の①②④⑤の段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事という。 対象は、基礎工等を含む一般土木工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、I C T活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記4～9によりI C T活用施工を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①②④⑤の段階でI C T施工技術を活用することとし基礎工等の施工範囲の全てで適用することとし、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 5. I C Tを用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1)～8)から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 但し、基礎工等の関連施工としてI C T土工が行われる場合、その起工測量データを活用することができるものとし、I C T活用とする。なお、監督職員と協議する。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) T S等光波方式を用いた起工測量	【特記仕様書】記載例 (記載例) 第〇〇条 I C T活用工事について 1. I C T活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事である。 2. 定義 (1) i-Construction とは、I C T施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてI C T施工技術を活用した工事（I C T活用工事）を実施するものとする。 (2) I C T活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、I C T施工技術を全面的に活用する工事である。また、以下の①②④⑤の段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事という。 対象は、基礎工を含む工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、I C T施工技術の活用を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に以下4～8によりI C T施工技術の活用を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①②④⑤の段階でI C T施工技術を活用することとする。基礎工の施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び数量・対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 5. I C T施工技術を用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、以下1)～7)から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 但し、基礎工等の関連施工としてI C T土工等が行われる場合、監督職員との協議の上、その起工測量データを活用することができるものとし、I C T活用工事とする。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) T S等光波方式を用いた起工測量
---	---

6) T S (ノンプリズム方式) を用いた起工測量 7) R T K－G N S S を用いた起工測量 8) その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量 ② 3 次元設計データ作成 受注者は、設計図書や 5. ①で得られたデータを用いて、3 次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。 3 次元設計データ作成は I C T 土工と合わせて行うが、I C T 基礎工の施工管理においては、3 次元設計データ (TIN) 形式での作成は必須としない。 なお、I C T 基礎工の 3 次元設計データとは、3 次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案) (基礎工編) で定義する基礎工設計データのことを言う。 ③ 該当なし ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 基礎工等の施工管理において、下記 1) ～ 8) の技術から選択 (複数以上可) して、出来形計測を行うものとする。 1) 空中写真測量 (無人航空機) を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) T S 等光波方式を用いた出来形管理 4) T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理 5) R T K－G N S S を用いた出来形管理 6) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 7) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 8) その他の 3 次元計測技術を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により I C T を用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合においては、写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員との協議する <td data-bbox="1371 247 1501 1887"></td> <td data-bbox="1501 247 2635 1887"> 6) T S (ノンプリズム方式) を用いた起工測量 7) R T K－G N S S を用いた起工測量 ~~8) その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量~~ ② 3 次元設計データ作成 受注者は、5. ①で得られた測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3 次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。 3 次元設計データ作成は I C T 土工等と合わせて行うが、I C T 基礎工の施工管理においては、3 次元設計データ (TIN) 形式での作成は必要としない。 なお、I C T 基礎工の 3 次元設計データとは、3 次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案) (基礎工編) で定義する基礎工設計データのことを言う。 ③ 該当なし ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 基礎工の施工管理において、以下 1) ～ 7) の技術から選択 (複数以上可) して、出来形管理を実施するものとする。 また、以下 1) ～ 4) の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。 1) 空中写真測量 (無人航空機) を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5) T S 等光波方式を用いた出来形管理 6) T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理 7) R T K－G N S S を用いた出来形管理 ~~8) その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により上記 1) ～ 7) の I C T 施工技術を用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合、監督職員と協議の上、写真・画像データ等と併用するなど出来形管理を行っても良いものとする。 【メモ：条件明示として実施した出来形管理及び 3 次元出来形管理・3 次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】 【変更特記記載例】 (3 次元出来形管理・3 次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合) 本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3 次元出来形管理・3 次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。(している。) 1) 空中写真測量 (無人航空機) を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 (実施する (した) 出来形管理を具体的に掲載する。) (3 次元出来形管理・3 次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合) </td> <td data-bbox="2635 247 2742 1887"></td>		6) T S (ノンプリズム方式) を用いた起工測量 7) R T K－G N S S を用いた起工測量 ~~8) その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量~~ ② 3 次元設計データ作成 受注者は、5. ①で得られた測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3 次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。 3 次元設計データ作成は I C T 土工等と合わせて行うが、I C T 基礎工の施工管理においては、3 次元設計データ (TIN) 形式での作成は必要としない。 なお、I C T 基礎工の 3 次元設計データとは、3 次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案) (基礎工編) で定義する基礎工設計データのことを言う。 ③ 該当なし ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 基礎工の施工管理において、以下 1) ～ 7) の技術から選択 (複数以上可) して、出来形管理を実施するものとする。 また、以下 1) ～ 4) の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。 1) 空中写真測量 (無人航空機) を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5) T S 等光波方式を用いた出来形管理 6) T S (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理 7) R T K－G N S S を用いた出来形管理 ~~8) その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により上記 1) ～ 7) の I C T 施工技術を用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合、監督職員と協議の上、写真・画像データ等と併用するなど出来形管理を行っても良いものとする。 【メモ：条件明示として実施した出来形管理及び 3 次元出来形管理・3 次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】 【変更特記記載例】 (3 次元出来形管理・3 次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合) 本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3 次元出来形管理・3 次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。(している。) 1) 空中写真測量 (無人航空機) を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 (実施する (した) 出来形管理を具体的に掲載する。) (3 次元出来形管理・3 次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合)	
---	--	--	--

(2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い下記1)の出来形管理要領による。 1) 3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測(管理)すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として納品する。 6. 上記5. ①②④⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. 上記5. ①②④⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 8. 土木工事施工管理基準(案)に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用(用語の定義)について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ(以下「3次元データ」という。)等という。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職	本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については計上していない。 5) TS等光波方式を用いた出来形管理 6) TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 7) RTK-GNSSを用いた出来形管理 8) 施工履歴データを用いた出来形管理 (実施する(した)出来形管理を具体的に掲載する。) (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い以下1)の出来形管理要領による。 1) 3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測(管理)すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 5. ①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。 6. 上記5. ①②④の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~7. 上記5. ①②④⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ 7. 土木工事施工管理基準(案)に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 ~~9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ 8. 本特記仕様書に疑義が生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用(用語の定義)について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ(以下「3次元データ」という。)等という。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職
--	--

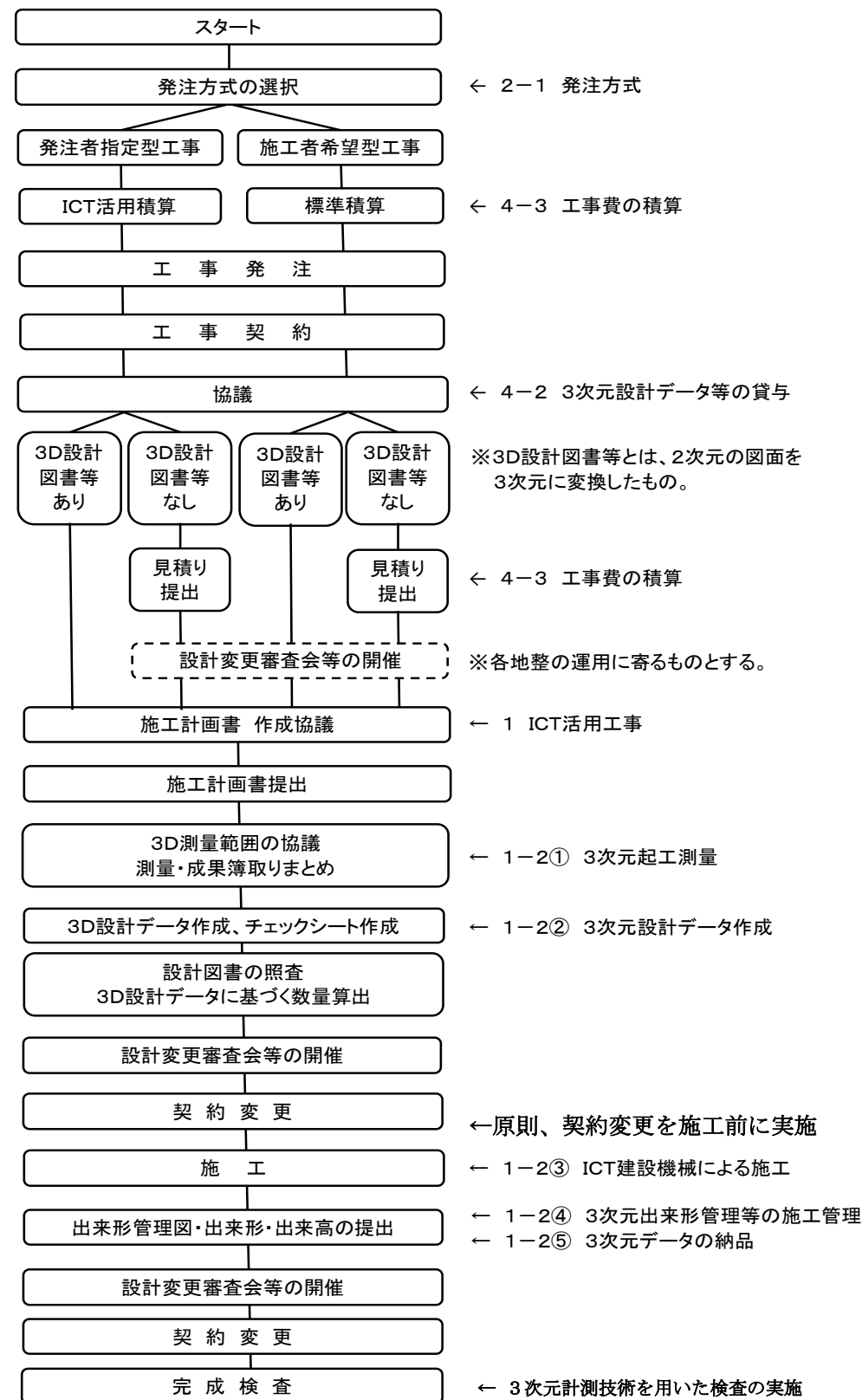
員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の費用について 【施工者希望型工事の場合】 １　受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。 ・ＩＣＴ活用工事（基礎工）積算要領 ただし、監督職員の指示に基づき、３次元起工測量、３次元設計データの作成並びに３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。		員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の費用について ~~【施工者希望型工事の場合】~~ １　受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容及び数量・対象範囲について明示し、監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ施工技術を活用する項目については、以下の積算要領に基づき以下の（１）（２）により費用を計上することとする。 ・ＩＣＴ活用工事（基礎工）積算要領 （１）３次元起工測量・３次元設計データの作成費用 ３次元起工測量・３次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「３次元起工測量・３次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 （２）３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用 出来形管理の計測範囲において、面的に座標を取得し、ソフトウェア上で面の法長・高さ等の出来形管理を実施し、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、３次元データ納品を行った場合、標記費用の対象とする。 費用の計上方法については、受注者より提出された見積りにより費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正の補正係数を乗じるものとする。 なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者からの見積りにより算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする。 また、受注者から見積りの提出がない場合は、３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。ただし、基礎工（ＩＣＴ）と同時に実施する。 土工（ＩＣＴ）等他工種において補正係数を乗じる場合は適用しない。 ・共通仮設費率補正係数：１．２ ・現場管理費率補正係数：１．１ 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の１）～４）とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 ２）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 なお、以下の５）～７）による出来形管理を実施した場合は、「３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、計上しない。 ５）ＴＳ等光波方式を用いた出来形管理	
--	--	---	--

2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用施工を行った、全てのICT活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。 3. ICT活用工事実施の推進のための措置 3-1 工事成績評価における措置 ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの1-2①②④⑤の段階でICTを活用した工事。 ※本項目は2点の加点とする。 ※ICT活用による加点は最大2点の加点とする (1) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案によりICT活用施工（1-2①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評価における減点は行わない。 4. ICT活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にICT活用施工を導入し、ICT施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4-1 施工管理、監督・検査の対応 ICT活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表1【要領一覧】）に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4-2 3次元設計データ等の貸与 (1) ICT活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注する <td data-bbox="1478 247 2742 1887"> 6) TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7) RTK-GNSSを用いた出来形管理 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用工事を行った施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。 3. ICT活用工事実施の措置 3-1 工事成績評価における措置 ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの1-2①②④⑤の段階でICTを活用した工事 ※本項目は2点の加点とする。 ※ICT活用による加点は最大2点の加点とする (1) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案によりICT施工技術の活用（1-2①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評価における減点は行わない。 4. ICT活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にICT施工技術を導入し、活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4-1 施工管理、監督・検査の対応 ICT施工技術の活用を実施するにあたって、別途発出されている「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」及び各種「出来形管理の監督・検査要領（案）」に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4-2 3次元設計データ等の貸与 ~~(1) ICT活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注する~~ </td>	6) TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 7) RTK-GNSSを用いた出来形管理 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用工事を行った施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。 3. ICT活用工事実施の措置 3-1 工事成績評価における措置 ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの1-2①②④⑤の段階でICTを活用した工事 ※本項目は2点の加点とする。 ※ICT活用による加点は最大2点の加点とする (1) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案によりICT施工技術の活用（1-2①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評価における減点は行わない。 4. ICT活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にICT施工技術を導入し、活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4-1 施工管理、監督・検査の対応 ICT施工技術の活用を実施するにあたって、別途発出されている「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」及び各種「出来形管理の監督・検査要領（案）」に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4-2 3次元設計データ等の貸与 ~~(1) ICT活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注する~~
--	---

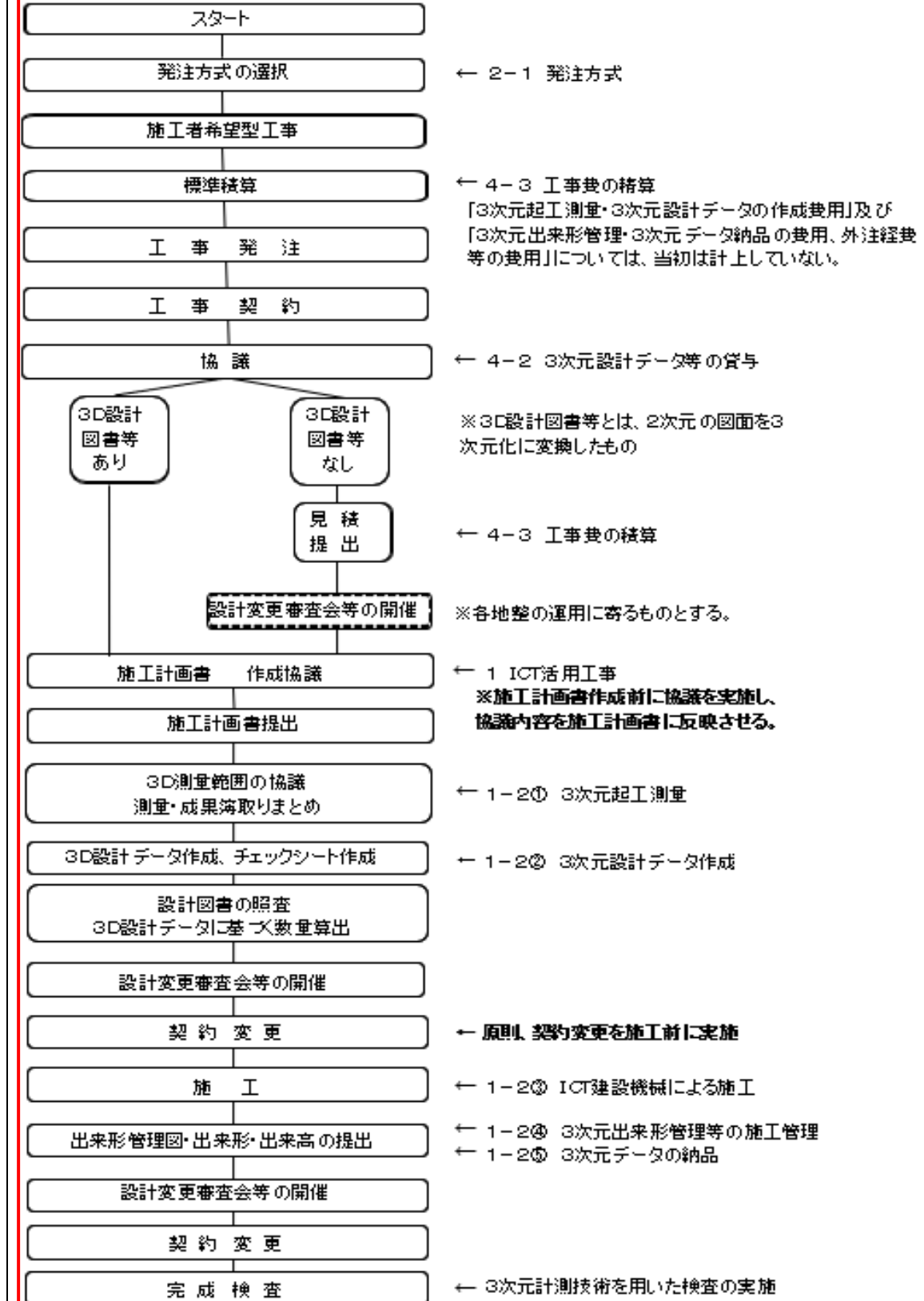
ことになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 (2) 発注者は、詳細設計において、ICT活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、ICT活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 4－3 工事費の積算 (1) 施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりICT活用施工を実施する場合、ICT活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記1) に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 1) ICT活用工事（基礎工）積算要領 なお、ICT活用について協議を行う際には、「1－2①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 また、現行基準による2次元の設計ストック等によりICT活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－3 6 「ICTの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。	~~ことになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ 発注者は、受注者が3次元設計データ作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与するほか、ICT施工技術を活用する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ 4－3 工事費の積算 (1) 施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりICT施工技術を活用する場合、ICT施工技術を活用する項目については、各段階を設計変更の対象とし、以下1) に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 1) ICT活用工事（基礎工）積算要領 なお、ICT施工技術の活用について協議を行う際には、「1－2①②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 また、現行基準による2次元の設計ストック等によりICT活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－3 4 「ICTの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－4 ICT監督・検査体制の構築 ICT施工技術の活用における監督検査を適切に行うことを目的に、ICT検査官等の任命や研修等でのICT施工技術の習得を図るなど、ICT施工技術の活用に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5 現場見学会・講習会の実施 ICT活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。 5. 地方整備局等におけるICT活用工事に関する調査等 ICT活用工事の発注見通し、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。 5－1 発注見通しの調査（母集団調査）
--	--

	I C T活用工事として活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。 なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、 1－4、2－1で定める工事とする。 5－2 I C T活用工事の活用実績の報告（別途指示） I C T活用工事の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示するものとする。 5－3 施工合理化調査 施工合理化調査を実施する場合は別途指示する。 6． I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示） 6－1 対象工事の選定 <table><tr><th>調査名</th><th>目的</th><th>対象工事</th><th>対象者</th></tr><tr><td>I C T活用工事の活用効果等に関する調査</td><td>活用目的等の把握</td><td>全ての I C T活用工事</td><td>受注者</td></tr></table> 1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。 6－2 調査票の回収について 受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。	調査名	目的	対象工事	対象者	I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	全ての I C T活用工事	受注者
調査名	目的	対象工事	対象者						
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	全ての I C T活用工事	受注者						

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



R 6 室長通知 別紙ー 2 1 I C T活用工事（基礎工）積算要領	R 7 室長通知 別紙ー 2 1 I C T活用工事（基礎工）積算要領
別紙ー 2 1 I C T活用工事（基礎工）積算要領 1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した基礎工（以下、基礎工（I C T））に適用する。 2. 適用工種 1) 矢板工 2) 既製杭工 3) 場所打杭工 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～5）とし、それ以外の、I C T活用工事（基礎工）実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理	別紙ー 2 1 I C T活用工事（基礎工）積算要領 1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した基礎工（以下、基礎工（I C T））に適用する。 2. 適用工種 1) 矢板工 2) 既製杭工 3) 場所打杭工 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成（ 修正含む ）を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 （1）出来形管理の計測範囲において、面的に座標を取得し、ソフトウェア上で面の法長・高さ等の出来形管理を実施し、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、3次元データ納品を行った場合、標記費用の対象とする。 費用の計上方法については、受注者より提出された見積りにより費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。 また、受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。ただし、基礎工（I C T）と同時に実施するI C T土工等他工種において補正係数を乗じる場合は適用しない。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ~~※小数点第3位四捨五入2位止め~~ 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～4）とし、 それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、変更の対象としない。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理

5) 上記1)～4)に類似する3次元計測技術を用いた出来形管理 (2) 費用計上にあたっての留意事項 1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。	~~5) 上記1)～4)に類似する3次元計測技術を用いた出来形管理~~ (2) 費用計上にあたっての留意事項 1) 「~~3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用~~」については、当初は計上しない。 2) ~~受注者からの見積又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。~~ ~~①補正係数を乗じて算出される金額を計上する場合~~ ~~・補正係数を乗じて算出される金額<受注者からの見積による金額~~ ~~②受注者からの見積による金額を計上する場合~~ ~~・補正係数を乗じて算出される金額>受注者からの見積による金額~~ 5. 施工箇所が点在するICT活用工事の積算について 施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。
--	--

R 6 室長通知 別紙ー 2 2 I C T活用工事（河川浚渫）実施要領	R 7 室長通知 別紙ー 2 2 I C T活用工事（河川浚渫）実施要領
別紙ー 2 2	別紙ー 2 2
I C T活用工事（河川浚渫）実施要領	I C T活用工事（河川浚渫）実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1ー1 概要	1ー1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示すI C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示すI C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1ー2 I C T活用工事における河川浚渫	1ー2 I C T活用工事における河川浚渫
また、次の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事（河川浚渫）とする。また、「I C T河川浚渫」という略称を用いることがある。	次の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事（河川浚渫）とする。また、「I C T河川浚渫」という略称を 用いる 。
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ I C T建設機械による施工	③ I C T建設機械による施工
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1ー3 I C T施工技術の具体的内容	1ー3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表ー 1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、 以下の①～⑤によるものとし、関連要領等については、最新のものを適用するものとする。 関連要領等：https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記1）～2）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。なお、直近の測量成果等での3次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T活用工事とする。	起工測量において、3次元測量データを取得するため、 以下1）～2） から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 なお、直近の測量成果等での 3次元データが活用できる場合及び3次元出来形管理等の施工管理において施工履歴データを用いた出来形管理を実施する場合においては、監督職員と協議の上、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T活用工事とする。
1）音響測深機器を用いた起工測量	1）音響測深機器を用いた起工測量
2）その他の3次元計測技術を用いた起工測量（※）	2） レッド測深等従来手法による起工測量（※）
（※）従来の管理断面においてT Sを用いて測定し、計測点同士をT I Nで結合する方法で断面間を3次元的に補完することを含む。	（※）上記2）による起工測量を実施した場合は、計測点同士を結合し、T I Nデータの作成ができるように測量データを取得するものとする。
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
1ー3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。	1ー3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、 I C T建設機械による施工、及び3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 なお、発注者が貸与する3次元データを活用する場合も、I C T活用工事とする。
③ I C T建設機械による施工	③ I C T建設機械による施工

1－3②で作成した3次元設計データを用い、下記1)に示すICT建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。

1) 3次元MCまたは3次元MG建設機械

※MC：「マシンコントロール」の略称、MG：「マシンガイダンス」の略称

④ 3次元出来形管理

1－3③による工事の施工管理において、下記1)～3)から選択（複数以上可）して出来形管理を実施する。

1) 音響測深機器を用いた出来形管理

2) 施工履歴データを用いた出来形管理

3) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理

⑤ 3次元データの納品

1－3④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

《表－1 ICT施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用			監督・検査 施工管理	備考
				ポンプ 浚渫船	グラブ 浚渫船	バックホウ 浚渫船		
3次元起工測量 ／3次元出来形管理 等施工管理	音響測深機器を用いた起工測量 ／出来形管理技術（河川浚渫工）	測量 出来形計測 出来形管理	－	－	－	○	①、②	浚渫
	施工履歴データを用いた出来形管理技術	測量 出来形計測 出来形管理	ICT 建設機械	－	－	○	①、③	浚渫
ICT建設機械 による施工	3次元マシンコントロール技術 3次元マシンガイダンス技術	浚渫	ICT 建設機械	－	－	○	－	

【凡例】○：適用可能 －：適用外

1－3②で作成した3次元設計データを用い、以下1)に示すICT建設機械により施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。

なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和5年3月31日 国土交通省告示第250号）付録1測量機器検定基準2－6の性能における検定基準を満たすこと。

1) 3次元MCまたは3次元MG建設機械

※MC：「マシンコントロール」の略称、MG：「マシンガイダンス」の略称

建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、河川浚渫を実施する。但し、現場条件により、③ICT建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してよいものとする。

④ 3次元出来形管理

1－3③による工事の施工管理において、以下の出来形管理を実施する。

(1) 出来形管理

出来形管理にあたっては、出来形管理図表（ヒートマップ）を作成し、出来形の良否を判定する管理手法（面管理）とし、以下1)にて実施するものとする。なお、面管理とは出来形管理の計測範囲において、1m間隔以下（1点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法のことをいう。

1) 音響測深機器を用いた出来形管理

なお、以下2)の方法で実施してもICT活用工事とする。

2) 施工履歴データを用いた出来形管理

~~3) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~

⑤ 3次元データの納品

1－3①②④により作成した3次元データを、工事完成図書として電子納品する。

削 除

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）河川浚渫工編
	②	音響測深機器を用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫編）（案）
	③	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領（河川浚渫編）（案）

1－4 I C T活用工事の対象工事

I C T活用工事の対象工事（発注工種）は「河川しゅんせつ工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。

(1) 対象工種

I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。

1) 浚渫工（バックホウ浚渫船）

・浚渫船運転工

(2) 適用対象外

従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。

(3) 対象規模

I C T活用工事（河川浚渫）の対象規模は、1－4（１）対象工種を条件とし、数量は「2－1発注方式」に記載のとおりとする。

2. I C T活用工事の実施方法

2－1 発注方式

I C T活用工事の発注は、下記の（１）～（３）によるものとするが、工事内容及び地域におけるI C T施工機器の普及状況等を勘案し決定する。

(1) 発注者指定型

予定価格（消費税を含む）が3億円以上又は浚渫数量が20,000 m³以上を目安として、発注者が設定した対象工事に適用する。

(2) 施工者希望型（施工者希望Ⅱ型）

予定価格（消費税を含む）が3億円未満かつ、浚渫数量が20,000m³未満を目安として、発注者が設定した対象工事に適用する。

※「そのほか」

I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。

2－2 発注における入札公告等

入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。

なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。

1－4 I C T活用工事の対象工事

I C T活用工事の対象工事（発注工種）は「河川しゅんせつ工事」を原則とし、以下（１）～（３）に該当する工事とする。

(1) 対象工種

I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける以下の工種とする。

1) 浚渫工（バックホウ浚渫船）

・浚渫船運転工

(2) 適用対象外

従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。

(3) 対象規模

I C T活用工事（河川浚渫）の対象規模は、1－4（１）対象工種を条件とする。

2. I C T活用工事の実施方法

2－1 発注方式

I C T活用工事の発注は、以下によるものとするが、I C T施工技術の活用が困難な場合及びI C T施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など工事内容及び現場条件等を勘案し決定する。

(1) 発注者指定型

1－4（１）に示す対象工種に該当する工種については、発注者指定型での発注を原則とする。

~~(2) 施工者希望型（施工者希望Ⅱ型）~~

~~予定価格（消費税を含む）が3億円未満かつ、浚渫数量が20,000m³未満を目安として、発注者が設定した対象工事に適用する。~~

~~※「そのほか」~~

~~I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。~~

2－2 発注における入札公告等

入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。

なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。

(1) 発注者指定型 【入札公告】記載例 (記載例) 【メモ：河川しゅんせつ工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T 技術の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事である。 【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：河川しゅんせつ工事の場合は、（番号）工事の実施形態に下記を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を追記する。 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T 技術の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事である。 本工事における浚渫工（バックホウ浚渫船）において、下記に示す I C T 建設機械を用いた施工を行い、I C T を用いた 3 次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた 3 次元データを納品するものとし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ・ I C T 建設機械 1) 3 次元 MC または 3 次元 MG 建設機械 なお、MC とは「マシンコントロール」、MG とは「マシンガイダンス」の略称である。 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T 活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T 活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※	(1) 発注者指定型 【入札公告】記載例 (記載例) 【メモ：河川しゅんせつ工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T 施工技術の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事である。 【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：河川しゅんせつ工事の場合は、（番号）工事の実施形態に以下を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を追記する。 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T 施工技術の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事である。 本工事における I C T 施工技術の活用は、浚渫工（バックホウ浚渫船）において、以下の①～⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用することとし、詳細については特記仕様書によるものとする。但し、現場条件により、I C T 建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員と協議の上、従来型建設機械による施工を実施しても I C T 活用工事とする。 ① 3 次元起工測量 ② 3 次元設計データ作成 ③ I C T 建設機械による施工 ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3 次元データ納品 ・ I C T 建設機械 1) 3 次元 MC または 3 次元 MG 建設機械 なお、MC とは「マシンコントロール」、MG とは「マシンガイダンス」の略称である。 ~~『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T 活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T 活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※~~
---	---

② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や4. ①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ I C T建設機械による施工 4. ②で作成した3次元設計データを用い、下記に示すI C T建設機械により、施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。 なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和5年3月31日 国土交通省告示第250号）付録1測量機器検定基準2－6の性能における検定基準を満たすこと。 1）3次元MCまたは3次元MG建設機械 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、I C T建設機械による施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、浚渫工を実施する。 ④ 3次元出来形管理等の出来形管理 4. ③による工事の施工管理において、下記1）～3）から選択（複数以上可）して出来形管理を行うものとする。 1）音響測深機器を用いた出来形管理 2）施工履歴データを用いた出来形管理 3）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理		② 3次元設計データ作成 受注者は、4. ①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、I C T建設機械による施工、及び3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ I C T建設機械による施工 4. ②で作成した3次元設計データを用い、以下に示すI C T建設機械により、施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。 なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和5年3月31日 国土交通省告示第250号）付録1測量機器検定基準2－6の性能における検定基準を満たすこと。 1）3次元MCまたは3次元MG建設機械※ ※MCとは「マシンコントロール」、MGとは「マシンガイダンス」の略称である。 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術または、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術を用いて、浚渫工を実施する。 但し、現場条件により、③I C T建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員と協議の上、従来型建設機械による施工を実施してもよいものとする。 ④ 3次元出来形管理等の出来形管理 出来形管理にあたっては、標準的に出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）とし、以下1）にて実施するものとする。 1）音響測深機器を用いた出来形管理 なお、以下2）の方法で実施してもI C T活用工事とする。 2）施工履歴データを用いた出来形管理 ~~3）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ 【メモ：条件明示として実施した出来形管理及び3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】 【変更特記記載例】 （3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合） 本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。（している。） 1）音響測深機器を用いた出来形管理	
--	--	---	--

⑤ 3次元データの納品 4. ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。 5. 上記4. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用工事用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要となる詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 6. 上記4. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 7. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 8. 受注者は、当該技術の施工にあたり、活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 9. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 ICT活用工事を実施する項目については、「ICT活用工事（河川浚渫）積算要領」に基づき費用を計上している。		（実施する（した）出来形管理を具体的に掲載する。） （3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合） 本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については計上していない。 2）施工履歴データを用いた出来形管理 （実施する（した）出来形管理を具体的に掲載する。） ⑤ 3次元データの納品 4. ①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。 5. 上記4. ①～④の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要となる詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~6. 上記4. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ 6. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 ~~8. 受注者は、当該技術の施工にあたり、活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ 7. 本特記仕様書に疑義が生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 ICT施工技術を活用する項目については、以下の積算要領に基づき費用を計上しているが、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」及び「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上していない。 ・ICT活用工事（河川浚渫）積算要領 実施した場合は、以下の（1）（2）により設計変更の対象とし、費用を計上する。	
---	--	---	--

受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、ＩＣＴ活用に関する具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し協議がなされ、協議が整った場合、ＩＣＴ活用施工を実施しない項目については、各段階を設計変更の対象とする。 なお、監督職員の指示に基づき、３次元起工測量を実施するとともに３次元設計データの作成を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。 ２ 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査 ＩＣＴ活用施工を行った、全てのＩＣＴ活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	（１） ３次元起工測量・３次元設計データの作成費用 ３次元起工測量・３次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、受注者から見積の提出がない場合は、「３次元起工測量・３次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 （２） ３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用 出来形管理の計測範囲において、１ｍ間隔以下（１点/㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、３次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、３次元データ納品を行った場合の費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正の補正係数を乗じるものとする。 なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者からの見積により算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積により算出される金額を積算計上額とする。 また、受注者から見積の提出がない場合は、３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。 ・ 共通仮設費率補正係数：１.２ ・ 現場管理費率補正係数：１.１ 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の出来形管理とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 １）音響測深機器を用いた出来形管理 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、ＩＣＴ活用に関する具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し協議がなされ、協議が整った場合、ＩＣＴ活用の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とする。 ２ 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査 ＩＣＴ活用工事を行った施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。
--	---

(2) 施工者希望型（施工者希望Ⅱ型）

【入札公告】記載例

（記載例）

【メモ：河川しゅんせつ工事の場合は、（番号）を追記】

『1 工事概要』に以下を追記する。

（番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。

【入札説明書】記載例

（記載例）

【メモ：河川しゅんせつ工事の場合は、（番号）工事の実施形態に下記を追記】

『（番号） 工事概要』に以下を記載

（番号）工事の実施形態

（番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。

受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に I C T 活用施工を行うことができる。

本工事における I C T 活用施工は、浚渫工（バックホウ浚渫船）において、下記に示す I C T 建設機械を用いた施工を行い、I C T を用いた 3 次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた 3 次元データを納品することをいう。

なお、I C T の活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。

・ I C T 建設機械

1) 3 次元 MC または 3 次元 MG 建設機械

なお、MC とは「マシンコントロール」、MG とは「マシンガイダンス」の略称である。

『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載

（番号）I C T 活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。

但し、I C T 活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な

削 除

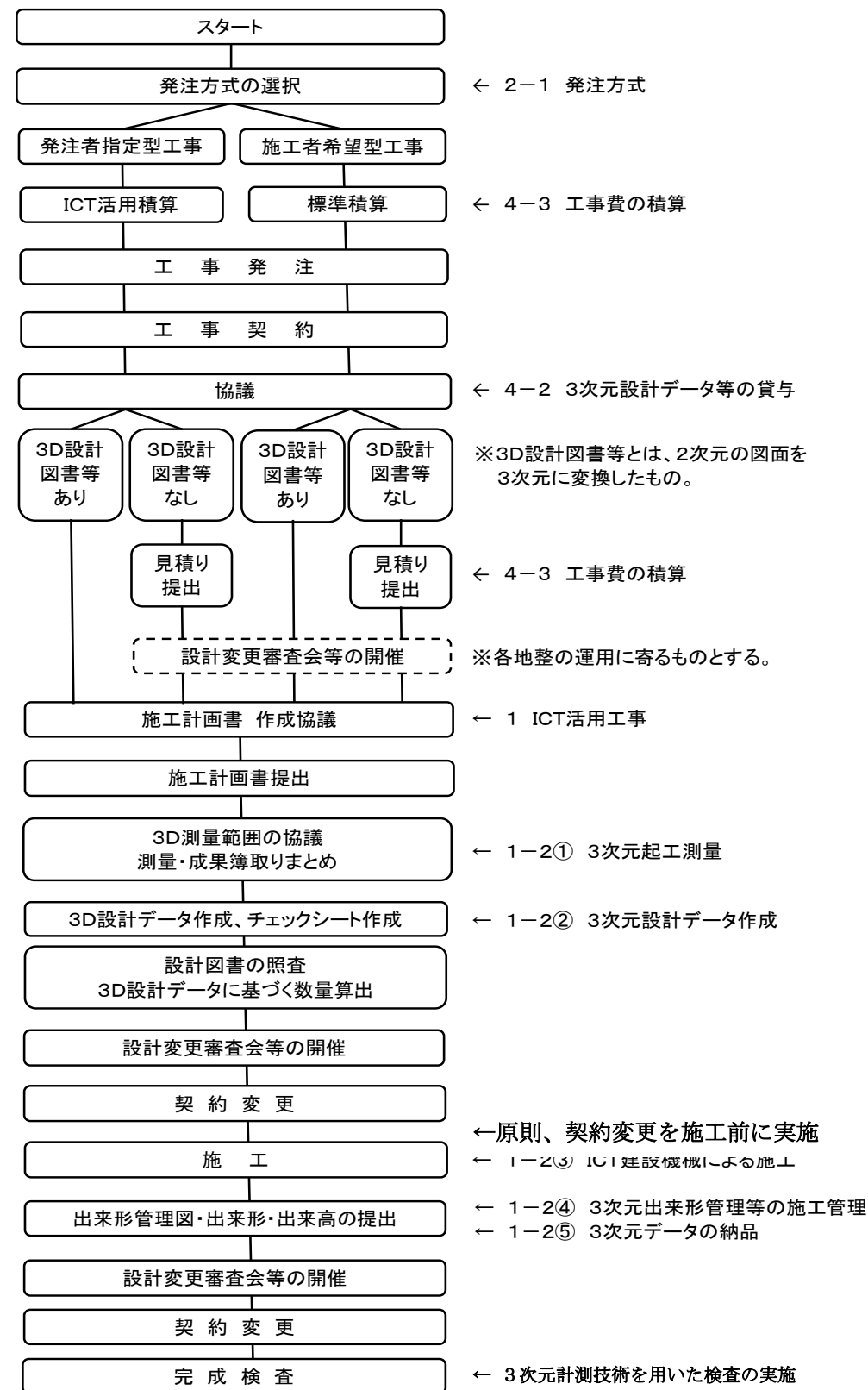
内容) についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	
【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 I C T活用工事について 1. I C T活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事である。 2. 定義 （1）i-Construction とは、I C Tの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてI C Tを活用した工事（I C T活用工事）を実施するものとする。 （2）I C T活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、I C Tを全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事という。 対象は、河川しゅんせつ工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、I C T活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記4～9によりI C T活用施工を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することとし、浚渫工施工範囲の全てで適用することとし、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 5. I C Tを用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1）～2）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。直近の測量成果等での3次元納品データが活用できる場合においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T活用とする。なお、監督職員と協議する。 1）音響測深機器を用いた起工測量	削 除

施及び調査票については別途指示するものとする。 10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 【施工者希望型工事の場合】 1. 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにICT活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT活用工事を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。 ・ICT活用工事（河川浚渫）積算要領 ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量を実施するとともに3次元設計データの作成を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。 2. 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用施工を行った、全てのICT活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。		削除
3. ICT活用工事実施の推進のための措置 3-1 工事成績評価における措置 ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの全ての段階でICTを活用した工事。 ※本項目は2点の加点とする。		3. ICT活用工事実施の措置 3-1 工事成績評価における措置 工事成績における加点措置は行わない。 ~~ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。~~ ~~□ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品のみは除く）~~ ~~※本項目は1点の加点とする。~~ ~~□ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの全ての段階でICTを活用した工事。~~

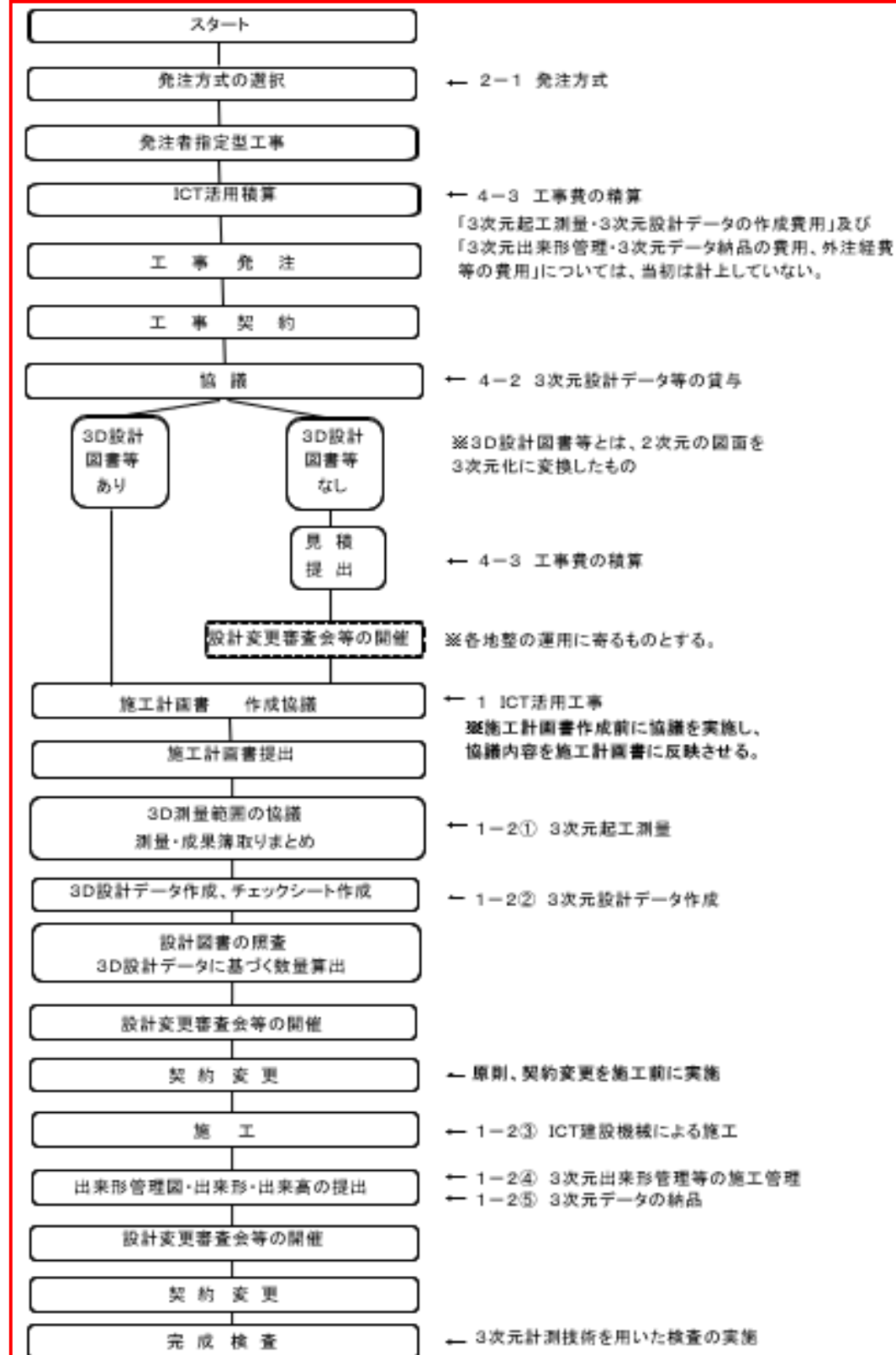
※ICT 活用による加点は最大 2 点の加点とする なお、I C T 活用工事において、I C T 活用施工（1－2 ①～⑤の全て）を採用しない工事の成績評定については、本項目での加点対象とせず、併せて以下（1）～（2）を標準として減点を行うものとする。また、I C T を採用出来ずに情報化施工を活用した工事や I C T 活用施工を途中で中止した工事についても同様な評価を行うものとする。 （1）発注者指定型 受注者の責により I C T 活用施工（1－2 ①～⑤の全て）が実施されない場合は、契約違反として工事成績評定から措置の内容に応じて減点する。 （2）施工者希望型（施工者希望Ⅱ型） 工事契約後の受注者からの提案により I C T 活用施工（1－2 ①～⑤の全て）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点を行わない。 4. I C T 活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に I C T 活用施工を導入し、I C T 施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T 活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表 1【要領一覧】）に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 （1）I C T 活用工事の導入初期段階においては、従来基準による 2 次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「3 次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 （2）発注者は、詳細設計において、I C T 活用工事に必要な 3 次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T 活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する 3 次元設計データに 3 次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「貸与する 3 次元設計データと 3 次元起	~~※本項目は 2 点の加点とする。~~ ~~※ICT 活用による加点は最大 2 点の加点とする~~ なお、工事目的物である河川浚渫において I C T 施工を活用しない工事の成績評定については、以下（1）を標準として減点を行うものとする。 （1）発注者指定型 受注者の責により工事目的物である河川浚渫において I C T 施工技術の活用（1－2 ①～⑤の全て）が実施されない場合は、契約違反として工事成績評定から措置の内容に応じて減点する。 ※但し、以下については I C T 活用工事として評価し、未履行の減点対象としない。 1）起工測量において、前工事及び設計段階での 3 次元納品データが活用できる場合及び 3 次元出来形管理等の施工管理において施工履歴データを用いた出来形管理を実施する場合の管理断面及び変化点の計測による測量 2）現場条件により、③ I C T 建設機械による施工が困難又は非効率となる場合の、従来型建設機械による施工 3）浚渫土量が少なく③ I C T 建設機械による施工を行っても現場の作業効率が見込まれない場合 ~~（2）施工者希望型（施工者希望Ⅱ型）~~ ~~工事契約後の受注者からの提案により I C T 活用施工（1－2 ①～⑤の全て）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点を行わない。~~ 4. I C T 活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に I C T 施工技術を導入し、活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T 施工技術の活用を実施するにあたって、別途発出されている「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」及び各種「出来形管理の監督・検査要領（案）」に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 ~~（1）I C T 活用工事の導入初期段階においては、従来基準による 2 次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「3 次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ 発注者は、3 次元設計データ作成に必要な詳細設計において作成した C A D データを受注者に貸与するほか、I C T 施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~なお、貸与する 3 次元設計データに 3 次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「貸与する 3 次元設計データと 3 次元起工測量データ~~
--	--

工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 4－3 工事費の積算 (1) 発注者指定型における積算方法 発注者は、発注に際して別紙－23「ICT活用工事（河川浚渫）積算要領」に基づく積算を実施するものとする。受注者が、河川浚渫工に関するICT活用の実施内容を施工計画書として発注者に提出・協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、ICT活用施工の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記1）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 1）ICT活用工事（河川浚渫）積算要領 なお、ICT活用について協議を行う際には、①～④にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 現行基準による設計ストック等によりICT活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費についての見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとする。 見積り徴収にあたり、別紙－36「ICTの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 (2) 施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりICT活用施工を実施する場合、ICT活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記1）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 1）ICT活用工事（河川浚渫）積算要領 なお、ICT活用について協議を行う際には、「1－2①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 上記のほか、現行基準による2次元の設計ストック等によりICT活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－36「ICTの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－4 ICT監督・検査体制の構築 ICT活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、ICT検査官等の任命や研修等でのICT施工技術の習得を図るなど、ICT活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。	~~の合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ 4－3 工事費の積算 (1) 発注者指定型における積算方法 発注者は、発注に際して以下1）に基づく積算を実施するものとする。受注者が、河川浚渫工に関するICT活用に関する具体的な工事内容及び対象範囲の協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、ICT活用の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とし、以下1）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 1）ICT活用工事（河川浚渫）積算要領 なお、ICT施工技術の活用について協議を行う際には、「1－2①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 ~~現行基準による設計ストック等によりICT活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費についての見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとする。~~ ~~見積り徴収にあたり、別紙－36「ICTの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。~~ ~~「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。~~ ~~(2) 施工者希望型における積算方法~~ ~~発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりICT活用施工を実施する場合、ICT活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記1）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。~~ ~~1）ICT活用工事（河川浚渫）積算要領~~ ~~なお、ICT活用について協議を行う際には、「1－2①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。~~ ~~上記のほか、現行基準による2次元の設計ストック等によりICT活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－36「ICTの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。~~ ~~「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。~~ 4－4 ICT監督・検査体制の構築 ICT施工技術の活用における監督検査を適切に行うことを目的に、ICT検査官等の任命や研修等でのICT施工技術の習得を図るなど、ICT施工技術の活用に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。
--	---

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



R 6 室長通知 別紙― 2 3 I C T活用工事（河川浚渫）積算要領	R 7 室長通知 別紙― 2 3 I C T活用工事（河川浚渫）積算要領																		
別紙― 2 3 I C T活用工事（河川浚渫）積算要領 1. 適用範囲 本資料は、以下に示す I C Tによる浚渫工（バックホウ浚渫船）（以下、バックホウ浚渫船（ I C T））に適用する。また、適用する土質は、粘性土、砂質土及び砂、レキ質土等とする。 積算にあたっては、土木工事標準積算基準書（以下、「積算基準」）により行うこととする。 （1） バックホウ浚渫船（ I C T）の適用範囲 バックホウ浚渫船（ I C T）は、スパッド付台船等に搭載されたバックホウ（ I C T）にて、河床等の土砂を掘削し、土運船等にて土砂の運搬を行う。 2. 機械経費 2－1 機械経費 バックホウ浚渫船（ I C T）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。 ①バックホウ浚渫船（ I C T） <table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">バックホウ浚渫船</td><td>D 1. 0 m 3</td><td rowspan="2">損料にて計上</td><td rowspan="2">ICT 建設機械経費加算額は別途計上</td></tr><tr><td>D 2. 0 m 3</td></tr></table> 2－2 ICT 建設機械経費加算額 ICT建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費で示すICT建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1）バックホウ浚渫船（ I C T） 対象建設機械：バックホウ浚渫船 損料加算額：41,000円／日 2－3 その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 2－3－1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 保守点検費 ＝ 土木一般世話役(円)× 0.05(人/日) × 浚渫作業日数※ ※浚渫作業日数は、ICT 施工による数量とする。 2－3－2 システム初期費 I C T施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 （1）対象機械：バックホウ	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ浚渫船	D 1. 0 m 3	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上	D 2. 0 m 3	別紙― 2 3 I C T活用工事（河川浚渫）積算要領 1. 適用範囲 本資料は、 I C Tによる浚渫工（バックホウ浚渫船）（以下、バックホウ浚渫船（ I C T））に適用する。また、適用する土質は、粘性土、砂質土及び砂、レキ質土等とする。 積算にあたっては、土木工事標準積算基準書（以下、「積算基準」）により行うこととする。 （1） バックホウ浚渫船（ I C T）の適用範囲 バックホウ浚渫船（ I C T）は、スパッド付台船等に搭載されたバックホウ（ I C T）にて、河床等の土砂を掘削し、土運船等にて土砂の運搬を行う。 2. 機械経費 2－1 機械経費 バックホウ浚渫船（ I C T）の積算で使用する I C T建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。 ①バックホウ浚渫船（ I C T） <table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td rowspan="2">バックホウ浚渫船</td><td>D 1. 0 m³</td><td rowspan="2">損料にて計上</td><td rowspan="2">I C T建設機械経費加算額は別途計上</td></tr><tr><td>D 2. 0 m³</td></tr></table> 2－2 I C T建設機械経費加算額 I C T建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の 賃貸費用とし、2－1 機械経費で示す I C T建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1） バックホウ浚渫船（ I C T） 対象建設機械：バックホウ浚渫船 損料加算額：41,000 円／日 2－3 その他 I C T建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。 ~~2－3－1 保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~保守点検費 ＝ 土木一般世話役(円)× 0.05(人/日) × 浚渫作業日数※~~ ~~※浚渫作業日数は、ICT 施工による数量とする。~~ 2－3－1 システム初期費 I C T建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、I C T建設機械精度確認等、I C T建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を計上する。 （1）対象建設機械：バックホウ浚渫船（ I C T）	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	バックホウ浚渫船	D 1. 0 m ³	損料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上	D 2. 0 m ³
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																
バックホウ浚渫船	D 1. 0 m 3	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上																
	D 2. 0 m 3																		
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考																
バックホウ浚渫船	D 1. 0 m ³	損料にて計上	I C T建設機械経費加算額は別途計上																
	D 2. 0 m ³																		

1,200,000 円／式 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)及び2)とし、ICT活用工事(河川浚渫)実施要領に示されたICT建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理及びその他の3次元計測技術(「1)に類似する」技術以外)を用いた出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 音響測深機器を用いた出来形管理 2) 上記1)に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 (2) 費用計上にあたっての留意事項 1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。	費用：1,200,000 円／式 ※1工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でICT建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成(修正含む)を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) 出来形管理の計測範囲において、1m間隔以下(1点/㎡以上)の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法(面管理)を実施し、3次元データ納品を行った場合の費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。 また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※~~小数点第3位四捨五入2位止め~~ 上記費用の対象となる出来形管理は、<u>以下の出来形管理</u>とし、ICT活用工事(河川浚渫)実施要領に示された~~ICT建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理の費用は~~、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 音響測深機器を用いた出来形管理 ~~2) 上記1)に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ (2) 費用計上にあたっての留意事項 1) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上しない。 2) 受注者からの見積又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。 ①補正係数を乗じて算出される金額を計上する場合 ・補正係数を乗じて算出される金額<受注者からの見積による金額 ②受注者からの見積による金額を計上する場合 ・補正係数を乗じて算出される金額>受注者からの見積による金額
---	---

5. 土木工事標準積算基準書に対する補正

5-1 浚渫能力の補正

積算基準の「4. 浚渫船の運転、4-1 浚渫能力（単位時間当り浚渫量）」の記述により算出されるQ（バックホウ浚渫船1時間当たり浚渫量）については、これに**1.05**を乗じる。（小数第2位止め、四捨五入）
※変更積算においては実際にICT施工による数量についてのみ補正するものとする。

$$Q = 45.5 q \times \alpha \times E \times \beta$$

Q：バックホウ浚渫船1時間当たり浚渫量（m³／h）
q：バックホウバケット容積（m³）
α：土質係数
E：作業係数
β：補正率（1.05）

5-2 単価表の補正

積算基準の「7. 単価表（5）機械運転単価表のバックホウ浚渫船」にて、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。

名称	規格	単位	数量	適用
ICT建設機械経費加算額		供用日	1.51	賃料

5. 施工箇所が点在するICT活用工事の積算について

施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。

~~5. 土木工事標準積算基準書に対する補正~~

~~5-1 浚渫能力の補正~~

~~積算基準の「4. 浚渫船の運転、4-1 浚渫能力（単位時間当り浚渫量）」の記述により算出されるQ（バックホウ浚渫船1時間当たり浚渫量）については、これに**1.05**を乗じる。（小数第2位止め、四捨五入）
※変更積算においては実際にICT施工による数量についてのみ補正するものとする。~~

~~$$Q = 45.5 q \times \alpha \times E \times \beta$$

Q：バックホウ浚渫船1時間当たり浚渫量（m³／h）
q：バックホウバケット容積（m³）
α：土質係数
E：作業係数
β：補正率（1.05）~~

~~5-2 単価表の補正~~

~~積算基準の「7. 単価表（5）機械運転単価表のバックホウ浚渫船」にて、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。~~

名称	規格	単位	数量	適用
ICT建設機械経費加算額		供用日	1.51	賃料

R 6 室長通知 別紙― 2 6 I C T活用工事（舗装工）実施要領	R 7 室長通知 別紙― 2 4 I C T活用工事（舗装工）実施要領
別紙― 2 6	別紙― ~~2 4-2-6~~
I C T活用工事（舗装工）実施要領	I C T活用工事（舗装工）実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1-1 概要	1-1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1-2 I C T活用工事における舗装工	1-2 I C T活用工事における舗装工
次の①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事における舗装工とする。また「 I C T舗装工」という略称を用いる。	次の①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事 ~~における~~ <u>（舗装工）</u> とする。また「 I C T舗装工」という略称を用いる。
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ I C T建設機械による施工	③ I C T建設機械による施工
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
受注者からの提案・協議により、付帯構造物設置工に I C T施工技術を活用する場合はそれぞれ実施要領及び積算要領を参照すること。	受注者からの提案・協議により、 <u>舗装工以外の工種に付帯構造物設置工に</u> ~~付帯構造物設置工に~~ I C T施工技術を活用する場合はそれぞれ実施要領及び積算要領を参照すること。
1-3 I C T施工技術の具体的内容	1-3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表― 1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤ <u>によるものとし、関連要領等については、最新のものを適用するものとする。</u>
	<u>関連要領等：https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html</u> ~~及び表― 1によるものとする。~~
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記 1）～ 5）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。	起工測量において、3次元測量データを取得するため、 <u>以下下記</u> 1）～ ~~4-5~~ ）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。
起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での 3次元納品データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、 I C T活用工事とする。	起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事 <u>及び設計段階</u> での 3次元 ~~納品~~ データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、 I C T活用工事とする。
1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
3) T S 等光波方式を用いた起工測量	3) T S 等光波方式を用いた起工測量
4) T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量	4) T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量
5) その他の 3次元計測技術を用いた起工測量	~~5) その他の 3次元計測技術を用いた起工測量~~

② 3次元設計データ作成 1－3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ I C T建設機械による施工 1－3②で作成した3次元設計データを用い、下記1)により施工を実施する。但し、施工現場の環境条件により、③I C T建設機械による施工が困難となる場合は、従来型建設機械による施工を実施してもI C T活用工事とする。 1) 3次元MC建設機械 ※MC：「マシンコントロール」の略称 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 舗装工事の施工管理において、I C Tを活用した施工管理を実施する。 <出来形管理> 下記1)～5)のいずれかの技術を用いた出来形管理を行うものとする。 出来形管理にあたっては、標準的に面管理を実施するものとするが、表層以外については、従来手法（出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目）での管理を実施してもよい。また、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもI C T活用工事とする。	② 3次元設計データ作成 1－3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、<u>I C T建設機械による施工及び</u>3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 <u>なお、発注者が貸与する3次元データを活用する場合も、I C T活用工事とする。</u> ③ I C T建設機械による施工 1－3②で作成した3次元設計データを用い、以下1)により~~施工を実施する。但し、施工現場の環境条件により、③I C T建設機械による施工が困難となる場合は、従来型建設機械による施工を実施してもI C T活用工事とする。~~<u>示すI C T建設機械により施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。</u> <u>なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和5年3月31日 国土交通省告示第250号）付録1測量機器検定基準2－6の性能における検定基準を満たすこと。</u> 1) 3次元MC建設機械 ※MC：「マシンコントロール」の略称 <u>建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術を用いて、敷均しを実施する。</u> <u>但し、現場条件により、I C T建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員との協議の上、従来型建設機械による施工を実施してよいものとするが、丁張設置等には積極的に3次元設計データ等を活用するものとする。</u> ④ 3次元出来形管理等の施工管理 <u>1－3③による工事の舗装工事の</u>施工管理において、以下<u>に示す方法により、出来形管理をI C Tを活用した施工管理を実施する。</u> <出来形管理> <u>(1) 出来形管理</u> <u>出来形管理にあたっては、出来形管理図表（ヒートマップ）を作成し、出来形の良否を判定する管理手法（面管理）とし、以下1)～2)から選択（複数以上可）して実施するものとする。</u> <u>なお、面管理とは出来形管理の計測範囲において、1m間隔以下（1点/m²以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法のことをいう。</u> <u>また、舗装工における出来形管理にあたっては、以下1)～2)を原則とするが、現場条件等により以下3)～4)の出来形管理を選択して面管理を実施してもよい。</u> <u>(ただし「3次元出来形管理・3次元データ納品費用、外注経費等の費用」の対象外となるので注意すること)</u> ~~下記1)～5)のいずれかの技術を用いた出来形管理を行うものとする。~~ ~~出来形管理にあたっては、標準的に面管理を実施するものとするが、表層以外については、従来手法（出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目）での管理を実施してもよい。また、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもI C T活用工事とする。~~
--	---

- 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 3) TS等光波方式を用いた出来形管理
- 4) TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理
- 5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理

⑤ 3次元データの納品
1－3 ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

《表－1－ICT施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査	備考
				新設	修繕	施工管理	
3次元起工測量／ 3次元出来形管理 等施工管理	地上レーザースキャナーを用いた起工測量/出来形管理技術(舗装工)	測量	－	○	○	①、②、⑥	舗装
	TS等光波方式を用いた起工測量/出来形管理技術(舗装工)(舗装工)	測量	－	○	○	①、③	舗装 付帯構造物設置工
	TS(ノンプリズム方式)を用いた起工測量/出来形管理技術(舗装工)	測量	－	○	○	①、④	舗装
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量/出来形管理技術(舗装工)	出来形計測	－	○	△	①、⑤	舗装
ICT建設機械による施工	3次元マシンコントロール技術	出来形計測	ICT建設機械	○	△	－	

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）舗装工編
	②	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（舗装工事編）（案）
	③	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（舗装工事編）（案）
	④	TS（ノンプリ）を用いた出来形管理の監督・検査要領（舗装工事編）（案）
	⑤	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（舗装工事編）（案）
	⑥	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院

- 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
- 3) TS等光波方式を用いた出来形管理
- 4) TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理
- ~~5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~

また、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合及び降雪・積雪等により面管理が実施できない場合は、監督職員との協議の上、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を選択してもICT活用工事とする。

⑤ 3次元データの納品
1－3 ①②④により 作成した確認された3次元施工管理データを、~~工事完成図書~~として電子納品する。

~~《表－1－ICT施工技術と適用工種》~~

削 除

1－4	I C T活用工事の対象工事	1－4	I C T活用工事の対象工事																		
I C T活用工事の対象工事（発注工種）は「アスファルト舗装工事」「セメント・コンクリート舗装工事」「一般土木工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。		I C T活用工事の対象工事（発注工種）は「アスファルト舗装工事」「セメント・コンクリート舗装工事」「一般土木工事」を原則とし、以下（１）～（３）に該当する工事とする。																			
(１) 対象工種・種別		(１) 対象工種・種別																			
I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記とする。		I C T活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける以下とする。																			
《表－２ I C T活用工事の対象工種種別》		《表－ ~~2~~ 1 I C T活用工事の対象工種種別》																			
<table><tr><th>工事区分</th><th>工 種</th><th>種 別</th></tr><tr><td>・舗 装 ・水 門</td><td>舗 装 工</td><td>・アスファルト舗装工 ・半たわみ性舗装工 ・排水性舗装工 ・透水性舗装工</td></tr><tr><td>・築堤・護岸 ・堤防護岸 ・砂防堰堤</td><td>付帯道路工</td><td>・グースアスファルト舗装工 ・コンクリート舗装工</td></tr></table>	工事区分	工 種	種 別	・舗 装 ・水 門	舗 装 工	・アスファルト舗装工 ・半たわみ性舗装工 ・排水性舗装工 ・透水性舗装工	・築堤・護岸 ・堤防護岸 ・砂防堰堤	付帯道路工	・グースアスファルト舗装工 ・コンクリート舗装工		<table><tr><th>工事区分</th><th>工 種</th><th>種 別</th></tr><tr><td>・舗 装 ・水 門</td><td>舗 装 工</td><td>・アスファルト舗装工 ・半たわみ性舗装工 ・排水性舗装工 ・透水性舗装工</td></tr><tr><td>・築堤・護岸 ・堤防護岸 ・砂防堰堤</td><td>付帯道路工</td><td>・グースアスファルト舗装工 ・コンクリート舗装工</td></tr></table>	工事区分	工 種	種 別	・舗 装 ・水 門	舗 装 工	・アスファルト舗装工 ・半たわみ性舗装工 ・排水性舗装工 ・透水性舗装工	・築堤・護岸 ・堤防護岸 ・砂防堰堤	付帯道路工	・グースアスファルト舗装工 ・コンクリート舗装工	
工事区分	工 種	種 別																			
・舗 装 ・水 門	舗 装 工	・アスファルト舗装工 ・半たわみ性舗装工 ・排水性舗装工 ・透水性舗装工																			
・築堤・護岸 ・堤防護岸 ・砂防堰堤	付帯道路工	・グースアスファルト舗装工 ・コンクリート舗装工																			
工事区分	工 種	種 別																			
・舗 装 ・水 門	舗 装 工	・アスファルト舗装工 ・半たわみ性舗装工 ・排水性舗装工 ・透水性舗装工																			
・築堤・護岸 ・堤防護岸 ・砂防堰堤	付帯道路工	・グースアスファルト舗装工 ・コンクリート舗装工																			
(２) 適用対象外		(２) 適用対象外																			
従来施工において、舗装工の土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。		従来施工において、舗装工の土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。																			
(３) 対象規模		(３) 対象規模																			
I C T活用工事（舗装工）の対象規模は、1－4（１）対象工種を条件とし、数量は「2－1 発注方式」に記載のとおりとする。		I C T活用工事（舗装工）の対象規模は、1－4（１）対象工種を条件とし、数量は「2－1 発注方式」に記載のとおりとする。																			
2. I C T活用工事の実施方法		2. I C T活用工事の実施方法																			
2－1 発注方式		2－1 発注方式																			
I C T活用工事の発注は、下記の（１）～（３）によるものとするが、工事内容及び地域におけるI C T施工機器の普及状況等を勘案し決定する。		I C T活用工事の発注は、 <u>以下下記の</u> （１）～（３）によるものとするが、 <u>I C T施工技術の活用が困難な場合及びI C T施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など</u> 工事内容及び <u>現場条件等を地域におけるI C T施工機器の普及状況等を</u> 勘案し決定する。																			
(１) 発注者指定型		(１) 発注者指定型																			
予定価格（消費税を含む）が3億円以上かつ、舗装面積 10,000m2 以上を目安として、発注者が設定した工事に適用する。		予定価格（消費税を含む）が3億円以上かつ、舗装面積 10,000m2 以上を目安として、発注者が設定した工事に適用する。																			
(２) 施工者希望Ⅰ型		(２) 施工者希望Ⅰ型																			
予定価格（消費税を含む）が3億円未満かつ、舗装面積 10,000m2 以上を目安として、発注者が設定した工事に適用する。		予定価格（消費税を含む）が3億円未満かつ、舗装面積 10,000m2 以上を目安として、発注者が設定した工事に適用する。																			
(３) 施工者希望Ⅱ型		(３) 施工者希望Ⅱ型																			

予定価格（消費税を含む）が3億円未満かつ、舗装面積 10,000m2 未満を目安として、発注者が設定した工事に適用する。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 （1）発注者指定型 【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T技術の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事である。 【入札説明書】記載例 （記載例） 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を追記する。 （番号）工事の実施形態 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T技術の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事である。 本工事における I C T活用施工は、舗装工（舗装、水門）、付帯道路工（築堤・護岸、堤防・護岸、砂防堰堤）において、下記に示す I C T建設機械を用いた施工を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品するものとし、詳細については特記仕様書によるものとする。但し施工現場の環境条件により、③ I C T建設機械による施工が困難となる場合は従来型建設機械による施工を実施しても I C T活用工事とする。	~~予定価格（消費税を含む）が3億円未満かつ、~~舗装面積 10,000m2 未満を目安として、発注者が設定した工事に適用する。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 （1）発注者指定型 【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T~~施工~~技術の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事である。 【入札説明書】記載例 （記載例） 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を追記する。 （番号）工事の実施形態 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T~~施工~~技術の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事である。 本工事における I C T~~施工技術~~の活用~~施工~~は、舗装工（舗装、水門）、付帯道路工（築堤・護岸、堤防・護岸、砂防堰堤）において、~~以下の①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用することとし、下記に示す I C T建設機械を用いた施工を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品するものとし、~~詳細については特記仕様書によるものとする。但し~~施工現場の環境~~条件により、~~③~~ I C T建設機械による施工が困難 ~~又は非効率~~となる場合は~~監督職員と協議の上、~~従来型建設機械による施工を実施して
--	---

なお、受注者からの提案による I C T の活用にかかる費用（付帯構造物設置工）については、設計変更の対象とし詳細については特記仕様書によるものとする ・ I C T 建設機械 1) 3 次元MC 建設機械 なお、MC とは「マシンコントロール」の略称である。 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号） I C T 活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T 活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。		も I C T 活用工事とする。 ~~なお、受注者からの提案による I C T の活用にかかる費用（付帯構造物設置工）については、設計変更の対象とし詳細については特記仕様書によるものとする~~ ① 3 次元起工測量 ② 3 次元設計データ作成 ③ I C T 建設機械による施工 ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3 次元データ納品 ・ I C T 建設機械 1) 3 次元MC 建設機械 なお、MC とは「マシンコントロール」の略称である。 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号） I C T <u>施工技術</u>の活用~~施工に掛かる技術の活用~~について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T <u>施工技術</u>の活用~~施工~~に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	
【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 I C T 活用工事について 1. I C T 活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事である。 2. 定義 （1）i-Construction とは、I C T の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みであり、その実現に向けて I C T を活用した工事（I C T 活用工事）を実施するものとする。 （2）I C T 活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、I C T を全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用することを I C T 活用工事という。 対象は、アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事、または舗装を含		【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 I C T 活用工事について 1. I C T 活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T <u>施工技術</u>の全面的活用を図るため、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事である。 2. 定義 （1）i-Construction とは、I C T <u>施工技術</u>の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みであり、その実現に向けて I C T <u>施工技術</u>を活用した工事（I C T 活用工事）を実施するものとする。 （2）I C T 活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、I C T <u>施工技術</u>を全面的に活用する工事である。また、<u>以下決</u>の①～⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用することを I C T 活用工事という。 対象は、アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事、または舗装を含	

む工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、特記仕様書に指定された舗装工以外、付帯構造物設置工に I C T活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記4～9により I C T活用施工を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用することとし、舗装工について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、舗装工以外の工種に関する I C T活用を提案・協議した場合は、舗装工と共に実施内容等について施工計画書に記載するものとする。 5. I C Tを用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1）～5）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での3次元納品データが活用できる場合においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T活用工事とする。なお、監督職員と協議する。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S等光波方式を用いた起工測量 4) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 5) その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や5. ①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ I C T建設機械による施工 5. ②で作成した3次元設計データを用い、下記に示す I C T建設機械により、施工を実施する。 1) 3次元MC建設機械 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術を用いて、敷均しを実施する。 「但し施工現場の環境条件により、③ I C T建設機械による施工が困難となる場合は従来型建設機械による施工を実施してよいものとするが、丁張設置等には積極的に	む工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、特記仕様書に指定された舗装工以外<u>の工種に、付帯構造物設置工に I C T施工技術の活用施工</u>を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に以下4～~~8-9~~により I C T <u>施工技術の活用施工</u>を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用することとし、舗装工について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、舗装工以外の工種に関する I C T活用を提案・協議した場合は、舗装工と共に実施内容等について施工計画書に記載するものとする。 5. I C T <u>施工技術</u>を用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、<u>以下下記</u>1）～~~4-5~~）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事<u>及び設計段階</u>での3次元<u>納品</u>データが活用できる場合においては、<u>監督職員と協議の上</u>、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T活用工事とする。~~なお、監督職員と協議する。~~ 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S等光波方式を用いた起工測量 4) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ~~5) その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ ② 3次元設計データ作成 受注者は、~~設計図書や~~5. ①で得られた<u>測量データと発注者が貸与する発注図データ</u>を用いて、<u>I C T建設機械による施工及び</u>3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ I C T建設機械による施工 5. ②で作成した3次元設計データを用い、以下に示す I C T建設機械により、施工を実施する。 1) 3次元MC建設機械<u>※</u> <u>※MCとは「マシンコントロール」の略称である。</u> 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術を用いて、敷均しを実施する。 ~~「但し施工現場の環境~~条件により、③ I C T建設機械による施工が困難<u>又は非効率</u>となる場合は<u>監督職員と協議の上</u>、従来型建設機械による施工を実施してよいものと
---	---

3次元設計データ等を活用するものとし、監督職員と協議する。 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 5. ③による施工管理において、下記1)～5)から選択(複数以上可)して、出来形管理を行うものとする。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) T S等光波方式を用いた出来形管理 4) T S(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、表層については、標準的に面管理を実施するものとするが、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合は、監督職員との協議の上、1)～5)を適用することなく、従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での出来形管理を行ってもよい。また、降雪・積雪によって面管理が実施できない場合においても、管理断面及び変化点の計測による出来形管理が選択できるものとする。ただし、完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測を行い、⑤によって納品する。 ※降雪・積雪等による工期内の計測が困難な場合は除外する。 表層以外については従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での管理を実施してもよい。		するが、丁張設置等には積極的に3次元設計データ等を活用するものとする。~~し、監督職員と協議する。~~ ④ 3次元出来形管理等の施工管理 5. ③による施工管理において、<u>以下のとおり下記1)～5)から選択(複数以上可)して、</u>出来形管理を行うものとする。 <u>(1) 出来形管理</u> <u>出来形管理にあたっては、標準的に出来形管理の計測範囲において、1m間隔以下(1点/㎡以上)の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法(面管理)とし、以下1)～2)から選択(複数以上可)して実施するものとする。</u> <u>また、舗装工における出来形管理にあたっては、以下1)～2)を原則とするが、現場条件等により以下3)～4)の出来形管理を選択して面管理を実施してもよい。</u> <u>(【メモ】ただし「3次元出来形管理・3次元データ納品費用、外注経費等の費用」の対象外となるので注意すること)</u> 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ~~3) T S等光波方式を用いた出来形管理~~ ~~4) T S(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理~~ ~~5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ <u>3) T S等光波方式を用いた出来形管理</u> <u>4) T S(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理</u> なお、表層については、標準的に面管理を実施するものとするが、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合<u>及びは、監督職員との協議の上、1)～5)を適用することなく、従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での出来形管理を行ってもよい。また、降雪・積雪等により</u>面管理が実施できない場合は、<u>監督職員と協議の上においても、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を</u>が選択してもICT活用工事とする。~~ただし、完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測を行い、⑤によって納品する。~~ ~~※降雪・積雪等による工期内の計測が困難な場合は除外する。~~ <u>なお、表層以外については従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での管理を実施してもよいものとする。</u> <u>【メモ：条件明示として実施した出来形管理及び3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】</u> <u>【変更特記記載例】</u> <u>(3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合)</u> <u>本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。(している。)</u>
---	--	--

⑤ 3次元データの納品 ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。 6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用工事用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要となる詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 8. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 ICT活用工事を実施する項目については、「ICT活用工事（舗装工）積算要領」に	<u>1）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>（実施する（した）出来形管理を掲載）</u> <u>（3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合）</u> <u>本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については計上していない。</u> <u>3）TS等光波方式を用いた出来形管理</u> <u>4）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理</u> <u>（実施する（した）出来形管理を掲載）</u> ⑤ 3次元データの納品 <u>5. ①②④により作成した確認された3次元施工管理データを、</u>~~工事完成図書として電子納品する。~~ 6. 上記5. ①～~~④⑤~~の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な<u>施工ICT活用工事</u>用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。<u>また、ICT施工技術の活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。</u> ~~発注者は、3次元設計データの作成に必要となる詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。~~ 7. ~~上記5. ①～④で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ ~~8.土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。~~ ~~9.受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ <u>8.10.</u> 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 ICT <u>施工技術</u>を活用~~工事を実施~~する項目については、以下<u>の積算要領に基づき費用を</u>
---	---

基づき費用を計上しているが、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」及び「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上していない。 3次元起工測量、3次元設計データの作成並びに3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 受注者が、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、舗装工以外の工種に関するＩＣＴ活用について発注者へ提案・協議を行う。また、舗装工についてもＩＣＴ活用に関する具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、ＩＣＴ活用施工を実施しない項目については、各段階を設計変更の対象とする。 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。		<u>計上しているが、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」及び「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」及び「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上していない。</u> <u>実施した場合は、以下の（１）（２）により設計変更の対象とし、費用を計上する。</u> <u>・ＩＣＴ活用工事（舗装工）積算要領</u> <u>（１）3次元起工測量・3次元設計データの作成費用</u> <u>3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。</u> <u>なお、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>（２）3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用</u> <u>出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、3次元データ納品を行った場合の費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正の補正係数を乗じるものとする。</u> <u>なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者からの見積により算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積により算出される金額を積算計上額とする。</u> <u>また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。</u> <u>・共通仮設費率補正係数：1.2</u> <u>・現場管理費率補正係数：1.1</u> <u>上記費用の対象となる出来形管理は、以下の１）～２）とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。</u> <u>１）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>２）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> ~~<u>3次元起工測量、3次元設計データの作成並びに3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。</u>~~ 受注者が、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、舗装工以外の工種に関するＩＣＴ活用について発注者へ提案・協議を行う。また、舗装工についてもＩＣＴ活用に関する具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、ＩＣＴ活用<u>施工の</u>を実施に<u>関わる項目については、しない項目については、</u>各段階を設計変更の対象とする。 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。
--	--	--

第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査 　　ＩＣＴ活用施工を行った、全てのＩＣＴ活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 　　施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。	第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査 　　ＩＣＴ~~施工技術~~の活用~~工事施工~~を行った、~~全てのＩＣＴ活用工事の~~施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象~~工事~~であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 　　施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 ~~調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。~~
(2) 施工者希望Ⅰ型	(2) 施工者希望Ⅰ型
【入札公告】記載例 (記載例) 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1　工事概要』に以下を追記する。 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事（施工者希望Ⅰ型）である。	【入札公告】記載例 (記載例) 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1　工事概要』に以下を追記する。 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ~~施工技術~~の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事（施工者希望Ⅰ型）である。
【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『（番号）　工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事（施工者希望Ⅰ型）である。 　　ＩＣＴを全面的に活用するため、入札にあたり「ＩＣＴ施工技術の活用（ＩＣＴ活用工事）」（別記様式－１）を提出し、その内容がＩＣＴ活用施工として適当と認められる場合、契約後施工計画書の提出までに監督職員へ提案・協議し、協議が整った場合にＩＣＴ活用施工を行う。 　　本工事におけるＩＣＴ活用施工は、舗装工（舗装、水門）、付帯道路工（築堤・護岸、堤防・護岸、砂防堰堤）において、下記に示すＩＣＴ建設機械を用いた施工を行い、ＩＣＴを用いた３次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた３次元データを納品することをいう。 　　なお、ＩＣＴの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕	【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『（番号）　工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ~~施工技術~~の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事（施工者希望Ⅰ型）である。 　　ＩＣＴ~~施工技術~~を全面的に活用するため、入札にあたり「ＩＣＴ施工技術の活用（ＩＣＴ活用工事）」（別記様式－１）を提出し、その内容がＩＣＴ~~施工技術~~の活用~~施工~~として適当と認められる場合、契約後施工計画書の提出までに監督職員へ提案・協議し、協議が整った場合にＩＣＴ~~施工技術~~の活用~~施工~~を行う。 　　本工事におけるＩＣＴ~~施工技術~~の活用~~施工~~は、舗装工（舗装、水門）、付帯道路工（築堤・護岸、堤防・護岸、砂防堰堤）において、~~以下の①～⑤の全ての段階でＩＣＴ施工技術を活用することとする。下記に示すＩＣＴ建設機械を用いた施工を行い、ＩＣＴを用いた３次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた３次元データを納品することをいう。~~

様書によるものとする。但し施工現場の環境条件により、③ I C T建設機械による施工が困難となる場合は従来型建設機械による施工を実施しても I C T活用工事とする。 ・ I C T建設機械 1) 3次元MC建設機械 なお、MCとは「マシンコントロール」の略称である。 『(番号) 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) 総合評価に関する事項 (番号) 評価の基準 (番号) 企業の技術力 評価項目 I C T活用工事 (I C T施工技術の活用) 当該工事において、 I C Tを活用する計画である場合は、「 I C T施工技術の活用 (I C T活用工事) 」 (別記様式ー 2) を添付すること。 <table><thead><tr><th>評価基準</th><th>評価点</th></tr></thead><tbody><tr><td>・ ①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用する場合</td><td>2点</td></tr><tr><td>・ ①～⑤の一部または全ての段階で I C T施工技術を活用しない場合</td><td>0点</td></tr></tbody></table> ※但し、以下については I C T活用工事として評価して未履行の減点対象としない。 1) 起工測量において、前工事での 3次元納品データが活用できる場合等の管理断面及び変化点の計測による測量 2) 施工現場の環境条件により、③ I C T建設機械による施工が困難となる場合の、従来型建設機械による施工 3) 冬季の降雪・積雪により、面管理が実施できない場合や面管理が非効率となる場合の断面及び変化点の計測による出来形管理及び降雪・積雪による施工後の現況計測未実施 【※評価点については、各発注機関の状況により変更可能】 ※①～⑤の各段階とは、「① 3次元起工測量」「② 3次元設計データ作成」「③ I C T建設機械による施工」「④ 3次元出来形管理等の施工管理」「⑤ 3次元データの納品」である。なお、詳細については、特記仕様書によるものとする。	評価基準	評価点	・ ①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用する場合	2点	・ ①～⑤の一部または全ての段階で I C T施工技術を活用しない場合	0点	なお、 I C T <u>施工技術</u>の活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。但し <u>施工現場の環境</u>条件により、④ I C T建設機械による施工が困難 <u>又は非効率</u>となる場合は、<u>監督職員と協議の上</u>、従来型建設機械による施工を実施しても I C T活用工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データ納品 ・ I C T建設機械 1) 3次元MC建設機械 なお、MCとは「マシンコントロール」の略称である。 『(番号) 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) 総合評価に関する事項 (番号) 評価の基準 (番号) 企業の技術力 評価項目 I C T活用工事 (I C T施工技術の活用) 当該工事において、 I C T <u>施工技術</u>を活用する計画である場合は、「 I C T施工技術の活用 (I C T活用工事) 」 (別記様式ー <u>1-2</u>) を添付すること。 <table><thead><tr><th>評価基準</th><th>評価点</th></tr></thead><tbody><tr><td>・ ①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用する場合</td><td>2点</td></tr><tr><td>・ ①～⑤の一部または全ての段階で I C T施工技術を活用しない場合</td><td>0点</td></tr></tbody></table> ※但し、以下については I C T活用工事として評価して未履行の減点対象としない。 1) 起工測量において、前工事 <u>及び設計段階</u>での 3次元納品データが活用できる場合等の管理断面及び変化点の計測による測量 2) <u>施工現場の環境</u>条件により、③ I C T建設機械による施工が困難 <u>又は非効率</u>となる場合の、従来型建設機械による施工 3) <u>出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる、及び降雪・積雪等により面管理が実施できない等の理由により、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を実施した場合。</u> <u>なお、面管理とは出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下 (1点/m²以上) の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法のことをいう。</u> <u>冬季の降雪・積雪により、面管理が実施できない場合や面管理が非効率となる場合の断面及び変化点の計測による出来形管理及び降雪・積雪による施工後の現況計測未実施</u>	評価基準	評価点	・ ①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用する場合	2点	・ ①～⑤の一部または全ての段階で I C T施工技術を活用しない場合	0点
評価基準	評価点												
・ ①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用する場合	2点												
・ ①～⑤の一部または全ての段階で I C T施工技術を活用しない場合	0点												
評価基準	評価点												
・ ①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用する場合	2点												
・ ①～⑤の一部または全ての段階で I C T施工技術を活用しない場合	0点												

(番号) ICT活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案(施工計画等)」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、ICT活用施工に掛かる技術を応用(別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む)した技術提案については、その応用部分(付加的内容)についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書(施工計画等)」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書(施工計画等)」は、求める書式名称に随時修正すること。		【※評価点については、各発注機関の状況により変更可能】 ※①～⑤の各段階とは、「①3次元起工測量」「②3次元設計データ作成」「③ICT建設機械による施工」「④3次元出来形管理等の施工管理」「⑤3次元データの納品」である。なお、詳細については、特記仕様書によるものとする。 (番号) ICT <u>施工技術活用施工に掛かる技術</u>の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案(施工計画等)」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、ICT <u>施工技術活用施工</u>に掛かる技術を応用(別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む)した技術提案については、その応用部分(付加的内容)についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書(施工計画等)」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書(施工計画等)」は、求める書式名称に随時修正すること。	
【特記仕様書】記載例 (記載例) 第〇〇条 ICT活用工事について 1. ICT活用工事 本工事は、国土交通省が提唱するi-Constructionに基づき、ICTの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するICT活用工事の対象工事である。 2. 定義 (1) i-Constructionとは、ICTの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてICTを活用した工事(ICT活用工事)を実施するものとする。 (2) ICT活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、ICTを全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤の全ての段階でICT施工技術を活用することをICT活用工事という。 対象は、アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ ICT建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、舗装工以外、付帯構造物設置工にICT活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出(施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む)までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記5～10によりICT		【特記仕様書】記載例 (記載例) 第〇〇条 ICT活用工事について 1. ICT活用工事 本工事は、国土交通省が提唱するi-Constructionに基づき、ICT <u>施工技術</u>の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するICT活用工事の対象工事である。 2. 定義 (1) i-Constructionとは、ICT <u>施工技術</u>の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてICT <u>施工技術</u>を活用した工事(ICT活用工事)を実施するものとする。 (2) ICT活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、ICT <u>施工技術</u>を全面的に活用する工事である。また、~~次の~~<u>以下の</u>①～⑤の全ての段階でICT施工技術を活用することをICT活用工事という。 対象は、アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ ICT建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、舗装工以外<u>の工種に、付帯構造物設置工に</u>ICT <u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出(施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む)までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に<u>以下5</u>	

活用施工を行うことができる。 4. 受注者は、入札にあたり I C T を全面的に活用するため I C T 施工技術の活用（別記様式－2）を提出し、その内容が I C T 活用施工として適当と認められる場合、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議し、協議が整った場合に下記 5 ～ 1 0 により I C T 活用施工を行う。（以下、I C T 活用施工を行う場合） 5. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用することとし、舗装工について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し監督職員と協議するものとする。なお、舗装工以外の工種に関する I C T 活用を提案・協議した場合は、舗装工と共に実施内容等について施工計画書に記載するものとする。 6. I C T を用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、下記 1）～5）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での 3 次元納品データが活用できる場合においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T 活用とする。なお、監督職員と協議する。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S 等光波方式を用いた起工測量 4) T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量 5) その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量 ② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。 ③ I C T 建設機械による施工 6. ②で作成した 3 次元設計データを用い、下記に示す I C T 建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。 1) 3次元MC建設機械 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する 3 次元マシンコントロール技術を用いて、敷均しを実施する。 「但し施工現場の環境条件により、③ I C T 建設機械による施工が困難となる場合は従来型建設機械による施工を実施してよいものとするが、丁張設置等には積極的に 3 次元設計データ等を活用するものとし、監督職員と協議する。 ④ 3次元出来形管理等の施工管理		～ 1 0 により I C T <u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を行うことができる。 4. 受注者は、入札にあたり I C T <u>施工技術</u>を全面的に活用するため I C T 施工技術の活用（別記様式－<u>1-2</u>）を提出し、その内容が I C T 活用<u>工事施工</u>として適当と認められる場合、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議し、協議が整った場合に以下 5 ～ <u>9-1-0</u>により I C T <u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を行う<u>ことができる</u>。 （以下、I C T <u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を行う場合） 5. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用することとし、舗装工について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し監督職員と協議するものとする。なお、舗装工以外の工種に関する I C T <u>施工技術</u>の活用を提案・協議した場合は、舗装工と共に実施内容等について施工計画書に記載するものとする。 6. I C T <u>施工技術</u>を用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、<u>以下下記</u> 1）～<u>4-5</u>）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事<u>及び設計段階</u>での 3 次元<u>納品</u>データが活用できる場合においては、<u>監督職員と協議の上</u>、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T 活用<u>工事</u>とする。<u>なお、監督職員と協議する。</u> 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S 等光波方式を用いた起工測量 4) T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量 <u>5)その他の3次元計測技術を用いた起工測量</u> ② 3次元設計データ作成 受注者は、<u>設計図書や6.</u> ①で得られた<u>測量</u>データ<u>と発注者が貸与する発注図データ</u>を用いて、<u>I C T 建設機械による施工及び</u> 3次元出来形管理を行うための 3 次元設計データを作成する。 ③ I C T 建設機械による施工 6. ②で作成した 3 次元設計データを用い、以下に示す I C T 建設機械を作業に応じて選択して施工を実施する。 1) 3次元MC建設機械<u>※</u> <u>※MCとは「マシンコントロール」の略称である。</u> 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する 3 次元マシンコントロール技術を用いて、敷均しを実施する。 <u>「但し施工現場の環境条件により、③ I C T 建設機械による施工が困難又は非効率となる場合は監督職員と協議の上</u>、従来型建設機械による施工を実施してよいものとするが、丁張設置等には積極的に 3 次元設計データ等を活用するものと<u>し、監督職員と協議する。</u> ④ 3次元出来形管理等の施工管理	
--	--	--	--

6. ③による施工管理において、下記1)～5)から選択(複数以上可)して、出来形管理を行うものとする。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) T S 等光波方式を用いた出来形管理 4) T S (ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、表層については、標準的に面管理を実施するものとするが、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合は、監督職員との協議の上、1)～5)を適用することなく、従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での出来形管理を行ってもよい。また、降雪・積雪によって面管理が実施できない場合においても、管理断面及び変化点の計測による出来形管理が選択できるものとする。ただし、完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測を行い、⑤によって納品する。 ※降雪・積雪等による工期内の計測が困難な場合は除外する。 表層以外については従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での管理を実施してもよい	6. ③による施工管理において、~~以下のとおり下記1)～5)から選択(複数以上可)して、~~出来形管理を行うものとする。 <u>(1) 出来形管理</u> <u>出来形管理にあたっては、標準的に出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下(1点/㎡以上)の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法(面管理)とし、以下1) 2)から選択(複数以上可)して実施するものとする。</u> <u>また、舗装工における出来形管理にあたっては、以下1)～2)を原則とするが、現場条件等により以下3)～4)の出来形管理を選択して面管理を実施してもよい。</u> <u>(【メモ】ただし「3次元出来形管理・3次元データ納品費用、外注経費等の費用」の対象外となるので注意すること)</u> 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) T S 等光波方式を用いた出来形管理 4) T S (ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 ~~5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、表層については、標準的に面管理を実施するものとするが、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合<u>及びは、監督職員との協議の上、1)～5)を適用することなく、従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での出来形管理を行ってもよい。また、降雪・積雪等により</u>面管理が実施できない場合<u>は、監督職員と協議の上においても、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を</u>が選択してもICT活用工事とする。~~ただし、完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測を行い、⑤によって納品する。~~ ~~※降雪・積雪等による工期内の計測が困難な場合は除外する。~~ <u>なお、表層以外については従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での管理を実施してもよい。</u> <u>【メモ：条件明示として実施した出来形管理及び3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】</u> <u>【変更特記記載例】</u> <u>(3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合)</u> <u>本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。(している。)</u> <u>1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>(実施する(した)出来形管理を掲載)</u> <u>(3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合)</u> <u>本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・</u>
---	---

⑤ 3次元データの納品 6. ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。 7. 上記6. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用工事用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 8. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 9. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 10. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 11. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに舗装工及び舗装工以外の工種に関するICT活用の具体的な工事内容及び対象範囲について発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT活用工事を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。 ・ICT活用工事（舗装工）積算要領 ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量、3次元設計データの作成並びに3	<u>3次元データ納品の費用、外注経費等については計上していない。</u> <u>3）TS等光波方式を用いた出来形管理</u> <u>4）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理</u> <u>（実施する（した）出来形管理を掲載）</u> ⑤ 3次元データの納品 6. <u>①②④</u>により<u>作成した確認された</u>3次元<u>施工管理</u>データを、~~工事完成図書~~として電子納品する。 7. 上記6. ①～~~④⑤~~の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な~~ICT活用工事~~<u>施工</u>用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。<u>また、ICT施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。</u> ~~発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。~~ 8. ~~上記5. ①～④で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ ~~9.土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。~~ ~~10. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ <u>9. 11.</u> 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに舗装工及び舗装工以外の工種に関するICT活用の具体的な工事内容及び対象範囲について発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT<u>施工技術</u>を活用<u>工事を実施</u>する項目については、以下<u>の積算要領に基づき</u>各段階を設計変更の対象とする。~~し、下記により計上することとする。~~ ・ICT活用工事（舗装工）積算要領 <u>なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」及び「3次元出来形管理・3次</u>
---	---

	次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 I C T活用工事の活用効果等に関する調査 I C T活用施工を行った、全ての I C T活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「I C T活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指		<u>元データ納品の費用、外注経費等の費用」の費用計上の考え方は以下のとおりである。</u> <u>(1) 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用</u> <u>3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。</u> <u>なお、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>(2) 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用</u> <u>出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、3次元データ納品を行った場合の費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正の補正係数を乗じるものとする。</u> <u>なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者からの見積により算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積により算出される金額を積算計上額とする。</u> <u>また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。</u> <u>・共通仮設費率補正係数：1.2</u> <u>・現場管理費率補正係数：1.1</u> <u>上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～4 2）とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。</u> <u>1）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量、3次元設計データの作成並びに3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。</u> <u>受注者が、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、舗装工以外の工種に関する I C T活用について発注者へ提案・協議を行う。また、舗装工についても I C T活用に関する具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、I C T活用の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とする。</u> 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 I C T活用工事の活用効果等に関する調査 I C T~~施工技術~~の活用~~工事工事施工~~を行った、~~全ての I C T活用工事~~の施工者は、活用目的等の把握のための「I C T活用工事の活用効果等に関する調査」の対象~~工事~~であり、
--	--	--	--

示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。		別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	
(3) 施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例 (記載例) 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に I C T活用施工を行うことができる。 本工事における I C T活用施工は、舗装工（舗装、水門）、付帯道路工（築堤・護岸、堤防・護岸、砂防堰堤）において、①に示す I C T建設機械を用いた施工を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品することをいう。 なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。但し施工現場の環境条件により、③ I C T建設機械による施工が困難となる場合は従来型建設機械による施工を実施しても I C T活用工事とする。		(3) 施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例 (記載例) 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T <u>施工技術</u>の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T <u>施工技術</u>の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に I C T <u>施工技術</u>の活用 <u>施工</u>を行うことができる。 本工事における I C T <u>施工技術</u>の活用 <u>施工</u>は、舗装工（舗装、水門）、付帯道路工（築堤・護岸、堤防・護岸、砂防堰堤）において、<u>以下の①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用することとする。①に示す I C T建設機械を用いた施工を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品することをいう。</u> なお、I C T <u>施工技術</u>の活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。但し <u>施工現場の環境</u>条件により、③ I C T建設機械による施工が困難 <u>又は非効率</u>となる場合は、<u>監督職員と協議の上</u>、従来型建設機械による施工を実施しても I C T活用工事とする。	

・ I C T 建設機械 1) 3 次元MC 建設機械 なお、MC とは「マシンコントロール」の略称である。 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号） I C T 活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T 活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。		① 3 次元起工測量 ② 3 次元設計データ作成 ③ I C T 建設機械による施工 ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3 次元データ納品 ・ I C T 建設機械 1) 3 次元MC 建設機械 なお、MC とは「マシンコントロール」の略称である。 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号） I C T <u>施工技術活用施工に掛かる技術</u>の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T <u>施工技術活用施工</u>に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	
【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 I C T 活用工事について 1. I C T 活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事の対象工事である。 2. 定義 （1）i-Construction とは、I C T の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けて I C T を活用した工事（I C T 活用工事）を実施するものとする。 （2）I C T 活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、I C T を全面的に活用する工事である。また、次の①～⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用することを I C T 活用工事という。 対象は、アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む工事とする。 ① 3 次元起工測量 ② 3 次元設計データ作成		【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 I C T 活用工事について 1. I C T 活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T <u>施工技術</u>の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3 次元データを活用する I C T 活用工事の対象工事である。 2. 定義 （1）i-Construction とは、I C T <u>施工技術</u>の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けて I C T <u>施工技術</u>を活用した工事（I C T 活用工事）を実施するものとする。 （2）I C T 活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、I C T <u>施工技術</u>を全面的に活用する工事である。また、<u>次の以下の</u>①～⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用することを I C T 活用工事という。 対象は、アスファルト舗装工事、セメント・コンクリート舗装工事または、舗装を含む工事とする。 ① 3 次元起工測量 ② 3 次元設計データ作成	

③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、舗装工及び、付帯構造物設置工においてI C T施工技術を活用できる。I C T活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記4～9によりI C T活用施工を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することとし舗装工の施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、舗装工以外の工種に関するI C T活用を提案・協議した場合は、舗装工と共に実施内容等について施工計画書に記載するものとする。 5. I C Tを用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1）～5）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事での3次元納品データが活用できる場合及び施工規模等現場条件によって管理断面及び変化点の計測による測量が効率的と判断された場合においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T活用とする。なお、監督職員と協議する。 1）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3）T S等光波方式を用いた起工測量 4）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 5）その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ I C T建設機械による施工 5. ②で作成した3次元設計データを用い、下記に示すI C T建設機械により、施工を実施する。 1）3次元MC建設機械 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術を用いて、敷均しを実施する。 「但し施工現場の環境条件により、③I C T建設機械による施工が困難となる場合は従来型建設機械による施工を実施してよいものとするが、丁張設置等には積極的に3次元設計データ等を活用するものとし、監督職員と協議する。		③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 3. 受注者は、舗装工<u>以外の工種に及び、付帯構造物設置工において</u>I C T施工技術<u>の</u>を活用<u>を行う希望がある場合、できる。I C T活用施工を行う希望がある場合、</u>契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に以下4～~~8-9~~によりI C T<u>施工技術の活用施工</u>を行うことができる。 4. 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階でI C T施工技術を活用することとし舗装工の施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、舗装工以外の工種に関するI C T <u>施工技術の</u>活用を提案・協議した場合は、舗装工と共に実施内容等について施工計画書に記載するものとする。 5. I C T <u>施工技術</u>を用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、<u>以下下記</u>1）～~~4-5~~）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 起工測量にあたっては、標準的に面計測を実施するものとするが、前工事<u>及び設計段階</u>での3次元<u>納品</u>データが活用できる場合<u>においては、監督職員と協議の上、及び施工規模等現場条件によ</u>って管理断面及び変化点の計測による測量が効率的と判断された場合においては、管理断面及び変化点の計測による測量が選択できるものとし、I C T活用<u>工事</u>とする。~~なお、監督職員と協議する。~~ 1）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3）T S等光波方式を用いた起工測量 4）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ~~5）その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ ② 3次元設計データ作成 受注者は、~~設計図書や~~<u>5. ①</u>で得られた<u>測量データと発注者が貸与する発注図データ</u>を用いて、<u>I C T建設機械による施工及び</u>3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ I C T建設機械による施工 5. ②で作成した3次元設計データを用い、以下に示すI C T建設機械により、施工を実施する。 1）3次元MC建設機械<u>※</u> <u>※MCとは「マシンコントロール」の略称である。</u> 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術を用いて、敷均しを実施する。 ~~「但し施工現場の環境~~条件により、③I C T建設機械による施工が困難<u>又は非効率</u>となる場合は<u>監督職員と協議の上、</u>従来型建設機械による施工を実施してよいものとするが、丁張設置等には積極的に3次元設計データ等を活用するものとし<u>する。</u>
--	--	---

④ 3次元出来形管理等の施工管理 5. ③による施工管理において、下記1)～5)から選択(複数以上可)して、出来形管理を行うものとする。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) T S等光波方式を用いた出来形管理 4) T S(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、表層については、標準的に面管理を実施するものとするが、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合は、監督職員との協議の上、1)～5)を適用することなく、従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での出来形管理を行ってもよい。また、降雪・積雪によって面管理が実施できない場合や、施工規模等現場条件によって管理断面及び変化点の計測による測量が効率的と判断された場合においても、管理断面及び変化点の計測による出来形管理が選択できるものとする。ただし、完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測を行い、⑤によって納品する。 ※降雪・積雪等による工期内の計測が困難な場合は除外する。 表層以外については従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での管理を実施してもよい		~~し、監督職員と協議する。~~ ④ 3次元出来形管理等の施工管理 5. ③による施工管理において、<u>以下のとおり下記1)～5)から選択(複数以上可)して、</u>出来形管理を行うものとする。 <u>(1) 出来形管理</u> <u>出来形管理にあたっては、標準的に出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下(1点/㎡以上)の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法(面管理)とし、以下1)～2)から選択(複数以上可)して実施するものとする。</u> <u>また、舗装工における出来形管理にあたっては、以下1)～2)を原則とするが、現場条件等により以下3)～4)の出来形管理を選択して面管理を実施してもよい。</u> <u>(【メモ】ただし「3次元出来形管理・3次元データ納品費用、外注経費等の費用」の対象外となるので注意すること)</u> 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) T S等光波方式を用いた出来形管理 4) T S(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理 ~~5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、表層については、標準的に面管理を実施するものとするが、出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる場合<u>及びは、監督職員との協議の上、1)～5)を適用することなく、従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での出来形管理を行ってもよい。また、降雪・積雪等により面管理が実施できない場合は、監督職員と協議の上や、施工規模等現場条件によって管理断面及び変化点の計測による測量が効率的と判断された場合においても、管理断面及び変化点の計測による出来形管理をが選択してもICT活用工事とする。ただし、完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測を行い、⑤によって納品する。</u> ~~※降雪・積雪等による工期内の計測が困難な場合は除外する。~~ <u>なお、表層以外については従来手法(出来形管理基準上で当該基準に基づく管理項目)での管理を実施してもよい</u> <u>【メモ：条件明示として実施した出来形管理及び3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】</u> <u>【変更特記記載例】</u> <u>(3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合)</u> <u>本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。(している。)</u> <u>1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u>	
---	--	--	--

⑤ 3次元データの納品 5. ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として納品する。 6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用工事用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 8. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、舗装工及び付帯設備設置工に関するICT活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT活用工事を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記によ	<u>（実施する（した）出来形管理を掲載）</u> <u>（3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合）</u> <u>本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については計上していない。</u> <u>3）TS等光波方式を用いた出来形管理</u> <u>4）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理</u> <u>（実施する（した）出来形管理を掲載）</u> ⑤ 3次元データの納品 5. <u>①②</u>④により<u>作成した確認された</u>3次元~~施工管理~~データを、~~工事完成図書~~として納品する。 6. 上記5. ①～<u>④⑤</u>の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な~~ICT活用工事~~<u>施工</u>用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。<u>また、ICT施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。</u> ~~発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。~~ 7. ~~上記5. ①～④で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ ~~8.土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。~~ ~~9.受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ <u>8.10.</u> 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、舗装工及び付帯設備設置工に関するICT<u>施工技術活用</u>の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT<u>施工技術</u>を活用~~工事を実施~~する項目については、以下<u>の積算要領に基</u>
--	---

り計上することとする。 ・ I C T活用工事（舗装工）積算要領		~~づき各段階を設計変更の対象とする。し、下記により計上することとする。~~ ・ I C T活用工事（舗装工）積算要領 ~~なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」及び「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」の費用計上の考え方は以下のとおりである。~~ ~~（1）3次元起工測量・3次元設計データの作成費用~~ ~~3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。~~ ~~なお、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。~~ ~~（2）3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用~~ ~~出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法（面管理）を実施し、3次元データ納品を行った場合の費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正の補正係数を乗じるものとする。~~ ~~なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者からの見積により算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積により算出される金額を積算計上額とする。~~ ~~また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。~~ ~~・ 共通仮設費率補正係数：1.2~~ ~~・ 現場管理費率補正係数：1.1~~ ~~上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～4 2）とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。~~ ~~1）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理~~ ~~2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理~~	
ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量、3次元設計データの作成並びに3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。		~~ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量、3次元設計データの作成並びに3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。~~ ~~受注者が、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに、舗装工以外の工種に関する I C T活用について発注者へ提案・協議を行う。また、舗装工についても I C T活用に関する具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、 I C T活用の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とする。~~	
2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。		2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。	

第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査 　　ＩＣＴ活用施工を行った、全てのＩＣＴ活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 　　施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 　　調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	第〇〇条　ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査 　　ＩＣＴ~~施工技術~~の活用~~施工~~を行った、~~全てのＩＣＴ活用工事の~~施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象~~工事~~であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 　　施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 　　調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。
3.　ＩＣＴ活用工事実施の推進のための措置 　3－1　総合評価落札方式における加点措置 　　工事の内容やＩＣＴ活用施工の普及状況を踏まえ、適宜、ＩＣＴ活用施工の計画について総合評価において加点する工事（施工者希望Ⅰ型）を設定するものとする。 　3－2　工事成績評定における措置 　　ＩＣＴ活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT 活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 　□ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く） 　　※本項目は 1 点の加点とする。 　□ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの全ての段階で ICT を活用した工事。 　　※本項目は 2 点の加点とする。 　※ICT 活用による加点は最大 2 点の加点とする 　 　　なお、ＩＣＴ活用工事において、ＩＣＴ活用施工を採用しない工事の成績評定については、本項目での加点対象とせず、併せて以下(1)～(3)を標準として減点を行うものとする。 　 　※但し、以下についてはＩＣＴ活用工事として評価して未履行の減点対象としない。 　1) 起工測量において、前工事での 3 次元納品データが活用できる場合等の管理断面及び変化点の計測による測量 　2) 施工現場の環境条件により、③ＩＣＴ建設機械による施工が困難となる場合の、従来型建設機械による施工 　3) 冬季の降雪・積雪によって面管理が実施できない場合等の断面及び変化点の計測による出来形管理及び降雪・積雪による施工後の現況計測未実施	3.　ＩＣＴ活用工事実施の~~推進のための~~措置 　3－1　総合評価落札方式における加点措置 　　工事の内容やＩＣＴ活用施工の普及状況を踏まえ、適宜、ＩＣＴ活用施工の計画について総合評価において加点する工事（施工者希望Ⅰ型）を設定するものとする。 　3－2　工事成績評定における措置 　　ＩＣＴ活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT 活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 　□ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く） 　　※本項目は 1 点の加点とする。 　□ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの全ての段階で ICT を活用した工事。 　　※本項目は 2 点の加点とする。 　※ICT 活用による加点は最大 2 点の加点とする 　 　　なお、~~ＩＣＴ活用工事において、~~<u>工事目的物である舗装工において</u> ＩＣＴ~~施工技術~~の活用~~施工~~を採用しない工事の成績評定については、本項目での加点対象とせず、併せて以下(1)～(3)を標準として減点を行うものとする。 　※但し、以下についてはＩＣＴ活用工事として評価して未履行の減点対象としない。 　1) 起工測量において、前工事<u>及び設計段階</u>での~~3~~<u>3</u>次元納品データが活用できる場合等の管理断面及び変化点の計測による測量 　2) ~~施工現場の環境~~条件により、③ＩＣＴ建設機械による施工が困難<u>又は非効率</u>となる場合の、従来型建設機械による施工 　3) <u>出来形管理のタイミングが複数回にわたることにより一度の計測面積が限定される等、面管理が非効率になる、及び降雪・積雪等により面管理が実施できない等の理由により、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を実施した場合。</u> 　　<u>なお、面管理とは出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下（1 点/㎡以上）の点密度が確保できる出来形計測を行い、3 次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法のことをいう。</u> ~~冬季の降雪・積雪によって面管理が実施できない場合等の断面及び変化点の計測による出来形管理及び降雪・積雪による施工後の現況計測未実施~~

(1) 発注者指定型 受注者の責により I C T活用施工（1－2①～⑤の全て）が実施されない場合は、契約違反として工事成績評定から措置の内容に応じて減点する。 (2) 施工者希望Ⅰ型 総合評価落札方式による業者選定時に、受注者からの申請に基づき I C T活用施工（1－2①～⑤の全て）を行うことで評価を行っているため、受注者の責により実施されなかったと判断された場合は、履行義務違反として工事成績評定を減ずるなどの措置を行うものとする。なお、成績の減点は3点を標準とする。 (3) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案により I C T活用施工（1－2①～⑤の全て）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点は行わない。 4. I C T活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に I C T活用施工を導入し、I C T施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表1【要領一覧】）に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 (1) I C T活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 (2) 発注者は、詳細設計において、I C T活用工事に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上す	(1) 発注者指定型 受注者の責により I C T活用施工（1－2①～⑤の全て）が実施されない場合は、契約違反として工事成績評定から措置の内容に応じて減点する。 (2) 施工者希望Ⅰ型 総合評価落札方式による業者選定時に、受注者からの申請に基づき I C T活用施工（1－2①～⑤の全て）を行うことで評価を行っているため、受注者の責により実施されなかったと判断された場合は、履行義務違反として工事成績評定を減ずるなどの措置を行うものとする。なお、成績の減点は3点を標準とする。 (3) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案により I C T活用施工（1－2①～⑤の全て）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点は行わない。 4. I C T活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に I C T <u>施工技術活用施工</u>を導入し、~~I C T施工技術~~を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T <u>施工技術</u>の活用 <u>施工</u>を実施するにあたって、別途発出されている ~~施工管理要領、監督検査要領（表1【要領一覧】）~~「<u>3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）</u>」及び各種「<u>出来形管理の監督・検査要領（案）</u>」に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 <u>発注者は、3次元設計データ作成に必要な詳細設計において作成したC A Dデータを受注者に貸与する。ほか、I C T施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。</u> ~~（1）I C T活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ ~~（2）発注者は、詳細設計において、I C T活用工事に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。~~ ~~なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上す~~
--	--

るものとする。 4－3 工事費の積算 （１）発注者指定型における積算方法 発注者は、発注に際して別紙―2 7「ＩＣＴ活用工事（舗装工）積算要領」に基づく積算を実施するものとする。受注者が、舗装工以外の工種に関するＩＣＴ活用について監督職員へ提案・協議を行い協議が整った場合、また、舗装工についてもＩＣＴ活用に関する具体的な工事内容及び対象範囲の協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、ＩＣＴ活用施工の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記１）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（舗装工）積算要領 なお、ＩＣＴ活用について協議を行う際には、「１－2 ①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 現行基準による設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費についての見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとする。 見積り徴収にあたり、別紙―3 6「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 （２）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりＩＣＴ活用施工を実施する場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記１）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（舗装工）積算要領 また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙―3 6「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－4 ＩＣＴ監督・検査体制の構築 ＩＣＴ活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5 現場見学会・講習会の実施 ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。	~~るものとする。~~ 4－3 工事費の積算 （１）発注者指定型における積算方法 発注者は、発注に際して以下１）別紙―2 7「~~ＩＣＴ活用工事（舗装工）積算要領~~」に基づく積算を実施するものとする。受注者が、舗装工以外の工種に関するＩＣＴ活用について監督職員へ提案・協議を行い協議が整った場合、また、舗装工についてもＩＣＴ活用に関する具体的な工事内容及び対象範囲の協議がなされ、それぞれの協議が整った場合、ＩＣＴ活用施工の実施に関わる項目については、各段階を設計変更の対象とし、以下１）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（舗装工）積算要領 なお、ＩＣＴ活用について協議を行う際には、「１－2 ①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 現行基準による設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費についての見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとする。 見積り徴収にあたり、別紙―~~3 6~~ 3 4「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 （２）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりＩＣＴ活用施工を実施する場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、以下１）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（舗装工）積算要領 また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙―<u>4 0</u> ~~3 6~~「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－4 ＩＣＴ監督・検査体制の構築 ＩＣＴ施工技術における活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ施工技術の活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 4－5 現場見学会・講習会の実施 ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。
---	---

5. 地方整備局等における I C T 活用工事に関する調査等
I C T 活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5-1 発注見通しの調査（母集団調査）（提出様式は別途指示）
I C T 活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、対象工事の概要等を本省へ報告するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。
なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1-4、2-1 で定める工事とする。

5-2 I C T 活用工事の活用実績の報告（提出様式は別途指示）
母集団調査とともに、I C T 活用工事を活用する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。

5-3 施工合理化調査
施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

6. I C T 活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6-1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	I C T活用施工を行った、全ての I C T活用工事	受注者

- 1) 各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。
- 2) 発注者指定型、施工者希望 I 型・施工者希望 II 型の全てで実施する。

6-2 調査票の回収について
受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

5. 地方整備局等における I C T 活用工事に関する調査等
I C T 活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5-1 発注見通しの調査（母集団調査）~~（提出様式は別途指示）~~
I C T 活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、~~対象工事の概要等を本省へ報告~~するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。
なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1-4、2-1 で定める工事とする。

5-2 I C T 活用工事の活用実績の報告（~~提出様式は~~別途指示）
~~母集団調査とともに、~~I C T 活用工事の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示するものとする。~~を活用する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。~~

5-3 施工合理化調査
施工合理化調査を実施する場合は、~~なお、内容はその都度、~~別途指示する。

6. I C T 活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

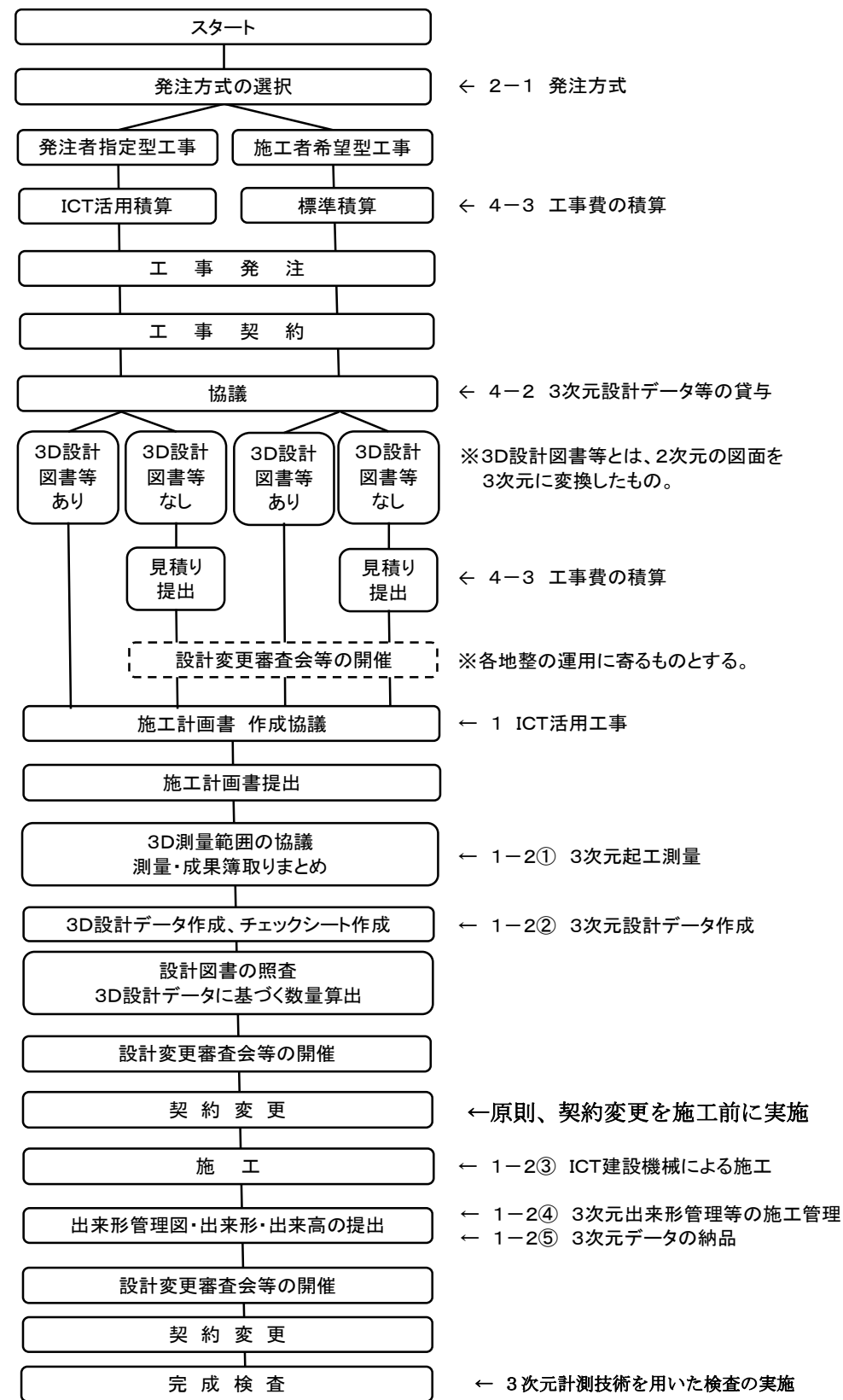
6-1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	~~I C T活用施工を行った、~~ 全ての I C T活用工事	受注者

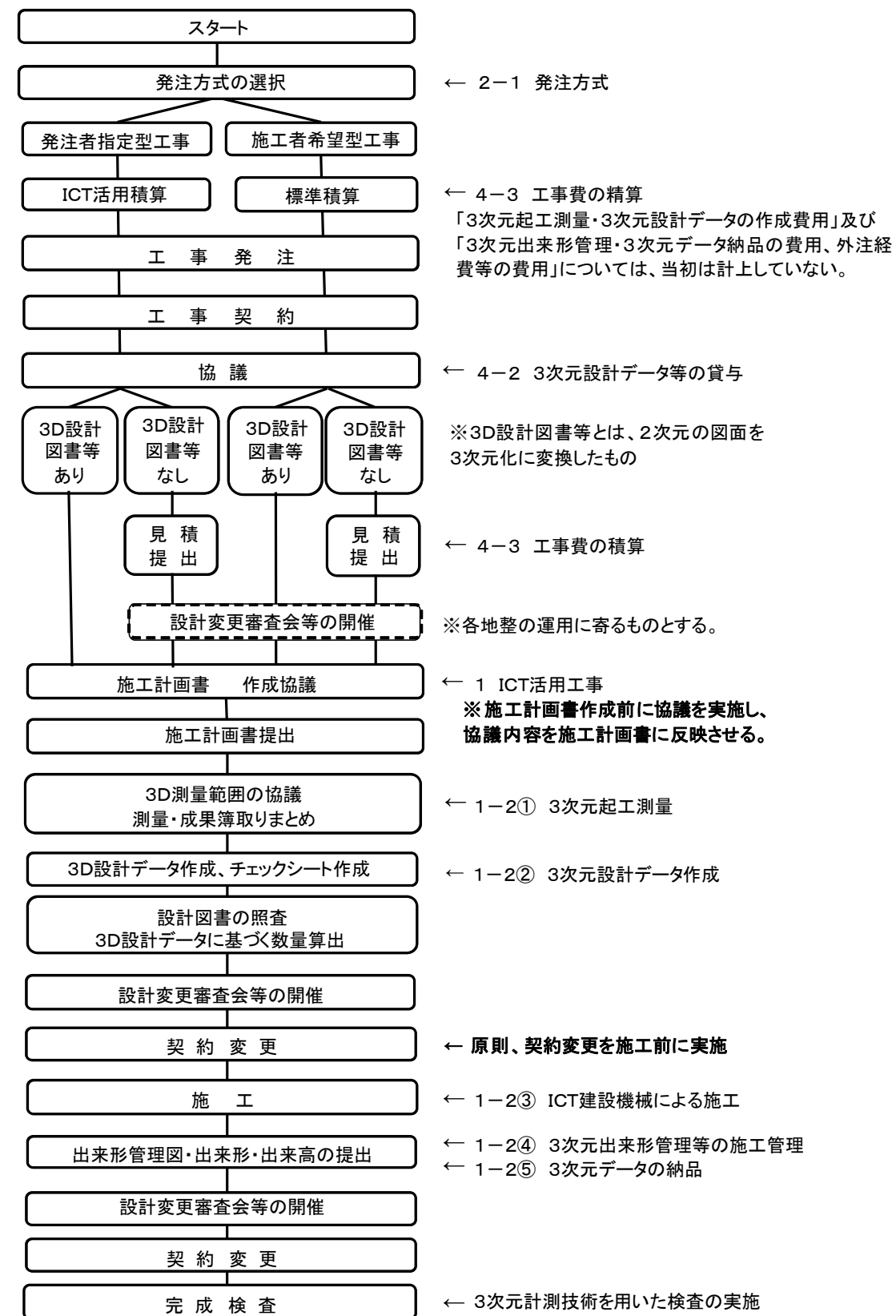
- 1) 各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。
- ~~2) 発注者指定型、施工者希望 I 型・施工者希望 II 型の全てで実施する。~~

6-2 調査票の回収について
受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



ICT施工技術の活用 (ICT活用工事)【舗装】

(工事名:○○○○工事)

会社名:○○○○建設(株)

当該工事の舗装工において、ICT施工技術を全ての施工プロセスの段階で活用する場合、「□全て活用する」のチェック欄に「■」と記入する。

チェック欄	施工プロセスの段階		適用技術・機種
□全て活用する	①3次元起工測量		・レーザースキャナーを用いた起工測量 ・TS等を用いた起工測量 ・TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ・その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。 ※複数以上の技術を組み合わせで採用しても良い。
	②3次元設計データ作成		※3次元出来形管理に用いる3次元設計データの作成を実施しなければならない。
	③ICT建設機械による施工	【作業工種】 ・路盤工	・3次元MC 建設機械 ※採用する機種及び活用作業工種・施工範囲については、受注後の協議により決定する。
	④3次元出来形管理等の施工管理		・レーザースキャナーを用いた出来形管理 ・TS等を用いた出来形管理 ・TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 ・その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。 ※複数以上の技術を組み合わせで採用しても良い。 ※「①3次元起工測量」で採用した技術と相違しても良い。
	⑤3次元データの納品		

注1) ICT活用工事及びICT活用施工の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注2)「□全て活用する」のチェック欄に「■」と記載された場合のみ、加点評価の対象とする。

注3)「ICT施工技術の活用」において加点評価された場合、本表の「適用技術・機種」欄に記載した技術・機種に適用する「有用な新技術の活用」または「技術開発」については重複評価はしない。

注4) 本表適用技術・機種欄に掲載するICT施工技術を工事に活用する場合、技術提案(施工計画)では評価対象としない。
但し、本表適用技術・機種欄に掲載するICT施工技術を応用(別の技術を組み合わせで効果を高める、または別の効果を発現する等を含む)した技術提案は、その応用部分(付加的な内容)についてのみ技術提案(施工計画)での評価対象とする。

注5) 特記仕様書により指定した技術については、評価項目・技術提案ともに加点・評価はしない。

注6) MCとはマシンコントロール機能をいう。

[P ○ / ○]

ICT施工技術の活用 (ICT活用工事)【舗装】

(工事名:○○○○工事)

会社名:○○○○建設(株)

当該工事の舗装工において、ICT施工技術を全ての施工プロセスの段階で活用する場合、「□全て活用する」のチェック欄に「■」と記入する。

チェック欄	施工プロセスの段階		適用技術・機種
□全て活用する	①3次元起工測量		・地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ・地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ・TS等光波方式を用いた起工測量 ・TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。 ※複数以上の技術を組み合わせで採用しても良い。
	②3次元設計データ作成		※3次元出来形管理に用いる3次元設計データの作成を実施しなければならない。
	③ICT建設機械による施工		・3次元MC 建設機械 ※採用する機種及び活用作業工種・施工範囲については、受注後の協議により決定する。
	④3次元出来形管理等の施工管理		・地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ・地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ・TS等光波方式を用いた出来形管理 ・TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。 ※複数以上の技術を組み合わせで採用しても良い。 ※「①3次元起工測量」で採用した技術と相違しても良い。
	⑤3次元データの納品		

注1) ICT活用工事及びICT活用施工の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注2)「□全て活用する」のチェック欄に「■」と記載された場合のみ、加点評価の対象とする。

注3)「ICT施工技術の活用」において加点評価された場合、本表の「適用技術・機種」欄に記載した技術・機種に適用する「有用な新技術の活用」または「技術開発」については重複評価はしない。

注4) 本表適用技術・機種欄に掲載するICT施工技術を工事に活用する場合、技術提案(施工計画)では評価対象としない。
但し、本表適用技術・機種欄に掲載するICT施工技術を応用(別の技術を組み合わせで効果を高める、または別の効果を発現する等を含む)した技術提案は、その応用部分(付加的な内容)についてのみ技術提案(施工計画)での評価対象とする。

注5) 特記仕様書により指定した技術については、評価項目・技術提案ともに加点・評価はしない。

注6) MCとはマシンコントロール機能をいう。

[P ○ / ○]

R 6 室長通知 別紙－ 2 7 I C T活用工事（舗装工）積算要領	R 7 室長通知 別紙－ 2 5 I C T活用工事（舗装工）積算要領																
別紙－ 2 7	別紙－ ~~2 5-2-7~~																
I C T活用工事（舗装工）積算要領	I C T活用工事（舗装工）積算要領																
1. 適用範囲 本資料は、I C Tによる舗装工（以下、舗装工（I C T））に適用する。 以下のI C T建設機械による施工の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 ・不陸整正（I C T） ・下層路盤（車道・路肩部）（I C T） ・上層路盤（車道・路肩部）（I C T）	1. 適用範囲 本資料は、I C Tによる舗装工（以下、舗装工（I C T））に適用する。 以下のI C T建設機械による施工の積算にあたっては、施工パッケージ型積算基準により行うこととする。 ・不陸整正（I C T） ・下層路盤（車道・路肩部）（I C T） ・上層路盤（車道・路肩部）（I C T）																
2. 機械経費	2. 機械経費																
2－1 機械経費 舗装工（I C T）の積算で使用するICT建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、賃料については、土木工事標準積算基準書の「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 ①不陸整正（I C T）、下層路盤（車道・路肩部）（I C T）、上層路盤（車道・路肩部）（I C T）	2－1 機械経費 舗装工（I C T）の積算で使用する ~~ICT~~ <u>I C T</u> 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。 なお、賃料については、土木工事標準積算基準書の「第 2 章 工事費の積算」①直接工事費により算定するものとする。 ①不陸整正（I C T）、下層路盤（車道・路肩部）（I C T）、上層路盤（車道・路肩部）（I C T）																
<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>モータグレーダ</td><td>土工用・排出ガス対策型（第二次基準値）・ブレード幅 3. 1 m</td><td>賃料にて計上</td><td>ICT 建設機械経費加算額は別途計上</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	モータグレーダ	土工用・排出ガス対策型（第二次基準値）・ブレード幅 3. 1 m	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上	<table><tr><th>I C T建設機械名</th><th>規格</th><th>機械経費</th><th>備考</th></tr><tr><td>モータグレーダ</td><td>土工用・排出ガス対策型（~~第二次基準値~~<u>2014 年規制</u>）・ブレード幅 3. 1 m</td><td>賃料にて計上</td><td>ICT 建設機械経費加算額は別途計上</td></tr></table>	I C T建設機械名	規格	機械経費	備考	モータグレーダ	土工用・排出ガス対策型（ ~~第二次基準値~~ <u>2014 年規制</u> ）・ブレード幅 3. 1 m	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考														
モータグレーダ	土工用・排出ガス対策型（第二次基準値）・ブレード幅 3. 1 m	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上														
I C T建設機械名	規格	機械経費	備考														
モータグレーダ	土工用・排出ガス対策型（ ~~第二次基準値~~ <u>2014 年規制</u> ）・ブレード幅 3. 1 m	賃料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上														
2－2 ICT建設機械経費加算額 ICT建設機械経費賃料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費で示すICT建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1）不陸整正（ICT），下層路盤（車道・路肩部）（ICT），上層路盤（車道・路肩部）（ICT） 対象建設機械：モータグレーダ 賃料加算額：49,000円／日	2－2 ~~ICT~~ <u>I C T</u> 建設機械経費加算額 ICT建設機械経費賃料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2－1 機械経費で示すICT建設機械に適用する。 なお、加算額は、以下のとおりとする。 （1）不陸整正（ICT），下層路盤（車道・路肩部）（ICT），上層路盤（車道・路肩部）（ICT） 対象建設機械：モータグレーダ 賃料加算額：49,000円／日																
2－3 その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。	2－3 その他 ICT建設機械経費等として、以下の各経費を、共通仮設費の技術管理費に計上する。																
2－3－1 保守点検 ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。 （1）不陸整正（ICT），下層路盤（車道・路肩部）（ICT），上層路盤（車道・路肩部）（ICT） 保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.18(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m2)} \times \text{層数}}{\text{作業日当り標準作業量(m2/日・層)}}$ （注）作業日当り標準作業量は「第 I 編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」のI C T標準作	~~2－3－1 保守点検~~ ~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~ ~~（1）不陸整正（ICT），下層路盤（車道・路肩部）（ICT），上層路盤（車道・路肩部）（ICT）~~ ~~保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.18(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m2)} \times \text{層数}}{\text{作業日当り標準作業量(m2/日・層)}}$~~ ~~（注）作業日当り標準作業量は「第 I 編第 14 章その他④作業日当り標準作業量」のI C T標準作~~																

業量による。 2－3－2 システム初期費 I C T施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。 (1) 不陸整正 (ICT)、下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)、上層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 対象機械：モータグレーダ 623, 000 円／式 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)～3)又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測とし、I C T活用工事 (舗装工) 実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 上記1)又は2)に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理	~~業量による。~~ 2－3－~~1-2~~ システム初期費 ~~I C T施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。~~ <u>I C T建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、I C T建設機械精度確認等、I C T建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を計上する。</u> (1) 不陸整正 (ICT)、下層路盤 (車道・路肩部) (ICT)、上層路盤 (車道・路肩部) (ICT) 対象機械：モータグレーダ 623, 000 円／式 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成~~(修正含む)~~を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 <u>費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。</u> <u>なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。</u> 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 <u>(1) 出来形管理の計測範囲において、1 m間隔以下 (1 点/㎡以上) の点密度が確保できる出来形計測を行い、3次元設計データと計測した各ポイントとの離れを算出し、出来形の良否を面的に判定する管理手法 (面管理) を実施し、3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行っ<u>た</u>場合<u>の</u>における費用の計上方法については、<u>受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、</u>共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。</u> <u>なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。</u> <u>また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。</u> ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※~~小数点第3位四捨五入2位止め~~ 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1) <u>2) ～3)</u> ~~又は完成検査直前の工事竣工段階の地形について面管理による出来形計測~~とし、~~I C T活用工事 (舗装工) 実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、それ以外の出来形管理の費用は、~~共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理
---	--

(2) 費用計上にあたっての留意事項 1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、妥当性の確認を行うこととし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。	~~3) 上記1)又は2)に類似する、その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ (2) 費用計上にあたっての留意事項 ~~1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、妥当性の確認を行うこととし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。~~ ~~2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。~~ <u>1) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上しない。</u> <u>2) 受注者からの見積又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。</u> <u>①補正係数を乗じて算出される金額を計上する場合</u> <u>・補正係数を乗じて算出される金額<受注者からの見積による金額</u> <u>②受注者からの見積による金額を計上する場合</u> <u>・補正係数を乗じて算出される金額>受注者からの見積による金額</u> 5. 施工箇所が点在するICT活用工事の積算について 施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。
---	--

R 6 室長通知 別紙ー 2 8 I C T活用工事（舗装工（修繕工））実施要領	R 7 室長通知 別紙ー 2 6 I C T活用工事（舗装工（修繕工））実施要領
別紙ー 2 8	別紙ー 2 6
I C T活用工事（舗装工（修繕工））実施要領	I C T活用工事（舗装工（修繕工））実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1ー1 概要	1ー1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1ー2 I C T活用工事における舗装工（修繕工）	1ー2 I C T活用工事における舗装工（修繕工）
次の①～⑤の全ての段階（③④は選択）で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（舗装工（修繕工））とする。また、「I C T舗装工（修繕工）」という略称を用いることがある。	次の①～⑤の全ての段階 ~~（③④は選択）~~ で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（舗装工（修繕工））とする。また、「I C T舗装工（修繕工）」という略称を用いる。
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ I C T建設機械による施工（施工管理システム）（選択）	③ I C T建設機械による施工 ~~（施工管理システム）（選択）~~
④ 3次元出来形管理等の施工管理（選択）	④ 3次元出来形管理等の施工管理 ~~（選択）~~
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1ー3 I C T施工技術の具体的内容	1ー3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表ー 1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤ ~~及び表ー 1~~ によるものとし、 ~~関連要領等については、最新のものを適用するものとする。~~
	関連要領等： https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
発注者から貸与する 3次元測量データ（地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いたデータ）を活用することを基本とする。	発注者から貸与する 3次元測量データ（地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いたデータ）を活用することを基本とする。
なお、必要に応じて受注者が 3次元測量データを取得する場合又は発注者から起工測量に代わる 3次元測量データを貸与できない場合は、下記 1）～ 4）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択するものとし、I C T活用とする。	なお、必要に応じて受注者が 3次元測量データを取得する場合又は発注者から起工測量に代わる 3次元測量データを貸与できない場合は、以下 1）～ 3）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。
1）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	起工測量にあたっては、標準点に面計測を実施するものとするが、前工事及び設計段階での 3次元データが活用できる場合等においては、管理断面及び変化点の計測 ~~または面的な計測~~ による測量が選択できるものとし、I C T活用工事とする。
2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	1）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
3）トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量	2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
4）その他の 3次元計測技術を用いた起工測量	3）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量
	~~4）その他の 3次元計測技術を用いた起工測量~~
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
1ー3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、施工指示に用いる切削計画を作成する。また、従来建設機械による施工及び出来形管理を行う場合は断面データを作成し、3次元出来形管理を行う場合は 3次元設計データを作成する。	1ー3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、施工指示に用いる切削計画を作成する。 ~~また、従来建設機械による施工及び出来形管理を行う場合は断面データを作成し、3次元出来形管理を行う場合は 3次元設計データを作成する。~~

③ I C T建設機械による施工（施工管理システム）（選択） 1－3②で作成した3次元設計データを用い、下記1）に示す施工管理システムを搭載した建設機械を用いた施工を実施又は従来型建設機械による施工が選択できる。 1）3次元位置を用いた施工管理システム ④ 3次元出来形管理等の施工管理（選択） I C T舗装工（修繕工）の施工管理において、施工管理システムを搭載した建設機械を用いた施工を選択した場合下記に示す方法により施工管理を実施、従来型建設機械による施工を選択した場合は従来手法による施工管理を実施する。 （1）出来形管理 路面切削作業の施工管理において、下記に示す方法により出来形管理をする。 1）施工履歴データを用いた出来形管理 2）地上写真測量を用いた出来形管理 ⑤ 3次元データの納品 1－3①②による3次元データ等及び④において施工を選択した場合、3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。	③ I C T建設機械による施工~~（施工管理システム）~~（選択） 1－3②で作成した3次元設計データを用い、以下1）2）に示すI C T建設機械により施工を実施する。位置・標高をリアルタイムに取得するに当たっては、国土地理院の電子基準点のほか、国土地理院に登録された民間等電子基準点を活用することができる。 なお、位置情報サービス事業者が提供する位置情報サービスの利用においては、当該サービスが国家座標に準拠し、かつ、作業規程の準則（令和5年3月31日 国土交通省告示第250号）付録1測量機器検定基準2－6の性能における検定基準を満たすこと。 1）3次元MCまたは3次元MG建設機械※ 2）3次元位置を用いた施工管理システムを搭載した建設機械 ※MC：「マシンコントロール」の略称、MG：「マシンガイダンス」の略称 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術、または、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する施工管理の機能を有する技術を用いて、路面切削を実施する。 ④ 3次元出来形管理等の施工管理~~（選択）~~ 1－3③による工事の施工管理において、以下に示す方法により出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 3次元MCまたは3次元MG建設機械を使用した場合の出来形管理にあたっては、管理断面及び変化点の計測による出来形管理とし、以下1）2）から選択（複数以上可）して実施するものとする。 1）T S等光波方式を用いた出来形管理 2）地上写真測量を用いた出来形管理 3次元位置を用いた施工管理システムを搭載した建設機械を使用した場合の出来形管理にあたっては、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する施工管理システムから得られる施工履歴データにより以下3）により実施するものとする。 3）施工履歴データを用いた出来形管理 ⑤ 3次元データの納品 1－3①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。
--	---

《表－１　ＩＣＴ施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査	備考
				新設	修繕	施工管理	
3次元起工測量 ／3次元出来形管理 等施工管理	地上レーザーสキャナーを用いた起工測量 (舗装工事編)	測量	－	－	○	①、②、⑥	
	TS (ノンプリズム方式) を用いた起工測量 (舗装工事編)	測量	－	－	○	①、③	
	地上移動体搭載型レーザーสキャナーを用 いた起工測量 (舗装工事編)	測量	－	－	○	①、④	
	施工履歴データを用いた出来形管理技術	出来形計測	ICT 建設機械	－	△	①、⑤	路面切削工

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案) 路面切削工編
	②	地上型レーザーสキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領 (舗装工事編) (案)
	③	TS (ノンプリ) を用いた出来形管理の監督・検査要領 (舗装工事編) (案)
	④	地上移動体搭載型レーザーสキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領 (舗装工事編) (案)
	⑤	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領 (路面切削工編) (案)
	⑥	地上レーザーสキャナーを用いた公共測量マニュアル (案) ー国土地理院

【凡例】○：適用可能　△：選択可能　－：適用外

1－4　ＩＣＴ活用工事の対象工事

　ＩＣＴ活用工事の対象工事 (発注工種) は、舗装工 (修繕工) (「切削オーバーレイ工」又は「路面切削工」) を原則とし、下記 (1) ～ (3) に該当する工事とする。

(1) 対象工種・種別

　ＩＣＴ活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記とする。

《表－２　ＩＣＴ活用工事の対象工種種別》

工事区分	工　種	種　別
・道路維持 ・道路修繕 橋梁保全工事	舗装工	切削オーバーレイ工 路面切削工

(2) 適用対象外

　従来施工において、舗装工の土木工事施工管理基準 (出来形管理基準及び規格値) を適用しない工事は適用対象外とする。

~~《表－１　ＩＣＴ施工技術と適用工種》~~

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査	備考
				新設	修繕	施工管理	
3次元起工測量 ／3次元出来形管理 等施工管理	地上レーザーสキャナーを用いた起工測量 (舗装工事編)	測量	－	－	○	①、②、⑥	
	TS (ノンプリズム方式) を用いた起工測量 (舗装工事編)	測量	－	－	○	①、③	
	地上移動体搭載型レーザーสキャナーを用 いた起工測量 (舗装工事編)	測量	－	－	○	①、④	
	施工履歴データを用いた出来形管理技術	出来形計測	ICT 建設機械	－	△	①、⑤	路面切削工

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案) 路面切削工編
	②	地上型レーザーสキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領 (舗装工事編) (案)
	③	TS (ノンプリ) を用いた出来形管理の監督・検査要領 (舗装工事編) (案)
	④	地上移動体搭載型レーザーสキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領 (舗装工事編) (案)
	⑤	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領 (路面切削工編) (案)
	⑥	地上レーザーสキャナーを用いた公共測量マニュアル (案) ー国土地理院

【凡例】○：適用可能　△：選択可能　－：適用外

1－4　ＩＣＴ活用工事の対象工事

　ＩＣＴ活用工事の対象工事 (発注工種) は、舗装工 (修繕工) (「切削オーバーレイ工」又は「路面切削工」) を原則とし、以下 (1) ～ (3) に該当する工事とする。

(1) 対象工種・種別

　ＩＣＴ活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける以下とする。

《表－１　ＩＣＴ活用工事の対象工種種別》

工事区分	工　種	種　別
・道路維持 ・道路修繕 ・橋梁保全工事	舗装工	切削オーバーレイ工 路面切削工

(2) 適用対象外

　従来施工において、舗装工の土木工事施工管理基準 (出来形管理基準及び規格値) を適用しない工事は適用対象外とする。

(3) 対象規模 I C T活用工事（舗装工（修繕工））の対象規模は、1－4（1）対象工種を条件とし、数量は「2－1 発注方式」に記載のとおりとする。 2. I C T活用工事の実施方法 2－1 発注方式 I C T活用工事の発注は、下記の（1）～（2）によるものとするが、工事内容及び地域におけるI C T施工機器の普及状況等を勘案し決定する。 （1）施工者希望Ⅰ型 路面切削工または切削オーバーレイ工の面積 10,000m2 以上を目安として、発注者が設定した工事に適用する。 （2）施工者希望Ⅱ型 路面切削工または切削オーバーレイ工の面積 10,000m2 未満を目安として、発注者が設定した工事に適用する。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 （1）施工者希望Ⅰ型 【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：切削オーバーレイ工事または路面切削工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅰ型）である。	(3) 対象規模 I C T活用工事（舗装工（修繕工））の対象規模は、1－4（1）対象工種を条件とし、数量は「2－1 発注方式」に記載のとおりとする。 2. I C T活用工事の実施方法 2－1 発注方式 I C T活用工事の発注は、以下の（1）～（2）によるものとするが、I C T施工技術の活用が困難な場合及びI C T施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合、地域におけるI C T建設機械の普及状況など工事内容及び現場条件等を勘案し決定する。 （1）施工者希望Ⅰ型 路面切削工または切削オーバーレイ工の面積 10,000m2 以上を目安として、発注者が設定した工事に適用する。 （2）施工者希望Ⅱ型 路面切削工または切削オーバーレイ工の面積 10,000m2 未満を目安として、発注者が設定した工事に適用する。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 （1）施工者希望Ⅰ型 【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：切削オーバーレイ工事または路面切削工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅰ型）である。
---	--

【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：切削オーバーレイ工事または路面切削工事の場合は、（番号）を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望 I 型）である。 I C Tを活用するため、入札にあたり「I C T施工技術の活用（I C T活用工事）」（別記様式－2）を提出し、その内容が I C T活用施工として適当と認められる場合、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議し、協議が整った場合に I C T活用施工を行う。 本工事における I C T活用施工は、切削オーバーレイ工事または路面切削工事において、①に示す3次元起工測量と施工指示に用いる切削計画を作成、また、3次元設計データを作成し、得られた3次元設計データ等の電子データを納品することをいう。 なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3次元起工測量 (発注者から3次元測量データを貸与できる場合) 発注者から貸与する3次元測量データ(地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いたデータ)を活用することを基本とする。 なお、必要に応じて3次元測量データを取得する場合は下記1)～4)から選択(複数以上可)して測量を行うものとする。施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) トータルステーション(ノンプリズム方式)を用いた起工測量 4) その他の3次元計測技術を用いた起工測量	【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：切削オーバーレイ工事または路面切削工事の場合は、（番号）を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望 I 型）である。 I C T施工技術を活用するため、入札にあたり「I C T施工技術の活用（I C T活用工事）」（別記様式－2）を提出し、その内容が I C T施工技術の活用として適当と認められる場合、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議し、協議が整った場合に I C T施工技術の活用を行う。 本工事における I C T施工技術の活用は、切削オーバーレイ工事または路面切削工事において、以下の①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用することとし、①に示す3次元起工測量と施工指示に用いる切削計画を作成、また、3次元設計データを作成し、得られた3次元設計データ及び3次元出来形管理等の施工管理で作成した3次元データを納品することをいう。 なお、I C T施工技術の活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ I C T建設機械による施工 ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データ納品 ・ I C T建設機械 1) 3次元MCまたは3次元MG建設機械※ 2) 3次元位置を用いた施工管理システムを搭載した建設機械 ※MC：「マシンコントロール」の略称、MG：「マシンガイダンス」の略称 ① 3次元起工測量 (発注者から3次元測量データを貸与できる場合) 発注者から貸与する3次元測量データ(地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いたデータ)を活用することを基本とする。 なお、必要に応じて3次元測量データを取得する場合は以下1)～3)から選択(複数以上可)して測量を行うものとする。施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S (ノンプリズム方式)を用いた起工測量 ~~4)その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~
---	---

(発注者から 3 次元測量データを貸与できない場合) 受注者は、交通規制を削減し、下記 1) ～ 4) から選択 (複数以上可) して測量を行うものとする。起工測量は、施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) トータルステーション (ノンプリズム方式) を用いた起工測量 4) その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量 『(番号) 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) 総合評価に関する事項 (番号) 評価の基準 (番号) 企業の技術力 評価項目 I C T 活用工事 (I C T 施工技術の活用) 当該工事において、I C T を活用する計画である場合は、「I C T 施工技術の活用 (I C T 活用工事)」 (別記様式ー 4) を添付すること。 <table><tr><td>評価基準</td><td>評価点</td></tr><tr><td>・①②⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用する場合</td><td>2 点</td></tr><tr><td>・①②⑤の一部または全ての段階で I C T 施工技術を活用しない場合</td><td>0 点</td></tr></table> ※但し、以下については I C T 活用工事として評価して未履行の減点対象としない。 1) 起工測量において、直近の測量成果等での 3 次元納品データが活用できる場合又は発注者から貸与する 3 次元測量データを活用する場合等で 3 次元測量が不要の場合 2) 選択により③ I C T 建設機械による施工 (施工管理システム) を行わない場合の、従来型建設機械による施工 3) 選択により④ 3 次元出来形管理等の施工管理を行わない場合 【※評価点については、各発注機関の状況により変更可能】 ※①～⑤の各段階とは、「① 3 次元起工測量」「② 3 次元設計データ作成」「③ I C T 建設機械による施工 (施工管理システム) 」「④ 3 次元出来形管理等の施工管理」「⑤ 3 次元データの納品」である。 なお、詳細については、特記仕様書によるものとする。 (番号) I C T 活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案 (施工計画等) 」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T 活用施工に掛かる技術を応用 (別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む) した技術提案については、その応用部分 (付加的内容) についてのみ評価対象とする。※	評価基準	評価点	・①②⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用する場合	2 点	・①②⑤の一部または全ての段階で I C T 施工技術を活用しない場合	0 点	(発注者から 3 次元測量データを貸与できない場合) 受注者は、交通規制を削減し、以下 1) ～ 3) から選択 (複数以上可) して測量を行うものとする。起工測量は、施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S (ノンプリズム方式) を用いた起工測量 ~~4)その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ 『(番号) 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) 総合評価に関する事項 (番号) 評価の基準 (番号) 企業の技術力 評価項目 I C T 活用工事 (I C T 施工技術の活用) 当該工事において、I C T ~~施工技術~~ を活用する計画である場合は、「I C T 施工技術の活用 (I C T 活用工事)」 (別記様式ー 2) を添付すること。 <table><tr><td>評価基準</td><td>評価点</td></tr><tr><td>・①～⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用する場合</td><td>2 点</td></tr><tr><td>・①～⑤の一部または全ての段階で I C T 施工技術を活用しない場合</td><td>0 点</td></tr></table> ※但し、以下については I C T 活用工事として評価して未履行の減点対象としない。 1) 起工測量において、直近の測量成果等での 3 次元納品データが活用できる場合又は発注者から貸与する 3 次元測量データを活用する場合等で 3 次元測量が不要の場合 2) ~~現場条件~~により、③ I C T 建設機械による施工が~~困難又は非効率となる~~場合の、従来型建設機械による施工 ~~3) 選択により④ 3 次元出来形管理等の施工管理を行わない場合~~ 【※評価点については、各発注機関の状況により変更可能】 ※①～⑤の各段階とは、「① 3 次元起工測量」「② 3 次元設計データ作成」「③ I C T 建設機械による施工 ~~-(施工管理システム)-~~」「④ 3 次元出来形管理等の施工管理」「⑤ 3 次元データの納品」である。 なお、詳細については、特記仕様書によるものとする。 (番号) I C T ~~施工技術~~ の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案 (施工計画等) 」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T ~~施工技術~~ の~~活用~~に掛かる技術を応用 (別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む) した技術提案については、その応用部分 (付加的内容) についてのみ評価対象とする。※	評価基準	評価点	・①～⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用する場合	2 点	・①～⑤の一部または全ての段階で I C T 施工技術を活用しない場合	0 点
評価基準	評価点												
・①②⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用する場合	2 点												
・①②⑤の一部または全ての段階で I C T 施工技術を活用しない場合	0 点												
評価基準	評価点												
・①～⑤の全ての段階で I C T 施工技術を活用する場合	2 点												
・①～⑤の一部または全ての段階で I C T 施工技術を活用しない場合	0 点												

※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。 【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用する ＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２． 定義 （１） i-Construction とは、ＩＣＴの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けて ＩＣＴを活用した工事（ ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２） ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、 ＩＣＴを活用する工事である。また、次の①～⑤の段階で ＩＣＴ施工技術を活用することを ＩＣＴ活用工事という。対象は、切削オーバーレイ工事とする。 ① ３次元起工測量 ② ３次元設計データ作成 ③ ＩＣＴ建設機械による施工（施工管理システム）（選択） ④ ３次元出来形管理等の施工管理（選択） ⑤ ３次元データの納品 ３． 受注者は、入札にあたり ＩＣＴを活用するため ＩＣＴ施工技術の活用（別記様式－４）を提出し、その内容が ＩＣＴ活用施工として適当と認められる場合、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議し、協議が整った場合に下記４～９により ＩＣＴ活用施工を行う。 （以下、 ＩＣＴ活用施工を行う場合） ４． ＩＣＴ活用工事のうち、上記③、④については、受注者の希望により実施を選択し、①、②、⑤を必須として実施する。また、舗装工（修繕工）の施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 ５． ＩＣＴを用い、以下の施工を実施する。 ① ３次元起工測量 （発注者から３次元測量データを貸与できる場合） 発注者から貸与する３次元測量データ（地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いたデータ）を活用することを基本とする。なお、必要に応じて３次元測量データを取得する場合は、下記１）～４）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選	※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。 【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用する ＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２． 定義 （１） i-Construction とは、ＩＣＴ施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けて ＩＣＴ施工技術を活用した工事（ ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２） ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、 ＩＣＴ施工技術を活用する工事である。また、以下の①～⑤の段階で ＩＣＴ施工技術を活用することを ＩＣＴ活用工事という。対象は、切削オーバーレイ工事または路面切削工事とする。 ① ３次元起工測量 ② ３次元設計データ作成 ③ ＩＣＴ建設機械による施工~~（施工管理システム）（選択）~~ ④ ３次元出来形管理等の施工管理~~（選択）~~ ⑤ ３次元データの納品 ３． 受注者は、入札にあたり ＩＣＴ施工技術を活用するため ＩＣＴ施工技術の活用（別記様式－２）を提出し、その内容が ＩＣＴ施工技術の活用として適当と認められる場合、契約後施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議し、協議が整った場合に以下４～８により ＩＣＴ施工技術の活用を行う。 （以下、 ＩＣＴ施工技術の活用を行う場合） ４． 原則、本工事においては上記①～⑤の全ての段階で ＩＣＴ施工技術を活用することとし、舗装工（修繕工）について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 ５． ＩＣＴ施工技術を用い、以下の施工を実施する。 ① ３次元起工測量 （発注者から３次元測量データを貸与できる場合） 発注者から貸与する３次元測量データ（地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いたデータ）を活用することを基本とする。なお、必要に応じて３次元測量データを取得する場合は、以下１）～３）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選
---	--

択するものとし、監督職員と協議する。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 4) その他の3次元計測技術を用いた起工測量 （発注者から3次元測量データを貸与できない場合） 受注者は、交通規制を削減し、下記1）～4）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。起工測量は、施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 4) その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、施工指示に用いる切削計画を作成する。また、3次元出来形管理を行う場合は3次元設計データを作成する。 ③ I C T建設機械による施工（施工管理システム）（選択） 5. ②で作成した3次元設計データを用い、下記1）に示す施工管理システムを搭載した建設機械を用いた施工、又は従来型建設機械による施工が選択できる。 切削指示値等に積極的に3次元設計データ等を活用するものとする。 1) 3次元位置を用いた施工管理システム 施工中の路面切削機の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する機能を有するI C T建設機械。 切削深さの計測・記録方法としては、外部計測機による切削装置の計測の他切削装置に表示される指示値を取得する方法などがある。 ④ 3次元出来形管理等の施工管理（選択） 5. ③で、施工管理システムを搭載した建設機械を用いた施工を選択した場合下記に示す方法により施工管理を実施、従来型建設機械による施工を選択した場合は従来手法による施工管理を選択できる。 1) 施工履歴データを用いた出来形管理 2) 地上写真測量を用いた出来形管理		択するものとし、監督職員と協議する。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ~~4)その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ （発注者から3次元測量データを貸与できない場合） 受注者は、交通規制を削減し、以下1）～3）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。起工測量は、施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ~~4)その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ ② 3次元設計データ作成 受注者は、5. ①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、施工指示に用いる切削計画を作成する。また、I C T建設機械による施工、及び3次元出来形管理を行う場合は3次元設計データを作成する。 ③ I C T建設機械による施工~~（施工管理システム）（選択）~~ 5. ②で作成した3次元設計データを用い、以下1）2）に示すI C T建設機械を作業に応じて選択して施工を実施するものとし、切削指示値等に積極的に3次元設計データ等を活用するものとする。 なお、I C T建設機械の調達が困難な場合は、監督職員と協議して従来型建設機械による施工を実施してもI C T活用工事とする。 1) 3次元MCまたは3次元MG建設機械 2) 3次元位置を用いた施工管理システムを搭載した建設機械 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する3次元マシンコントロール技術、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する3次元マシンガイダンス技術、または、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する施工管理の機能を有する技術を用いて、路面切削を実施する。 なお、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する方法としては、外部計測機による切削装置の計測の他切削装置に表示される指示値を取得する方法などがある。 ④ 3次元出来形管理等の施工管理~~（選択）~~ 5. ③による工事の施工管理において、以下のとおり出来形管理を行うものとする。 なお、監督職員と協議のうえ、従来型建設機械による施工を実施した場合は従来手法による施工管理を実施する。 (1) 出来形管理 3次元MCまたは3次元MC建設機械を使用した場合の出来形管理にあたっては、管理断面及び変化点の計測による出来形管理とし、以下1）2）から選択（複
---	--	---

⑤ 3次元データの納品 ①②④により確認された3次元施工管理データ等を、工事完成図書として電子納品する。 6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用工事用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 8. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等という。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT活用工事を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。		数以上可）して実施するものとする。 1）TS等光波方式を用いた出来形管理 2）地上写真測量を用いた出来形管理 3次元位置を用いた施工管理システムを使用した場合の出来形管理にあたっては、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する施工管理システムから得られる施工履歴データにより以下3）により実施するものとする。 3）施工履歴データを用いた出来形管理 ⑤ 3次元データの納品 5. ①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。 6. 上記5. ①～④の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 また、ICT施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~7. 上記5. ①～④で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ 7. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 ~~9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ 8. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等という。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT施工技術を活用する項目については、以下の積算要領に基づき各段階を設計変更の対象とする。 ・ICT活用工事（舗装工（修繕工））積算要領	
--	--	--	--

・ I C T活用工事（舗装工（修繕工））積算要領 ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量、3次元設計データの作成を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 I C T活用工事の活用効果等に関する調査 I C T活用施工を行った、全ての I C T活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「I C T活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。		（1） 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれているため、費用の計上はしないものとする。 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 I C T活用工事の活用効果等に関する調査 I C T活用工事を行った施工者は、活用目的等の把握のための「I C T活用工事の活用効果等に関する調査」の対象であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	
（3）施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：切削オーバーレイ工事または路面切削工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 【入札説明書】記載例 （記載例） 【メモ：切削オーバーレイ工事または路面切削工事の場合は、（番号）を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載		（3）施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：切削オーバーレイ工事または路面切削工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 【入札説明書】記載例 （記載例） 【メモ：切削オーバーレイ工事または路面切削工事の場合は、（番号）を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載	

(番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に I C T活用施工を行うことができる。 本工事における I C T活用施工は、切削オーバーレイ工事または路面切削工事において、①に示す3次元起工測量と施工指示に用いる切削計画を作成、また、3次元出来形管理を行う場合は3次元設計データを作成し、 I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し他場合は、それらで得られた3次元データを納品することをいう。 なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3次元起工測量 (発注者から3次元測量データを貸与できる場合) 発注者から貸与する3次元測量データ（地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いたデータ）を活用することを基本とする。 なお、必要に応じて受注者が3次元測量データを取得する場合は、下記1）～4）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 1）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3）トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 4）その他の3次元計測技術を用いた起工測量 (発注者から3次元測量データを貸与できない場合) 受注者は、交通規制を削減し、下記1）～4）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。起工測量は、施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 1）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3）トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 4）その他の3次元計測技術を用いた起工測量 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、ま	(番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する I C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に I C T施工技術の活用を行うことができる。 本工事における I C T施工技術の活用は、切削オーバーレイ工事または路面切削工事において、以下の①～⑤の全ての段階で I C T施工技術を活用することとし、①に示す3次元起工測量と施工指示に用いる切削計画を作成、また、3次元出来形管理を行う場合は3次元設計データを作成し、 I C T施工技術を用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施した場合は、それらで得られた3次元データを納品することをいう。 なお、I C T施工技術の活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ② 3次元起工測量 (発注者から3次元測量データを貸与できる場合) 発注者から貸与する3次元測量データ（地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いたデータ）を活用することを基本とする。 なお、必要に応じて受注者が3次元測量データを取得する場合は、以下1）～3）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 1）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ~~4)その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ (発注者から3次元測量データを貸与できない場合) 受注者は、交通規制を削減し、以下1）～3）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。起工測量は、施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 1）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 2）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ~~4)その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T施工技術の活用に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、I C T施工技術の活用に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高め
--	--

たは別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	る、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。
【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２．定義 （１）i-Construction とは、ＩＣＴの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてＩＣＴを活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２）ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、ＩＣＴを活用する工事である。また、次の①～⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することをＩＣＴ活用工事という。 対象は、切削オーバーレイ工事または路面切削工事とする。 ① ３次元起工測量 ② ３次元設計データ作成 ③ ＩＣＴ建設機械による施工（施工管理システム）（選択） ④ ３次元出来形管理等の施工管理（選択） ⑤ ３次元データの納品 ３．受注者は、ＩＣＴ活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記４～９によりＩＣＴ活用施工を行うことができる。 ４．原則、本工事においては上記①～⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとし舗装工の施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び対象範囲を監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 ５．ＩＣＴを用い、以下の施工を実施する。 ① ３次元起工測量 （発注者から３次元測量データを貸与できる場合） 発注者から貸与する３次元測量データ（地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いたデータ）を活用することを基本とする。	【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２．定義 （１）i-Construction とは、ＩＣＴ施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてＩＣＴ施工技術を活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２）ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、ＩＣＴを活用する工事である。また、以下の①～⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することをＩＣＴ活用工事という。 対象は、切削オーバーレイ工事または路面切削工事とする。 ① ３次元起工測量 ② ３次元設計データ作成 ③ ＩＣＴ建設機械による施工~~（施工管理システム）（選択）~~ ④ ３次元出来形管理等の施工管理~~（選択）~~ ⑤ ３次元データの納品 ３．受注者は、ＩＣＴ施工技術の活用を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に以下４～８によりＩＣＴ施工技術の活用を行うことができる。 ４．原則、本工事においては上記①～⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとし舗装工（修繕工）について施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び対象範囲を監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 ５．ＩＣＴ施工技術を用い、以下の施工を実施する。 ① ３次元起工測量 （発注者から３次元測量データを貸与できる場合） 発注者から貸与する３次元測量データ（地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いたデータ）を活用することを基本とする。

なお、必要に応じて受注者が３次元測量データの取得する場合は、下記１）～４）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択するものとし、監督職員と協議する。 １）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ２）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ３）トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ４）その他の３次元計測技術を用いた起工測量 （発注者から３次元測量データを貸与できない場合） 受注者は、交通規制を削減し、下記１）～４）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。起工測量は、施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 １）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ２）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ３）トータルステーション（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ４）その他の３次元計測技術を用いた起工測量 ② ３次元設計データ等作成 受注者は、設計図書や①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、施工指示に用いる切削計画を作成する。また、３次元出来形管理を行う場合は３次元設計データを作成する。 ③ ＩＣＴ建設機械による施工（施工管理システム）（選択） ５．②で作成した３次元設計データを用い、下記１）に示す施工管理システムを搭載した建設機械を用いた施工又は従来型建設機械による施工が選択できる。 切削指示値等に積極的に３次元設計データ等を活用するものとする。 １）３次元位置を用いた施工管理システム 施工中の路面切削機の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する機能を有するＩＣＴ建設機械。 切削深さの計測・記録方法としては、外部計測機による切削装置の計測の他切削装置に表示される指示値を取得する方法などがある。 ④ ３次元出来形管理等の施工管理（選択） ５．③で、施工管理システムを搭載した建設機械を用いた施工を選択した場合下記に示す方法により施工管理を実施、従来型建設機械による施工を選択した場合は従来手法による施工管理を選択できる。 １）施工履歴データを用いた出来形管理 ２）地上写真測量を用いた出来形管理		なお、必要に応じて受注者が３次元測量データの取得する場合は、以下１）～３）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択するものとし、監督職員と協議する。 １）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ２）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ３）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ~~４）その他の３次元計測技術を用いた起工測量~~ （発注者から３次元測量データを貸与できない場合） 受注者は、交通規制を削減し、以下１）～３）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。起工測量は、施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択する。 １）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ２）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ３）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ~~４）その他の３次元計測技術を用いた起工測量~~ ② ３次元設計データ等作成 受注者は、５．①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、施工指示に用いる切削計画を作成する。また、ＩＣＴ建設機械による施工、及び３次元出来形管理を行う場合は３次元設計データを作成する。 ③ ＩＣＴ建設機械による施工~~（施工管理システム）（選択）~~ ５．②で作成した３次元設計データを用い、以下１）２）に示すＩＣＴ建設機械により施工を実施するものとし、切削指示値等に積極的に３次元設計データ等を活用するものとする。 なお、ＩＣＴ建設機械の調達が困難な場合は、監督職員と協議して従来型建設機械による施工を実施してもＩＣＴ活用工事とする。 １）３次元MCまたは３次元MG建設機械 ２）３次元位置を用いた施工管理システムを搭載した建設機械 建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分に基づき建設機械の作業装置を自動制御する３次元マシンコントロール技術、建設機械の作業装置の位置・標高をリアルタイムに取得し、施工用データとの差分を表示し、建設機械の作業装置を誘導する３次元マシンガイダンス技術、または、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する施工管理の機能を有する技術を用いて、路面切削を実施する。 なお、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに切削深さの計測・記録する方法としては、外部計測機による切削装置の計測の他切削装置に表示される指示値を取得する方法などがある。 ④ ３次元出来形管理等の施工管理~~（選択）~~ ５．③による工事の施工管理において、以下のとおり出来形管理を行うものとする。	
---	--	--	--

⑤ 3次元データの納品 ①②④により確認された3次元施工管理データ等を、工事完成図書として電子納品する。 6. 上記5. ①～⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用工事用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用工事を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 8. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。		なお、監督職員と協議のうえ、従来型建設機械による施工を実施した場合は従来手法による施工管理を実施する。 （1）出来形管理 3次元MCまたは3次元MG建設機械を使用した場合の出来形管理にあたっては、管理断面及び変化点の計測による出来形管理とし、以下1）2）から選択（複数以上可）して実施するものとする。 1）TS等光波方式を用いた出来形管理 2）地上写真測量を用いた出来形管理 3次元位置を用いた施工管理システムを使用した場合の出来形管理にあたっては、建設機械の作業装置位置及び切削深さ（高さ）をリアルタイムに計測・記録する施工管理システムから得られる施工履歴データにより以下3）により実施するものとする。 3）施工履歴データを用いた出来形管理 ⑤ 3次元データの納品 5. ①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。 6. 上記5. ①～④の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 また、ICT施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~7. 上記5. ①～⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ 7. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 ~~9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ 8. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。	
--	--	--	--

第〇〇条 ICT活用工事の費用について 【施工者希望型工事の場合】 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT活用工事を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。 ・ICT活用工事（舗装工（修繕工））積算要領 ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量を実施するとともに3次元設計データの作成を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用施工を行った、全てのICT活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。		第〇〇条 ICT活用工事の費用について 【施工者希望型工事の場合】 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT施工技術を活用する項目については、以下の積算要領に基づき各段階を設計変更の対象とする。 ・ICT活用工事（舗装工（修繕工））積算要領 （1）3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれているため、費用の計上はしないものとする。 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用工事を行った、施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	
3. ICT活用工事実施の推進のための措置 3－1 総合評価落札方式における加点措置 工事の内容やICT活用施工の普及状況を踏まえ、適宜、ICT活用施工の計画について総合評価において加点する工事（施工者希望Ⅰ型）を設定するものとする。 3－2 工事成績評定における措置 ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの全ての段階でICTを活用した工事。		3. ICT活用工事実施の措置 3－1 総合評価落札方式における加点措置 工事の内容やICT活用施工の普及状況を踏まえ、適宜、ICT活用施工の計画について総合評価において加点する工事（施工者希望Ⅰ型）を設定するものとする。 3－2 工事成績評定における措置 ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの全ての段階でICTを活用した工事。	

※本項目は2点の加点とする。 ※ICT 活用による加点は最大2点の加点とする また、ICT 活用施工（1－2①※¹②）を実施の上で、施工者の提案によりICT 建設機械として3次元MC※²路面切削機の活用がなされた場合は、全ての段階でICT を活用した工事と同等に加点評価できる。 ※1 ①は発注者から貸与されていれば必須としない ※2 MC：「マシンコントロール」の略称 なお、ICT 活用工事において、ICT 活用施工を採用しない工事の成績評定については、本項目での加点対象とせず、併せて以下(1)、(2)を標準として減点を行うものとする。 ※但し、以下についてはICT 活用工事として評価して未履行の減点対象としない。 1) 起工測量において、発注者から貸与する3次元測量データを活用する場合等で3次元測量が不要の場合 2) 選択により③ICT 建設機械による施工（施工管理システム）を行わない場合の、従来型建設機械による施工 3) 選択により④3次元出来形管理等の施工管理を行わない場合 (1) 施工者希望Ⅰ型 総合評価落札方式による業者選定時に、受注者からの申請に基づきICT 活用施工を行うことで評価を行っているため、受注者の責により実施されなかったと判断された場合は、履行義務違反として工事成績評定を減ずるなどの措置を行うものとする。なお、成績の減点は3点を標準とする。 (2) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案によりICT 活用施工を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点は行わない。 4. ICT 活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にICT 活用施工を導入し、ICT 施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 ICT 活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表1【要領一覧】）に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 (1) 発注者が別途取得している3次元測量データ（地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いた起工測量に代わるデータ）を受注者に貸与することを基本とし、発注者は契約後の施工協議において「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。	※本項目は2点の加点とする。 ※ICT 活用による加点は最大2点の加点とする ~~また、ICT 活用施工（1－2①※¹②）を実施の上で、施工者の提案によりICT 建設機械として3次元MC※²路面切削機の活用がなされた場合は、全ての段階でICT を活用した工事と同等に加点評価できる。~~ ~~※1 ①は発注者から貸与されていれば必須としない~~ ~~※2 MC：「マシンコントロール」の略称~~ なお、工事目的物である舗装工（修繕工）においてICT 施工技術の活用を採用しない工事の成績評定については、本項目での加点対象とせず、併せて以下(1)、(2)を標準として減点を行うものとする。 ※但し、以下についてはICT 活用工事として評価して未履行の減点対象としない。 1) 起工測量において、直近の測量成果等での3次元納品データが活用できる場合又は発注者から貸与する3次元測量データを活用する場合等で3次元測量が不要の場合 2) 現場条件により、③ICT 建設機械による施工が困難又は非効率となる場合の、従来型建設機械による施工 ~~3) 選択により④3次元出来形管理等の施工管理を行わない場合~~ (1) 施工者希望Ⅰ型 総合評価落札方式による業者選定時に、受注者からの申請に基づきICT 活用施工を行うことで評価を行っているため、受注者の責により実施されなかったと判断された場合は、履行義務違反として工事成績評定を減ずるなどの措置を行うものとする。なお、成績の減点は3点を標準とする。 (2) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案によりICT 活用施工を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点は行わない。 4. ICT 活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にICT 施工技術を導入し、活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 ICT 施工技術の活用を実施するにあたって、別途発出されている「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」及び各種「出来形管理の監督・検査要領（案）」に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 (1) 発注者が別途取得している3次元測量データ（地上移動体搭載型レーザースキャナー等を用いた起工測量に代わるデータ）を受注者に貸与することを基本とし、発注者は契約後の施工協議において「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。
--	--

発注者から起工測量に代わる３次元設計データを貸与できない場合は、発注者は契約後の施工協議において「３次元起工測量」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 （２）発注者は、詳細設計において、ＩＣＴ活用工事に必要な３次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、ＩＣＴ活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する３次元設計データに３次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「３次元起工測量」及び「貸与する３次元設計データと３次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 ４－３ 工事費の積算 （１）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりＩＣＴ活用施工を実施する場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記１）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（舗装工（修繕工））積算要領 なお、ＩＣＴ活用について協議を行う際には、「１－２①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 施工者から、３次元ＭＣ路面切削機の活用について提案された場合、当面のあいだ通常型機械として「ＩＣＴ活用工事（舗装工（修繕工））積算要領」に基づき積算する。なお、施工管理システムを搭載している場合は該当する内容を計上する。 また、現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－３６「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 ４－４ ＩＣＴ監督・検査体制の構築 ＩＣＴ活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 ４－５ 現場見学会・講習会の実施 ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。	発注者から起工測量に代わる３次元設計データを貸与できない場合は、発注者は契約後の施工協議において「３次元起工測量」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 （２）発注者は、~~３次元設計データ作成に必要な詳細設計において作成したＣＡＤデータ~~を受注者に貸与するほか、ＩＣＴ~~施工技術の活用~~を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、~~施工区間の前後を含め必要な範囲~~を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~なお、貸与する３次元設計データに３次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「３次元起工測量」及び「貸与する３次元設計データと３次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ ４－３ 工事費の積算 （１）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりＩＣＴ~~施工技術の活用~~を実施する場合、ＩＣＴ~~施工技術の活用~~を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、~~以下~~１）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 １）ＩＣＴ活用工事（舗装工（修繕工））積算要領 なお、ＩＣＴ活用について協議を行う際には、「１－２①～④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 ~~施工者から、３次元ＭＣ路面切削機の活用について提案された場合、当面のあいだ通常型機械として「ＩＣＴ活用工事（舗装工（修繕工））積算要領」に基づき積算する。なお、施工管理システムを搭載している場合は該当する内容を計上する。~~ 現行基準による２次元の設計ストック等によりＩＣＴ活用工事を発注する場合、受注者に３次元起工測量及び３次元設計データ作成を指示するとともに、３次元起工測量経費及び３次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－~~３~~４「ＩＣＴの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 ４－４ ＩＣＴ監督・検査体制の構築 ＩＣＴ~~施工技術における~~監督検査を適切に行うことを目的に、ＩＣＴ検査官等の任命や研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ~~施工技術の活用~~に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。 ４－５ 現場見学会・講習会の実施 ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。 また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。
---	--

5. 地方整備局等における I C T活用工事に関する調査等

I C T活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）（提出様式は別途指示）

I C T活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、対象工事の概要等を本省へ報告するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1－4、2－1で定める工事とする。

5－2 I C T活用工事の活用実績の報告（提出様式は別途指示）

母集団調査とともに、I C T活用工事を活用する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。

5－3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

6. I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	I C T活用施工を行った、全ての I C T活用工事	受注者

1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

2）施工者希望 I 型・施工者希望 II 型の全てで実施する。

6－2 調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

5. 地方整備局等における I C T活用工事に関する調査等

I C T活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）~~（提出様式は別途指示）~~

I C T活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1－4、2－1で定める工事とする。

5－2 I C T活用工事の活用実績の報告（別途指示）

母集団調査とともに、I C T活用工事の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示するものとする。

5－3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する場合別途指示する。

6. I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	全ての I C T活用工事	受注者

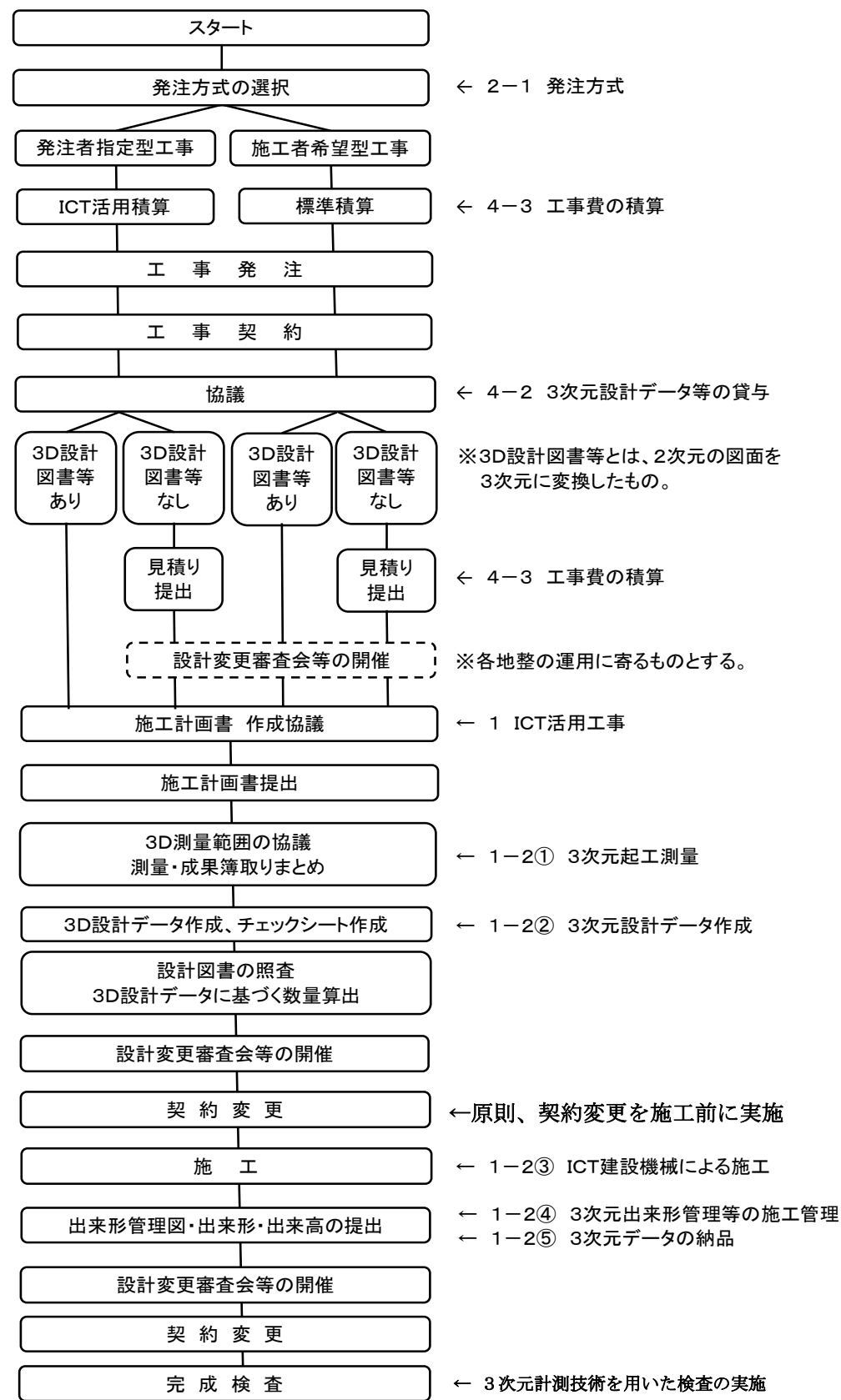
1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

~~2）施工者希望 I 型・施工者希望 II 型の全てで実施する。~~

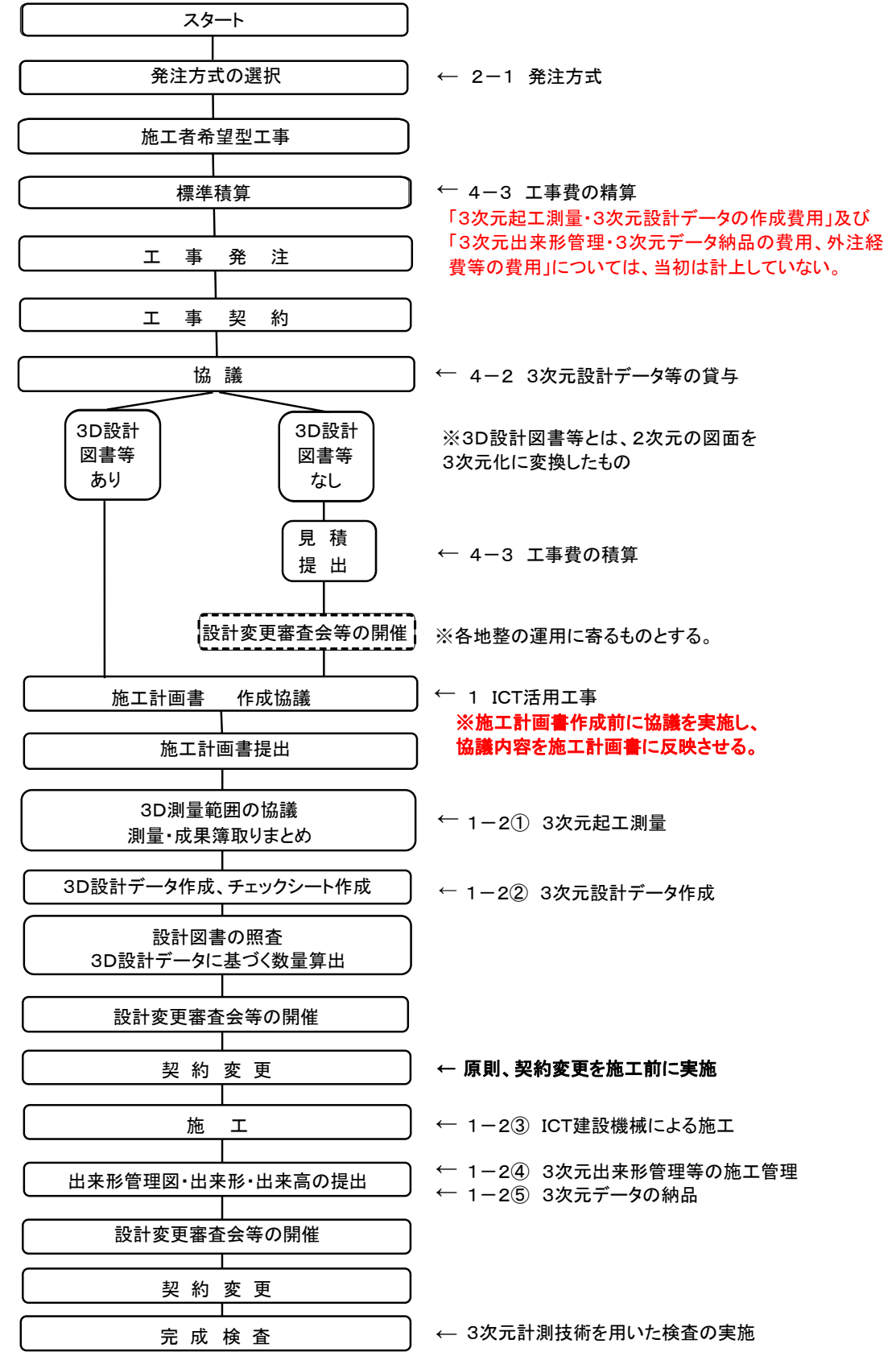
6－2 調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



ICT施工技術の活用 (ICT活用工事)【舗装修繕】

(工事名:○○○○工事)

会社名:○○○○建設(株)

当該工事の舗装工において、ICT施工技術を施工プロセスの段階で活用する場合、「□①、②、⑤において活用する」のチェック欄に「■」と記入する。

チェック欄	施工プロセスの段階		適用技術・機種
□①、②、⑤において活用する	①3次元起工測量		・レーザースキャナーを用いた起工測量 ・TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ・地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ・その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。 ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。
	②3次元設計データ等作成		※3次元出来形管理に用いる3次元設計データの作成を実施しなければならない。
	③ICT建設機械による施工（選択）	【作業工種】 ・路面切削工	・3 施工管理システムを搭載した建設機械 ※採用については、受注後に選択できる。
	④3次元出来形管理等の施工管理（選択）		・施工履歴データを用いた出来形管理 ※採用については、受注後に選択できる。 ※「①3次元起工測量」で採用した技術と相違しても良い。
	⑤3次元データの納品		

注1) ICT活用工事及びICT活用施工の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注2)「□①、②、⑤において活用する」のチェック欄に「■」と記載された場合のみ、加点評価の対象とする。

注3)「ICT施工技術の活用」において加点評価された場合、本表の「適用技術・機種」欄に記載した技術・機種に適用する「有用な新技術の活用」または「技術開発」については重複評価はしない。

注4) 本表適用技術・機種欄に掲載するICT施工技術を工事に活用する場合、技術提案(施工計画)では評価対象としない。
但し、本表適用技術・機種欄に掲載するICT施工技術を応用(別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む)した技術提案は、その応用部分(付加的な内容)についてのみ技術提案(施工計画)での評価対象とする。

注5) 特記仕様書により指定した技術については、評価項目・技術提案ともに加点・評価はしない。

注6) 施工管理システムを搭載した建設機械とは、施工中の路面切削機の作業装置位置及び切削深さ(高さ)をリアルタイムに計測・記録する機能を有する建設機械

ICT施工技術の活用 (ICT活用工事)【舗装修繕】

(工事名:○○○○工事)

会社名:○○○○建設(株)

当該工事の舗装工において、ICT施工技術を施工プロセスの段階で活用する場合、「□全て活用する」のチェック欄に「■」と記入する。

チェック欄	施工プロセスの段階	適用技術・機種
□全て活用する	①3次元起工測量	・地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ・地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ・TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。 ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。
	②3次元設計データ等作成	※3次元出来形管理に用いる3次元設計データの作成を実施しなければならない。
	③ICT建設機械による施工	・3次元MCまたは3次元MG建設機械 ・3次元位置を用いた施工管理システムを搭載した建設機械 ※採用については、受注後に選択できる。
	④3次元出来形管理等の施工管理（選択）	・TS等光波方式を用いた出来形管理 ・地上写真測量を用いた出来形管理 ・施工履歴データを用いた出来形管理 ※採用については、受注後に選択できる。 ※「①3次元起工測量」で採用した技術と相違しても良い。
	⑤3次元データの納品	

注1) ICT活用工事及びICT活用施工の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注2)「□全て活用する」のチェック欄に「■」と記載された場合のみ、加点評価の対象とする。

注3)「ICT施工技術の活用」において加点評価された場合、本表の「適用技術・機種」欄に記載した技術・機種に適用する「有用な新技術の活用」または「技術開発」については重複評価はしない。

注4) 本表適用技術・機種欄に掲載するICT施工技術を工事に活用する場合、技術提案(施工計画)では評価対象としない。
但し、本表適用技術・機種欄に掲載するICT施工技術を応用(別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む)した技術提案は、その応用部分(付加的な内容)についてのみ技術提案(施工計画)での評価対象とする。

注5) 特記仕様書により指定した技術については、評価項目・技術提案ともに加点・評価はしない。

注6) 施工管理システムを搭載した建設機械とは、施工中の路面切削機の作業装置位置及び切削深さ(高さ)をリアルタイムに計測・記録する機能を有する建設機械

2. 機械経費

2-1 機械経費

舗装工（修繕工）（ICT）の積算で使用するICT建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。
なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。

ICT建設機械名	規格	機械経費	備考
路面切削機	ホイール式・廃材積込装置付・排出ガス対策型(第3次基準値) 切削幅 2.0m×深さ 23cm	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上

2-2 ICT建設機械経費加算額

ICT建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費で示すICT建設機械に適用する。

(1) 舗装工（修繕工）（ICT）

対象建設機械：路面切削機

損料加算額：20,000円／日

2-3 その他

ICT建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

2-3-1 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

(1) 舗装工（修繕工）(ICT)

保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m2)}}{\text{作業日当り標準作業量(m2/日)}}$

(注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」の標準作業量による。

2-3-2 システム初期費

ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は以下のとおりとする。

(1) 舗装工（修繕工）(ICT)

対象機械：路面切削機

548,000 円／式

2. 機械経費

2-1 機械経費

舗装工（修繕工）（ICT）の積算で使用する ICT 建設機械の機械経費は、以下のとおりとする。
なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」によるものとする。

ICT建設機械名	規格	機械経費	備考
路面切削機	ホイール式・廃材積込装置付・排出ガス対策型(2014 年規制第3次基準値) 切削幅 2.0m×深さ 23cm	損料にて計上	ICT 建設機械経費加算額は別途計上

2-2 ICT建設機械経費加算額

ICT 建設機械経費損料加算額は、建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2-1 機械経費で示す ICT 建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

(1) 舗装工（修繕工）（ICT）

対象建設機械：路面切削機

賃料加算額：20,000 円／日

2-3 その他

ICT 建設機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

~~2-3-1 保守点検~~

~~ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。~~

~~(1) 舗装工（修繕工）(ICT)~~

~~保守点検費 = 土木一般世話役(円) × 0.05(人/日) × $\frac{\text{施工数量(m2)}}{\text{作業日当り標準作業量(m2/日)}}$~~

~~(注) 作業日当り標準作業量は「第Ⅰ編第14章その他④作業日当り標準作業量」の標準作業量による。~~

2-3-1 システム初期費

ICT 建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT建設機械精度確認等、ICT 建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を計上する。

(1) 舗装工（修繕工）（ICT）

対象建設機械：路面切削機

費用：548,000 円／式

※1 工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業でICT建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。

2-3-1 システム初期費

ICT 建設機械による施工を実施するための現場通信精度確認、ローカライゼーション、ICT 建設機械精度確認等、ICT 建設機械による施工を行うための必要な初期設定に係る費用及び賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、貸出しに要する全ての費用として、以下の費用を計上する。

(1) 舗装工（修繕工）（ICT）

対象建設機械：路面切削機

費用：548,000 円／式

※1 工事当り使用機種毎に一式計上を原則とするが、受注者の責によらず、連続作業で ICT 建設機械による施工が出来ない場合等については、監督職員と協議のうえ複数計上できるものとする。

3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。

4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用

舗装工（修繕工）（ICT）における、ICT建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理及び地上写真測量を用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。

5. 土木工事標準積算基準書に対する補正

5-1 単価表の補正（切削オーバーレイ工）

積算基準の「7. 単価表（1）切削オーバーレイ100m2当り単価表」にて建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。

名称	規格	単位	数量	指定事項
ICT建設機械経費加算額 （切削オーバーレイ工）		日	100/D	7cm以下 一層舗設 機械損料数量 1.32
				7cmを超え12cm以下 一層舗設 機械損料数量 1.27
				7cmを超え12cm以下 二層舗設 機械損料数量 1.01

（注）D：日当り施工量（m2／日）

5-2 単価表の補正（路面切削工）

建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。

名称	規格	単位	数量	指定事項
ICT建設機械経費加算額 （路面切削工）		日	100/D	6cm以下 機械損料数量 1.56
				6cmを超え12cm以下 機械損料数量 1.38

3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用

3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。

費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。

また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。

なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。

4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用

舗装工（修繕工）（ICT）における、ICT建設機械の施工履歴データを用いた出来形管理及びTS等光波方式を用いた出来形管理、地上写真測量を用いた出来形管理の経費は、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれる。

5. 施工箇所が点在するICT活用工事の積算について

施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。

6-5. 土木工事標準積算基準書に対する補正

~~5-1 単価表の補正（切削オーバーレイ工）~~

積算基準の「7. 単価表（1）切削オーバーレイ100m2当り単価表」にて建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。

名称	規格	単位	数量	指定事項
~~ICT建設機械経費加算額 （切削オーバーレイ工）~~		~~日~~	~~100/D~~	~~7cm以下 一層舗設 機械損料数量 1.32~~
				~~7cmを超え12cm以下 一層舗設 機械損料数量 1.27~~
				~~7cmを超え12cm以下 二層舗設 機械損料数量 1.01~~

~~（注）D：日当り施工量（m2／日）~~

~~6-5-1-2 単価表の補正（路面切削工）~~

建設機械に取付ける各種機器及び地上の基準局・管理局の賃貸費用としての「ICT建設機械経費加算額」を以下のとおり加算する。

名称	規格	単位	数量	指定事項
ICT建設機械経費加算額 （路面切削工）		日	100/D	6cm以下 機械損料数量 1.56
				6cmを超え12cm以下 機械損料数量 1.38

(注) D : 日当り施工量 (m2／日) 6. 諸雑費 舗装工 (修繕工) (I C T) を実施する場合、諸雑費率を乗じる合計額に、ICT 建設機械経費加算額は含めない。	(注) D : 日当り施工量 (m2／日) ~~6. 諸雑費~~ ~~舗装工 (修繕工) (I C T) を実施する場合、諸雑費率を乗じる合計額に、I C T 建設機械経費加算額は含めない。~~
--	--

R 6 室長通知 別紙― 3 0 I C T活用工事（構造物工（橋梁上部））実施要領	R 7 室長通知 別紙― 2 8 I C T活用工事（構造物工（橋梁上部））実施要領
別紙― 3 0	別紙― ~~3 0~~ 2 8
I C T活用工事 （構造物工（橋梁上部））実施要領	I C T活用工事 （構造物工（橋梁上部））実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1－1 概要	1－1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセス全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセス ~~の~~ 全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1－2 I C T活用工事における構造物工	1－2 I C T活用工事における構造物工
また、次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（構造物工）とする。また、「I C T構造物工」という略称を用いることがある。	また、次の ~~①~~ ②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（構造物工（ ~~橋梁上部~~ ））とする。また、「I C T ~~構造物工（橋梁上部）構造物工~~ 」という略称を用いる ~~ことがある~~ 。
① 3次元起工測量	① ~~3次元起工測量該当無し~~
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ 該当無し	③ 該当無し
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1－3 I C T施工技術の具体的内容	1－3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表― 1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤によるものとし、 ~~関連要領等については、最新のものを適用するものとする。~~
	~~関連要領等：https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html~~
	~~及び表― 1 によるものとする。~~
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記 1）～ 8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。	~~構造物工（橋梁上部）においては該当無し~~
起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。	~~起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記 1）～ 8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。~~
1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	~~起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。~~
2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	~~1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量~~
3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	~~2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量~~
4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	~~3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~
5）T S 等光波方式を用いた起工測量	~~4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~
6）T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量	~~5）T S 等光波方式を用いた起工測量~~
7）R T K－G N S S を用いた起工測量	~~6）T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量~~
8）その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量	~~7）R T K－G N S S を用いた起工測量~~
	~~8）その他の 3 次元計測技術を用いた起工測量~~
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
1－3 ①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形	~~1－3 ①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形~~

管理を行うための 3 次元設計データを作成する。 I C T 構造物工の施工管理においては、3 次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 ③ 構造物工においては該当無し ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 構造物工の施工管理において、下記に示す方法により出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 下記 1）～4）の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）T S 等光波方式を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により 1）～4）の I C T を用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員と協議する。 （2）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。 （3）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の 3 次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の 3 次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3 次元データの納品 1－3 ④による 3 次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。	管理を行うための 3 次元設計データを作成する。 I C T 構造物工（橋梁上部）の施工管理においては、~~3~~ 3 次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 ③ I C T 建設機械による施工 構造物工（橋梁上部）においては該当無し ④ 3 次元出来形管理等の施工管理 構造物工（橋梁上部）の施工管理において、~~下記以下~~に示す方法により出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 構造物工（橋梁上部）の出来形管理において、~~下記以下~~ 1）～4）の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を~~行う実施する~~ものとする。 また、~~以下 1）～4）の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。~~ 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）T S 等光波方式を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により ~~上記~~ 1）～4）の I C T ~~施工技術~~を用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、~~監督職員と協議の上、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなどして、他の計測技術による~~出来形管理を行っても良い~~ものとする。ものとし監督職員と協議する。~~ （2）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。 （3）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の 3 次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の 3 次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3 次元データの納品 1－3 ~~②~~④によ~~り~~作成した 3 次元~~施工管理~~データを~~、~~工事完成図書として電子納品する。
---	---

《表－１　ＩＣＴ施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量／ 3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、③、⑪ ⑫、⑬	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、④、⑭	
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形計測（土工）	測量	－	○	－	①、⑥	
	TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑦	
	RTK－GNSSを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑨	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑩	
	3次元計測技術を用いた出来形管理技術（構造物工）	出来形計測 出来形管理	－	○	－	①、②	

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）（構造物工編） （関係する要領）
	②	3次元計測技術を用いた出来形管理の監督・検査要領（構造物工編） （関係する要領）
	③	空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	④	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑤	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領（案）
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑦	TS（ノンプリ）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑧	RTK－GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑨	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑩	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑪	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	⑫	公共測量における UAV の使用に関する安全基準－国土地理院
	⑬	UAV を用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院
	⑭	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院

【凡例】○：適用可能　－：適用外

《表－１　ＩＣＴ施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量／ 3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、③、⑪ ⑫、⑬	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、④、⑭	
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形計測（土工）	測量	－	○	－	①、⑥	
	TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑦	
	RTK－GNSSを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑨	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑩	
	3次元計測技術を用いた出来形管理技術（構造物工）	出来形計測 出来形管理	－	○	－	①、②	

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）（構造物工編） （関係する要領）
	②	3次元計測技術を用いた出来形管理の監督・検査要領（構造物工編） （関係する要領）
	③	空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	④	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑤	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領（案）
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑦	TS（ノンプリ）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑧	RTK－GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑨	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑩	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑪	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	⑫	公共測量における UAV の使用に関する安全基準－国土地理院
	⑬	UAV を用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院
	⑭	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院

【凡例】○：適用可能　－：適用外

1－4　ＩＣＴ活用工事の対象工事 　　ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）は、「橋梁上部工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。 （１）対象工種 　　ＩＣＴ活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。 　　１）　鋼橋上部 　　２）　コンクリート橋上部 （２）適用対象外 　　従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 （３）対象規模 　　ＩＣＴ活用工事（構造物工）の対象規模は、１－４（１）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2．　ＩＣＴ活用工事の実施方法 2－1　発注方式 　　ＩＣＴ活用工事の発注は、施工者希望Ⅱ型とするが、工事内容及び地域におけるＩＣＴ施工機器の普及状況等を勘案し決定する。 （１）　施工者希望Ⅱ型 　　ＩＣＴ構造物工の対象工種が含まれる、発注者が設定した対象工事に適用する。 ※「そのほか」 　　ＩＣＴ活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、ＩＣＴ活用工事として事後設定できるものとし、ＩＣＴ活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2　発注における入札公告等 　　入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 　　なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 （１）施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例	1－4　ＩＣＴ活用工事の対象工事 　　ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）は、「橋梁上部工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。 （１）対象工種 　　ＩＣＴ活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。 　　１）　鋼橋上部 　　２）　コンクリート橋上部 （２）適用対象外 　　従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 （３）対象規模 　　ＩＣＴ活用工事（構造物工（橋梁上部工））の対象規模は、１－４（１）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2．　ＩＣＴ活用工事の実施方法 2－1　発注方式 　　ＩＣＴ活用工事の発注は、以下によるものとするが、施工者希望Ⅱ型とするが、~~ＩＣＴ施工技術の活用が困難な場合及びＩＣＴ施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など工事内容及び現場条件等を工事内容及び地域におけるＩＣＴ施工機器の普及状況等を勘案し決定する。~~ （１）施工者希望Ⅱ型 　　１－４（１）に示す対象工種に該当する工種については、施工者希望Ⅱ型での発注を原則とする。 ~~ＩＣＴ構造物工の対象工種が含まれる、発注者が設定した対象工事に適用する。~~ ※「そのほか」 　　ＩＣＴ活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、ＩＣＴ活用工事として事後設定できるものとし、ＩＣＴ活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2　発注における入札公告等 　　入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 　　なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 （１）施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例
--	---

(記載例) 【メモ：鋼橋上部工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。		(記載例) 【メモ：鋼橋上部工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。	
【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：鋼橋上部工事の場合は、（番号）工事の実施形態に下記を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にI C T活用施工を行うことができる。 本工事におけるI C T活用施工は、①に示す3次元起工測量と3次元設計データの作成を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品することをいう。 なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3次元起工測量 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) T S 等光波方式を用いた起工測量 6) T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量 7) R T K－G N S S を用いた起工測量 8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量		【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：鋼橋上部工事の場合は、（番号）工事の実施形態に下記を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、~~起工測量~~、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にI C T施工技術の活用施工を行うことができる。 本工事におけるI C T施工技術の活用施工は、以下の④②④⑤の段階でI C T施工技術を活用することをいう。~~に示す3次元起工測量と3次元設計データの作成を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品することをいう。~~ なお、I C T施工技術の活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ①~~3次元起工測量~~該当なし ②3次元設計データ作成 ③該当なし ④3次元出来形管理等の施工管理 ⑤3次元データ納品 ~~①3次元起工測量~~ ~~1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量~~ ~~2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~5) T S 等光波方式を用いた起工測量~~ ~~6) T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量~~	

『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号）ＩＣＴ活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、ＩＣＴ活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。		~~7) R T K-G N S Sを用いた起工測量~~ ~~8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号）ＩＣＴ~~施工技術~~の活用~~施工~~に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、ＩＣＴ~~施工技術~~の活用~~施工~~に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	
【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する ＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２．定義 （１）i-Construction とは、ＩＣＴの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けて ＩＣＴを活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２） ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、 ＩＣＴを全面的に活用する工事である。また、次の①②④⑤の段階で ＩＣＴ施工技術を活用することを ＩＣＴ活用工事という。 対象は、鋼橋上部工事とする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 ３．受注者は、 ＩＣＴ活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記4～9により ＩＣＴ活用施工を行うことができる。 ４．原則、本工事においては上記①②④⑤の段階で ＩＣＴ施工技術を活用することとし構造物工（橋梁上部）等の施工範囲の全てで適用することとし、具体的な工事内容及び対象範		【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、 ＩＣＴ~~施工技術~~の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、~~起工測量~~、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用する ＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２．定義 （１）i-Construction とは、 ＩＣＴ~~施工技術~~の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けて ＩＣＴ~~施工技術~~を活用した工事（ ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２） ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、 ＩＣＴを全面的に活用する工事である。また、次の~~①~~②④⑤の段階で ＩＣＴ施工技術を活用することを ＩＣＴ活用工事という。 対象は、~~鋼橋橋梁~~上部工事とする。 ① ~~3次元起工測量該当なし~~ ② 3次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データの納品 ３．受注者は、 ＩＣＴ~~施工技術~~の活用~~施工~~を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記4～~~9~~-8により ＩＣＴ~~施工技術~~の活用~~施工~~を行うことができる。 ４．原則、本工事においては上記~~①~~②④⑤の段階で ＩＣＴ施工技術を活用することとし構造物工（橋梁上部）等の施工範囲の全てで適用することとし、具体的な工事内容及び対象範	

囲を監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 5. ICTを用い、以下の施工を実施する。 ① 3次元起工測量 受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1)～8)から選択(複数以上可)して測量を行うものとする。 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 5) TS等光波方式を用いた起工測量 6) TS(ノンプリズム方式)を用いた起工測量 7) RTK-GNSSを用いた起工測量 8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や5. ①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 構造物工(橋梁上部)等の施工管理において、下記1)～5)の技術から選択(複数以上可)して、出来形計測を行うものとする。 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) TS等光波方式を用いた出来形管理 5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係によりICTを用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合においては、写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員との協議する (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い下記1)の出来形管理要領による		囲を監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 5. ICT施工技術を用い、以下の施工を実施する。 ① ~~3次元起工測量~~該当なし ~~受注者は、3次元測量データを取得するため、下記1)～78)から選択(複数以上可)して測量を行うものとする。~~ ~~1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた起工測量~~ ~~2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~5) TS等光波方式を用いた起工測量~~ ~~6) TS(ノンプリズム方式)を用いた起工測量~~ ~~7) RTK-GNSSを用いた起工測量~~ ~~8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ ② 3次元設計データ作成 受注者は、~~設計図書や5. ①~~で得られた発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ~~ICT構造物工(橋梁上部工)の施工管理においては、3次元設計データ(TIN)形式での作成は必要としない。~~ なお、ICT構造物工(橋梁上部工)の3次元設計データとは、3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)(構造物工(橋梁上部工))で定義する構造工(橋梁上部)設計データのことを言う。 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 構造物工(橋梁上部~~工~~)等の施工管理において、下記1)～~~45)~~の技術から選択(複数以上可)して、出来形計測を行うものとする。 1) 空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) TS等光波方式を用いた出来形管理 ~~5) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により~~上記1)～4)のICT施工技術~~を用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合においては、~~監督職員と協議の上~~、写真・画像データ等と併用するなど、~~他の計測技術による~~出来形管理を行っても良いものとする。~~し監督職員との協議する~~ (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い下記1)の出来形管理要領によるものとする。	
--	--	---	--

1) 3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として納品する。 6. 上記5. ①②④⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. 上記5. ①②④⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 8. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 【施工者希望型工事の場合】 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにICT活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、別紙ー31「ICT活用工事（橋梁上部）積算要領」に基づき積算し、落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量、3次元設計データの作成を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確		1) 3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 5. ②④により作成した確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として納品する。 6. 上記5. ①②④⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT施工技術の活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~7. 上記5. ①②④⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ ~~8. 土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。~~ ~~9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ ~~10. 8. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。~~ 第〇〇条 ICT活用工事における適用（用語の定義）について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 【施工者希望型工事の場合】 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにICT活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT施工技術を活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、以下の積算要領に基づき以下の（1）により費用を計上することとする。 ~~別紙ー31~~「ICT活用工事（構造物工（橋梁上部））積算要領
--	--	--

認した上で設計変更の対象とする。 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用施工を行った、全てのICT活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	(1) 3次元設計データの作成費用 3次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 なお、「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、補正係数を乗じない共通仮設費率及び現場管理費率に含まれているため、費用の計上はしないものとする。 ~~」に基づき積算し、落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。~~ ~~ただし、監督職員の指示に基づき、3次元起工測量、3次元設計データの作成を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。~~ 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用~~工事施工~~を行った、~~全てのICT活用工事の~~施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象~~工事~~であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。
3. ICT活用工事実施の推進のための措置 3-1 工事成績評定における措置 ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品まで1-2①②④⑤の段階でICTを活用した工事。 ※本項目は2点の加点とする。 ※ICT活用による加点は最大2点の加点とする (1) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案によりICT活用施工（1-2①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点を行わない。 4. ICT活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にICT活用施工を導入し、ICT施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施す	3. ICT活用工事実施の~~推進のための~~措置 3-1 工事成績評定における措置 ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階でICTを活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は1点の加点とする。 □ICT活用工事加点として起工測量から電子納品まで1-2④②④⑤の段階でICTを活用した工事。 ※本項目は2点の加点とする。 ※ICT活用による加点は最大2点の加点とする (1) 施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案によりICT活用施工（1-2④②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点を行わない。 4. ICT活用工事の導入における留意点 受注者が円滑にICT~~活用~~施工~~技術~~を導入し、ICT施工技術を活用できる環境整備として、以下を実

るものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表1【要領一覧】）に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 （1）I C T活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事で変更計上するものとする。 （2）発注者は、詳細設計において、I C T活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事で変更計上するものとする。 4－3 工事費の積算 （1）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりI C T活用施工を実施する場合、I C T活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記1）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 1）I C T活用工事（橋梁上部）積算要領 なお、I C T活用について協議を行う際には、「1－2①②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 また、現行基準による2次元の設計ストック等によりI C T活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－36「I C Tの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「I C T活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－4 I C T監督・検査体制の構築 I C T活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、I C T検査官等の任命や研修等でのI C T	施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T~~施工技術の活用~~施工~~技術~~を実施するにあたって、別途発出されている~~施工管理要領、監督検査要領（表1【要領一覧】）~~「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」及び各種「出来形管理の監督・検査要領（案）」に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。 4－2 3次元設計データ等の貸与 ~~発注者は、3次元設計データ作成に必要な詳細設計において作成したC A Dデータを受注者に貸与する。ほか、I C T施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。~~ ~~（1）I C T活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事で変更計上するものとする。~~ ~~（2）発注者は、詳細設計において、I C T活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。~~ ~~なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事で変更計上するものとする。~~ 4－3 工事費の積算 （1）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりI C T~~施工技術~~の活用~~施工~~を実施する場合、I C T活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記1）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。 1）I C T活用工事（~~構造物工（橋梁上部）~~）積算要領 なお、I C T~~施工技術~~の活用について協議を行う際には、「1－2~~①~~②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。 また、現行基準による2次元の設計ストック等によりI C T活用工事を発注する場合、受注者に~~3次元起工測量及び~~3次元設計データ作成を指示するとともに、~~3次元起工測量経費及び~~3次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－34~~36~~「I C Tの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。 「I C T活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。 4－4 I C T監督・検査体制の構築 I C T~~施工技術における活用施工~~の監督検査を適切に行うことを目的に、I C T検査官等の任命や
--	---

施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。

4－5 現場見学会・講習会の実施

ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。

また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。

5. 地方整備局等におけるＩＣＴ活用工事に関する調査等

ＩＣＴ活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）（提出様式は別途指示）

ＩＣＴ活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、対象工事の概要等を本省へ報告するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、１－４、２－１で定める工事とする。

5－2 ＩＣＴ活用工事の活用実績の報告（提出様式は別途指示）

母集団調査とともにＩＣＴ活用工事を活用する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。

5－3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

6. ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	ＩＣＴ活用施工を行った、全てのＩＣＴ活用工事	受注者

1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

2）施工者希望Ⅱ型で実施する。

6－2 調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

研修等でのＩＣＴ施工技術の習得を図るなど、ＩＣＴ施工技術の活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。

4－5 現場見学会・講習会の実施

ＩＣＴ活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。

また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。

5. 地方整備局等におけるＩＣＴ活用工事に関する調査等

ＩＣＴ活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）~~（提出様式は別途指示）~~

ＩＣＴ活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、~~対象工事の概要等を本省へ報告~~するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、１－４、２－１で定める工事とする。

5－2 ＩＣＴ活用工事の活用実績の報告（~~提出様式は別途指示~~）

~~母集団調査とともに~~ＩＣＴ活用工事の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示するものとする。~~を活用する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。~~

5－3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

6. ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	~~ＩＣＴ活用施工を行った、~~ 全てのＩＣＴ活用工事	受注者

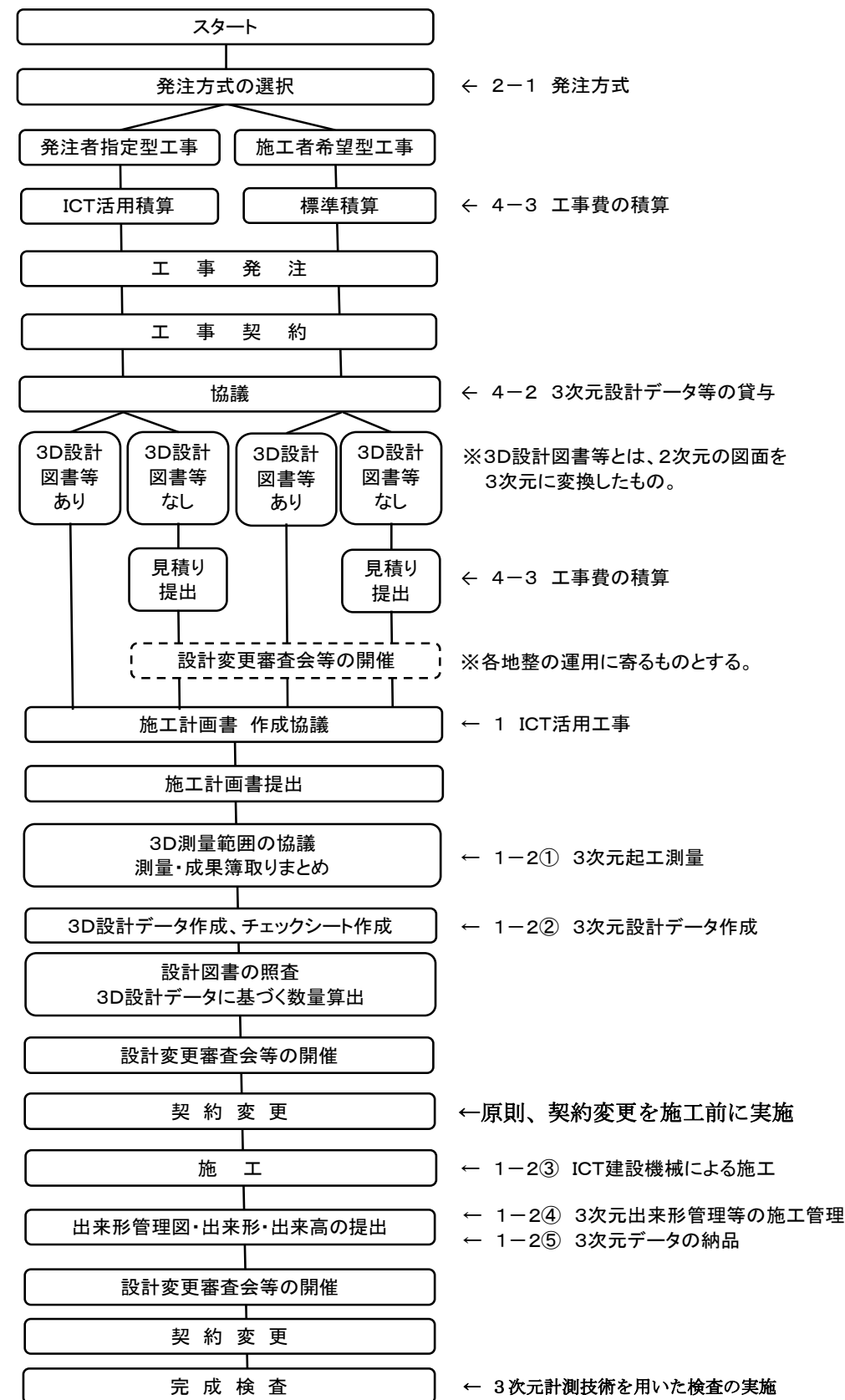
1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

~~2）施工者希望Ⅱ型で実施する。~~

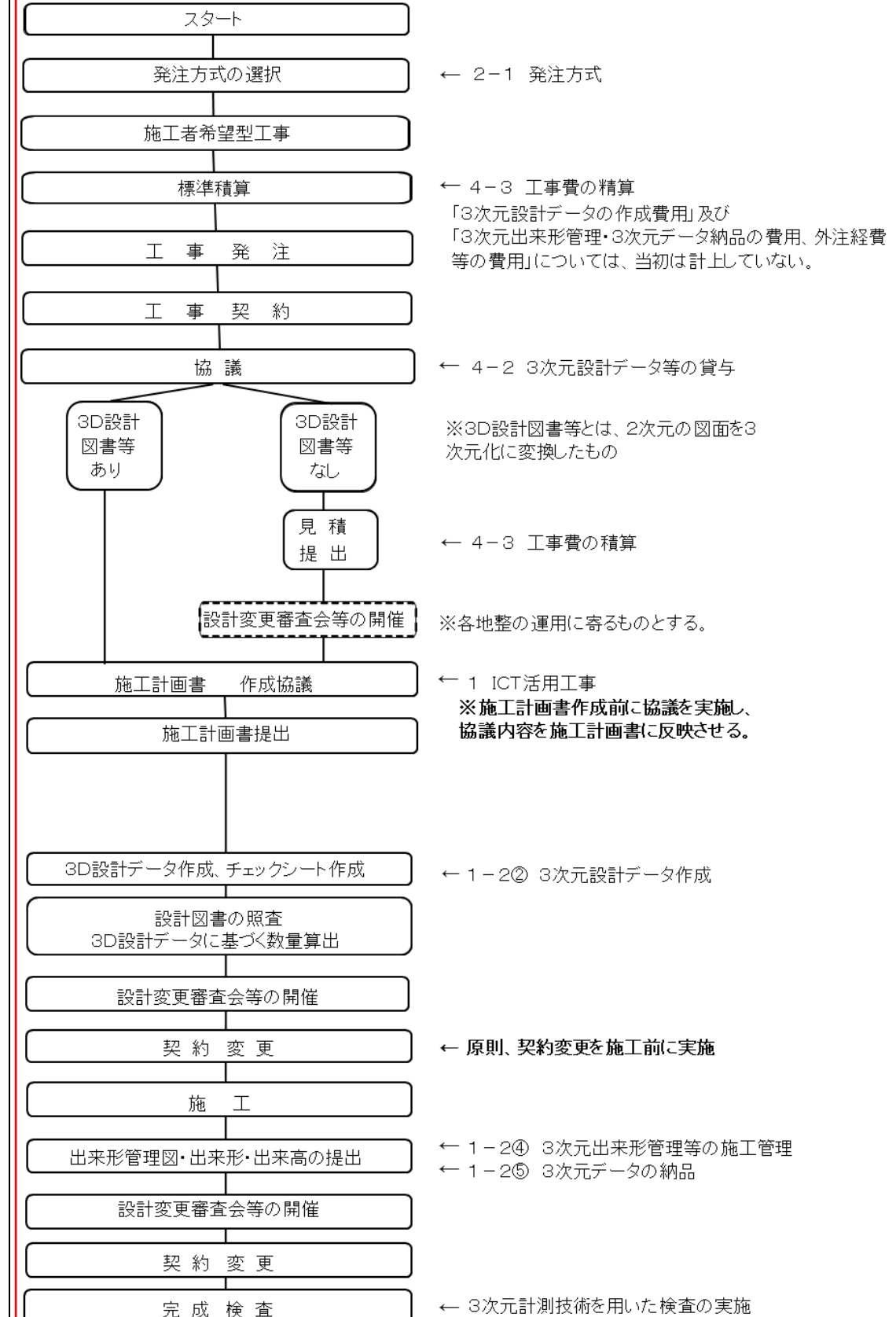
6－2 調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



R 6 室長通知 別紙ー3 1 I C T活用工事（構造物工（橋梁上部））積算要領	R 7 室長通知 別紙ー2 9 I C T活用工事（構造物工（橋梁上部））積算要領
別紙ー3 1 I C T活用工事（構造物工（橋梁上部））積算要領 1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した構造物工（橋梁上部）（以下、構造物工（橋梁上部）（I C T））に適用する。 2. 適用工種 橋梁上部 コンクリート橋上部 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用・外注経費等の費用 構造物工（橋梁上部）（I C T）における出来形管理は、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を想定しているため、標記経費は計上しない。	別紙ー ~~3 1~~ 2 9 I C T活用工事（構造物工（橋梁上部））積算要領 1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した構造物工（橋梁上部）（以下、構造物工（橋梁上部）（I C T））に適用する。 2. 適用工種 橋梁上部 コンクリート橋上部 3. ~~3次元起工測量~~ 3次元設計データの作成費用 ~~3次元起工測量~~ 3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 なお、「3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用・外注経費等の費用 構造物工（橋梁上部）（I C T）における出来形管理は、管理断面及び変化点の計測による出来形管理を想定しているため、標記経費は計上しない。

R 6 室長通知 別紙―3 2 I C T活用工事（構造物工（橋脚・橋台））実施要領	R 7 室長通知 別紙―3 0 I C T活用工事（構造物工（橋脚・橋台））実施要領
別紙―3 2	別紙―3 0
I C T活用工事 （構造物工（橋脚・橋台））実施要領	I C T活用工事 （構造物工（橋脚・橋台））実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1－1 概要	1－1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセス全ての段階において、以下に示すI C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示すI C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1－2 I C T活用工事における構造物工	1－2 I C T活用工事における構造物工（橋脚・橋台）
次の①②④⑤の段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事（構造物工）とする。また、「I C T構造物工」という略称を用いることがある。	次の①②④⑤の段階でI C T施工技術を活用することをI C T活用工事（構造物工（橋脚・橋台））とする。また、「I C T構造物工（橋脚・橋台）」という略称を用いる。
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ 該当無し	③ 該当無し
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1－3 I C T施工技術の具体的内容	1－3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表－1によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、以下の①～⑤によるものとし、関連要領等については、最新のものを適用するものとする。
	関連要領等： https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記1）～5）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。	起工測量において、3次元測量データを取得するため、以下1）～7）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。
起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもI C T活用工事とする。	起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択してもI C T活用工事とする。
1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
4）T S等光波方式を用いた起工測量	4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
5）その他の3次元計測技術を用いた起工測量	5）T S等光波方式を用いた起工測量
	6）T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量
	7）R T K－G N S Sを用いた起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。	1－3①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。
	なお、発注者が貸与する3次元データを活用する場合もI C T活用工事とする。

I C T構造物工の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 ③ 構造物工においては該当無し ④ 3次元出来形管理等の施工管理 構造物工の施工管理において、下記に示す方法により出来形管理を実施する。 （１）出来形管理 下記１）～４）の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 ２）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ４）T S等光波方式を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により１）～４）のI C Tを用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員と協議する。 （２）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記（１）で定める計測技術を用い下記 １）の出来形管理要領による １）3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） （３）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 1－3④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。	I C T構造物工（橋脚・橋台）の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 ③ I C T建設機械による施工 構造物工（橋脚・橋台）においては該当無し ④ 3次元出来形管理等の施工管理 構造物工（橋脚・橋台）の施工管理において、以下に示す方法により出来形管理を実施する。 （１）出来形管理 構造物工（橋脚・橋台）の出来形管理において、以下１）～４）の技術から選択（複数以上可）して、出来形管理を実施するものとする。 また、以下１）～４）の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 ２）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ４）T S等光波方式を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により上記１）～４）のI C T施工技術を用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、監督職員と協議の上、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなどして出来形管理を行っても良いものとする。 （２）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。~~厚さ管理は本要領の対象外とする。~~出来形の算出は、上記（１）で定める計測技術を用い以下 １）の出来形管理要領による。 １）3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） （３）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 1－3①②④により作成した3次元データを工事完成図書として電子納品する。
---	---

《表－１　ＩＣＴ施工技術と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量／ 3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、③、⑪ ⑫、⑬	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、④、⑭	
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形計測（土工）	測量	－	○	－	①、⑥	
	TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑦	
	RTK－GNSSを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑨	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量（土工）	測量	－	○	－	①、⑩	
	3次元計測技術を用いた出来形管理技術（構造物工）	出来形計測 出来形管理	－	○	－	①、②	

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）（構造物工編）（試行案）
	②	3次元計測技術を用いた出来形管理の監督・検査要領（構造物工編）（試行案）
	③	空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	④	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑤	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領（案）
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑦	TS（ノンプリ）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑧	RTK－GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑨	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑩	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑪	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	⑫	公共測量における UAV の使用に関する安全基準－国土地理院
	⑬	UAV を用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院
	⑭	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院

【凡例】○：適用可能　－：適用外

1－4　ＩＣＴ活用工事の対象工事

ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）は、「一般土木工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。

（１）対象工種

ＩＣＴ活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。

- １）　橋台工：橋台躯体工
- ２）　ＲＣ橋脚工：橋脚躯体工

削除

1－4　ＩＣＴ活用工事の対象工事

ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）は、「一般土木工事」を原則とし、以下（１）～（３）に該当する工事とする。

（１）対象工種

ＩＣＴ活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける以下の工種とする。

- １）　橋台工：橋台躯体工
- ２）　ＲＣ橋脚工：橋脚躯体工

(2) 適用対象外 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 (3) 対象規模 I C T活用工事（構造物工）の対象規模は、1－4（1）対象工種を条件とし、数量は 規定しない。 2. I C T活用工事の実施方法 2－1 発注方式 I C T活用工事の発注は、施工者希望Ⅱ型とするが、工事内容及び地域における I C T施工機器の普及状況等を勘案し決定する。 (1) 施工者希望Ⅱ型 I C T構造物工の対象工種が含まれる、発注者が設定した対象工事に適用する。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 (1) 施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：構造物工（橋脚・橋台）を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3次元データを活用する I C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。 【入札説明書】記載例 （記載例） 【メモ：構造物工（橋脚・橋台）を含む一般土木工事の場合は、（番号）工事の実施形態に下記を追記】	(2) 適用対象外 従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 (3) 対象規模 I C T活用工事（構造物工（橋脚・橋台））の対象規模は、1－4（1）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2. I C T活用工事の実施方法 2－1 発注方式 I C T活用工事の発注は、以下によるものとするが、I C T施工技術の活用が困難な場合及びI C T施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など工事内容及び現場条件等を勘案し決定する。 (1) 施工者希望Ⅱ型 1－4（1）に示す対象工種に該当する工種については、施工者希望Ⅱ型での発注を原則とする。 ※「そのほか」 I C T活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、I C T活用工事として事後設定できるものとし、I C T活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2 発注における入札公告等 入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 (1) 施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：構造物工（橋脚・橋台）を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1 工事概要』に以下を追記する。 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について 3次元データを活用する I C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。 【入札説明書】記載例 （記載例） 【メモ：構造物工（橋脚・橋台）を含む一般土木工事の場合は、（番号）工事の実施形態に下記を追記】
--	--

『（番号） 工事概要』に以下を記載 （番号）工事の実施形態 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図るため、発注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にＩＣＴ活用施工を行うことができる。 本工事におけるＩＣＴ活用施工は、①に示す３次元起工測量と３次元設計データの作成を行い、ＩＣＴを用いた３次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた３次元データを納品することをいう。 なお、ＩＣＴの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① ３次元起工測量 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 ２）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ４）ＴＳ等光波方式を用いた起工測量 ５）その他の３次元計測技術を用いた起工測量 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号）ＩＣＴ活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、ＩＣＴ活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	『（番号） 工事概要』に以下を記載 （番号）工事の実施形態 （番号）本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にＩＣＴ施工技術の活用を行うことができる。 本工事におけるＩＣＴ施工技術の活用は、以下の①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することをいう。 なお、ＩＣＴ施工技術の活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① ３次元起工測量 ~~１）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量~~ ~~２）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~４）ＴＳ等光波方式を用いた起工測量~~ ~~５）その他の３次元計測技術を用いた起工測量~~ ② ３次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ ３次元出来形管理等の施工管理 ⑤ ３次元データ納品 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 （番号）ＩＣＴ施工技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。 但し、ＩＣＴ施工技術の活用に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。
【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図る	【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事について １． ＩＣＴ活用工事 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ施工技術の全面的活

ため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２．定義 （１）i-Construction とは、ＩＣＴの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてＩＣＴを活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２）ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、ＩＣＴを全面的に活用する工事である。また、次の①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することをＩＣＴ活用工事という。 対象は、構造物工（橋脚・橋台）等を含む一般土木工事とする。 ① ３次元起工測量 ② ３次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ ３次元出来形管理等の施工管理 ⑤ ３次元データの納品 ３．受注者は、ＩＣＴ活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記４～９によりＩＣＴ活用施工を行うことができる。 ４．原則、本工事においては上記①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとし構造物工（橋脚・橋台）等の施工範囲の全てで適用することとし、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 ５．ＩＣＴを用い、以下の施工を実施する。 ① ３次元起工測量 受注者は、３次元測量データを取得するため、下記１）～５）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 ２）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ４）ＴＳ等光波方式を用いた起工測量 ５）その他の３次元計測技術を用いた起工測量 ② ３次元設計データ作成 受注者は、設計図書や５．①で得られたデータを用いて、３次元出来形管理を行うための３次元設計データを作成する。		用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２．定義 （１）i-Construction とは、ＩＣＴ施工技術の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてＩＣＴ施工技術を活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２）ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの以下段階において、ＩＣＴ施工技術を全面的に活用する工事である。また、以下の①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することをＩＣＴ活用工事という。 対象は、構造物工（橋脚・橋台）等を含む一般土木工事とする。 ① ３次元起工測量 ② ３次元設計データ作成 ③ 該当なし ④ ３次元出来形管理等の施工管理 ⑤ ３次元データの納品 ３．受注者は、ＩＣＴ施工技術の活用を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に以下４～８によりＩＣＴ施工技術の活用を行うことができる。 ４．原則、本工事においては上記①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとする。構造物工（橋脚・橋台）の施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容及び数量・対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 ５．ＩＣＴ施工技術を用い、以下の施工を実施する。 ① ３次元起工測量 受注者は、３次元測量データを取得するため、以下１）～７）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 １）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 ２）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 ３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ５）ＴＳ等光波方式を用いた起工測量 ６）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ７）ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた起工測量 ② ３次元設計データ作成 受注者は、５．①で得られた測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、３次元出来形管理を行うための３次元設計データを作成する。 ＩＣＴ構造物工（橋脚・橋台）の施工管理においては、３次元設計データ（TIN）形式での作成は必要としない。 なお、ＩＣＴ構造物工（橋脚・橋台）の３次元設計データとは、３次元計測技術を用	
---	--	--	--

③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 構造物工（橋脚・橋台）等の施工管理において、下記1）～5）の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）T S等光波方式を用いた出来形管理 5）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係によりI C Tを用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合においては、写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員との協議する (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い下記1)の出来形管理要領による 1) 3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） (3) 出来形管理帳票		いた出来形管理要領（案）（構造物工（橋脚・橋台編））で定義する設計データのことを言う。 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 構造物工（橋脚・橋台）の施工管理において、以下1）～4）の技術から選択（複数以上可）して、出来形管理を実施するものとする。 また、以下1）～4）の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）T S等光波方式を用いた出来形管理 ~~5)その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により上記1）～4）のI C T施工技術を用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合、監督職員と協議の上、写真・画像データ等と併用するなど出来形管理を行っても良いものとする。 【メモ：条件明示として実施した出来形管理及び3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】 【変更特記記載例】 （3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合） 本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。（している。） 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 （実施する（した）出来形管理を具体的に掲載する。） （3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合） 本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については計上していない。 4）T S等光波方式を用いた出来形管理 （実施する（した）出来形管理を具体的に掲載する。） (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。~~厚さ管理は本要領の対象外とする。~~出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い以下1）の出来形管理要領による。 1) 3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） (3) 出来形管理帳票	
--	--	---	--

現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の３次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の３次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ ３次元データの納品 ④により確認された３次元施工管理データを、工事完成図書として納品する。 6．上記５．①～⑤の施工を実施するために使用するＩＣＴ機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なＩＣＴ活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、３次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したＣＡＤデータを受注者に貸与する。また、ＩＣＴ活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7．上記５．①②④⑤で使用するＩＣＴ機器に入力した３次元設計データを監督職員に提出すること。 8．土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9．受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10．本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について 1．図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事の費用について 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。 ・ＩＣＴ活用工事（橋脚・橋台）積算要領 ただし、監督職員の指示に基づき、３次元起工測量、３次元設計データの作成並びに３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。		現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の３次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の３次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ ３次元データの納品 ５．①②④により作成した３次元データを工事完成図書として電子納品する。 6．上記５．①②④の施工を実施するために使用するＩＣＴ機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、３次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したＣＡＤデータを受注者に貸与する。また、ＩＣＴ施工技術の活用を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~7．上記５．①②④⑤で使用するＩＣＴ機器に入力した３次元設計データを監督職員に提出すること。~~ 7．土木工事施工管理基準（案）に基づく出来形管理が行われていない箇所で、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 ~~9．受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ 8．本特記仕様書に疑義が生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事における適用（用語の定義）について 1．図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事完成図、３次元モデルを復元可能なデータ（以下「３次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事の費用について 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにＩＣＴ活用の具体的な工事内容及び数量・対象範囲について明示し、監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ＩＣＴ施工技術を活用する項目については、以下の積算要領に基づき以下の（１）（２）により費用を計上することとする。 ・ＩＣＴ活用工事（構造物工（橋脚・橋台））積算要領 （１）３次元起工測量・３次元設計データの作成費用 ３次元起工測量・３次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「３次元起工測量・３次元設計データの
--	--	---

2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用施工を行った、全てのICT活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。 3. ICT活用工事実施の推進のための措置 3-1 工事成績評価における措置 ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「☐ICT活用工事加 点」において該当する項目で評価するものとする。	作成費用」は計上しないものとする。 (2) 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 出来形管理の計測範囲において、面的に座標を取得し、ソフトウェア上で面の法長・高さ等の出来形管理を実施し、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、3次元データ納品を行った場合、標記費用の対象とする。 費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正の補正係数を乗じるものとする。 なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者からの見積により算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積により算出される金額を積算計上額とする。 また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。ただし、構造物工（橋脚・橋台）（ICT）と同時に実施する土工（ICT）等他工種において補正係数を乗じる場合は適用しない。 ・共通仮設費率補正係数：1.2 ・現場管理費率補正係数：1.1 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1）～3）とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 なお、以下の4）による出来形管理を実施した場合は、「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、計上しない。 4）TS等光波方式を用いた出来形管理 2 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ICT活用工事の活用効果等に関する調査 ICT活用工事を行った施工者は、活用目的等の把握のための「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」の対象であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。 3. ICT活用工事実施の措置 3-1 工事成績評価における措置 ICT活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「☐ICT活用工事加 点」において該当する項目で評価するものとする。
---	--

□ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は 1 点の加点とする。 □ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの 1－2 ①②④⑤の段階で ICT を活用した工事。 ※本項目は 2 点の加点とする。 ※ICT 活用による加点は最大 2 点の加点とする	□ I C T 活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で I C T を活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は 1 点の加点とする。 □ I C T 活用工事加点として起工測量から電子納品までの 1－2 ①②④⑤の段階で I C T を活用した工事 ※本項目は 2 点の加点とする。 ※ I C T 活用による加点は最大 2 点の加点とする
（1）施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案により I C T 活用施工（1－2 ①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評価における減点は行わない。	（1）施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案により I C T 施工技術の活用（1－2 ①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評価における減点は行わない。
4. I C T 活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に I C T 活用施工を導入し、I C T 施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T 活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督検査要領（表 1【要領一覧】）に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。	4. I C T 活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に I C T 施工技術を導入し、活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。 4－1 施工管理、監督・検査の対応 I C T 施工技術の活用を実施するにあたって、別途発出されている「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」及び各種「出来形管理の監督・検査要領（案）」に則り、監督・検査を実施するものとする。 監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。
4－2 3次元設計データ等の貸与 （1）I C T 活用工事の導入初期段階においては、従来基準による 2 次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「3 次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。 （2）発注者は、詳細設計において、I C T 活用施工に必要な 3 次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、I C T 活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。 なお、貸与する 3 次元設計データに 3 次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「貸与する 3 次元設計データと 3 次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。	4－2 3次元設計データ等の貸与 ~~（1）I C T 活用工事の導入初期段階においては、従来基準による 2 次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「3 次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~ 発注者は、受注者が 3 次元設計データ作成に必要な詳細設計において作成した C A D データを受注者に貸与するほか、I C T 施工技術を活用する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~なお、貸与する 3 次元設計データに 3 次元測量データ（グラウンドデータ）を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3 次元起工測量」及び「貸与する 3 次元設計データと 3 次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。~~
4－3 工事費の積算 （1）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案により I C T 活用施工を実施する場合、I C T 活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記 1）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。	4－3 工事費の積算 （1）施工者希望型における積算方法 発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準（従来基準）に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案により I C T 施工技術を活用する場合、I C T 施工技術を活用する項目については、各段階を設計変更の対象とし、以下 1）に基づく積算に落札率を乗じた価格により契約変更を行うものとする。

1) ICT活用工事（構造物工（橋脚・橋台））積算要領

なお、ICT活用について協議を行う際には、「1－2①②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。

また、現行基準による2次元の設計ストック等によりICT活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－36「ICTの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。

「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。

4－4 ICT監督・検査体制の構築

ICT活用施工の監督検査を適切に行うことを目的に、ICT検査官等の任命や研修等でのICT施工技術の習得を図るなど、ICT活用工事に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。

4－5 現場見学会・講習会の実施

ICT活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。

また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。

5. 地方整備局等におけるICT活用工事に関する調査等

ICT活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）（提出様式は別途指示）

ICT活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、対象工事の概要等を本省へ報告するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1－4、2－1で定める工事とする。

5－2 ICT活用工事の活用実績の報告（提出様式は別途指示）

母集団調査とともにICT活用工事を活用する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。

5－3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

6. ICT活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
ICT活用工事の活	活用目的等の把握	ICT活用施工を行った、	受注者

1) ICT活用工事（構造物工（橋脚・橋台））積算要領

なお、ICT施工技術の活用について協議を行う際には、「1－2①②④」にかかるそれぞれの数量及び対象範囲を明示するものとする。

また、現行基準による2次元の設計ストック等によりICT活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成経費について見積り提出を求め、設計変更審査会等を通じて設計変更するものとし、見積り徴収にあたり、別紙－34「ICTの活用に係る見積り書の依頼について」を参考にするものとする。

「ICT活用工事の活用効果等に関する調査」に関する費用の計上方法については別途通知する。

4－4 ICT監督・検査体制の構築

ICT施工技術の活用における監督検査を適切に行うことを目的に、ICT検査官等の任命や研修等でのICT施工技術の習得を図るなど、ICT施工技術の活用に精通した監督・検査職員の体制構築を速やかに整えるものとする。

4－5 現場見学会・講習会の実施

ICT活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。

また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。

5. 地方整備局等におけるICT活用工事に関する調査等

ICT活用工事の発注見通し、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）

ICT活用工事として活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1－4、2－1で定める工事とする。

5－2 ICT活用工事の活用実績の報告（別途指示）

ICT活用工事の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示するものとする。

5－3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する場合は、別途指示する。

6. ICT活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

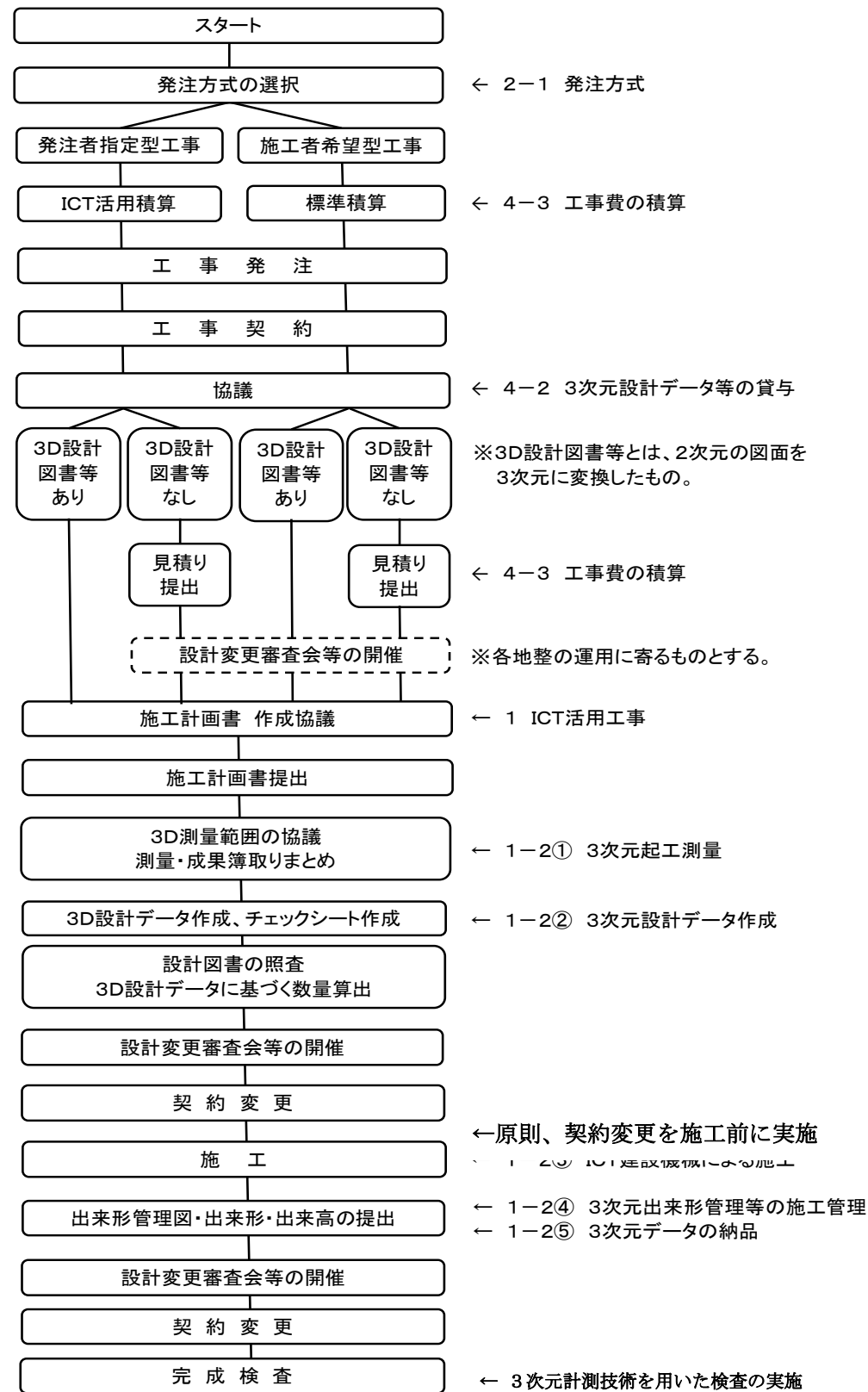
6－1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
ICT活用工事の活	活用目的等の把握	全てのICT活用工事	受注者

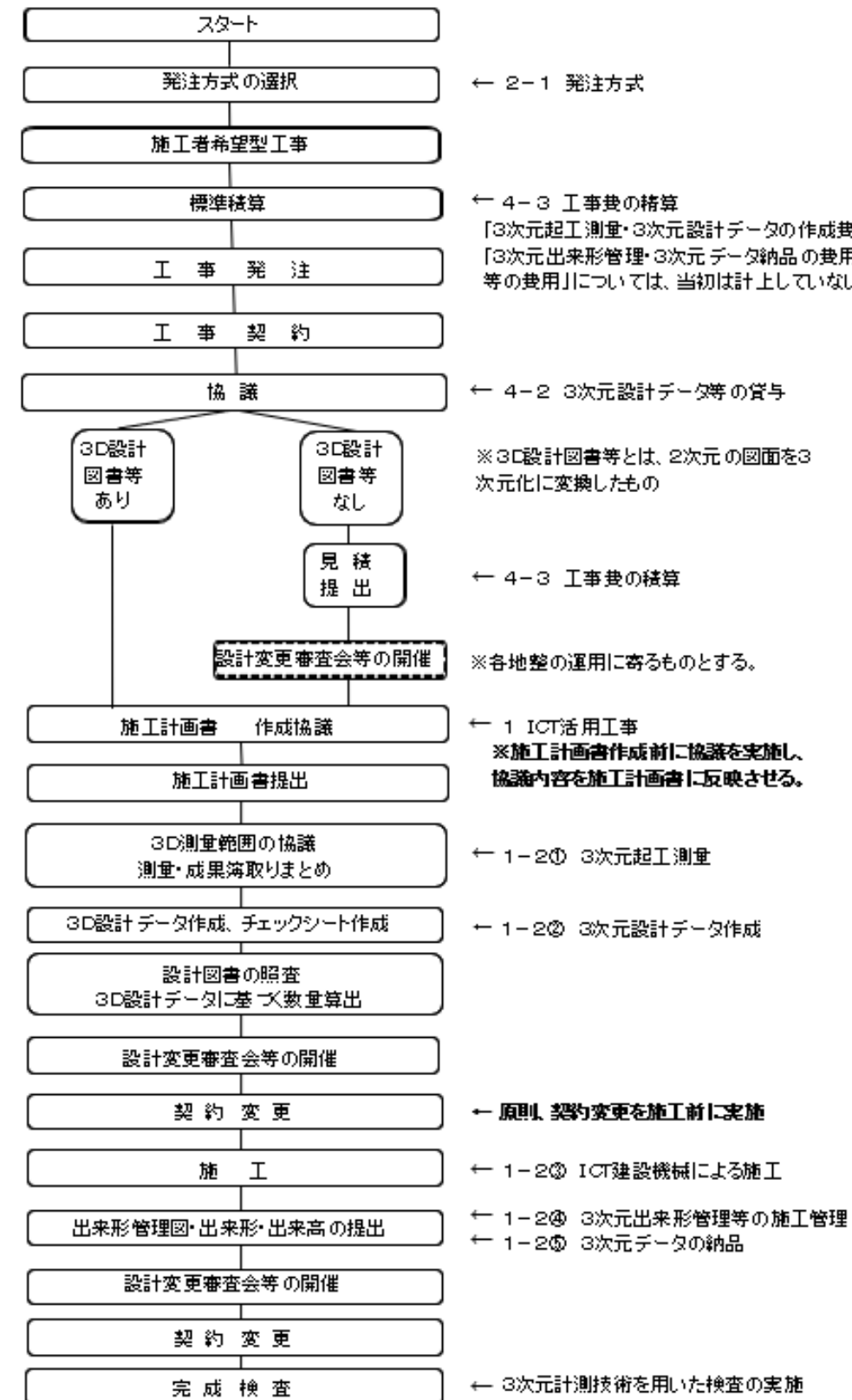
用効果等に関する調査		全ての I C T活用工事	
1) 各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。			
2) 施工者希望Ⅱ型で実施する。			
6－2 調査等の調査票の回収について			
受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。			

用効果等に関する調査			
1) 各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。			
~~2) 施工者希望Ⅱ型で実施する。~~			
6－2 調査等の調査票の回収について			
受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。			

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



R 6 室長通知 別紙―3 3 I C T活用工事（構造物工（橋脚・橋台））積算要領	R 7 室長通知 別紙―3 1 I C T活用工事（構造物工（橋脚・橋台））積算要領
別紙―3 3 I C T活用工事（構造物工（橋脚・橋台））積算要領 1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した構造物工（橋脚・橋台）（以下、構造物工（橋脚・橋台）（I C T））に適用する。 2. 適用工種 1) 橋台工：橋台躯体工 2) R C橋脚工：橋脚躯体工 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)～4)とし、I C T活用工事（構造物工（橋脚・橋台））実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 2) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理	別紙―3 1 I C T活用工事（構造物工（橋脚・橋台））積算要領 1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用した構造物工（橋脚・橋台）（以下、構造物工（橋脚・橋台）（I C T））に適用する。 2. 適用工種 1) 橋台工：橋台躯体工 2) R C橋脚工：橋脚躯体工 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。 また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。 なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 （1）出来形管理の計測範囲において、面的に座標を取得し、ソフトウェア上で面の法長・高さ等の出来形管理を実施し、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、3次元データ納品を行った場合、標記費用の対象とする。 費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。 また、受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。ただし、構造物工（橋脚・橋台）と同時に実施する土工（I C T）等他工種において補正係数を乗じる場合は適用しない。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)～3)とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理

4) 上記1)～3)に類似する3次元計測技術を用いた出来形管理 (2) 費用計上にあたっての留意事項 1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、妥当性の確認を行うこととし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。	~~4) 上記1)～3)に類似する3次元計測技術を用いた出来形管理~~ (2) 費用計上にあたっての留意事項 ~~1) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上しない。~~ ~~2) 受注者からの見積又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。~~ ~~①補正係数を乗じて算出される金額を計上する場合~~ ~~・補正係数を乗じて算出される金額<受注者からの見積による金額~~ ~~②受注者からの見積による金額を計上する場合~~ ~~・補正係数を乗じて算出される金額>受注者からの見積による金額~~ 5. 施工箇所が点在するICT活用工事の積算について 施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第1編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。
--	--

R 6 室長通知 別紙－3 4 I C T活用工事（コンクリート堰堤工）実施要領	R 7 室長通知 別紙－3 2 I C T活用工事（コンクリート堰堤工）実施要領
別紙－3 4	別紙－ ~~3 4~~ <u>3 2</u>
I C T活用工事（コンクリート堰堤工）実施要領	I C T活用工事（コンクリート堰堤工）実施要領
1. I C T活用工事	1. I C T活用工事
1－1 概要	1－1 概要
I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。	I C T活用工事とは、施工プロセスの全ての段階において、以下に示す I C T施工技術を全面的に活用する工事である。
1－2 I C T活用工事における砂防堰堤工	1－2 I C T活用工事における <u>コンクリート堰堤工</u> ~~砂防堰堤工~~
次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（コンクリート堰堤工）とする。また、「I C Tコンクリート堰堤工」という略称を用いることがある。	次の①②④⑤の段階で I C T施工技術を活用することを I C T活用工事（コンクリート堰堤工）とする。また、「I C Tコンクリート堰堤工」という略称を用いる <u>ことがある</u> 。
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成
③ 該当無し	③ 該当無し
④ 3次元出来形管理等の施工管理	④ 3次元出来形管理等の施工管理
⑤ 3次元データの納品	⑤ 3次元データの納品
1－3 I C T施工技術の具体的内容	1－3 I C T施工技術の具体的内容
I C T施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表－1 によるものとする。	I C T施工技術の具体的内容については、 <u>以下次</u> の①～⑤ ~~及び表－1~~ によるものと <u>し、関連要領等については、最新のものを適用するものとする</u> 。
	<u>関連要領等：https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/sosei_constplan_tk_000051.html</u>
① 3次元起工測量	① 3次元起工測量
起工測量において、3次元測量データを取得するため、下記1）～8）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。	起工測量において、3次元測量データを取得するため、 <u>以下下記</u> 1）～ <u>7-8</u> ）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。
起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用とする。	起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、面的な計測のほか、管理断面及び変化点の計測による測量を選択しても I C T活用工事とする。
また、コンクリート堰堤工の関連施工として I C T土工が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、I C T活用とする。	また、コンクリート堰堤工の関連施工として I C T土工 <u>等</u> が行われる場合、その起工測量データ及び施工用データを活用することができるものとし、I C T活用 <u>工事</u> とする。
I C T土工等の起工測量データ等を活用することができる。	~~I C T土工等の起工測量データ等を活用することができる。~~
1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量	1）空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量
2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量	2）地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
3）T S 等光波方式を用いた起工測量	<u>3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量</u>
4）T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量	<u>4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量</u>
5）R T K－G N S S を用いた起工測量	<u>5）T S 等光波方式を用いた起工測量</u>
6）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	<u>6）T S （ノンプリズム方式）を用いた起工測量</u>
7）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量	<u>7）R T K－G N S S を用いた起工測量</u>
8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量	~~8）その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~
② 3次元設計データ作成	② 3次元設計データ作成

1－3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 3次元設計データ作成はICT土工と合わせて行うが、ICTコンクリート堰堤工の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 ③ ICT建設機械による施工 コンクリート堰堤工においては該当無し ④ 3次元出来形管理等の施工管理 コンクリート堰堤工の施工管理において、下記に示す方法により出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 下記1）～8）の技術から選択（複数以上可）して、出来形管理を行うものとする。 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）TS等光波方式を用いた出来形管理 4）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 5）RTK－GNSSを用いた出来形管理 6）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 7）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 8）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により1）～8）のICTを用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員との協議する （2）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記（1）で定める計測技術を用い下記1）の出来形管理要領による 1） 3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） （3）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。	1－3①で計測した測量データと、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 3次元設計データ作成はICT土工<u>等</u>と合わせて行うが、ICTコンクリート堰堤工の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必須としない。 ③ ICT建設機械による施工 コンクリート堰堤工においては該当無し ④ 3次元出来形管理等の施工管理 コンクリート堰堤工の施工管理において、<u>以下平記</u>に示す方法により、出来形管理を実施する。 （1）出来形管理 <u>コンクリート堰堤工の施工管理において、以下平記1）～7-8）の技術から選択（複数以上可）して、出来形管理を行う実施するものとする。</u> <u>また、以下1）～7）の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。</u> 1）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 <u>5）TS等光波方式を用いた出来形管理</u> <u>6）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理</u> <u>7）RTK－GNSSを用いた出来形管理</u> ~~5）TS等光波方式を用いた出来形管理~~ ~~6）TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理~~ ~~7）RTK－GNSSを用いた出来形管理~~ ~~8）その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により<u>上記</u>1）～<u>7-8）</u>のICT<u>施工技術</u>を用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては、<u>監督職員と協議の上</u>、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなど<u>して、他の計測技術による</u>出来形管理を行っても良いもの<u>とする。</u>とし監督職員との協議する （2）出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。~~厚さ管理は本要領の対象外とする。~~出来形の算出は、上記（1）で定める計測技術を用い<u>以下平記</u>1）の出来形管理要領による<u>ものとする</u> 1） 3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案） （3）出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測（管理）すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。
--	--

⑤ 3次元データの納品
1－3④による3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

《表－1．ICT活用工事と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量／ 3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、③、⑪ ⑫、⑬	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、④、⑭	
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形計測 技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑥	
	TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑦	
	RTK－GNSSを用いた起工測量／出来形計測技 術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用い た起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑨	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用い た起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑩	
	3次元計測技術を用いた出来形計測	出来形計測	－	○	○	②、⑤	

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）土工編
	②	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）法面工編
	③	空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	④	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑤	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領（案）
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑦	TS（ノンプリ）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑧	RTK－GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑨	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑩	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑪	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	⑫	公共測量におけるUAVの使用に関する安全基準－国土地理院
	⑬	UAVを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院
	⑭	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院

【凡例】○：適用可能 －：適用外

⑤ 3次元データの納品
1－3①②④により作成したる3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

~~《表－1．ICT活用工事と適用工種》~~

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量／ 3次元出来形管理 等施工管理	空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、③、⑪ ⑫、⑬	
	地上レーザースキャナーを用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、④、⑭	
	TS等光波方式を用いた起工測量／出来形計測 技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑥	
	TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 ／出来形計測技術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑦	
	RTK－GNSSを用いた起工測量／出来形計測技 術（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑧	
	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用い た起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑨	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用い た起工測量／出来形計測（土工）	測量 出来形計測	－	○	○	①、⑩	
	3次元計測技術を用いた出来形計測	出来形計測	－	○	○	②、⑤	

【関連要領等一覧】	①	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）土工編
	②	3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）法面工編
	③	空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	④	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑤	3次元計測技術を用いた出来形計測の監督・検査要領（案）
	⑥	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑦	TS（ノンプリ）を用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑧	RTK－GNSSを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑨	無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑩	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領（土工編）（案）
	⑪	無人飛行機の飛行に関する許可・承認の審査要領
	⑫	公共測量におけるUAVの使用に関する安全基準－国土地理院
	⑬	UAVを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院
	⑭	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル（案）－国土地理院

【凡例】○：適用可能 －：適用外

1－4　ＩＣＴ活用工事の対象工事 　　ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）は、「一般土木工事」、「砂防堰堤工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、下記（１）～（３）に該当する工事とする。 （１）対象工種 　　ＩＣＴ活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。 　　１）コンクリート堰堤本体工 　　２）コンクリート側壁工 　　３）水叩工 （２）適用対象外 　　従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 （３）対象規模 　　ＩＣＴ活用工事（コンクリート堰堤工）の対象規模は、１－４（１）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2．　ＩＣＴ活用工事の実施方法 2－1　発注方式 　　ＩＣＴ活用工事の発注は、施工者希望Ⅱ型とするが、工事内容及び地域におけるＩＣＴ施工機器の普及状況等を勘案し決定する。 （１）施工者希望Ⅱ型 　　ＩＣＴコンクリート堰堤工の対象工種が含まれる、発注者が設定した対象工種に適用する。 ※「そのほか」 　　ＩＣＴ活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、ＩＣＴ活用工事として事後設定できるものとし、ＩＣＴ活用工事設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2　発注における入札公告等 　　入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 　　なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 （１）施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：コンクリート堰堤工を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1　工事概要』に以下を追記する。	1－4　ＩＣＴ活用工事の対象工事 　　ＩＣＴ活用工事の対象工事（発注工種）は、「一般土木工事」、「砂防堰堤工事」、及び「維持修繕工事」を原則とし、<u>以下下記</u>（１）～（３）に該当する工事とする。 （１）対象工種 　　ＩＣＴ活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける<u>以下下記</u>の工種とする。 　　１）コンクリート堰堤本体工 　　２）コンクリート側壁工 　　３）水叩工 （２）適用対象外 　　従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。 （３）対象規模 　　ＩＣＴ活用工事（コンクリート堰堤工）の対象規模は、１－４（１）対象工種を条件とし、数量は規定しない。 2．　ＩＣＴ活用工事の実施方法 2－1　発注方式 　　ＩＣＴ活用工事の発注は、<u>以下によるものとするが、ＩＣＴ施工技術の活用が困難な場合及びＩＣＴ施工技術を活用しても建設現場の作業性の向上が見込まれない場合など工事内容及び現場条件等を施工者希望Ⅱ型とするが、工事内容及び地域におけるＩＣＴ施工機器の普及状況等を勘案し決定する。</u> （１）施工者希望Ⅱ型 　　<u>１－４（１）に示す対象校種に該当する工種については、施工者希望Ⅱ型での発注を原則とする。</u> 　　~~ＩＣＴコンクリート堰堤工の対象工種が含まれる、発注者が設定した対象工種に適用する。~~ ※「そのほか」 　　ＩＣＴ活用工事として発注していない工事において、受注者からの希望があった場合は、ＩＣＴ活用工事として事後設定できるものとし、ＩＣＴ活用工事<u>として</u>設定した後は、施工者希望Ⅱ型と同様の取り扱いとする。 2－2　発注における入札公告等 　　入札公告、入札説明書、特記仕様書等の記載例については、以下のとおりとする。 　　なお、記載例にないものについては、別途作成するものとする。 （１）施工者希望Ⅱ型 【入札公告】記載例 （記載例） 【メモ：コンクリート堰堤工を含む一般土木工事の場合は、（番号）を追記】 『1　工事概要』に以下を追記する。
--	--

(番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。	(番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T 施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事（施工者希望Ⅱ型）の対象工事である。
【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：コンクリート堰堤工を含む一般土木工事の場合は、（番号）工事の実施形態に下記を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C Tの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にI C T活用施工を行うことができる。 本工事におけるI C T活用施工は、①に示す3次元起工測量と3次元設計データの作成を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品することをいう。 なお、I C Tの活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3次元起工測量 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S等光波方式を用いた起工測量 4) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 5) R T K－G N S Sを用いた起工測量 6) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 7) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。	【入札説明書】記載例 (記載例) 【メモ：コンクリート堰堤工を含む一般土木工事の場合は、（番号）工事の実施形態に 以下下記を追記】 『（番号） 工事概要』に以下を記載 (番号) 工事の実施形態 (番号) 本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、I C T 施工技術の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について3次元データを活用するI C T活用工事の対象工事（施工者希望Ⅱ型）である。 受注者は、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合にI C T施工技術の活用を行うことができる。 本工事におけるI C T 施工技術の活用施工は、以下の①②④⑤の段階でI C T施工技術を活用するに示す3次元起工測量と3次元設計データの作成を行い、I C Tを用いた3次元出来形管理等の施工管理を実施し、それらで得られた3次元データを納品することをいう。 なお、I C T 施工技術の活用にかかる費用については、設計変更の対象とし、詳細については特記仕様書によるものとする。 ① 3次元起工測量 ② 3次元設計データ作成 ③該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ⑤ 3次元データ納品 ~~1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量~~ ~~2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~3) T S等光波方式を用いた起工測量~~ ~~4) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量~~ ~~5) R T K－G N S Sを用いた起工測量~~ ~~6) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~7) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量~~ ~~8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ 『（番号） 総合評価に関する事項』に以下を記載 (番号) I C T 施工技術活用施工に掛かる技術の活用について、本工事では総合評価落札方式における「技術提案（施工計画等）」での評価対象外とするため、記載しないこと。

但し、ＩＣＴ活用施工に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。	但し、ＩＣＴ<u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>に掛かる技術を応用（別の技術を組み合わせて効果を高める、または別の効果を発現する等を含む）した技術提案については、その応用部分（付加的な内容）についてのみ評価対象とする。※ ※「技術提案書（施工計画等）」を求める場合に記載する。 ※「技術提案書（施工計画等）」は、求める書式名称に随時修正すること。
【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事について １．　ＩＣＴ活用工事 　　本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴの全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２．　定義 （１）i-Construction とは、ＩＣＴの全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてＩＣＴを活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２）ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの下記段階において、ＩＣＴを全面的に活用する工事である。また、次の①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することをＩＣＴ活用工事という。 　　対象は、コンクリート堰堤工等を含む一般土木工事とする。 　　　①　３次元起工測量 　　　②　３次元設計データ作成 　　　③　該当なし 　　　④　３次元出来形管理等の施工管理 　　　⑤　３次元データの納品 ３．受注者は、ＩＣＴ活用施工を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に下記４～９によりＩＣＴ活用施工を行うことができる。 ４．原則、本工事においては上記①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとする。コンクリート堰堤工等についての施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 ５．　ＩＣＴを用い、以下の施工を実施する。 　　①　３次元起工測量 　　　受注者は、３次元測量データを取得するため、下記１）～８）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 　　　但し、砂防堰堤工等の関連施工としてＩＣＴ土工が行われる場合、その起工測量データを活用することができるものとし、ＩＣＴ活用とする。なお、監督職員と協議する。	【特記仕様書】記載例 （記載例） 第〇〇条　ＩＣＴ活用工事について １．　ＩＣＴ活用工事 　　本工事は、国土交通省が提唱する i-Construction に基づき、ＩＣＴ<u>施工技術</u>の全面的活用を図るため、受注者の提案・協議により、起工測量、設計図書の照査、施工、出来形管理、検査及び工事完成図や施工管理の記録及び関係書類について３次元データを活用するＩＣＴ活用工事の対象工事である。 ２．　定義 （１）i-Construction とは、ＩＣＴ<u>施工技術</u>の全面的な活用、規格の標準化、施工時期の平準化等の施策を建設現場に導入することによって、建設現場のプロセス全体の最適化を図る取り組みである。本工事では、施工者の希望により、その実現に向けてＩＣＴ<u>施工技術</u>を活用した工事（ＩＣＴ活用工事）を実施するものとする。 （２）ＩＣＴ活用工事とは、施工プロセスの<u>平記以下</u>段階において、ＩＣＴ<u>施工技術</u>を全面的に活用する工事である。また、<u>以下次</u>の①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することをＩＣＴ活用工事という。 　　対象は、コンクリート堰堤工等を含む一般土木工事とする。 　　　①　３次元起工測量 　　　②　３次元設計データ作成 　　　③　該当なし 　　　④　３次元出来形管理等の施工管理 　　　⑤　３次元データの納品 ３．受注者は、ＩＣＴ<u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を行う希望がある場合、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までに監督職員へ提案・協議を行い、協議が整った場合に<u>平記以下</u>４～<u>9-8</u>によりＩＣＴ<u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を行うことができる。 ４．原則、本工事においては上記①②④⑤の段階でＩＣＴ施工技術を活用することとする。コンクリート堰堤工等についての施工範囲の全てで適用するが、具体的な工事内容・数量及及び対象範囲を明示し、監督職員と協議するものとする。なお、実施内容等については施工計画書に記載するものとする。 ５．　ＩＣＴ<u>施工技術</u>を用い、以下の施工を実施する。 　　①　３次元起工測量 　　　受注者は、３次元測量データを取得するため、<u>平記以下</u>１）～<u>7-8</u>）から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。 　　　但し、<u>コンクリート砂防</u>堰堤工等の関連施工としてＩＣＴ土工<u>等</u>が行われる場合、<u>監督職員との協議の上、</u>その起工測量データを活用することができるものとし、ＩＣＴ活用<u>工事</u>とする。~~なお、監督職員と協議する。~~

1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S等光波方式を用いた起工測量 4) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 5) R T K－G N S Sを用いた起工測量 6) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 7) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 8) その他の3次元計測技術を用いた起工測量 ② 3次元設計データ作成 受注者は、設計図書や5. ①で得られたデータを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 コンクリート堰堤工等の施工管理において、下記1)～8)の技術から選択（複数以上可）して、出来形計測を行うものとする。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) T S等光波方式を用いた出来形管理 4) T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 5) R T K－G N S Sを用いた出来形管理 6) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 7) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 8) その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係によりI C Tを用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合においては、写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良いものとし監督職員との協議する	1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3) T S等光波方式を用いた起工測量 4) T S（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 5) R T K－G N S Sを用いた起工測量 6) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 7) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 ~~8)その他の3次元計測技術を用いた起工測量~~ ② 3次元設計データ作成 受注者は、~~設計図書~~や5. ①で得られた~~測量~~データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。 ~~3次元設計データ作成はI C T土工等と併せて行うが、I C Tコンクリート堰堤工の施工管理においては、3次元設計データ（TIN）形式での作成は必要としない。~~ ~~なお、I C Tコンクリート堰堤工の3次元設計データとは、3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）（コンクリート堰堤工編）で定義するコンクリート堰堤工設計データのことを言う。~~ ③ 該当なし ④ 3次元出来形管理等の施工管理 (1) 出来形管理 コンクリート堰堤工の施工管理において、以下1)～~~7-8~~)の技術から選択（複数以上可）して、出来形~~管理計測~~を~~実施する行~~うものとする。 ~~また、以下1)～7)の出来形管理を行う場合は、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、⑤によって納品するものとする。~~ 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ~~3) T S等光波方式を用いた出来形管理~~ ~~4) T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理~~ ~~5) R T K－G N S Sを用いた出来形管理~~ ~~3-6)~~ 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ~~4-7)~~ 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ~~5) T S等光波方式を用いた出来形管理~~ ~~6) T S（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理~~ ~~7) R T K－G N S Sを用いた出来形管理~~ ~~8)その他の3次元計測技術を用いた出来形管理~~ なお、計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により~~上記1)～7)のI C T施工技術~~を用いた計測によっては精度確保が困難となる部分や計測が非効率となる場合~~において~~は、~~監督職員と協議の上~~、写真・画像データ等と併用するなど、~~他の計測技術による~~出来形管理を行っても良いものと~~するし、監督職員との協議する~~。 ~~【メモ：条件明示として実施した出来形管理及び3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上の有無について変更特記仕様書に記載する】~~ ~~【変更特記記載例】~~ ~~(3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がある場合)~~ ~~本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については別途計上する。(している。)~~
---	--

(2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。厚さ管理は本要領の対象外とする。出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い下記1)の出来形管理要領による 1) 3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測(管理)すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 ④により確認された3次元施工管理データを、工事完成図書として納品する。 6. 上記5. ①②④⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要なICT活用施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT活用施工を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 7. 上記5. ①②④⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。 8. 土木工事施工管理基準(案)に基づく出来形管理が行われていない箇所、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。 10. 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用(用語の定義)について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工	1) <u>空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理</u> 2) <u>地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> 3) <u>無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> 4) <u>地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> (実施する(した)出来形管理を具体的に掲載する。) (3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用計上がない場合) <u>本工事における出来形管理においては、以下の出来形管理とし、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等については計上していない。</u> 5) <u>TS等光波方式を用いた出来形管理</u> 6) <u>TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理</u> 7) <u>RTK-GNSSを用いた出来形管理</u> (実施する(した)出来形管理を具体的に掲載する。) (2) 出来形管理基準および規格値 出来形管理基準および規格値については、現行の基準および規格値を用いる。~~厚さ管理は本要領の対象外とする。~~出来形の算出は、上記(1)で定める計測技術を用い<u>下記以下</u>1)の出来形管理要領による<u>ものとする。</u> 1) 3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) (3) 出来形管理帳票 現行の出来形管理帳票、出来高整理資料を作成する。また、出来形の3次元計測結果が計測(管理)すべき断面上あるいは測線上にあることを示す適用工種の3次元設計データあるいは平面図を提出することとする。 ⑤ 3次元データの納品 <u>5. ①②④により作成した確認された3次元施工管理</u>データを、工事完成図書として納品する。 6. 上記5. ①②④⑤の施工を実施するために使用するICT機器類は、受注者が調達すること。また、施工に必要な~~ICT活用~~施工用データは、受注者が作成するものとする。使用するアプリケーション・ソフト、ファイル形式については、事前に監督職員と協議するものとする。 発注者は、3次元設計データの作成に必要な詳細設計において作成したCADデータを受注者に貸与する。また、ICT <u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を実施する上で有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、施工区間の前後を含め必要な範囲を積極的に受注者に貸与するものとする。 ~~7. 上記5. ①②④⑤で使用するICT機器に入力した3次元設計データを監督職員に提出すること。~~ <u>7.8.</u> 土木工事施工管理基準(案)に基づく出来形管理が行われていない箇所、出来形測量により形状が計測出来る場合は、出来形数量は出来形測量に基づき算出した結果とする。 ~~9. 受注者は、当該技術の施工にあたり活用効果等に関する調査を行うものとし、調査の実施及び調査票については別途指示するものとする。~~ <u>8.10.</u> 本特記仕様書に疑義を生じた場合または記載のない事項については、監督職員と協議するものとする。 第〇〇条 ICT活用工事における適用(用語の定義)について 1. 図面 図面とは、入札に際して発注者が示した設計図、発注者から変更または追加された設計図、工事
--	---

事完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 【施工者希望型工事の場合】 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにICT活用の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、下記により計上することとする。 ・ICT活用工事（コンクリート堰堤工）積算要領	完成図、3次元モデルを復元可能なデータ（以下「3次元データ」という。）等をいう。 なお、設計図書に基づき監督職員が受注者に指示した図面及び受注者が提出し、監督職員が書面により承諾した図面を含むものとする。 第〇〇条 ICT活用工事の費用について 【施工者希望型工事の場合】 1 受注者が、契約後、施工計画書の提出（施工数量や現場条件の変更による、変更施工計画書の提出を含む）までにICT<u>施工技術活用</u>の具体的な工事内容・数量及び対象範囲について明示し、発注者へ提案・協議を行い、協議が整った場合、ICT<u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を実施する項目については、<u>各段階を設計変更の対象とし、下記以下の積算要領に基づき以下の（１）（２）により費用を計上することとする。</u> ・ICT活用工事（コンクリート堰堤工）積算要領 <u>（１）3次元起工測量・3次元設計データの作成費用</u> <u>3次元起工測量・3次元設計データの作成（修正含む）を実施した場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は、費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。</u> <u>なお、受注者から見積りの提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>（２）3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用</u> <u>出来形管理の計測範囲において、面的に座標を取得し、ソフトウェア上で面の法長・高さ等の出来形管理を実施し、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、3次元データ納品を行った場合、標記費用の対象とする。</u> <u>費用の計上方法については、受注者より提出された見積りにより費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正の補正係数を乗じるものとする。</u> <u>なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。受注者からの見積りにより算出される金額が以下の補正係数を乗じて算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする。</u> <u>また、受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。ただし、コンクリート堰堤工（ICT）と同時に実施する土工（ICT）等他工種において補正係数を乗じる場合は適用しない。</u> <u>・共通仮設費率補正係数：1.2</u> <u>・現場管理費率補正係数：1.1</u> <u>上記費用の対象となる出来形管理は、以下の１）～４）とし、それ以外の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。</u> <u>１）空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理</u> <u>２）地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>３）無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>４）地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理</u> <u>なお、以下の５）～７）による出来形管理を実施した場合は、「3次元出来形管理・3次元デー</u>
---	--

ただし、３次元起工測量、３次元設計データの作成並びに３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。 なお、「３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、官積算と見積額を比較し、官積算額を上限に計上するものとする。 また、受注者からの見積りの提出がない場合は、「３次元出来形管理・３次元データの納品の費用、外注経費等の費用」は計上しないものとする。 ２ 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査 ＩＣＴ活用施工を行った、全てのＩＣＴ活用工事の施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象工事であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。	<u>タ納品の費用、外注経費等の費用」については、計上しない。</u> <u>５）ＴＳ等光波方式を用いた出来形管理</u> <u>６）ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理</u> <u>７）ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた出来形管理</u> ~~ただし、３次元起工測量、３次元設計データの作成並びに３次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び３次元データ納品を行った場合は、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、妥当性を確認した上で設計変更の対象とする。~~ ~~なお、「３次元出来形管理・３次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、官積算と見積額を比較し、官積算額を上限に計上するものとする。~~ ~~また、受注者からの見積りの提出がない場合は、「３次元出来形管理・３次元データの納品の費用、外注経費等の費用」は計上しないものとする。~~ ２ 施工合理化調査を実施する場合はこれに協力すること。 第〇〇条 ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査 ＩＣＴ活用<u>工事施工</u>を行った、~~全てのＩＣＴ活用工事の~~施工者は、活用目的等の把握のための「ＩＣＴ活用工事の活用効果等に関する調査」の対象<u>工事</u>であり、別途監督職員より指示される調査票に基づき実施するものとする。 施工者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出すること。また調査票の聞き取り調査等を実施する場合はこれに協力するものとする。 調査費用については当初は計上していないため、設計変更の対象とする。
３． ＩＣＴ活用工事実施の推進のための措置 ３－１ 工事成績評定における措置 ＩＣＴ活用施工を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT 活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は１点の加点とする。 □ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの①②④⑤の段階で ICT を活用した工事。 ※本項目は２点の加点とする。 ※ICT 活用による加点は最大２点の加点とする （１）施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案により ＩＣＴ活用施工（１－２①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点を行わない。 ４． ＩＣＴ活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に ＩＣＴ活用施工を導入し、 ＩＣＴ施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。	３． ＩＣＴ活用工事実施の<u>推進のための</u>措置 ３－１ 工事成績評定における措置 ＩＣＴ<u>施工技術</u>の活用<u>施工</u>を実施した場合、発注方式に関わらず、創意工夫における【施工】「□ICT 活用工事加点」において該当する項目で評価するものとする。 □ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの何れかの段階で ICT を活用した工事（電子納品のみは除く） ※本項目は１点の加点とする。 □ICT 活用工事加点として起工測量から電子納品までの①②④⑤の段階で ICT を活用した工事。 ※本項目は２点の加点とする。 ※ICT 活用による加点は最大２点の加点とする （１）施工者希望Ⅱ型 工事契約後の受注者からの提案により ＩＣＴ活用施工（１－２①②④⑤）を行うため、実施されなかった場合においても、工事成績評定における減点を行わない。 ４． ＩＣＴ活用工事の導入における留意点 受注者が円滑に ＩＣＴ活用施工を導入し、 ＩＣＴ施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。

ものとする。

4－5 現場見学会・講習会の実施

I C T活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。

また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。

5. 地方整備局等における I C T活用工事に関する調査等

I C T活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）（提出様式は別途指示）

I C T活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施し、対象工事の概要等を本省へ報告するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1－4、2－1で定める工事とする。

5－2 I C T活用工事の活用実績の報告（提出様式は別途指示）

母集団調査とともに I C T活用工事を活用する工事と、その概要等を本省へ報告するものとする。

5－3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する。なお、内容はその都度、別途指示する。

6. I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	I C T活用施工を行った、全ての I C T活用工事	受注者

1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

2）施工者希望Ⅱ型で実施する。

6－2 調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

職員の体制構築を速やかに整えるものとする。

4－5 現場見学会・講習会の実施

I C T活用工事の推進を目的として、官民等を対象とした見学会を随時実施するものとする。

また、地方整備局等にて普及状況を勘案したうえで、より実践的な講習会等の開催についても検討するものとする。

5. 地方整備局等における I C T活用工事に関する調査等

I C T活用工事の活用、普及状況の把握を円滑に行うため、以下に記載する内容を適切に実施する。

5－1 発注見通しの調査（母集団調査）~~（提出様式は別途指示）~~

I C T活用工事において、活用を見込める工事について、発注見通しの調査（以下、「母集団調査」という。）を実施~~し、対象工事の概要等を本省へ報告~~するものとする。地方整備局等における各々の推進体制を活用し、局内の連絡・調整を図り、漏れなく母集団調査を実施すること。

なお、母集団調査の対象となる活用を見込める工事とは、1－4、2－1で定める工事とする。

5－2 I C T活用工事の活用実績の報告（~~提出様式は~~別途指示）

~~母集団調査とともに~~ I C T活用工事~~の実施状況を把握するための調査を実施する。なお、調査内容については別途指示を活用する工事と、その概要等を本省へ報告~~するものとする。

5－3 施工合理化調査

施工合理化調査を実施する~~場合は。なお、内容はその都度、~~別途指示する。

6. I C T活用工事の活用効果等に関する調査（別途指示）

6－1 対象工事の選定

調査名	目的	対象工事	対象者
I C T活用工事の活用効果等に関する調査	活用目的等の把握	~~I C T活用施工を行った、~~ 全ての I C T活用工事	受注者

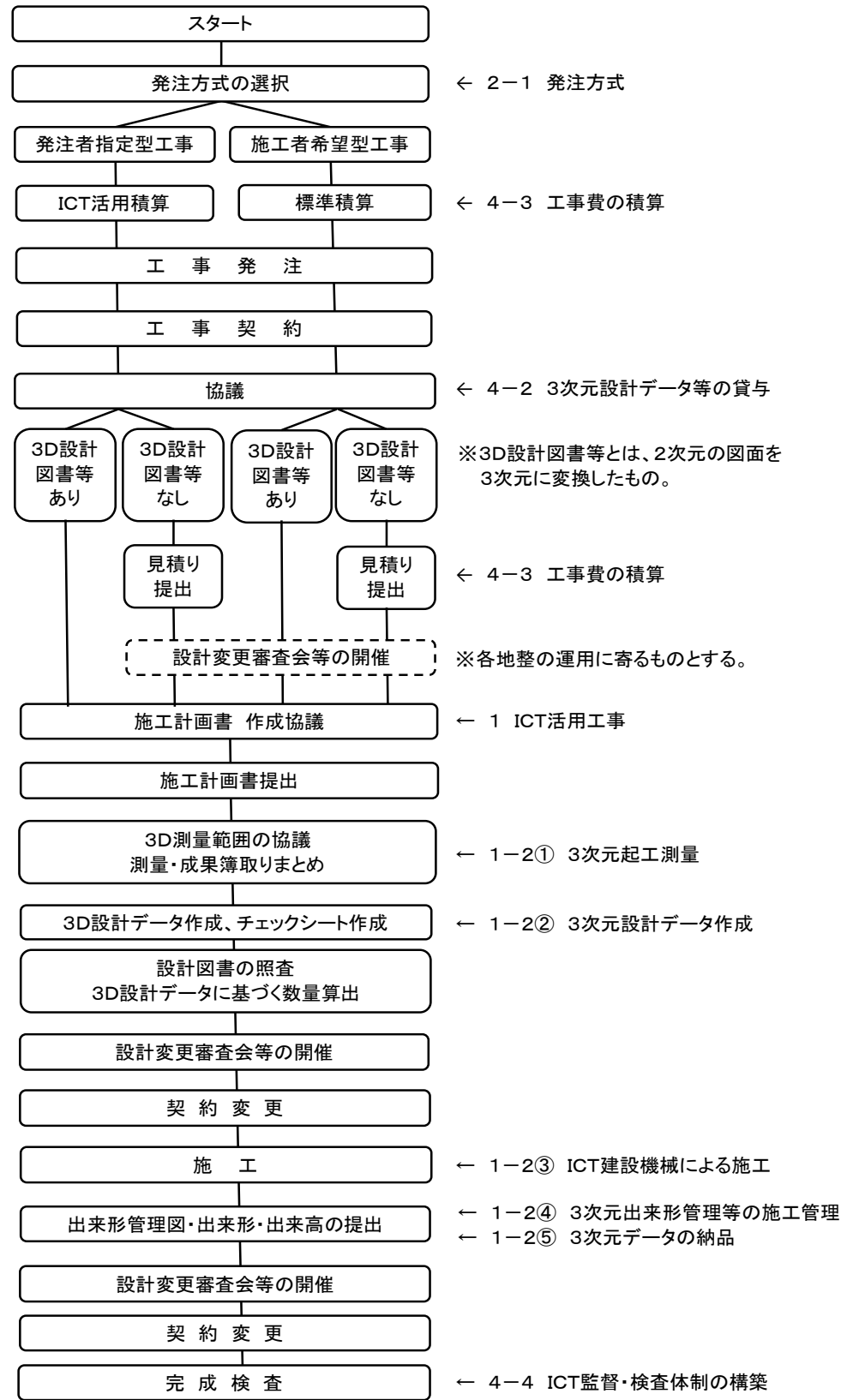
1）各調査票については、本省より通知される様式を使用するものとする。なお、地方整備局等において、独自の調査を追加して実施しても構わない。

~~2）施工者希望Ⅱ型で実施する。~~

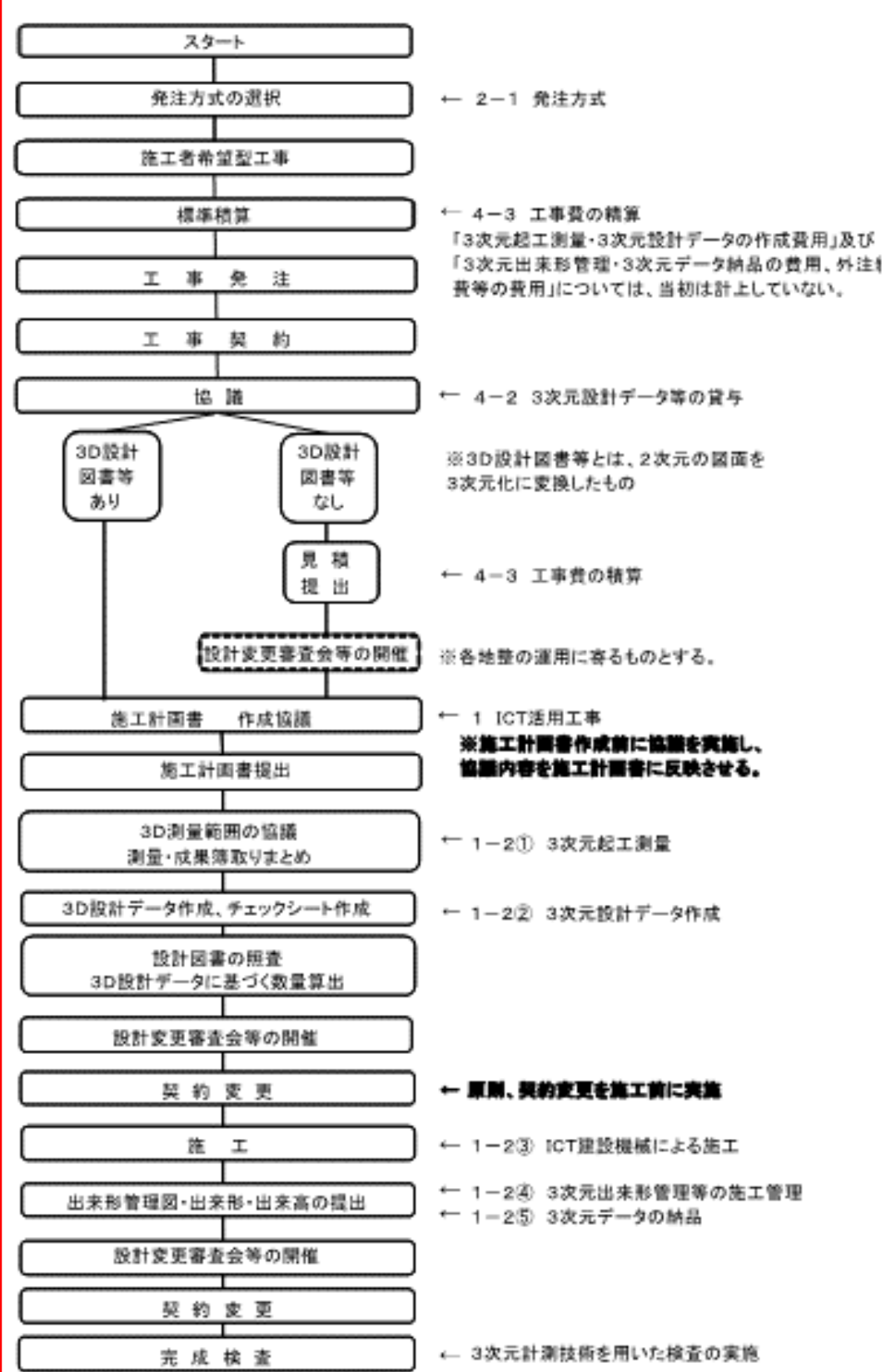
6－2 調査票の回収について

受注者は、工事完了後直ちに調査票を監督職員へ提出・確認した後、発注者が指示するメールアドレスまで調査票を電子メールにより提出するものとする。

※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



※参考 ICT活用工事の発注から工事完成までの手続き及び流れ



R 6 室長通知 別紙ー 3 5 I C T活用工事（コンクリート堰堤工）積算要領	R 7 室長通知 別紙ー 3 3 I C T活用工事（コンクリート堰堤工）積算要領
別紙ー 3 5 I C T活用工事（コンクリート堰堤工）積算要領 1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用したコンクリート堰堤工（以下、コンクリート堰堤工（I C T））に適用する。 2. 適用工種 ・コンクリート堰堤本体工 ・コンクリート側壁工 ・水叩工 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合における費用の計上方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。 ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)～5)とし、それ以外の、I C T活用工事（砂防堰堤工）実施要領に示すその他の出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理	別紙ー ~~3 5~~ 3 3 I C T活用工事（コンクリート堰堤工）積算要領 1. 適用範囲 本資料は、3次元設計データを活用したコンクリート堰堤工（以下、コンクリート堰堤工（I C T））に適用する。 2. 適用工種 ・コンクリート堰堤本体工 ・コンクリート側壁工 ・水叩工 3. 3次元起工測量・3次元設計データの作成費用 3次元起工測量・3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。 <u>費用の計上について、受注者は発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとし、発注者は費用の妥当性を確認した上で設計変更の対象とし、受注者から見積の提出がない場合は、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」は計上しないものとする。</u> <u>また、前工事及び設計段階での3次元データを活用した場合、発注者が貸与する3次元データを活用した場合は、費用計上しないものとする。</u> <u>なお、「3次元起工測量・3次元設計データの作成費用」については、当初設計では計上しない。</u> 4. 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用 (1) <u>~~3次元座標値を面的に取得する機器を用いた~~出来形管理の計測範囲において、面的に座標を取得し、ソフトウェア上で面の法長・高さ等の出来形管理を実施し、工事検査前の工事竣工段階の目的物について点群データを取得し、3次元データ納品を行った場合、標記費用の対象とする。及び3次元データ納品を行う場合における</u> <u>費用の計上方法については、受注者より提出された見積により費用の妥当性を確認することとし、官積による算出方法については、共通仮設費率、現場管理費率に以下の補正係数を乗じるものとする。</u> <u>なお、受注者は、発注者からの依頼に基づき、見積り書を提出するものとする。</u> <u>また、受注者から見積の提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。ただし、コンクリート堰堤工（I C T）と同時に実施する土工（I C T）等他工種において補正係数を乗じる場合は適用しない。</u> ・共通仮設費率補正係数 : 1.2 ・現場管理費率補正係数 : 1.1 ※小数点第3位四捨五入2位止め 上記費用の対象となる出来形管理は、以下の1)～ ~~5 4~~ とし、それ以外の、 ~~I C T活用工事（砂防堰堤工）実施要領に示すその他の~~ 出来形管理の費用は、共通仮設費率及び現場管理費率に含まれるため、別途計上は行わない。 1) 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理

2) 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5) 上記1)～4)に類似する3次元計測技術を用いた出来形管理 (2) 費用計上にあたっての留意事項 1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。 2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。	3) 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 ~~5) 上記1)～4)に類似する3次元計測技術を用いた出来形管理~~ (2) 費用計上にあたっての留意事項 <u>1) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」については、当初は計上しない。</u> <u>2) 受注者からの見積又は補正係数で乗じた額での費用計上方法は以下のとおりである。</u> <u>①補正係数を乗じて算出される金額を計上する場合</u> <u>・補正係数を乗じて算出される金額<受注者からの見積による金額</u> <u>②受注者からの見積による金額を計上する場合</u> <u>・補正係数を乗じて算出される金額>受注者からの見積による金額</u> 5. 施工箇所が点在するICT活用工事の積算について 施工箇所が点在する工事に該当する場合は、土木工事標準積算基準書「第1編第2章 工事費の積算」及び「第I編第11章 施工箇所が点在する工事の積算」により積算するものとする。 ~~1) 3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理及び3次元データ納品を行う場合は、費用の妥当性を確認することとし、受注者からの見積りにより算出される金額が(1)で算出される金額を下回る場合は、見積りにより算出される金額を積算計上額とする運用とする。~~ ~~2) 受注者から見積りの提出がない場合は、3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用は計上しないものとする。~~
--	--